みんぱくリポジトリ
国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnolo

ローマ字カードの記載

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2018-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小長谷, 有紀 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15021/00008946

ローマ字カードの記載

1. 家畜

ウマ

タマガ

84-2　*タマガ*［焼き印］（387)23-91

タマガを押すのは，去勢とは別の季節である。夏に毛がぬけかわって，冬毛がなくなったときに押す。自分の家で押す。［図譜69］

84-9　*タマガ*　(387)23-78

むかしは，この旗のなかには，モンゴル人でタマガをつくっている人があった。いまは，宝源で注文してつくらす。その紋は「随便」［中国語で随意の意］。すきなのにすればよい。

84-11　*タマガ*　(245)10-66

ラクダのタマガは，ウマのとおなじである。

84-12　*タマガ*　(85)6-4

三日月型のタマガがある。しかし，いまつかっていない。（この家は，年とったウマが1頭きり。）

84-13　*タマガ*　(25)1-39

ダフチンの私有のタマガはない。粛親王府のは，Suの字。ウシ，ヤギのタマガは角に押す。ヒツジは，耳が切ってある。

84-7　ウマのイム［耳印］（387)23-79

ウマのイムのつけたのは，漢人に売るときにだめである。値が下がる。

84-8　ウマのイム　(387)23-78

ウマのイムも，ヒツジのイムとおなじイムである。イムをつける習慣のある家では，イムをつけるし，タマガの習慣のある家ではタマガをつける。

ウマと水

84-15　ウマと水　(255)13-21

水を飲まさなければならない季節には，毎日，見に行って，毎日，水を飲ます。このごろは，雪が降ってからは，ひまがあれば，３～４日に１度，ひまがなければ１週間に１度くらい見にゆく。

ウマの性質

84-17　ウマの性質　(104)7-46

馬群は，昼はかたまっている。夜に草を食う。モンゴル人は，昼間は放さない。夜に草

を食わす。
84-18　蹄のかたち　(104)7-46
北のほうの，石の多いところでそだったウマは，蹄が小さい。砂漠のなかでそだったウマは，蹄が大きくて，そりのようにそりかえっている。
84-19　ウマの体格　(S)7-65
体格は，大きいほうがよろこばれるが，それはたいして問題ではない。体格の測定法はない。Sの話。
84-20　青目のウマ　(S)7-66
青目のウマがいる。凛眼。*チフル*という。これは白いウマにはかぎらない。どんな色のウマにもたくさんある。Sの話。
84-21　ウマの疲れ　(S)7-67
ウマがつかれてきたことは，一般に元気がなくなること，汗がでること，頭をさげることなどでわかる。Sの話。
84-22　ウマの休み　(S)7-67
ウマが楽にやすむときには，うしろの右の足を軽くあげてつま先を地につけている。Sの話。

ウマの手いれ

84-24　ウマの手いれ　(S)18-4
738年12月31日。あすは正月だというので，みんなあちこちにあいさつまわりにゆくために，自分の所有のウマでいちばんよいウマをきれいに手いれして，しっぽなんかに色布をむすんだりして，自分の家の庭の*ホロー*［円形の家畜囲い］に入れていた。Sの話。
84-25　ウマの管理　(104)7-46
モンゴル人は，昼間にはウマを放さない。草は夜，食わす。*シュドゥル*［足かせ］をつけて夜，放すのである。昼，草を食わすと，ウマの背中の皮がむける。
84-26　乗るウマの管理　(70)5-16
オスルは，毎日，馬群へ行って，ヒツジ番の乗るウマをとってくる。これは，毎日とってくる。*シュドゥル*をつけて放しておくのではない。しかし，彼が馬群へウマをとりにゆくのは，やっぱりウマに乗ってゆくが，そのウマは*シュドゥル*がついて，そとに放してある。
84-27　冬のウマ　(98)7-24
冬のあいだは，とじこもっている。冬にはウマに乗らない。乾草は食わさない。
84-28　ヒツジ番のウマ　(70)5-16
オスルは，朝，茶を飲んでから，馬群へ行って，ウマを連れてくる。ヒツジ番の乗ってゆくウマである。このウマは，毎日，馬群へ行ってとってくる。*シュドゥル*をつけて放

しておくのではない。毎日，馬群からとってくる。
84-29　ウマの管理　(57)4-27
ウマ１頭だけもっている。自分のウマは乗るときには，*シュドゥル*をつけて放しておく。乗らないときには，他人の馬群のなかに入れて放しておく。

メスウマに乗る

84-31　メスのウマに乗る　(S)7-65
メスウマに乗ることは，むかしからあった。しかし，ちかごろは，軍馬購買などで，オスウマの数が減っているので，メスに乗る人が増えた。Sの話。
84-33　種ウマに乗る　(S)7-65
種ウマに乗る人もある。種ウマは，ちゃんと乗るように訓練してないと，まったく乗れない。あばれてあぶない。Sの話。
84-35　メスウマに乗る　(S)7-65
メスウマにも乗るけれども，子どもを連れているときには，乗らないものである。それでも，乗る人がある。そのときには，メスのそばに子ウマを連れてあるく。妊娠しているウマには乗らないのがふつう。Sの話。
84-36　乗るウマ　(S)7-65
乗るウマは，オスが原則である。しかし，メスに乗る人もある。むかしから，メスに乗ることはあった。Sの話。

ウマのけいこ

84-38　ウマのけいこ　(S)7-61
ふつう，７～８歳になったら，ウマに乗る。はじめは，当歳子ウシ追いなどで，あまり遠くへゆかずに乗っている。しかし，１～２回もすれば，もうどこへでも自由にはしりまわる。Sは，10歳のときに乗りはじめた。別に，乗馬の指導をうけず，練習もしない。Sの話。

ウマのえらびかた

84-40　ウマのえらびかた　(S)7-65
ウマを買うときには，いちいち乗ってみる。いろいろな走りかたで，１～２*ガザル*［*ガザル*は距離の単位，500メートル］走ってみてためす。*alxuna*［あるく，文語つづりではalqun-a］，*giturna*［前後の脚をそろえて走る，文語つづりではqatarin-a］，*dexna*［疾走するdabqin-a，文語つづりではdabkin-a］において，はやいのがよいウマだとされる。Sの話。
84-41　ウマのえらびかた　(S)7-65

体格の大きいほうがよろこばれるけれども，それはたいした問題ではない。Sの話。

競馬

84-43　競馬　(S)7-62

競馬に出場するのは，10歳以下の子どもと決まっている。それは，からだが軽いからである。Sの話。

馬術

84-3　ウマの足なみ　0-61

［無記入。フィールドノートには並足，トロット，ギャロップの別あり。84-40参照］

84-4　野繋勒（やけいろく）［ウマの頭部に装着する革ひも，制御用のハミのついたオモガイではないほう］の図　0-28

粛親王府にて。［図譜84（上）］

84-5　*シドゥル*［足かせ］の図　0-27

粛親王府にて。［図譜86］

84-6　ウマの鞍の絵　0-22～26

粛親王府にて。［図譜80～83］

84-45　馬術　(S)7-62

横乗り：だいたいは，右の鐙が少し短くなっている。右の腿に体重をかけ，右の鐙をつっぱる。力をいれるのである。左の足先はあまり力をいれない。軽く鐙をつっぱり，左のひざの内側で強くしめる。右足ではしめない。Sのズボンは，正確にその力のいる部分がやぶれている。Sの話。

84-46　馬術　(S)7-62

モンゴル人がウマに乗るときに，横乗りするのは，それのほうが楽だから。Sの話。

84-47　馬術　7-59

手綱と野繋勒と，袖口のあまりとを一緒につかんでいる。左手。握りこぶしは，すっぽりとその袖のなかに隠されてしまうので，冬でも寒くない。

84-48　袖と鞭　7-61

タショール［鞭］のないものは，袖口をずっと伸ばしてそれを打ちふって，ウマの尻をはたいて，鞭の代わりにしている。

84-49　鞭　7-61

*タショール*は右手にもつ。短いので，すっぽりと袖のなかに隠れてしまう。*スール*［鞭の尾の部分］のみが出ている。［図譜85］

84-50　腹帯　(104)7-46

腹帯をしめすぎると，脚をおってへたばってしまうウマがある。かみつくウマもある。

84-51　鞍の位置　(S)7-61
鞍の位置は，たてがみの最後部に鞍のまえの縁が一致するようにおく。だから，ずっとまえのほうに乗せることになる。日本馬には，背峰（せみね）［キ甲のこと。ウマの肩甲骨間にある隆起］があるが，モンゴル馬には背峰がない。Sの話。
84-52　野繋勒　(S)7-67
スニトには，野繋勒がついていないウマをたくさん見かけるが，本当はついているべきなのである。Sの話。

調教したウマ
84-54　調教したウマ　(S)7-66
たくさんいる馬群のなかから，調教したウマを見つけ出すには，ハジャール［馬銜（はみ）］のあと，背中の鞍のあと，腹帯のあと，などを目標にしてさがす。Sの話。

ウマの調教
84-56　ウマの調教　(S)6-50
たいていは，ウマを借りにくる人にまだ調教してないウマを1～2カ月のあいだ貸して，調教してもらう。Sの話。
84-57　調教　(S)7-65
乗るウマはみな小さいときから訓練したものである。メスウマでも，小さいときから調教してないと乗れない。種オスはなおさらのこと。Sの話。
84-58　ウマの乗りはじめ　(S)7-65
ウマは3歳から乗る。7～8歳にもなると，あばれて乗れない。調教ができないのである。Sの話。
84-59　乗るウマ　(89)6-50
60頭の馬群のうち，乗るウマは10頭くらい。
84-61　ウマと調教　(89)6-50
ウマの調教は，調教師にたのむ。

ジョロー・モリ
84-63　*ジョロー・モリ*［側対歩のウマ］　(S)7-63
ウマがじょうぶでよい，なかなか疲れない，人間もこのほうが，からだが楽である。中国でもモンゴルでも，こんなウマをほしがる。値段が高い。これは，生まれつきのもので，素質のあるのをえらんで訓練する。Sの話。
84-64　*ジョロー*［側対歩］　(S)7-64
*ジョロー*は，軍馬購買のときには体格そのほかがすぐれていても，購買官はこれを採用

しなかった。モンゴル人はふしぎがって，日本にはこんなよいウマはいないのかなあ，と言ったよしである。Sの話。

馬群と見はり

84-67　馬群と見はり　(255)13-21

人はついていない。水を飲まさねばならない季節には，毎日，水を飲ますために，毎日，見に行った。雪が降ってからは，このごろは，暇があれば3～4日に1度，暇がなければ1週間に1度くらい見にゆく。

ウマの見まわり

84-69　ウマの見まわり　(192)9-73

馬群には人がついていない。夏は毎日見にゆく。水を飲まさなければならない。秋と冬は1週間に1度くらい見にゆく。

84-70　馬群をさがす　(77)5-16

朝，馬群がどこにいるか，山の上にあがってさがす。西にある高い山。

馬群に入れる

84-72　馬群に入れる　(261)14-11

ウマ1頭は，ディヤンチ・ラミン・スムの馬群のなかに入れてある。

ウマの行動

84-74　ウマの行動　(376)20-69

ウマの群れは，毎日，帰ってこない。

84-75　馬群の行動　(268)14-85

ウマは，冬はオラン・ノールにいるが，夏は一定していない。去年，おととし，さきおととしの冬は，八路軍があぶなかったために，馬群は正白旗のなかへ行っていた。ことしは安全である。夏はアトーチンの旗のなかに帰っていた。春，冬は向こうにいた。

種オスウマ

84-77　*アジルガ*［種オス］　(310)17-52

チャガン・ハダの集落には，種オスウマはいない，メスウマはいる。

馬群

84-79　馬群　(341)18-25

この集落には「gutai, atootai ail nig chi baixu kuwoi」メスウマや去勢ウマのある家は1

軒もない。［güütei, aduutai ail neg ch baix-gui］
84-80　馬群　(89)6-35
ウマ60頭をもっている。自分のウマだけで独立の馬群をつくっている。
84-81　ウマの群れ　4-58
主稜の峠越え。ウマの群れ12頭。右1,000メートル。
84-82　群れの観察　7-56
約100頭の馬群。16時ごろには，ほとんどが全部ねむっていた。風の方向にそって，やや細長い体形でねむっていた。風上に位置しているものは，みんな尻を風のほうに向けている。横側のものは，風上に頭を向けているものもある。群れのなかにいるものは，あちこち向いている。みな，目をなかば閉じている。

ウシ

ウシのデース

85-3　ウシのデース［綱］　(387)23-79
ハマクチとドゥルの２つの部分からなる。ハマクチは，ウマのしっぽの毛でつくった縄でこしらえる。※［図譜76］
85-4　ウシのデース　(387)23-79
ウシのデースのハマクチは，ビロー［２歳すなわち満１歳の当歳子ウシ］の春につける。ときには，シュドレン［３歳すなわち満２歳］のときにつけるのもある。
85-5　ウシのデース　(387)23-79
ウシのデースのハマクチは，ほんとうは，これはよくない。冬に凍ってしまうから。しかし，これはエブル［角］・デースよりも材料が少なくてすむ，という利点がある。
89-188　エブル・デース　(387)23-80
エブル・デース［角用の綱］はまた，エブルチともいう。

当歳子ウシのノクト

85-7　当歳子ウシのノクト［おもがい］　(387)23-80
当歳子ウシのノクト［一般に当歳子ウシにはおもがいを使わず，首に綱をつける］はまたジュルフともいう。

子ウシ生まれない

85-9　子ウシ生まれない　(387)24-31
ラシースルン（396）は，大きいメスウシが５～６頭もありながら，ことし，子ウシが１頭も生まれなかった。
85-10　子ウシ生まれない　(387)24-33

子ウシの生まれないウシがたくさんある。みんなおかしい，おかしいと言っている。

当歳子ウシの死

85-12　当歳子ウシの死　(376)20-75
乳しぼりの期間のあいだに死んだ当歳子ウシはなかった。現在まで，みんな生きている。60数頭。
85-13　当歳子ウシの死　(274)15-39
メスウシ１頭だけいる。ほかに何もない。当歳子ウシは死んだ。
85-14　当歳子ウシの死　(291)16-68
メスウシ１頭だけ。当歳子ウシは死んだ。ことしの冬になってから死んだ。
85-15　当歳子ウシの死　(295)17-30
当歳子ウシはことし，全部死んだ（メスウシは３頭)。最近に，雪で死んだ。
85-16　当歳子ウシの死　(335)17-82
当歳子ウシ２頭のうち，１頭は死んだ。
85-17　当歳子ウシの死　(270)14-96
去年の当歳子ウシは死んでしまった。ハモ［疥癬］という病気で死んだ。
85-18　当歳子ウシの死　(268)14-81
当歳子ウシ10頭全部死んだ。
85-19　当歳子ウシの死　(251)13-8
メスウシは６頭。当歳子ウシは４～５頭。あとは病気で死んだ。

メスウシの死

85-21　メスウシの死　(287)16-58
メスウシが２頭いたが，２年ほどまえに死んでしまった。いまいる２歳子ウシは，それの子どもである。

子ウシの生まれ

85-23　子ウシの生まれ　(334)17-80
子ウシがごく最近（１カ月以内）に生まれた。いま家のなかに入れてある。
85-24　子ウシの生まれ　(334)17-80
乾草の準備のある家で，当歳子ウシの世話のできる家なら，いまごろに子ウシが生まれることは，わるいことではない。冬でも乳がしぼれるから。

シュルク

85-26　シュルク［口がせ］　(255)13-18

*シュルク*はつかわない。［図譜の補25，補26］
89-189　*シュルク*　(387)23-80
*シュルク*は，やはり，ことし子ウシが生まれなかったメスウシの，２歳子ウシにつけるものである。ことし，生まれても，去年の子ウシが乳離れしないときにも，これをつける。

乳離れ
89-251　乳離れ　(387)23-80
*シュルク*は，ことし子ウシの生まれない［母ウシの］２歳子ウシにつけるのだが，また，ことし子ウシが生まれても，去年の当歳子ウシが乳離れしないとき，これをつける。
89-252　乳離れ　(387)23-86
乳離れをするという意味の単語はない。乳が止まることは*シルゲネ*。
89-253　乳離れ　(245)10-66
ことしの春に生まれたラクダの子ども，来年の夏まで乳を飲んでいる。草付けには別に方法はない。生まれて10日で草を食いはじめる。

当歳子ウシの世話
89-265　当歳子ウシの世話　(334)17-80
ごく最近（１カ月以内）に子ウシが生まれた。いま，家のなかに入れてある。
89-266　当歳子ウシの世話　(334)17-80
乾草が取り入れてある家で，子ウシの世話のできる家なら，いまごろに子ウシが生まれることはわるいことではない。乳が冬もしぼれて都合がよい。

種ウシ
85-28　*ボホ*［種オスのウシ］　(310)17-52
チャガン・ハダの集落に種オスウシは１頭もいない。
85-29　*ボホ*　(310)17-52
ジョンダ，リンチンの家に種オスウシがいた。ことし死んだ。それ以来，この集落には種オスウシがいない。
85-30　*ボホ*　(36)2-72
近所の人の種ウシが勝手にやって来て，種をつけてゆく。
85-31　*ボホ*　(39)2-50
種オスウシが１頭，自分のウシのなかに来ている。おととい来た。どこの種オスか知らない。また帰ってゆくだろう。

当歳子ウシの角

85-33　当歳子ウシの角　(223)10-29

家のなかに当歳子ウシを入れている。生まれて１カ月。もう角の anlage［英語で原基の意］をふくらませている。

ラクダ

ラクダの鞍

87-3　ラクダの荷鞍　14-19

Ⅰ型は，すでに主力ではない。ほとんどがⅡ型である。しかし，なおまだ２～３のⅠ型のものも見うけられる。※［図譜79。Ⅱ型については，中国ふうであり，漢人がつくると注が記されている。］

87-4　ラクダの鞍　14-19　［図は14-3 に描かれている。］

ディヤンチ・ラミン・スムの近所のラクダは，たしかに第Ⅲ型のしきものばかりである。※［図譜90］

87-5　ラクダの鞍　14-4

東スニトの北部のタイプの鞍が，はたしてモンゴル人の製品であろうか？それはなお疑問である。

87-6　ラクダの鞍　14-4

ディヤンチ・ラミン・スムのラクダ隊のラクダの鞍。この型は，絢爛さにおいてはもちろん，ハルハのタイプとは比較にならないが，十分の優美さと実用性をそなえている。

87-7　ラクダの鞍　14-4

ディヤンチ・ラミン・スムのラクダ隊のラクダの鞍。全部自家製品か，あるいは少なくともモンゴル人の手によってつくられたものにちがいない。その点，ハルハの絨毯製のものが全面的によその（漢人）の手によるものとおもわれるのとよい対照をなしている。

87-8　ラクダの鞍　14-3

ディヤンチ・ラミン・スムのラクダ隊のラクダの鞍。*ドホム*と垂れとは金属のボタンで接続されていない。革で接続してある。［図譜90］

87-9　ラクダの鞍　14-3

ディヤンチ・ラミン・スムのラクダ隊。ラクダの鞍にまた，あたらしいほかのタイプが出てきた。すなわち，白地のフェルト。それにラクダの系統で幾何学模様の刺繍がしてある。縁に縫いとり。

ラクダの鼻木

87-11　*ボエル*［鼻木］14-3

ディヤンチ・ラミン・スムのラクダ隊。西スニトよりラミン・スムまでつかったもの。

あわせて21頭のうち，ハルハ型のボエルは，まったく姿を消している。また，まえのスニト型にかわってきた。全部がそうである。［図譜の補22，補23，補24］

ラクダのつかいみち

87-13　ラクダのつかいみち　14-2

ディヤンチ・ラミン・スムのラクダ隊。西スニトの特務機関の石炭をはこびに出て行ったもの，その帰りはわれわれがつかまえた。内訳はつぎのごとし。荷用８頭，ほかの荷物なし３頭，乗用２頭，荷用にそのまま載る８頭。

ラクダの年齢

87-15　ラクダの年齢　(245)10-72

15〜16歳まで生きる。

ラクダと草

87-17　ラクダと草　(245)10-72

ラクダによい草は，*ゴビ*がよい。*ボット*，*ボットルガン*など。（ゴビは草の名まえだと言った。）

87-18　ラクダと草　(245)10-72

*ボットルガン*をいちばんたくさん食べるが，*ヒルガナ*なども少し食べる。

87-19　*ボットルガン*とラクダ　(101)7-43

ラクダは，*ボットルガン*があればソーダを食わさなくてもよい。*ボットルガン*がなければ，ソーダを食わす。

ラクダと風

87-21　ラクダと風　(S)7-72

ラクダが風にむかってどんどんすすむのは，夏のことである。６〜７月である。他の季節には，別にそんなことはない。それは，夏にはラクダは毛がすっかりぬけてしまって，直射日光に照らされると暑がるのと，アブ，カが多いからである。Sの話。

87-22　ラクダと風　(S)7-72

ラクダは風にむかってすすんでゆくもので，風に追われてすすむものではない。それで，５〜６日もつづいて東南あるいは南風がふくと，シリンゴルのラクダがチャハルのなかまで入ってくる。また，西北風のときには，チャハルのラクダがシリンゴルへと入ってゆく。Sの話。

ラクダと水

87-24　ラクダと水　(245)10-71

夏は湖，井戸の水を飲ます。1日に1回。冬も井戸の水を飲ます。2～3日に1回。

87-25　ラクダと飢え　(245)10-71

ラクダは2日も草を食わさないとだめである。

87-26　ラクダと飢え　8-73

われわれの隊にきたラクダは一昨日の午後以来，テントのそばの綱につながれたままで，何も食っていない。そして，糞だけたれている。これで何ともないのだという。

ラクダとホジル

87-28　ラクダとホジル　(268)14-83

夏はラクダに対してホジル［ソーダ］の心配をしなくてもよい。このあたりにもホジルはあるから。冬はホジルがあってもデリス［カヤの1種］がない。デリス，ハムホールを食う。また，ボットルガンがない。

87-29　ソーダとラクダ　(101)7-43

漢人のラクダは，かならず夏にソーダを食わす。

87-30　ソーダとラクダ　(101)7-43

ラクダはボットルガンがあれば，ソーダを食わさなくてもよい。ボットルガンがなければソーダを食わす。

87-31　家畜と塩，ホジル　(101)7-44

ラクダのほかの家畜には別に塩，ホジルなどを食わせる。しかし，塩，ホジルが欠乏するとこまる。しかし，塩水があるから大丈夫。

87-32　ラクダと乳　(101)7-43

ラクダは乳を食う。

ラクダのつかいかた

87-34　ラクダのあばれ　(245)10-65

別に冬にあばれるということはない。

87-35　ラクダのつかいかた　(245)10-71

おとなのラクダはみんな荷用ラクダになる。メスラクダ，去勢ラクダのいずれでもよい。

87-36　ラクダのつかいかた　(245)10-70

乗用は荷用になる。乗用は車用にならない。荷用は乗用になる。荷用は車用にならない。車用は乗用にも荷用にもなる。

87-37　ラクダのつかいかた　(245)10-71

つづけさまの使役はどれくらいもつか？ 別に一定していない。2日も草を食わせない

と，だめになる。
87-38　ラクダと車　(89)6-35
車6台ある。ラクダにひかす。
87-39　*ノクト*　(245)10-70
ラクダが大きくなってからでも，*ボエル*がついたままで*ノクト*［ウマのおもがい，ラクダの首輪］をはめることもある。
87-40　*ノクト*　(245)10-70
ラクダが小さいときに首にはめてある縄のことを*ノクト*という。
87-41　*ボエル*　(245)10-70
*ボエル*は，2歳または3歳の9月につける。
87-42　ラクダの鞍　(51)3-72
観察：ウマの鞍の古手の下革と鐙とフェルトをこぶのあいだに置いたもの。鞍の木でできた部分はついていない。
87-43　ラクダのあばれ　(245)10-72
*アイル*のイヌがきたら，ラクダがあばれることがある。それで落ちたことがある。
87-44　ラクダから落ちる　(245)10-72
*アイル*のイヌがくると，ラクダがあばれることがある。それで，ラクダから落ちたことがある。
87-45　乗るラクダ　(51)3-67
乗るラクダは，*タイラグ*である。*インゲ*にも乗る。*ボトゴ*と*トロム*には乗らない。

ラクダと調教

87-47　ラクダと調教　8-73
ラクダに車をひかせるのは，そのように調教したラクダでないとできない。
87-48　調教　(245)10-68
ラクダの調教のできる人は，*ハラ・フン*［俗人］にもラマにもいる。
87-49　調教　(245)10-68
乗るラクダは*トロム*または*ゴルブト*で調教する。荷用のラクダは5歳で調教する。車用のは，いつでもよい。5歳でする。ずっと，大きくなってからでもかまわない。

ラクダのこぶたて

87-51　ラクダのこぶたて　(S)6-50
ラクダのこぶは，生まれたばかりのときは柔らかい。それに両側から板をそえてやって，格好のよいようにたててやる。(これはチャハルの話) Sの話。
87-52　ラクダのこぶたて　(89)6-50

ここではそんなことはしない。

ラクダの群れ

87-54　ラクダの群れ　9-77

49頭。

87-55　ラクダの群れ　7-54

ラクダ 9 頭以上。

87-56　ラクダの群れ　4-57

ラクダの群れ10頭。

87-57　ラクダの群れ　4-47

ラクダの群れ。7 頭。13頭。8 頭。

87-58　ラクダの群れ　(51)3-89

ボトゴ 9 頭，*トロム* 3 頭，*ゴンジ* 2 頭，*インゲ* 9 頭，*タイラグ* 3 頭，*ボール* 1 頭。

ヒツジとヤギ

イム

47-10　*イム*　(138)8-58

ヒツジの耳。*イム*がしてある。※［図譜70］

47-11　Ear mark　(89)6-50

［耳印］※

88-2　*イム*　(387)23-77

別の*アイル*で*イム*が一致したものがあったとしても，それは偶然の一致である。*オムグ*と*イム*の形は関係がない。

88-3　*イム*　(387)23-78

むかし，ヒツジをもっていて，1 度まったくなくなって，また飼うときには，むかしの*イム*をつかってもよいし，またあたらしいのをかんがえてつかってもよい。ほかの*アイル*と区別ができれば，それでたりる。1 軒の*アイル*のなかで，*イム*のちがっているものはない。

88-4　*イム*　(387)23-78

家によっては*イム*をしない家もある。*イム*をつけるのは，各家の習慣で，むかしから勝手にきめている。

群れないヒツジ

88-6　群れないヒツジ　(299)17-50

ダルゴエ集落の羊群は，1．(299)，2．(300) ＋ (305)，3．そのほかの家のヒツジは群れとしないで，外に遊んでいる。

ヤギ混牧の理由

88-8　ヤギ混牧の理由　0-53

ヒツジとヤギとは，放牧は一緒にするが，寝るときは別々にすることもある。それはヤギがヒツジをいじめるからである。しかし，これは夏だけの話で，冬はヤギが弱っているから一緒に寝る。

88-9　ヤギ混牧の理由　0-53

ヤギは，寒さに対する抵抗力がない。ヒツジと一緒なれば，冬でもあたたかであるから一緒の群れにする。

88-10　ヤギ混牧の理由　0-53

ヤギはその体質が冷である。ヒツジの体温でその羊糞がかたまるのだが，ヤギだけではかたまらない。

88-11　ヤギ混牧の理由　(107)7-59

ヤギのヒツジを別々の群れにして飼うと，ヒツジ飼いが2人もいるではないか？

88-12　ヤギ混牧の理由　(S)6-59

ヤギが雨風の強い日にでも先頭にたってリードするということもあるが，しかし，混牧の理由としていちばん大きいのは，ヤギだけ別のひと群れにすることは，人手の経済上，無駄なことであるから，ひと群れに混牧するということであろう。Sの話。

88-13　ヒツジとヤギ　(S)6-59

山岳地帯では，ヒツジとヤギは別の群れにしたほうが便利である。ヒツジとヤギとでは斜面における行動がたいへんちがうから。Sの話。

88-14　ヤギの性質　(S)6-59

ヤギは雨や雪の強い日でも，大声をかけると，向かい雨でもどんどんすすむ。ヒツジはそのあとをついてすすむ。ヒツジだけではこれができない。Sの話。

88-15　ヤギ　(35)2-39

なぜ，ヤギを飼うのか？　ヒツジとヤギとは，おなじ値うちである。毛をとる。

ヒツジの妊娠

88-17　ヒツジの妊娠　(18)21-35

ヒツジをあずけている。よその家に。2歳のヒツジが子どもを産んだときに，その子どもをやる。

ヒツジの双子

88-19　ヒツジの双子　(18)21-35

ヒツジはよその家にあずけてある。双子が生まれたときには，そのうちの1頭はあずかり主にやる。

おもちゃ

88-21　おもちゃ　(276)15-57

子どもの遊び相手に，ヤギを１頭買ってやった。首に鈴をかけている。別に財産として，積み立てておくというような意味のものではない。

種（たね）ヒツジ

47-13　種ヒツジ　(36)2-72

種ヒツジ，種ヤギは人にあずけてある。いまはいない。しかし，ときどき近所の種屋の羊群と一緒にまじっているから，もう妊娠しているだろう。

ヒツジの角（つの）

47-15　ヒツジの角　(51)3-85

角のあるヒツジを*エブルテイ・ホニ*という。種ヒツジに角があった。（なかには角のない種もあるという。）種でなくて小さい角のあるもの，１頭。♀で小さい角のあるもの，１頭。

47-16　ヤギの角　(51)3-85

角のないヤギがいた。♀である。ときどきこんなのがいるという。♂にもあるという。角のないヤギを*モホル・ヤマー*という。

ヒツジとヤギと*カラガナ*

47-18　ヒツジとヤギと*カラガナ*　10-12

今西［錦司，隊長］さんの観察によれば，ヒツジもヤギもともに*カラガナ*［学名 *Caragana*，灌木の１種］を食っている。

47-19　ヒツジと馬糞　10-12

観察：ヒツジが密集しているところを見に行ったら，せっせと馬糞を食っていた。それからもしきりに馬糞をあさっている。

47-20　ヒツジとカラガナ　10-13

中尾［佐助，隊員］君の観察：ヒツジもヤギもしきりに*カラガナ*を食う。もう葉がないので，shoot［茎と葉をまとめてさす用語］をしきりに食う。

47-21　ヤギとヤナギ　2-76

観察：ヤギ，しきりに *Salix*［ヤナギの学名］を食う。

コリデール

47-23　コリデール　(70)5-13

郭王のヒツジのなかにコリデール［ニュージーランドでつくられた毛肉兼用の品種］が

１頭いる。もと，善隣協会の牧場からメスのコリデールを１頭献上した。去年，それから子ヒツジが１頭生まれた。オスであった。いまそれをそだてて，それを種ヒツジにして，全部の羊群をコリデールにしてしまおうと思っている。
47-24　コリデール　(70)5-13
コリデールは別に冬に弱いとは思わない。

ヒツジ飼いと乗りもの
47-26　ヒツジ飼いと乗りもの　(261)14-5
チョルンビルとその妻はいまヒツジ飼いに行って，いない。あるいていった。(Yabogon yabosan)［モンゴル語で，あるいていったの意。Yabgan yabsan］
47-27　ヒツジ番の乗りもの　13-60
ラクダにうつくしい鞍をおいた女１人，羊群の番についている。女，ラクダから下りて立っている。なお，ラクダをもう１頭ひいている。
47-28　ヒツジ飼いの乗りもの　(192)9-73
ヒツジ飼いはウマまたはラクダでゆく。

ヒツジ飼いの役
47-30　ヒツジ飼いの役　(261)14-5
チョルンビルとその妻はいまヒツジ飼いに行って，いない。その娘26歳とその子どもとがのこっている。
47-31　ヒツジの番　(193)9-60
バトルホの母親はいまヒツジの番に行っている。ヒツジはバトルホとジュルトゥムと一緒の群れになっている。
47-32　ヒツジの番　(193)9-60
ジョンダエジャムソとバズルサトの羊群は一緒になっている。そのヒツジの番は２軒の家で交代でしている。
47-33　ヒツジの番　(192)40-30
70歳くらいの婆さんでもヒツジの番に出ることがある。
47-34　ヒツジの番　(181)9-15
41歳の女，ヒツジの番に行っている。
47-35　ヒツジの番　(180)9-13
娘30歳代。ヒツジの番に行っている。
47-36　ヒツジの番　(182)9-24
24歳の娘。ヒツジの番に行っている。
47-37　ヒツジの番　(185)9-29

婆さん。63歳。ヒツジの番に行っている。家には22歳の娘が１人のこっている。
47-38　羊群の監視　(107)7-58
若いときは500頭くらいの羊群の監視ができた。いまはできない。それ以上もできる人があるだろう。
47-39　羊群の監視のウマ　(107)7-59
ウマに乗っても，別にそれでたくさんの羊群の番ができるものとは思わない。
47-40　ヒツジの番　(86)6-9
ヒツジの番にはラムソーがついている。（けれども，17時には，ラムソーは家にいる。それからすぐ，また番に出て行った。）毎日，ラムソーがゆく。ゲンドゥブがゆくときもある。２～３日交代で行く。
47-41　ヒツジの番　(95)6-79
いまヒツジの番には姉娘のほうがついている。
47-42　ヒツジの番人の役　(51)3-67
ヒツジの見はりには家族３人のうちだれがゆくか？ 原則としてチェトゥンがゆく。きょうはオチルが行った。チェトゥンがゆくときにもラクダに乗ってゆく。
47-43　羊群の見はり　(35)2-38
羊群にはかならず人がつく。暖かい日には娘，寒いときには主人か妻。いまはホムボータイ（５歳の子ども）がついている。
47-44　ヒツジ飼い　(84)5-85
きのうは姉のイフ［大を意味するモンゴル語］・ラムソーが行った。きょうは妹のバガ［小を意味するモンゴル語］・ラムソーが行った。
88-27　ヒツジの番の役　(295)17-32
羊群の番には娘がゆく。

子ヒツジの世話

89-262　子ヒツジの世話　(271)15-6
子ヤギ１，子ヒツジ１，がいる。ペンゴー［家畜囲い］の中にいる。
89-263　子ヒツジの世話　(271)15-7
羊群はジャンギの羊群と一緒にした。一緒に*オトル*［分派移動］に出ている。子ヒツジ，子ヤギは羊群と一緒に入れずに，家においてある。*オトル*で産まれた子どもは２～３月に，羊群が帰ったら，それぞれの家で世話する。

子ヤギの世話

89-267　子ヤギ，乳を飲む　4-37
子ヤギがたいへん小さい。母ヤギの乳を後ろから飲んでいる。

89-269　子ども家畜の世話　(268)14-89
家畜は，冬は*オトル*に出ていて，ここにはいないのであるが，２～３月のころ，子どもが生まれると，当歳子ウシ，子ヤギ，子ヒツジは，ここへ連れて帰ってきて，ここで育てる。それに乾草を食わせる。

家畜一般

家畜名称

83-3　*メル*　(275)15-42
ここ（アトーチン，セルブン）でも，*アクタ*［去勢ウマ］のことを*メリ*と言った。
83-4　*トゥルグ*　(277)15-60
ヘンケルワ・スムより，*トゥルグ*５頭あずかっている。
83-5　去勢オスヒツジ　(268)14-81
去勢オスヒツジを200頭くらい。これは，*シュドレン*もふくめて。
83-6　*ソバイ・ウネー*　(268)14-81
メスウシ10頭。*ソバイ・ウネー*３頭。これは，子どもを産まなかったウシのこと。
83-7　*ブドゥン*　(268)14-80
ウマは，*ブドゥン*が15頭，*ダーガ*と*シュドレン*が26頭，*アジルガ*が29頭，*グー*が250頭，あとはみな*ダーガ*，*オナガ*。
83-8　*アッタ*　(268)14-80
オスラクダ３頭。ただし，種オスラクダ１頭ふくむ。
83-9　*インゲ*　(268)14-80
メスラクダ36頭。ただし，*ドルブト*をふくむ。
83-10　*メリ*　(266)14-63
ここでも*メリ*といえば，*アクタ*のことである。
83-11　*ゴルブト*　(255)13-15
*ゴルブト*は，３歳である。Torm-nai axa, orol turusun!［*トロム*の兄，遅く生まれた！の意味であると思われる。Torom-nai axa, oroi törsön!］
83-12　*シュドレン・ウネー*　(50)3-49
*ウネー*のなかに*シュドレン・ウネー*が１頭いる。去年は*ビロー*であった。乳が出なかった。ことし，*ウネー*になった。そのほかのウシはもっと年寄り。
83-13　*ボールトゥルグ*　(S)7-89
当歳子ウシというには，大きすぎるし，さりとて２歳子ウシというには小さすぎるというくらいの，中途半端なウシを*ボールトゥルグ*という。10月から１月までのあいだのウシがこれにあたる。Sの話。［春に生まれず，秋から冬にかけて生まれた子ウシ。一般に遅生まれは*ヘンズ*という。ウシの*ヘンズ*の方言］

83-14　*ボールトゥルグ*　7-89
ダライ・スムの近所でも，チャハルとおなじように，*ボールトゥルグ*ということばがある。その意味はおなじ。
83-15　*サルワー*　(S)7-89
１歳と２歳との中間の大きさのウマのこと。８～９月から１月までのあいだ。Sの話。
83-16　*トゥルグ*　(S)7-89
ヒツジについて，*ホログ*と*シュドレン*のあいだのヒツジをいう。10月から４月まで。Sの話。
83-17　ヤギの名まえ　(S)7-89
ヒツジの*トゥルグ*にあたるような名まえは，ヤギの場合にはない。Sの話。
83-18　*アクタ*　(99)7-35
ここでは，*モリ*といえば*アクタ*のことにきまっている。ウマ一般にあたることばはない。
83-19　ラクダの呼びかた　(51)3-71
*ボトゴ*１歳。*トロム*２歳。*ゴルブテイ・タイルグ*３歳オス，*ゴルブテイ・ゴンジ*３歳メス。*ドルブテイ・タイルグ*４歳オス，*ドルブテイ・ゴンジ*４歳メス。*アッタ*は去勢オス。*インゲ*はメス。*ボール*は種オス。

オスとメスの見わけ

83-21　オスとメスの見わけ　(B)7-69
ウシのオスは角がひらいている。どちらかといえば，顔が大きくてひらたい。メスは角がせばまっている。顔が細くてやさしい。Bの話。なるほどそう言われてみると，たしかにそうである。
83-22　オスとメスの見わけ　(B)7-69
Bはウシの腹の下をいちいちのぞかなくても，ウマの上からウシの顔を見ただけで，やつぎばやにそのオスとメスをいうことができる。
83-23　ヤギのオスとメス　(S)8-67
ヤギはしっぽをぴんと上にあげているから，そのオスとメスはすぐわかる。Sの話。
83-24　ヒツジのオスとメス　(S)8-67
ヒツジのオスとメスを見わけるには，腹のへそのところの毛を見るか，しっぽをめくりあげて見るのである。Sの話。
83-25　オスとメスの見分け　(B)7-69
種オスウシの顔もひとめ見ればわかる。顔がひろくて，鼻のうえから額にかけて毛が一面にもじゃもじゃちじれている。Bの話。これもなるほど，言われてみればたしかにそうである。

妊娠期間

83-27　妊娠期間　6-64

ラクダ12カ月。ウシ10カ月。ウマ10カ月。ヒツジ５カ月。ヤギ５カ月。

83-28　ラクダの出産　(245)10-64

ラクダには双子はない。

83-29　ラクダの出産　(245)10-65

出産の時期は２月から３月。５～６月などに生まれるものはない。

83-30　ラクダの出産　(245)10-64

最初の出産の時期はきまってはいない。*インゲ*になってから産むのがふつうである。なかには，*ゴルブト・ゴンジ*で産むのもあるし，*ドルブト・ゴンジ*で産むのもある。

83-31　妊娠しそこない　6-63

10頭のうち１頭くらいの割で，妊娠しそこねたウシが出てくる。これは乳がとまらずにでる。

83-32　ラクダの出産　(51)3-89

ラクダは，*ボトゴ*は，毎年は生まれない。３月に生まれる。２月に生まれるのもある。去年は３頭生まれた。ことしは６頭生まれた。（*インゲ*の数は９頭である。）

83-33　*ゴンジ*と*インゲ*　(51)3-89

*ゴンジ*は子どもができない。*インゲ*になったら子どもができる。

83-34　ヒツジ，ヤギの出産　(25)1-52

ヤギは２歳で80％子を産む。ヒツジは２歳で10％子を産む。

家畜の昇格

83-36　家畜の昇格　(337)18-19

当歳子ウシ２頭。いまは*ビロー*になった。

83-37　家畜の昇格　(338)18-19

*ビロー*３頭。これは当歳子ウシだ。

83-38　家畜の昇格　(271)15-6

シュドレン（実はあたらしく*シュドレン*になった，だから，*ビロー*である）

83-39　家畜の昇格　(273)15-34

まだ*シュドレン*が２頭みつからない。この*シュドレン*というのは，*ビロー*がもう昇格したものである。

83-40　家畜の昇格　(297)17-22

当歳子ウシ５～６頭といって，いまはもう*ビロー*になったという。そのほかに当歳子ウシ（ことしの11月に生まれたもの）が１頭いる，という。

83-41　家畜の昇格　(245) 10-64

*ボトゴ*は冬に*トロム*になる。
83-42　家畜の昇格　(251)13-8
もういまは当歳子ウシがみんな*ビロー*になっている。
83-43　当歳子ウシより*ビロー*へ　(86)6-12
10月になると，ことしの当歳子ウシをもう*ビロー*と呼ぶようになる。ほかの家畜についてもおなじように，この10月に進級する。このことは，チャハルにおいてもおなじだとSたちは言った。
83-44　家畜の昇格　(S)7-88
冬至の日に，どの家畜もみな一斉に昇格するのだという説がある。たとえば，当歳子ウシが*ビロー*に，*ビロー*が*シュドレン*に。冬至の日は，年によって決まっていないから，昇格の日も一定ではない。Sの話。
83-45　家畜の昇格　(S)7-89
家畜は，冬至の日に一斉に昇格するのだという説もあるが，ふつうは，そうはいわない。やっぱり正月に1つ昇格するのである。Sの話。
83-46　ロバ，ラバ，ウマの割合　0-1
張家口から粛親王府までの街道をゆく。荷車を引く家畜の種類と数の調査。［トラックから観察し，ラバをl，ウマをm，小さなロバをr，大きなロバをRで表記。］

放牧

83-48　放牧　(70)5-11
郭王は，家畜の飼いかたについては，放牧を絶対に支持している。家のなかで飼ったのでは家畜は増えないという。
89-229　家畜泥棒　0-50
家畜泥棒は，最近はモンゴル人にもある。10年まえにはモンゴル人の家畜泥棒はなかった。漢人ばかりであった。いまでも漢人が多い。だから，草原でも，漢人接壌地帯のほかには牧夫のついていないことが多い。
89-230　家畜泥棒　0-50
草原地帯で家畜にみな人の番人がついているのは，オオカミに対する用心ではない。泥棒に対する用心である。
89-231　放牧の距離　0-48
*ゲル*と放牧地とは，10キロメートルくらい離れている。(砂丘地帯の話)
89-232　家畜の番人　0-51
放牧に牧夫がついてあるくという習慣の発生は，最近のことで，むかしはついてあるかなかった。
89-233　放牧の番人　0-47

砂丘地帯の中では，夏の間は，自由放牧である。すなわち，ヒツジ以外の家畜には番人がついていない。

89-234　放牧の番人　0-49

冬は，ウシの群れには人がついているのが原則であるが，牧夫の不足のためにつきっきりでないことが多い。夕がたにウマに乗って連れてくる。（砂丘地帯）

89-235　放牧の番人　0-50

草原地帯では，夏，冬ともに，牧夫がついていることが多い。これは，オオカミに対する用心ではない。泥棒に対する用心である。

89-236　家畜と人　(341)18-33

このあたりでは家畜にはみんな人がついている。（オオカミに対して）

89-237　家畜の番　(341)18-33

ヒツジの群れに，漢人の子どもの雇い人。ウシの群れに，15歳の子ども。

89-238　馬群の行動　0-51

馬群は，人手不足のため，半ば野生化しているのがある。Bの馬群はだんだん自然にさまよって，いまでは正藍旗の砂丘地帯から草原に出てしまった。

89-239　砂漠における放牧　0-48

肅親王府にて。［フィールドノートに「夏のあいだはヒツジ以外の家畜には番人がついていない。狼害はヒツジ以外は自力でふせぐ。子ウシは家にのこす。（親ウシは乳がはって帰ってくる。それをしぼる。）…」］

89-240　家畜の呼びかた　0-34～40

肅親王府にて。

89-241　一緒に放牧　(387)24-12

南ワーヨ［瓦窯］のアイルのヒツジはみんな一緒にして，１つの群れになっている。それに，ヤンゴルが１人つけてある。

89-242　一緒に放牧　(387)24-12

南ワーヨのウマは各家とも，みんな１～２頭の乗馬用しかもっていない。乗らないときはみなデリスン・アイルの馬群と一緒に群れにしてある。

ホロー

83-50　*ホロー*［円形の家畜囲い］(360)18-67

シリンゴルに*ホロー*がないのは，石，土がないからだろう。また，*ホロー*をつくる技術がない。また，移動がはげしいからであろう。

83-51　*ホロー*　(373)20-30

*ジュン・ホロー*は，*シャバル・ホロー*の１つの型。*ジュン*というのは，土のブロックのことである。これは，メドウのようなシナガリヤス？などの芝草がはえたところの土が

よい。草の根がこんがらがっているので，土のブロックがこわれないのだ。また，小箱に泥を詰めて固まらせてつかうこともある。

83-52　*ホロー*　(373)20-30

チョロン・ホロー。石でつんだ*ホロー*。

83-53　ホロー　(373)20-30

ボルガスン・ホロー。柳条でつくった*ホロー*。

83-54　*ホロー*　(373)20-30

シベン・ホロー。木でつくった*ホロー*。柳条ではない。枝のない木でつくる。これは夏涼しくてよい。

83-55　*ホロー*　(373)20-30

フルチン・ホロー。羊糞でできた*ホロー*のこと。

83-56　*ホロー*　(373)20-30

シャバル・ホロー。［泥でできた*ホロー*のこと。］

83-57　*ホロー*　(275)15-43

10月15日の吹雪のとき，ウシは*ホロー*のなかに入れていたのだが，そのなかでも死んだ。

83-58　*ホロー*　(268)14-83

城壁のなかの畜舎は，夏にはヒツジ，ヤギが帰ってきて入る。ウマとラクダはここへは帰ってこない。

83-59　土の*ホロー*　(189)9-44

もう２～３日したら，ホロートにうつるつもりである。ホロートには，ヒツジを入れる土の垣がつくってある。自分の家でつくった。

83-60　*カシャー*［囲い］と*ホロー*　(136)8-35

このあたりの*アイル*には，*カシャー*，*ホロー*はまったくない。けがをしたヒツジなどはみな包につないでおく。

ホローの歴史

83-62　*ホロー*の歴史　(360)18-67

土壁のホローも，むかしからあった。むかし，移動しているころには，*ホロー*は冬営地につくった。

83-63　*ホロー*の歴史　(373)20-30

*ホロー*はむかしからあった。張北の近所にいたころからあった。やっぱり土の*ホロー*であった。

83-64　*ホロー*の歴史　(369)20-42

チャハルの民は，むかしから，*ホロー*の施設をもっていた。冬営地，夏営地とうごいていても，その場所は毎年，一定であり，どちらにも*ホロー*の施設をもっていた。

羊糞の囲い

83-66　羊糞の囲い　(190)9-62

ここには，羊糞の囲いがあるので，毎年，冬はここへくる。羊糞の囲いは，３年まえにできた。ここに冬くるのも３年まえからである。

83-67　羊糞の囲い　10-13

きょう，シャグドゥルは大きいほうの娘を連れて，冬営地の羊糞の囲いをつくりに行った。

83-68　羊糞の囲い　10-14

サイン・ホーブルへついた晩，その夕がたに加藤［泰安，隊員］さんが１人でタラのなかの黒いものを見に行ったら，それはこの羊糞の囲いであった。ネルンパラムの冬営地であった。

83-69　羊糞の囲い　10-14

砂丘地帯のなかの「楡の冬営地」の付近でも，この羊糞の囲いを見た。

83-70　羊糞の囲い　10-14

砂丘地帯のなかで，たしかにこのようなものを１つか２つ見ている。そのときは，なにをするものか，わからなかった。

83-71　羊糞の囲い　10-14

羊糞の囲いが実際にその機能を発揮しつつあるのを見るのは，このソルブトのものが最初である。

83-72　羊糞の囲い　(223)10-30

包のそばに羊糞で囲いをつくっている。いま，３分の１ほどできたところである。

83-73　*アルガリ*の囲い　(47)4-47

ダムディンの冬営地。ジョスランから約300メートル離れたところにある。なんにもない。*アルガリ*（ヒツジの）がまるくつんであるだけ。

ゲルと家畜

83-75　*ゲル*と家畜　(251)13-6

スンディーの*ゲル*のなかに小さいカシャーをしつらえてある。家畜はいない。

家畜と水

83-77　ウシと水　(336)17-93

ウシは，親ウシでも当歳子ウシでも，どんなウシにでも全部水を飲ます。夕がた。井戸から水を汲んでやる。ウシには，毎日，水を飲ます。

83-78　ウシと水　(336)17-94

ウシの群れは夕がたになると，井戸のところへちゃんと帰ってくる。それに水を飲まし

て家に連れて帰ってくるのである。
83-79　家畜と水　(136)8-25
ここのアイルの家畜はみんな，オラン・ホトク・スムの井戸まで水を飲ましに連れてゆくのである。ただし，当歳子ウシは別。
83-80　ウマの水飼い　(192)9-73
馬群には，夏は，毎日見にゆく。水を飲まさなければならないから。秋と冬には，１週間に１度くらい，見にゆく。
83-81　家畜と水　(99)7-29
家畜も人も，ともにメーリン・ホトクの水をつかう。
83-82　ウマと水　(89)6-36
ウマには人がついていない。ウマに水を飲ますときには，ネルンパラムが自分でついてゆく。２日に１回，水を飲ます。
83-83　ウシと水　(89)6-36
ウシは川の水を勝手に飲む。水を井戸から汲んでやって飲ます必要はない。
83-84　ウマと水　(89)6-36
ウシは川の水を勝手に飲む。ウマも夏は川の水を飲むので，井戸の水を汲んでやる必要がない。このごろから水を汲んでやらなければならなくなる。
83-85　ウシとウマと水　(89)6-36
このあたりの川の水は，あんまり凍らない。ウシは少しの水たまりでも，水を飲むことができる。だから，ウシは冬でも水を飲ます必要がない。しかし，ウマはそうはゆかないので，冬は井戸から汲んでやらなければならない。
83-86　ヒツジと水　(89)6-37
ヒツジ，２日に１度，水を飲ます。水を飲ますときは，家のものが１人一緒に行って，井戸から水を汲む。夏は，湖があるから，湖の水を飲む。
83-87　ヒツジと水　(93)6-70
ヒツジは日に２回水を飲ます。サイン・ホーブルの水を飲ます。
83-88　家畜と水　(93)6-70
ヒツジはサイン・ホーブルで。ウシは流れている川の水を飲む。ラクダはウシとおなじ。ウマは，ヒリン・シャントの水を飲ます。当歳子ウシはヒリン・シャント。
83-89　家畜の水　(95)6-79
ヒツジに水を飲ますには，ボロンギン・ホトクの水をやる。サイン・ホーブルまではゆかない。遠いから。
83-90　人の飲む水　(95)6-79
家畜はボロンギン・ホトクの水を飲ます。人の飲む水は，この近所にシャントがある。タリン・シャント・ホトク。

83-91　井戸の水―人と家畜　(97)6-86
家畜に飲ますには，ボロンギン・ホトク。人が飲むのはタリン・シャント。
83-92　井戸のつかい分け　(93)6-68
家畜にはサイン・ホーブルの水を飲ます。人間にはヒリン・シャントの水を飲ます。
83-93　家畜と水　(73)5-22
当歳子ウシ，子ヒツジ，子ヤギには井戸の水を飲ます。夏は当歳子ウシが小さくて，井戸から遠いとあるいてゆけない。それで，井戸のそばへ引っ越しをする。このごろは，人が連れて井戸まで行って水を飲ます。
83-94　ラクダと水　4-59
井戸がある。ラクダが水を飲ませてもらっている。大きいのも小さいのも。
83-95　家畜と水　(51)3-78
人は井戸の水，家畜は北のほうにある湖の水を飲む。しかし，井戸でも水を飲ましている。冬には，ウシ，ウマは雪を食べない。井戸の水を飲む。ラクダ，ヒツジ，ヤギは雪を食べる。
83-96　水　(35)2-41
人間，子ヤギ，子ヒツジ，当歳子ウシは，井戸の水をつかう。親家畜は，ヌクセン・ゴルの水を飲む。夏冬とも。
89-228　家畜と水　0-47
夏は，湖，川の水。冬は井戸水だけ。

ウシの草の食べかた

83-98　ウシの草の食べかた　10-15
ウシは決して雪をほって草を食うことはない。雪の上に出ている草を舌でぺろりと巻いて食うだけである。
83-99　ヒツジの草の食べかた　10-15
ヒツジ，ヤギどちらも，ウシとおなじく，雪の下の草をほって食うことはしない。上に出ているものだけ食う。
83-100　ラクダと草の食べかた　10-15
観察：ラクダはハルガナをこのんで食っている。しかし，*A.campestris*，*Stipa* も食う。雪をほらない。
83-101　ウマと草の食べ方　10-15
ウマは，鼻づらで雪をかきわけて雪のなかに鼻を突っ込んで，中のほうから草をむしって食う。食べかたからいえば，雪のときには，ウマがいちばん上手に草を食う。

家畜の分布

83-103　家畜の分布　(103)39-3

東スニト旗の全体としても，半分以上の家畜は，グフ・トロガイを中心にしてあつまっている。

83-104　家畜の数　(103)39-4

東スニト旗の家畜の数は，ヒツジが13万頭と称しているけれども，ほんとうは20万を越えているらしい。

群れの大きさ

83-106　群れの大きさ　0-52

羊群の大きさはいくら大きくてもよい。1,000頭でも遊牧ならかまわない。

83-107　群れの大きさ　0-52

定牧なら，500頭でもこまる（ヒツジ）。たいていは300頭以下。人手不足ならば，もっと大きい群れにするが，これはいけない。

種オス家畜

89-170　種オスウシ　(387)24-13

南ワーヨのアイルのうち，種オスウシをもっているのは，シャグドゥルスルンとセトウェーゼルのみ。それぞれ１頭ずつ。

89-171　種オスヤギ　(387)24-13

南ワーヨのアイルのうち，種オスヤギをもっているのは，シャグドゥルスルンの家だけ。１頭。

89-172　種オスヒツジ　(387)24-13

南ワーヨのアイルのうち，種オスヒツジをもっているのは，ララルワンドン，ダメルンスルン，ノルブサムボ。それぞれ１頭ずつ。

89-173　ベイトス　0-35

２，３，４歳のメスウマのことをベイトスという。

89-174　グー　0-35

グーというのは，出産の能力のあるメスウマのこと。

89-175　ウレー　0-34

ウレー［若オスウマ］というのは，去勢したときのウマ。ウマにだけ用いる。その１年だけウレーという。普通，ヒャザーランでする。シュドレンで去勢するときは，シュドレン・ウレーという。

［子ウマは生まれたとき，オナガと呼ばれ，越冬すればダーガと呼ばれ，その後，１年ごとにシュドレン，ヒャザーランと呼ばれる。現在は，満１歳のダーガのときに去勢する

ことが多いが，この聞き取りによれば，満３歳のヒャザーランのときに去勢している。ウレーというのは去勢していない，若オスのこと。去勢したときのウマというのは，去勢するまえの状況をさしており，去勢馬をさしているわけではない。当初のモンゴル語の指導が，非常にわかりにくい教え方であったことが了解される。なお，種オスはアジラガと呼ばれる。]

89-176　*アタ*　(387)23-91

アタ［種オスラクダ］ということばは知らない。

89-177　*ベイトス，ウレー*　(387)23-91

*ベイトス*は３～４歳のメスのウマ。*ウレー*は３～４歳のオスのウマ。

89-178　*ゴナ，ゴンジ*　(387)23-91

*ゴナ*は３～４歳のオスのウシ。*ゴンジ*は３～４歳のメスのウシ。

89-179　*セルヘ*　(387)23-91

成長したヤギのオス。転じて，とくに大きいオスをいう。

89-180　*ジルグ*　(387)23-91

成長したヒツジのオス。転じて，とくに大きいヒツジのオスをいう。

89-181　*シャル*　(387)23-91

成長した家畜，ウシのオス。転じてとくに大きいオスをいう。

馬糞を食う

89-204　馬糞を食う　18-16

廂白旗公署にて。われわれの牛車のウシが車をつけたまま，馬糞を食っていたのを見た。３頭がつづけざまに食っていた。疲れてよほど腹が減っていたからだろうとかんがえていたが，Ｓもウシは馬糞を食うという。

［ウマは反芻胃をもたないので，その糞は草の塊である。]

89-205　馬糞を食う　18-16

*シャグドゥル・タイジ*の家における今西さんの観察。ヒツジが馬糞にたかっていた。

去勢

去勢

56-2　去勢　(387)23-77

去勢するということば。axadurnə は文語。（*アクタ*［去勢したウマ］からきた。）imnənə は文語的。口語的言いかたとして xundrnə はウマ，ウシについて。（軽くするという意味）bôr abuna は口語。

56-3　去勢　(387)23-77

ここではラクダは去勢しない。ラクダの去勢のできる人がいない。

56-4　去勢の季節　(387)23
陰暦の４月のなかごろにおこなう。ウマは３月ころにするのもある。暑くなれば化膿するおそれがあるから。
56-8　去勢　(387)23-88
去勢はウマ，ウシ，ヒツジみなおなじ。切り口はただ横に１本入れるだけである。※
56-9　去勢　(387)23-88
去勢の方法はヒツジ，ウマ，ウシいずれもみなおなじ。
ただ，ウマはそのあとで，１）水であらう。２）xaerna［モンゴル語で，あぶるの意］　手を火にあぶって後で傷口をあたためる。３）塩をつけるのもある。
56-12　去勢　0-34
ウマの去勢は４歳でする。３歳ですることもある。そのときは*シュドルン・ウレー*［若オス］という。
56-13　去勢　0-38
imünüxü は，ウシ，ヒツジ，ヤギを去勢すること。耳を切ること。この３種はタマガ［焼印］がないから去勢するときに耳を切る。［図譜69参照］
56-14　去勢　0-38
axadürxü は，ウマ，ラクダを去勢すること。金タマをとること。
56-15　去勢　0-39
ラクダは*ドルブトゥイン・アター*［４歳のオス］のときに去勢する。すなわち４歳。
56-16　去勢　0-38
ヤギは１歳で去勢する。
56-17　去勢　0-37
ウシは２歳で去勢する。
56-18　去勢　0-36
ヒツジは１歳で去勢する。
56-29　去勢　(189)9-54
家畜の去勢は自分ではできない。人にたのむ。できる人ならだれでもよい。
56-30　去勢　7-65
ウマは４歳で去勢する。
56-31　去勢のしかた　(26)5-67
ウシ，ヒツジの去勢。金タマの先を切って，なかのタマをぬく。
56-32　ラクダの去勢　(245)10-65
ラクダの去勢は特定の人間でないとできない。ラマにはそんな人間はいない。
56-33　ヒツジの去勢　(26)5-67
生後４カ月で去勢する。

56-34　ウシの去勢　(26)5-67
２歳で去勢する。
56-35　去勢術　(26)5-66
牧場の副牧長としての仕事のほかに，自分の特殊技能として去勢術をおこなう。
56-36　ウマの去勢　(51)3-90
ウマの去勢はむつかしい。オチルは自分でできない。
56-37　ウシの去勢　(51)3-90
ウシは２歳子ウシのときに去勢する。３月にする。ウシの去勢はやさしい。オチルは自分でできる。
56-38　ヒツジ，ヤギの去勢　(51)3-90
ヒツジとヤギの去勢は春の３月にする。これはやさしい。だれにでもできる。オチルもできる。
56-39　ラクダの去勢　(51)3-88
ラクダの去勢はむつかしい。オチルにはできない。去勢をする人がいる。近所にはいない。２～３人いる。名まえは知らない。去勢をするときには，その人をさがしにゆく。去勢する人にはお金，食べもの，なんでもよい。お礼をする。
56-40　ラクダの去勢　(51)3-88
ラクダは４歳または５歳で去勢する。去勢は９月にする。９月にできないときは３月にする。
56-41　去勢　(35)2-45　1944年10月６日
２歳子ウシ２頭。去勢してある。ことしは，去勢はもうすんだ。
56-42　去勢の意味　(35)2-39
去勢をしないと肉がわるくなる（ヒツジ，ヤギ）。

去勢術者

56-5　去勢屋　(387)23-89
ことしはウーチーン・オボ［五旗オボ］の人をたのんだ。その日にこのワーヨの集落のを全部一緒にやった。１日ですんだ。
56-6　去勢屋　(387)23-89
旗のなかに去勢屋は６～７人いる。ヒツジやウシはやさしいので，ヒツジ，ウシはできるがウマはできないという人もある。ヒツジ，ウシだけできる人はウマのできる人より４～５人は多いかもしれない。
56-7　去勢屋　(387)23-88
この集落（ワーヨ）には去勢屋はいない。ガシャート，ウーチーン・オボ，ウラン・ノールには各１人ずついる。旗のなかで，みんなで６～７人いる。

56-10　去勢のお礼　(387)23-89
手術料として，ウマなら１頭50円。ヒツジ，ヤギ，ウシは10～20円あるいは40～60円くらい。しかし，家によってまちまちである。ものがあればものをやってもよい。毛皮や古着があればそれをやってもよい。
56-11　去勢屋　(387)23-90
去勢術は貧乏人がするものと決まっている。
56-20　去勢術者　(346)18-54
この集落には去勢屋はいない。この旗のなかにはいる。
56-21　去勢屋　(346)18-54
ウシ，ウマの去勢のできる人は少ない。ヒツジ，ヤギも自分では去勢しない。特定の人がいる。
56-22　去勢屋　(346)18-54
ヒツジ，ヤギも自分では去勢しない。特定の人物がいる。この集落にはいない。やっぱりイントだが，この集落のなかではない。ジュン・ウムヌ［東南］にバトマという人がいて，それがする。バトマは別に貧乏ではない。
56-23　去勢屋　(346)18-54
バトマがヒツジ，ヤギの去勢をする。バトマは別に貧乏ではない。貧乏な人が去勢をするとは決まっていない。
56-24　去勢屋　(346)18-55
ヒツジ，ヤギの去勢はバトマがする。バトマはヒツジ，ウシについてできるが，ウマの去勢はできない。
56-25　去勢術者　(245)10-66
オルン・ホトク・スムのラクダの去勢をする人は別に一定していないけれども，シリン・チャガン・オボには家畜がたくさんいるし，そこには去勢のできるハラ・フン［俗人］がいる。それがやってきてする。その人はウマもウシもできる。
56-26　去勢屋　(89)6-38
去勢をするには去勢屋をよんでくる。西北のほう，遠いところにいる。まわってくるのではない。よんでくるのである。家畜の種類の如何によらず，なんでもできる。自分で去勢する者もあるが，あんまりない。
56-27　去勢の礼　(89)6-38
去勢は去勢屋をよんでくる。ヒツジ300頭に対して，200円くらい出す。ものでも出すし，お金でも出す。それは決まってはいない。
89-194　現金　(387)23-89
去勢の手術のお礼として，物があれば物をやってもよいが，このごろは物資がないので，現金をやる。

89-195　金もち　(387)23-89
去勢の手術料はだいたいの標準はあるが，家によってまちまちである。金もちの家では，もっとたくさん出す家もある。

種（たね）の選択

56-44　種の選択　(51)3-90
からだの大きいのを種にえらぶ。(ヒツジ，ヤギについて)
56-45　種のあとつぎ　(51)3-90
ヒツジとヤギの種オスは，先のが死んだらつぎの種オスをつくる。また種オスが８歳，９歳になって年をとってきたら，次の種オスをつくる。いまは種オスはヒツジ，ヤギともに３歳。

種つけ

56-47　種つけ　(41)2-82
種ウシは勝手によそのが来て，種つけする。いつしたか，わからない。
56-48　種つけ　(35)2-27
種ウシはよそから連れてくる。３，４，５，６月どれでもよい。ことしは４～５月に種つけした。来年の２～４月に生まれる。種つけのお礼なし。
56-49　種つけの季節　(44)3-15
ウマ，ウシに種つけの季節なし。ヒツジ，ヤギはいずれも10月にする。

種のあずかり料

56-52　種のあずかり料　(268)14-89
種オスヒツジのあずかり料は別に払わない。種ヒツジの毛を春も秋も種屋にやればそれでよい。ほかに何もやらない。

種あずかり屋

56-54　種あずかり屋　(268)14-89
種あずかり屋はこの近所ではイントの付近にある。
56-55　種あずかり屋　(268)14-89
ここではコントロールにホグ［ヒツジの貞操帯］をするのもあるし，種あずかり屋にあずけるのもある。
56-56　種あずかり屋　(44)3-15
オルン・ノールのセレーはガルサンドンドルのほかからも，たくさん種ヒツジ，種ヤギをあずかっている。まえからこの商売をしている。

56-57　種あずけ　(44)3-15
種ヒツジ，種ヤギおのおの１頭をいまオルン・ノールのセレーという人にあずけている。４～５月ごろにあずけた。去年もおととしも，ずっとまえからあずけている。
56-58　種あずけ　(35)2-33
ホグをつけてもコントロールがうまくゆかないので，種ヒツジ，種ヤギをあずけるのである。
56-59　種のあずかり料　(35)2-23
バインオルジ。磚茶半枚，粟［生のもの］２斤，ホーライ・ボダー［煎ったキビ］１斤，白麺［小麦粉］２斤，ユウ麺［ユウマイ（ハダカエンバク）の粉］１斤。ジョルトモ，オムボもおなじ。お金はもってこない。４月にもってきた。
56-60　種あずかり屋　(35)2-21
ことしのあずかり，バインオルジがヒツジ，ヤギ各３頭。ジョルトモがヒツジ，ヤギ各２頭。オムボがヒツジ，ヤギ各２頭。

ホグ

47-3　ホグ　(268)14- 89
ここではコントロールにホグ［交尾を制御するために種オスにつける布］をするのもあるし，種あずかり屋にあずけるのもある。［図譜68］
47-4　ホグ　(268)14-89
スニトあたりで，いまごろの季節にヒツジやヤギの子がひょこひょこ生まれているのは，ホグをつかわないからだ。
47-5　ホグ　(51)3-85
54頭のヤギの群れ，種ヤギは１頭。ホグをしている。
47-6　ホグ　(89)6-38
種あずかり屋はいない。ホグをつかう。
47-7　ホグ　(89)6-37
種あずかり屋はいない。ホグをつかう。
47-8　コントロール　(36)2-73
ヒツジ，ヤギの出産は春にきまっているが，種屋が近所にいるから，こんどはきっと冬にできてしまうだろう。こまるけれどしかたがない。生まれたら家のなかへ入れてやる。

屠殺

屠殺屋

55-2　屠殺屋　(387)23-90
屠殺屋はかならずしも貧乏人とはかぎらない。だれでもできる人がする。

55-3　屠殺屋　(387)23-90
屠殺は去勢術者ならみなできる。そのほかにも，それ以上に屠殺の専門家がいる。
55-5　屠殺屋　(341)18-35
屠殺のときには遠くから人を連れてきて屠殺をする。
55-6　屠殺屋　(346)18-55
屠殺のできる人はこの集落にはいない。この集落の者はみんなできない。屠殺するときには各家別々に勝手に人をよんできてころすのである。
55-7　屠殺屋　(346)18-55
屠殺するときには各家で別々に勝手に人をよんできてころす。ことしはザルフンガという人。去年はまた別の人だった。
55-8　屠殺屋　(295)17-33
屠殺した家畜はメスウシ１頭，ヒツジ１頭。モンゴル人をたのんできて，ころしてもらった。（ダライは帰化した漢人）
55-9　屠殺屋　(266)14-65
屠殺には他人をたのんでしてもらった。ネルという人。アトーチンの人である。
55-10　屠殺屋　(89)6-40
屠殺にはよその人をたのんでくる。どこの人でもかまわない。ハラ・フン［俗人］ならだれでもよい。
55-11　屠殺屋　(62)4-43
屠殺はよその人にたのんでしてもらう。遠いところの人。
55-12　屠殺屋　(45)3-21
去年，エルグトンという人と，寺の家畜を屠殺した。ウシ４頭，ヒツジ10頭以上。そしてその一部分の肉をもらった。お金はもらわない。自分の家畜は食べなかった。
55-13　屠殺屋　(39)2-54
よその家のウシを屠殺にゆく。そして，*ゲデス*［腸］，*バグルジュール*（腹の肉）をもらう。それを食べる。ヒツジ，ヤギをころしたときには，*ゲデス*，*バグルジュール*，脚の肉（適当に）をもらう。
55-14　屠殺（48)3-37
自分では屠殺しない。人をたのんできて，屠殺させる。だれにやらすかは一定していない。
55-15　屠殺（36)2-66
去年の10月，ヒツジ，ヤギあわせて５頭。自分の夫が自分で屠殺した。夫は去年死んだ。
55-16　屠殺のお礼　(62)4-43
屠殺はよその人間にたのんだ。お礼に５円やった。肉はやらなかった。

屠殺する家畜を買う

55-18　屠殺する家畜を買う　(61)21-52

ことし，ウシを１頭食うために買った。150円。

55-19　屠殺する家畜を買う　(275)15-45

メスウシが１頭，ホクシン［年寄り］，これは自分のもの。ヒツジが２頭，これはよその家から買った。１頭300円。現金で支はらった。

55-20　屠殺の家畜を買う　(276)15-53

ことし，ヒツジ２頭。これは買ったのではない。自分がもっていた家畜である。（いまはもうヒツジもヤギも１頭もなくなっている。）

55-21　屠殺するウシを買う　(255)13-21

ウシ１頭，メスウシ４歳。ことし，子どもを産んでいないのが，脂がのっていてうまいので，それを他人から買ってきた。700円。

55-22　屠殺する家畜を買う　(26)5-67

ヒツジを年に３頭ころすが，それは自分の家畜をころすのではない。オオカミやキツネをわなでとって，それをマイマイに売って買うのである。

55-23　屠殺する家畜を買う　(27)5-70

ヒツジを年に２頭ころす。それは現金で買ってくる。その買うお金は乳製品を売ってもうける。

屠殺した家畜

55-25　屠殺した家畜　(341)18-33

メスウシ（年寄り）１頭，ヒツジ４頭，ヤギ０頭。

55-26　屠殺した家畜　(275)15-45

メスウシ１，年とったメスウシ。ヒツジ２頭，ヤギ０頭。メスウシは自分のウシ。ヒツジは買った。

55-27　屠殺する家畜　(287)16-57

秋に，人のために草を刈ってやった。そのお礼にヒツジ，ヤギを１頭ずつもらった。それを冬の食料としてころしてたくわえてある。

55-28　屠殺した家畜　(288)16-62

ヒツジ１頭ころした。これは民政科長からもらったものであった。

55-29　屠殺した家畜　(297)17-25

メスウシを１頭。年とったメスウシである。

55-30　屠殺した家畜　(295)17-33

メスウシ１，ヒツジ１

55-31　屠殺したウシ　(270)15-2

去年，自分のウシを食った。年とったメスウシ。
55-32　屠殺する家畜　(257)13-45
去勢ウシは売るのもあるが，たいていはころして食う。
55-33　屠殺した家畜　(255)13-20
ことし，ウシ１頭。メスウシ４歳。
55-34　屠殺した家畜　(189)9-38
去年　ヒツジ７～８頭。ヤギなし。ウシは３歳のを１頭。
55-35　屠殺する家畜　(137)8-50
ころすときにはわるい家畜をころす。年とったヒツジ。メスもオスもある。まえから選択しておくということはない。どれでもその場でつかまえてころす。
55-36　屠殺した家畜　(66)4-68
去年ヒツジを２頭ころした。１つは自分の。１つは兵隊の家から買った。
55-37　屠殺したウシ　(62)4-39
去年の冬，メスウシを１頭屠殺した。10歳以上の年寄りのメスウシ。

屠殺の季節

55-39　屠殺の季節　(190)9-63
ことしはまだころしていない。
55-40　屠殺の季節　(136)8-20
冬のためにヒツジをたくさん，いっぺんにころす。10月か11月ごろ。
55-41　屠殺の季節　(136)8-20
夏でもヒツジを食べる。ことしは粟，白麺がないので，ヒツジをたくさんころした。
55-42　屠殺の季節　(137)8-49
去年の冬，ヒツジ，ヤギあわせて10頭ころした。ウシはなし。ことしはまだ屠殺していない。
55-43　屠殺の季節（189)9-38
ことしの夏，ヒツジ３。ことしの冬の屠殺はまだしていない。
55-44　屠殺の季節　(95)6-83
去年ヒツジをころした。冬にころした。数はわからない。
55-45　屠殺の季節　(89)6-39
ことしはまだ何も食っていない。

屠殺

55-47　屠殺　(341)18-34
秋にヒツジ１頭を食った。（冬の定期の屠殺のほかに）夏は肉をつかわない。屠殺しな

い。冬ころした肉が翌年の夏までのこっているのである。
55-48　屠殺　(346)18-55
屠殺をするときには，集落の各家はそれぞれ別々に屠殺屋をよんでころす。この家はことしはジャルフンガという人をよんでころした。ジャルフンガはこの集落のなかで，どことどこの家の屠殺をやったか知らない。Xama uguei!［モンゴル語で，関係ない！の意。Xamaa-gui］
55-49　屠殺　(19)21-37
ヒツジは５人家族で年に４頭を食う。(冬)
55-50　屠殺　(32)21-46
ヒツジ60頭，自分の家でつかった。
55-51　屠殺　(272)15-17
ヒツジは４～５頭。ヤギなし。ウシはまだこれからころすつもり。
55-52　屠殺　(273)15-34
ヒツジ１頭。ウシは死んだウシを食っている。
55-53　屠殺　(277)15-61
ことしは屠殺しないで，死んだヒツジの肉を食っている。10月15日の吹雪でヒツジが全滅した。
55-54　屠殺　(278)15-68
ことしは屠殺しないで，人から肉を少し買った。100円ほど買った。
55-55　屠殺　(267)41-87
ことしの食料としてヒツジ10数頭。ウシはころさなかった。
55-56　屠殺　(263)41-77
イフ・サンの屠殺の分量。ヒツジ，ヤギあわせて10頭。腸のふくれる病気で死んだウシ１頭。
55-57　屠殺　(266)14-65
ヒツジ，ヤギあわせて10数頭。ウシはなし。
55-58　屠殺　(190)9-63
去年はヒツジとヤギをあわせて７～８頭ころした。
55-59　屠殺　(136)8-20
ことしは粟，白麺がないので，ヒツジをたくさんころした。その数はわからない。
55-60　屠殺（ウシ）　(136)8-20
ウシは去年もことしもころさなかった。ウシは食べていない。ころした年もある。ころすときは、やはり冬である。
55-61　屠殺　(103)39-8
モンゴル人は冬のあいだに食うヒツジをいっときにころす。ちょうどいま時分の脂のの

ったときにころすのである。
55-62　屠殺　(182)9-24
１～２日まえにヒツジを屠殺したらしい。肉がつってある。胃袋がまだそのままおいてある。
55-63　屠殺　(71)5-2
ベーリン・スムのラマ，サンジ・デムチの家のウシをころして，その肉をもらう。

家畜の増し減り

子畜の生まれ

92-3　*ホログ*（子ヒツジ）の生まれ　(341)18-18
ヒツジ180頭で，この冬に30頭生まれた。
92-4　*イシグ*（子ヤギ）の生まれ　(341)18-18
ヤギ30頭で，そのうち，子ヤギはまだ１頭生まれただけである。

家畜の増し減り

59-3　家畜の増し減り　(369)20-44
チャハルの人間は，むかしは，みんな兵隊であった。清朝から給料をもらっていた。それで何もせずにぶらぶらしてあそんで暮らしていた。そのふうが，いまでも改まらない。俸給がなくなっても働かないから，家畜がだんだん減り，貧乏になった。
59-4　家畜の増し減り　(369)20-45
家畜が少なくなった原因は，漢人に追われて，南から北に大移動をやったときに，家畜がろくに草も食えずに弱ってあるきながら死んだりして，なくなるのが多かった。そのとき，こうしてずいぶんの家畜がなくなって，そののちまだ回復していないのだ。
59-5　家畜の増し減り　(21)21-41
北牧場のマイマイ［商人］の話。ウシは増えてゆく傾向にある。
59-6　家畜の増し減り　(33)21-48
近年，減りつつある。
59-7　家畜の増し減り　(33)21-50
ヒツジは増えつつある。ウマ，ウシは変化がない。
59-8　家畜の増し減り　(33)21-50
家畜が減るのは，運命もあるが，働きが足らないためである。
59-9　家畜の増し減り　(61)21-52
去年，ことし，増減をならべると，ウマは，４，６，２。子ウマは，２，２，０。メスウシは，４，６，２。（買って増えた。）当歳子ウシは，３，６，３。ヒツジは，75，116，41。ヤギは，27，31，９。

59-10　家畜の増し減り　(273)15-36
むかしから，たいして家畜をもっていない。いまのとおなじくらい。
59-11　家畜の増し減り　(275)15-41
14年まえまでは，徳化にいた。徳化にくらべて，このあたりは，草がわるい。こちらへ来てから，草がわるいので，家畜が減った。
59-12　家畜の増し減り　(275)15-44
ヒツジは以前からない。まえには，ヒツジがあった。ここへ引っ越してきたころにも，若干あった。それを匪賊がみんなもって行ってしまった。735年のことである。
59-13　家畜の増し減り　(278)15-71
ゴト［ヘンケルワ・スム跡地］にいたときから，家畜はたいしてなかった。いまとおなじくらい。
59-14　家畜の増し減り　(295)17-31
家畜は妻が嫁入りしてくるときに，ヒツジ２～３頭をもってきた。それから，いまの状態にまで増やした。
59-15　家畜の増し減り　(314)17-67
家畜をなくしたのは，亥年の雪害のときである。
59-16　家畜の増し減り　(270)15-3
むかしは，いくらか家畜をもっていた。ヒツジ，ヤギ，ラクダ，ウマはなかったが，ウシは，いくらかあった。去年，ハモでなくした。
59-17　家畜の増し減り　(267)41-89
８年まえの大雪害で，ウシ３～４，ヒツジ10～，ウマ２～３がのこった。それから，いまの家畜の数になるまでには，自然繁殖ばかりではなく，買って増えたのもある。
59-18　家畜の増し減り　(262) b 14-16
むかしから，家畜がない。雪害その他でなくしたのではない。まえからの貧乏人である。
59-19　家畜の増し減り　(257)13-45
４年まえに外モンゴルから逃げてきた。そののちの家畜の増え具合は次のごとし。
ラクダは，いまメスラクダ２，オスラクダ５，子ラクダ２。きたときは，40～50頭連れてきたが，病気でなくした。ヒツジは，いま100以上，きたときは，100頭くらい。ヤギは，いま25～26で，あまり増えていない。
59-20　家畜の増し減り　(257)13-45
４年まえに外モンゴルから逃げてきた。そののちの家畜の増え具合は次のごとし。
ウシは，いまメス５，当歳子５，２歳子２。きたときは，何もない。のこしてきた。
ウマは，いまは去勢オス３。ここへ来てから。
59-21　家畜の増し減り　(189)9-43
ゴトブ，ジュルトゥムなどは，まかえら金もちである。雪害で家畜をなくしたが，たい

して死んでいない。
59-22 家畜の増し減り (99)7-36
亥年の雪害のときに，家畜が半分以上死んだ。そのまえも家畜はそんなにたくさんはなかった。いまより少し多かった。
59-23 家畜の増し減り (99)7-38
家畜は亥年の雪害ののちに，自然に増えたものである。買った家畜はない。
59-24 家畜の増し減り (26)5-65
一般的に，このごろは家畜がちっとも増えない，と感じる。
59-25 家畜の増し減り (70)4-85
このあたりの家畜は，減っているということはない。どちらかといえば，増えている。11年まえの大雪害のまえは，いまより家畜の数は少なかった。
59-26 家畜の増し減り (89)6-51
現状維持。たいして増えも減りもしない。
59-27 家畜の増し減り (77)7-1
家畜はむかしはたくさんあった。８年まえの大雪害で，すっかりなくしてしまった。
59-28 家畜の増し減り (98)7-19
むかし，小さいときから，ヒツジやヤギはもっていなかった。
59-29 家畜の増し減り (98)7-23
ちかごろ，家畜をうんと増やしたような人はいない。むかしから，たいしたことなし。
59-30 家畜の増し減り (63)4-45
一昨年に，ウシが１度にたくさん死んだ。
59-31 家畜の増し減り (62)4-41
むかし，たくさん家畜があった。ウシ30頭くらい。一昨年に伝染病でたくさん死んだ。６頭ほどになってしまった。
59-32 家畜の増し減り (48)3-40
家畜は，まえからこんなもの。たいして家畜の数に増し減りなし。たいして減ったことはない。
59-33 家畜の増し減り (44)3-13
むかしから，いまの程度。多くも少なくもなし。
59-34 家畜の増し減り (42)2-88
むかしから家畜は多くない。
59-35 家畜の増し減り (41)2-82
むかしから，家畜は多くない。いや，まったくなかった。働いて，他人の家畜をもらった。２歳のウマなど。
59-36 家畜の増し減り (39)2-61

むかしから，家畜なし。

家畜の死

59-428　家畜の死　(62)4-41

家畜がたくさん死んでどう思うか？　別に何のかんがえもない。しかたがない。

ヒツジのけが

59-430　ヒツジのけが　(136)8-35

観察：包のそとにヒツジが１頭つながれている。首のしたに傷をしている。肉が露出している。寺のほうへ井戸の水をのましに連れて行ったときに，寺のイヌがかんだのだ，という。

ヒツジが逃げた

59-432　ヒツジが逃げた　(95)6-79

ことしの春。ヒツジとヤギがみんな逃げた。タムチン・タラへ逃げた。人が家に帰ってお茶をのんでいるまに逃げた。いくらさがしてもいない。

ゆくえ不明

59-434　ゆくえ不明　(33)21-50

ウシ，ウマ２～３頭から５～６頭。

59-435　ゆくえ不明　(272)15-10

10月15日の吹雪でウシがみんなどこかへいってしまった。当歳子ウシだけがのこった。

59-436　ゆくえ不明　(267)41-85

10月15日の風で，合わせて10頭がゆくえ不明である。詳細は以下のとおり。

メスウシ８頭のうち２頭。当歳子ウシ７頭のうち２頭。２歳子ウシ１頭，去勢オス６頭のうち６頭すべてがゆくえ不明。*シュドレン*４頭は無事。種オス１頭も無事。

59-437　ゆくえ不明　(266)14-69

10月15日の吹雪で，羊群がまよって，ヤギもいれて60～70頭のヒツジがおらなくなってしまった。

59-438　ゆくえ不明　(266)14-62

牛車用のウシが１頭いたのだが，10月15日の風でどこかへ行ってしまった。さがしてもいない。さがしに行くにも天気がわるいし，ゆく元気が出ない。

59-439　ゆくえ不明（雪害）　40-32

マンダルトにいたる途中の家。昨日の吹雪でこの家のヒツジ500頭とヒツジ飼いとがゆくえ不明になっている，という。

59-440　ゆくえ不明　(189)9-39
ゆくえ不明の家畜はない。
59-441　ゆくえ不明　7-74
ダライ・スムの近所のある馬群がいなくなってしまってから，もう３～４日になる。どこへ行ってしまったのかわからない。おそらく外モンゴルのほうへ行ってしまったのだろう，という。
59-442　ゆくえ不明　(89)6-39
ゆくえ不明の家畜はない。大雪などの災害のときには，どこかへ行ってしまうウマもあるが，つねはそんなものはない。

寄生虫

59-444　寄生虫　(267)41-86
ヒツジが20頭，病気と虫で死んだ。虫は鼻や腸につく虫。

虫よけ

59-446　虫よけ　(S)7-73
夏はラクダにアブやカがたかる。それをよけるために，ラクダのからだに黒い油をぬってやることがある。その油をぬると，虫がたからない。何の油か知らない。漢人のところに売っている。しかし，ちかごろはあんまり売っていないようになった。Sの話。
59-447　虫の害　(S)7-73
夏は，ラクダは毛がすっかりぬけてしまってはだかである。それで，アブやカがたくさんいてからだにたかるので，風向きの方向にむかってどんどんすすむ。しまいにはシリンゴルのほうまで行ってしまう。Sの話。

予防注射

59-449　予防注射　(341)18-32
ことしの夏にした。ウシだけ。この近所（７つのソムが）チェールテ・スムにあつまってしてもらった。
59-450　予防注射　(270)14-96
去年の10月にした。ことしはしなかった。
59-451　予防注射　(268)14-87
ことし，６～７月に予防注射をした。ウシだけ。病気の家畜は，ことしはない。
59-452 予防注射　(99)7-38
予防注射をしているか？　したことがあるか？
しない。予防注射だって，それは何のことか？

59-453　予防注射　(89)6-52
家畜の予防注射はしたことがない。したことがないから，効くか効かないか知らない。
59-454　予防注射　(70)4-83
ウシ全部に予防注射をおこなった。いままでに３回やった。このまえの注射は，一昨年やった。
59-455　予防注射の効き目　(70)4-83
このまえは，一昨年やった。ウシ全部。それ以後，１度も病気にかからないから，きっとそれが効いたのだろうと思っている。
59-456　予防注射に対する態度　(70)4-83
このまえは一昨年やった。そのときは，自分はすすんではじめにやってもらうようにたのんだ。近所の人はそれをまねてやってもらった。その後，こちらは来てくれるのを希望しているが，防疫班はいっこうにやってこない。

疫病

59-458　疫病　(21)21-41
４年まえ，ラクダが大量に死んだ。病気で死んだ。
59-459　病気　(271)15-6
メスウシは去年死んだ。
足が不自由になって死んだ。
59-460　疫病　(272)15-16
去年，ハモ［疥癬］でウシが４～５頭死んだ。ヒツジ，ヤギはわからない。
59-461　疫病　(270)15-2
去年は，ウシがいくらかあったが，みんな死んでしまった。ハモで死んだ。４～５頭うしなった。
59-462　疫病　(267)41-86
ことし，ヒツジが病気と虫で20頭死んだ。
59-463　疫病　(270)14-96
去年の当歳子ウシは，死んでしまった。ハモという病気で死んだ。からだにぶつぶつができる病気である。
59-464　病気　(268)14-87
病気の家畜は，ことしはない。
59-465　病気　(266)14-68
病気で死ぬ家畜はあんまりない。
59-466　病害　(192)9-65
ことし，ヒツジが100ばかり病気で死んだ。春が多い。１月から３月までのあいだ。たい

ていは痩せて死んだ。のち，若干のものは病気で死んだ。
59-467　病害　(189)40-10
家畜が病気でたくさん死んだことはない。
59-468　疫病　(99)7-38
一昨年，当歳子ウシがたくさん病気で死んだ。
59-469　疫病　(137)8-48
病気でたくさん家畜が死んだことはない。
59-470　疫病　(26)5-65
昨年，ウシの病気がはやった。足が腫れる病気であった。
59-471　疫病　(26)5-65
３年まえに，ウシの疫病がはやった。正月のこと。熱が出て，舌の皮がめくれて，下痢した。この病気が20日間ほど猖獗をきわめて，ウシが大部分死んだ。
59-472　病害　(26)5-65
３年まえにウシが30頭以上いた。伝染病で亡くなった。１月。10頭のこった。
59-473　病害　(26)5-65
去年，ウシの伝染病で３頭死んだ。
59-474　疫病　(70)4-87
大病害で家畜がたくさん死んだことは，この家ではなかった。よその家では，あるかもしれない。
59-475　疫病　(35)2-41
３年まえまでラクダを20頭ほどもっていた。ラクダの病気がはやって，みんな死んでしまった。
59-476　疫病　(62)4-41
一昨年，伝染病で家畜がたくさん死んだ。ウシがたくさん死んだ。30頭いたのが６頭ほどになってしまった。当歳子ウシは全部死んだ。

たおれている家畜

59-478　たおれている家畜　14-23
観察：西スニトの南東のボットルガンのなかに，たおれている家畜。ウマ１（大きいウマ），当歳子ウシ２頭。

凍え死んだ家畜

59-480　凍え死んだ家畜　(261)14-18
カシャーの上に，凍え死んだ家畜がおいてある。ヒツジ１，ヤギ１。

雪害の対策

59-482　雪害の対策　(268)14-87

しかがたない。対策の方法がない。

59-483　雪害の対策　(192)9-68

雪害に対する予防策なし。

59-484　雪害の対策　(70)4-87

雪害の予防法はない。雪害の対策としては，そのときになってから，草のよいところへ逃げてゆくことである。

59-486　雪害の逃げ出し　(255)13-26

亥年の大雪のとき，草のよいところへ引っ越したり，なんとかして，たいした被害なしにみな切り抜けた。あんまりたくさんの家畜を殺した人は，この近所にはない。

59-487　雪害と逃げ出し　(192)9-68

雪害のときは，雪の少ないところへ逃げてゆく。このまえの亥年の雪害のときには，年寄りや子どもがいたので，寒くて引っ越しができなかった。

59-488　雪害と逃げ出し　(84)5-81

大雪のときも別に逃げなかった。午年の雪害のときには，イフノ・ホトク（東スニトの西のほう）にいた。亥年の雪害のときには，タムチン・タラにいた。（ここからベーリン・スムにゆくよりは遠い距離。）

59-489　大雪と引っ越し　(189)9-42

亥年の雪害のとき，雪の少ないところへ引っ越して行った家もあるが，それは少ない。

59-490　大雪と移動　(189)9-42

亥年，大雪でも別に移動しなかった。

59-491　雪害と逃げ出し　(70)4-86

11年まえの大雪害のときに，よその旗へ逃げ出して行ったものはない。

雪害と家畜の死にかた

59-493　雪害と家畜の死にかた　(99)7-36

亥年の雪害で家畜は半分以上死んだ。ヒツジは半分以上死んだ。ウシは，半分は死ななかった。

59-494　雪害と家畜の死にかた　(189)9-42

亥年の雪害のとき，12月から１月にかけて死んだ。１日に20数頭死んだ。

59-495　雪害と家畜の死にかた　(70)4-86

11年まえの大雪害のときの家畜の死にかた。冬から春にひきつづきに死んだ。栄養のわるいのは，まだ雪があるうちに死んだ。栄養のよいのは，雪がとけてからあたらしい草が芽生えることまではもったが，ついにもちきれずに死んだ。

59-496 雪害とウマ (89)6-51
８年まえの大雪害のときに，ウマはぜんぜん死んでいない。
59-497 雪害と人間 (70)4-86
11年まえの大雪害で，飢えのため死んでしまった人間はない。

雪害

59-499 雪害 (194)21-60
８年まえに大雪害があった。
59-500 雪害 (341)18-27
10月15日の吹雪で家畜は死んでいない。この近所では，家畜が死んだ家はない。このあたりは草がよい。また，人が家畜について追っている。
59-501 雪害 (373)20-25
南から引っ越してくる途中，大分家畜が減った。スージ・オボにいるときにいちばん少なくなった。６軒で1800頭くらいのヒツジがいたが，雪害で300頭くらいに減ってしまった。亥年の雪害である。
59-502 雪害 (373)20-25
亥年の雪害のとき，Ｓの家はスージ・オボにいた。200頭くらいのヒツジがいたが，20頭くらいになってしまった。
59-503 雪害 (373)20-25
風，雪でいためつけられて，すっかりヒツジがへばってしまう。あるきながらたおれるのもあった。
59-504 雪害 (18)21-35
一昨年（昭和17年，成紀737年，1942年），３月に雪害があった。
59-505 雪害 (21)21-41
この20年来，勃興したモンゴル人はない。没落したモンゴル人は多い。とくに６年まえの大雪で家畜がたくさん死んだ。
59-506 雪害 (271)15-6
ジャンギのヒツジ飼い。自分の羊群も，ジャンギの羊群のなかに入れている。ことしは，ジャンギのヒツジが雪害でずいぶん死んでいるようすだから，自分のヒツジも，もう死んでいるかもしれない。
59-507 雪害 (272)15-12
ことしの冬，いま，ぞくぞくと家畜が死んでゆきつつある。毎日，ぞくぞくと死んでゆくので，いま正確に何頭いるかわからない。ことしになってから，ヒツジ，ヤギあわせて20頭も死んでいる。
59-508 雪害 (272)15-12

冬になって，毎日家畜が死ぬのは，寒さのためでもあるし，また草がないためでもある。
59-509 雪害 (272)15-13
10月15日の吹雪の日に，羊群は無事帰ってきたが，帰ってから，カシャーのなかでずいぶん死んだ。10頭死んだ。カシャーのなかに雪がいっぱいつもって，ヒツジ，ヤギはそれにうずもれて死んだ。草がないために死んだのではない。
59-510 雪害 (275)15-43
10月15日の吹雪でウシが4頭死んだ。雪で死んだ（Jasundu uxsun［Jasand üxsen］），と言った。
59-511 雪害 (277)15-60
10月15日の吹雪で，ヒツジが全滅した。マージンダガイという家にあずけてあった。10頭。
59-512 雪害 (277)15-61
10月15日の吹雪でヒツジが全滅したが，ウシは死ななかった。
59-513 雪害 (295)17-30
当歳子ウシはことし全部死んだ。（メスウシは3頭いる。）最近に雪で死んだ。
59-514 雪害 (295)17-30
ウマは雪で死んだ。
59-515 雪害 (314)17-67
家畜をなくしたのは亥年の雪害のときである。
59-516 大雪害 (270)15-3
亥年の雪害のことは，よく知らない。その当時からあまり家畜をたくさんもっていなかった。
59-517 大雪害 (267)41-89
8年まえ，大雪害があった。ウシ3～4頭，ヒツジ10頭以上，ウマ2～3頭がのこった。
59-519 雪害 (269)14-91
ことしの当歳子ウシは死んだ。雪で死んだ。（Jôtu uxučiksn !）［モンゴル語で，ゾドで死んだの意。Jodad üxchixsen !］
59-520 大雪害 (268)14-86
亥年に大雪害があった。小さいときだったから，どれくらいの損害があったのか，はっきりおぼえていない。馬群では，メスウマ，2歳子ウマ，去勢ウマ，1歳子ウマが50頭くらい死んだ。ウシでは当歳子ウシ10，2歳子ウシ2頭死んだ。ヒツジは100頭くらい死んだ。ヤギは，子ヤギが40～50死んだ。
59-521 雪害 (268)14-80
トロム［2歳子ラクダ］が3頭。去年たくさん死んだ。雪害とオオカミで。
59-522 雪害 (266)14-69

10月15日の吹雪で，羊群がまよった。60～70頭はゆくえ不明となった。ラプトンドルジの家に避難していたが，家にたどりついてから，10頭くらい死んだ。（この10頭も60～70頭の被害のなかに勘定されている。）

59-523　大雪害　(261) 14-14

８年まえに大雪で家畜がたくさん死んだ。

59-524　雪害　(262)14-14

去年は，大雪でたくさん家畜が死んだ。

59-525　雪害　(255)13-26

亥年には大雪が降った。家畜は死んだが，そんなにたくさんは死ななかった。近所の人でたくさん家畜を殺した人はない。よい草のところへ引っ越したり，なんとかしてたいして被害なしに切り抜けた。

59-526　大雪害　(192)9-67

亥年に大雪害があった。そのときは，ここにいた。高いところで雪が一尺くらい，ひくいところでは人の膝ぐらい積もった。

59-527　大雪害　(192)9-67

亥年の大雪害で，死んだ家畜とのこった家畜は以下のとおり。

ウマ10以上死んだ，70以上のこった。ウシ10以上死んだ，10以上のこった。ヒツジ200以上死んだ，100以下のこった。ヤギ50以上死んだ，10以上のこった。ラクダ４～５死んだ，10以上のこった。

59-528　大雪害　(107)39-20

亥年に大雪害があった。大雪がふった。家畜がたくさん死んだ。

59-529　雪害　(104)39-9

春さきにヒツジが水におぼれてたくさん死んだことがある。雪で死ぬのは，子ヒツジが多い。

59-530　大雪害　(99)7-36

婆さん（72歳）が，37歳のときに，大雪害があった。そのつぎが亥年の大雪害である。

59-531　大雪害　(99)7-36

亥年の大雪害があった。亥年の春であった。

59-532　大雪害　(189)9-43

1,000頭のヒツジのうち，７～８頭しかのこらなかった家もある。また，ぜんぜん家畜を死なさなかった家もある。どうしてそんなちがいが出てくるのか，わからない。亥年のこと。

59-533 大雪害　(189)9-43

去年の冬は，雪で栄養不良になって死ぬ家畜はなかった。

59-534　大雪害　(189)9-41

亥年。死んだ家畜と，のこった家畜は以下のとおり。
ウマ０死んだ，20以上のこった。ウシ20以上死んだ，13（うちメスウシ４）のこった。ヒツジ400，ヤギ20死んだ，両方合わせて100頭あまりのこった。ラクダ１死んだ，10以上のこった。
59-535　大雪害　(137)8-46
毎年，冬は家畜がたくさん死ぬ。ここは草がわるい。
59-536　大雪害　(137)8-47
亥年のときに死んだ家畜の数は，しっかりとはわからない。たくさん死んだ。
そのまえには，ウシ30頭くらい，ヒツジ300頭くらいだった。そのあとには，ウシは２～３頭になり，ヒツジは50～60頭になった。
59-537　大雪害　(70)4-85
11年まえに大雪害があった。そのときは，ウシが10数頭，ヒツジが100頭くらいしかのこらなかった。それから，いまの状態まで増やした。
59-538　大雪害　(70)4-87
20年まえに（戌年），11年まえの雪害よりもう少しひどい雪害があった。
59-539　大雪害　(73)5-5
８年まえに大雪害があった。ヒツジ200～300頭がほぼ全滅して１～２頭のこった。ウシ100頭以上死んで１～２頭のこった。ラクダ10以上いたが，全滅した。
いまのヒツジ，ウシは，それからのちに増やしたものである。
59-540　雪害　(26)5-65
９年まえに雪害があった。50年に３回の雪害があった。
59-541　大雪害　(84)5-81
午年に大雪害があった。そのつぎには，亥年に大雪害があった。
59-542　雪害　(86)6-12
大雪がふったことがある。その年は忘れた。
59-543　大雪害　(89)6-51
８年まえ，大雪がふって，家畜がたくさん死んだ。ヒツジは1,000頭死んで，100頭足らずになった。ウシは50頭死んで，４～５頭のこった。ラクダは７～８頭死んで，４～５頭のこった。ウマはぜんぜん死んでいない。
59-544　大雪害　(77)7-2
８年まえに大雪害があった。それまでは，メスウシを６～７頭もっていたが，みな死んで２歳子ウシが１頭だけのこった。その２歳子ウシがいまのメスウシである。
59-545　雪害　(98)7-23
８年まえの雪害をおぼえているか？　忘れた。
59-546　大雪害　(51)3-61

雪害の前後の家畜の数は以下のとおり。ヒツジは600が20に。ウシは20〜30が２に。ラクダは18〜19が０に。ウマは８が２〜３に。

59-547　大雪害　(51)3-61

ドルガルが40歳のとき，すなわち10年まえのことである。雪がたくさんふった。50センチくらい。草がない，寒い，家畜がたくさん死んだ。それで，のこった家畜を連れて，南に逃げた。バーモン・ゴルに引っ越した。

59-548　雪害の経験　(51)3-62

ドルガルの若いときには，こんなにたくさん雪害のあった経験はない。雪は少しふった。(10年まえの大雪害の話)

89-203　家畜と人　(341)18-27

10月15日の吹雪で，このあたりで家畜の死んだ家はない。このあたりは草がよい。また，人が追っている。

オオカミと人

59-550　オオカミと人　(27)5-72

冬はウシに人がつくから，オオカミの害がない。３〜４月から人がつかなくなるので，オオカミの害がある。

オオカミ狩り

59-552　オオカミ狩り　(310)17-66

春の出産期にオオカミ狩りをやる。各ソムの人間が出てくる。鉄砲はないが，穴をけむりでくすべて，子どもをとる。ことしの春，子どもを５〜６頭とった。

オオカミの対策

59-554　オオカミの対策　(189)9-43

なし。

59-555　オオカミと人　(189)9-39

ことしの夏，オオカミが羊群に来てヒツジを半分くらい追って行った。そして，30頭くらい食った。人がついていたが，だめであった。

59-556　オオカミの対策　(70)4-84

オオカミに家畜をとられるのは惜しい。惜しいけれども，しかたがない。惜しいからこそ，人がついている。罠はもっているが，だめになった。鉄砲はない。

59-557　オオカミの対策　(70)5-17

ヨンドンは毎日，郭王の馬群を見にゆく。見にゆかないと，毎日ゆかないと，オオカミにとられたりする。

59-558 オオカミよけの火 (70)5-13
19時５分。男の子ども２人。１人は火をもってゆく。１人はシャベルでアルガリを石油缶に入れてはこぶ。羊群のまわりに火をたきはじめる。
59-559 オオカミの対策 (41)2-85
家畜に対するオオカミの害，および病気に対しての対策はない。

オオカミの害
59-418 オオカミの害 (108)21-57
去年の当歳子ウシは，オオカミにみな食われた。
59-419 雪害 (108)21-56
８年まえに雪害があった。
59-420 オオカミの害 (108)21-56
去年，ヒツジ２～３頭。ことし，ヒツジ10頭以上やられた。
59-421 オオカミの害 (108)21-57
観察：家のそとに現在しっぽを食われたヒツジが４頭いる。オオカミにやられたもの。
59-422 オオカミの害 (194)21-59
なし。
59-423 疫病 (194)21-59
ことし，３月，ヒツジ100頭。
59-424 ゆくえ不明 (194)21-59
なし。
59-425 オオカミの害 0-51
オオカミの害はあまりたいしてこわくない。オスの種の家畜が強ければ，オオカミにかつ。
59-426 オオカミの害 0-48
オオカミの害は，ヒツジ以外の家畜は，自分でふせぐ。だから，砂丘地帯では，ヒツジ以外の家畜には番人がついていない。
59-561 オオカミの害 (341)18-32
オオカミに食われた家畜はない。オオカミはウマ，ラクダなどを食うのだろう。オオカミに食われたウマなどの死骸がよくころがっている，という。
59-562 オオカミの害 (61)21-53
ない。
59-563 オオカミの害 (276)15-53
当歳子ウシ１頭，９月に。
59-564 オオカミの害 (297)17-25

メスウシ１頭。
59-565　オオカミの害　(295)17-30
２歳子ウシをオオカミが食ってしまった。
59-566　オオカミの害　(310)17-65
オオカミは，少しはいるが，オオカミ狩りをやるので，少ない。
59-567　オオカミの害　(267)41-86
ことし，２歳子ウシ１頭，ヒツジ２～３頭。
59-568　オオカミの害　(268)14-87
ことしなし。
59-569　オオカミの害　(268)14-80
２歳子ラクダ３頭しかいない。去年たくさん死んだ。オオカミと雪害で死んだ。
59-570　オオカミの害　(266)14-68
ことしどれだけ食われたか，わからない。カシャーのなかにまでオオカミが入ってきて，４～５頭食った。夏１頭食われた。最近は食われていない。
59-571　オオカミの害（季節）　(261)14-10
ことし，子ヒツジ１，４月に。ヤギ１，夏に。ヒツジ１，夏に。
59-572　オオカミの害　(190)9-63
狼害はあるけれども，数はわからない。
59-573　オオカミの害　(192)9-65
ウシ１，いまかまれたばかり。生きている。３歳。
59-574　狼害の家畜　(189)40-9
ことし，２歳子ウシ２頭，ラクダの２歳子ラクダ２頭，ウマなし。
59-575　オオカミの害　(255)13-17
ヒツジ，ヤギで10以上。昼間は食わない。夜に家のところまで来て食う。もって行って食うのもあり，そとにのこしてあるのもある。
59-577　オオカミの害　(271)15-5
*シュドレン*のオスウシが１頭あったが，11月にオオカミが食ってしまった。
59-578　オオカミの害　(275)15-45
当歳子ウシ２頭とられた。夏。
59-579　オオカミの害　(99)7-36
ことしは，オオカミにとられた家畜なし。去年は，当歳子ウシ，２歳子ウシ，メスウシあわせて５頭くらい。
59-580　オオカミ　(104)39-9
オオカミの害はそうとうにある。しかし，オオカミが出てくるのは，５～６頭までの群れで，大きな群れをなすという話は聞いたことがない。

59-581　オオカミの害　(136)8-20
オオカミにとられる家畜は１年にあわせて10数頭。ラクダがとられることもある。
59-582　オオカミの害　(137)39-61
ラクダがオオカミに食われたという例は知らない。
59-583　オオカミと家畜　(189)9-38
ことし，２歳子ラクダ２頭。
59-584　オオカミの害　(189)9-38
ことし，ウシの２歳子２頭。
59-585　オオカミと家畜　(189)9-39
ことしの夏，オオカミが羊群に来て，ヒツジを半分くらい追って行った。そして，30くらい食った。人がいてもだめであった。
59-586　オオカミ　(84)5-89
去年の冬営地は，わるいところだと思っている。オオカミがたくさんいる。
59-587　オオカミの害　(73)5-6
以前には，ウマは50～60頭くらいいたが，１年に５～６頭ずつオオカミにやられて，みななくなってしまった。
59-588　オオカミと家畜　(73)5-6
むかしのオオカミはヒツジを食ったものだが，このごろのオオカミはウマを食うようになった。
59-589　オオカミの害　(70)4-84
オオカミに家畜をとられるのは惜しいとは思わないか？　惜しい。惜しいけれどもしかたがない。惜しいからこそ人が番についている。
59-590　オオカミ　(95)6-78
去年，子ウシが１頭生まれたが，オオカミにとられた。春とられた。
59-591　夜のオオカミ　(70)5-19
夜，まよなかに，羊群がとつぜん動き出して，遠くまで行った。家の人は起きてくる。ヒツジをさがす。オオカミがきたらしい，という。
59-592　オオカミの害　(50)3-48
オオカミの害なし。このあたりにオオカミがいるのか，いないのか，知らない。
59-593　オオカミ　(25)1-37
ことしの春，副牧長が東のほう10里のマンハのなかの穴のなかで，オオカミの子をとった。16頭。15頭は子ども，１頭は母親。

2. 放牧と移動

群れと放牧

群れの数

58-2　群れの数　0-7

張家口から粛親王府まで［トラックからの観察。牧地にて，ウシ24，43，96，57。ヤギ５＋ヒツジ45，ウシ34，20，87。左翼旗内ウシ54，ヒツジ45，ウシ16，ウマ26，ウシ34，ヒツジ14，ウシ30，ウシ39，ヒツジ９，ヒツジ92，ウシ22，ウシ31，ウシ13，ウシ27，ウシ18］

58-3　群れの数　0-6

張家口から粛親王府まで［トラックからの観察。農耕地にて，ウマ18，24，11。ウシ10＋子ウシ４，20。ヤギ30，50。ヒツジ50。九連城付近でヒツジ45］

58-4　羊群の観察　0-2～３

張家口から粛親王府までの自動車の上からの観察。［フィールドノートに図解あり。］

58-5　ウマの群れ　0-20

粛親王府の選択馬群の数。247頭。

群れの行動

59-38　群れの行動　(376)20-69

ウシ，ヒツジ，ラクダの群れは毎日帰ってくる。

59-40　ウシの群れ　7-64

ウシ　18＋４

59-41 ウシの群れ　9-75

52，19，いずれもショールフトでの観察。

59-42　ウシの群れ　(376)20-68

牧場のウシ群は，去年，２群に分けた。去年の４月。第１ウシ群と第２ウシ群。第２ウシ群のほうは，当歳子ウシがいなかった。当歳子ウシは１頭だけ。だから，乳をしぼらなかった。

59-43　ウシの群れ　(44)3-12

ウシ，メス８，当歳子８，去勢オス２，２歳子８。

59-44　ウシの群れ　4-47

ウシの群れ，11，51，21。

59-45　ウシの群れ　4-76

ディンドゥーの集落のウシの群れは，56。

59-46　ウシの群れ　5-79
当歳子ウシ16頭。うち，オス８，メス８。
59-47　ウシの群れ　5-79
ベーリン・スムよりオラン・シャントへ。峠を越えてまもなく。ウシ，31頭。（親ばかり）
59-48　ウシの群れ　6-58
サイン・ホーブル。テントの近所にて。ウシの群れ，オス３，メス18。
59-49　ウシの群れ　4-37
ウシの群れ，２歳子ウシ以上。38頭。うち，オス10頭。
59-50　ウシの群れ　3-43
12頭の群れ。みんなメス。
15頭の群れ。そのうち，当歳子ウシとその母５頭。
59-116　朝の家畜　4-37
10時40分。ウシ，２歳子ウシ，そとへ出る。
11時。跛行の家の娘，カシャーの戸をあける。ヤギ63頭，ヒツジ３頭が出てくる。
59-117　ウシの群れ　(62)4-42
３軒の家のウシが，毎日，一緒に出て行って，一緒に帰ってくる。帰ってきたら，おのおのの家に分けて，乳をしぼる。一緒に帰ってこないときもある。
59-118　羊群　(70)5-12
観察：18時30分。ウシの列のあとから，東の丘のうえに羊群あらわれる。ウシの列との間隔は約100メートル。羊群の最後から，ウマにのった男がくる。18時50分。羊群は家のまえに到着する。
59-119　羊群の管理　(70)5-12
18時50分。羊群が家のまえに到着する。18時55分。女と子どもと４人でヤギとヒツジを分離する。チャイ！チャイ！とさけんで追う。
59-120　ウシの群れ　(70)5-12
18時30分。東の丘のうえから，ウシの群れが下りてくる。16頭。一列にならんで下りてくる。人はついていない。ウシ，18頭は一列にならんで，もう家に到着している。ウシは，川のところまで水を飲みに行ったのである。人はついてゆかなかった。
59-121　馬群の行動範囲　(89)6-36
馬群のありかは，いつもわかっている。あんまり遠くにはゆかない。タムチン・タラへは出てゆかない。
59-122　羊群の出かた　6-21
シュフルタイの羊群。11時20分，家を出て，きのうと正反対のほう，西南へうごきはじめる。

59-123　ウシの群れの帰り　(87)6-20
18時30分。ウシは東の斜面にいる。家に帰ってきそうもない。
59-124　羊群の帰り　(87)6-20
18時30分。羊群，家に帰ってくる。
59-125　羊群　(86)6-14
18時，羊群帰ってくる。帰って，のろのろうごいている。数取り機で137頭。
59-126　羊群の行動範囲　(86)6-14
羊群は，西と東のほうへはゆかない。タムチン・タラのほうにはゆかない。この近所だけである。
59-127　ウシの行動　(86)6-7
冬は，タムチン・タラのほうへ放牧する。ウシがそっちのほうへゆくのである。いまは，東のほうへ行っている。いまでも，タムチン・タラの近所へウシがゆくことはある。
59-128　羊群の帰り　5-79
４時30分，オラン・シャントにつく。東の稜線のうえに，ヒツジの群れ，２つ見える。６時，東の羊群，家の近所に帰ってくる。６時30分。西の山より，羊群が家へ帰ってくる。大群である。
59-129　馬群の行動　(70)5-16
一日のうちに，大距離をうごくことはない。昨日，いたところと，だいたいおなじところにいる。
59-130　馬群の行動範囲　(70)5-16
馬群は，遠くへゆく。夏は，40*ガザル*［里，１*ガザル*は約500m］くらい。このごろは，７～９里くらい。
59-131　ウシの放牧範囲　(70)4-87
ウシは人がついていないから，どこまで放牧にゆくかは，一定していない。
59-132　ヒツジの放牧　(70)4-87
ヒツジはもっとも遠いところへゆくときで，15*ガザル*くらい。それくらいまでゆくと，人が家のほうへ追いかえす。
59-133　羊群の帰り　4-76
18時40分。羊群，家から50メートルはなれたところにあつまって，草を食っている。みんな立っている。18時45分。羊群，徐々に西のほうにあるく。19時，羊群，家のところへ帰ってくる。約140頭。
59-134　ウシの群れの行動　6-21
12時30分。チムドドルジのウシの群れ，東の斜面に出てくる。そのままとまって草を食べはじめる。
59-135　羊群の出かけ　9-75

13時５分，羊群１，南へ。13時15分，羊群２と羊群３，西西南へ。
59-136　羊群の帰り　(190)9-64
観察：１時40分，第一の羊群が帰ってくる。４人がかりで追っている。45分，第二の羊群が帰っている。ウマに乗っている人が２人。あるいている人が１人。畜舎の入り口にもう１人。あわせて４人で追っている。

馬群の見はり

59-52　馬群の見はり　(70)5-17
ヨンドンは郭王の馬群を毎日見にゆく。見にゆく時間は決まっていない。一日に何度見にゆくのか，知らない。しかし，見にゆかない日はない。毎日ゆかないと，オオカミにとられたりする。
59-53　馬群の見はり　(70)5-16
ヨンドンは毎日，郭王の馬群を見にゆく。
59-54　馬群の見はり　(70)5-16
郭王の馬群の監視役は，ヨンドンである。ヨンドンは，よいウマ，わるいウマ，みんな知っている。ウマにのった役人がきたら，ここでウマを交代するが，そのウマを馬群のなかから連れてくるのは，ヨンドンの役である。
59-55　ヒツジの見はり　(70)5-16
羊群の見はりには，ウマに乗ってゆく。
59-56　馬群の見はり　(73)5-4
ヨンドンは，ベール王の馬群の番人をしている。
59-57　羊群の管理　(70)5-14
羊群は，1,000頭までは，ウマにのった人で管理できる。１つの群れとして。1,000頭をこえると，１つの群れとしては管理がむつかしいので，それ以上は別の群れにする。
59-58　馬群の見はり　(89)6-36
馬群には，人がついていない。
59-59　家畜の見はり　(136)8-14
外モンゴルのほうへ，家畜が行ってしまうことはない。毎日，見にゆく。
59-60　羊群と人　(107)7-59
ヒツジは，勝手にゆくのではない。ヒツジは，人がついて，草のよいところへみちびいてゆくのである。

羊群

59-62　羊群　8-60
滂江（パンジャン）から西スニトにいたる中間。放牧の羊群，約250。

59-63　ヒツジの群れ　9-75
532頭。うち，ヤギ124頭。ホンタイ集落の羊群。
59-64　羊群　9-75
ゴルブン・ガシャートの羊群。464頭，うちヤギ162頭。106頭，うちヤギ36頭。シャグドゥルの羊群は507頭，うちヤギ不明。
59-65　羊群　9-77
ジュルトゥムの羊群は，436頭，うちヤギ60頭。
ジョンダエジャムソの羊群は，395頭，うちヤギ59頭。当歳子ウシが12頭一緒にいる。
59-66　羊群　7-90
ヒツジ362頭，ヤギ49頭。
59-67　羊群　8-64
ジュン・エリグンの羊群は，ヒツジ175頭，ヤギ20頭。
59-68　羊群　8-63
ノロ・ハシャート付近の羊群。ヒツジ210頭，ヤギ14頭。
59-69　羊群　(136)8-26
ヒツジ231頭，ヤギ14頭。
59-70　ヒツジの群れ　7-54
ヒツジとヤギで約500頭。
59-71　ヒツジの群れ　6-58
サイン・ホーブル，テントの付近にて，羊群は，ヒツジ510頭，ヤギ104頭。
59-72　羊群　(87)6-20
チムドドルジの羊群。183頭，そのうちヤギ53頭。
59-73　羊群　(97)6-86
ヒツジ223頭，ヤギ81頭。（数取り機）３軒の家を合わせて。
59-74　ヒツジの群れ　4-77
ディンドゥーの集落のヒツジの群れ，約140頭。
59-75　羊群　4-37
羊群154頭。
59-76　羊群　(48)3-36
30頭ばかりの羊群，人がついていない。なぜ人がつかないのか，という質問に対して，わざわざ人がついて行って追うほどのよいヒツジがいない，と答えた。また，小さいときから慣れたヒツジは，あまり家から遠くへはなれてゆかない。遠くへ行ったときだけ，人が行って追ってくる，という。
59-77　羊群　(51)3-54
ヒツジ128頭，ヤギ43頭。

59-78　羊群　3-53
ヒツジ11（うち種オス１）頭，ヤギ３頭。
59-79　羊群　3-34
ヤギ106，ヒツジ69頭。ヌクセン・ゴルの左岸。

種屋の羊群
59-81　種屋の羊群
27頭，種オス７頭のうち，角のあるもの４頭。

ウシの放牧
59-82　ウシの放牧　(29)1-53
ウシは東のほう，近いところで放牧する。人はついていない。勝手に出て行って，勝手に帰ってくる。
59-83　ウシの行動　(35)2-37
ウシの群れは，朝は，勝手に出て行く。夕がたは，人が探しにゆく。ゆかないと，ウシは帰ってこない。朝は，人がゆかないでも，かならず帰ってくる。
59-85　ウシの行動　(44)3-12
ウシは，毎日，夜，帰ってくる。
59-86　ウシの帰り　(62)4-42
ウシは，朝，帰ってくる。
59-87　ウシの行動　(66)4-64
ウシには，だれもついていない。ウシは，毎日帰ってくる。朝は，かならず帰ってくる。夜は，帰ってこない。帰ってくるときもある。夏には，夜も，帰ってくる。
59-88　ウシの行動　(70)5-17
メスウシは，朝みんな帰ってくる。しかし，当歳子ウシのいないのは，帰ってこない。オウシは，１つも帰ってこない。
59-89　ウシの群れの行動　(336)17-93
ウシは夜になると帰ってくる。夕がたになると，水のところへちゃんと帰ってくる。それに，水を飲まして，うちへ連れて帰ってくるのである。
59-90　ウシの群れの行動　(27)5-72
冬は，ウシに人がつく。３～４月から人がつかなくなる。
59-91　ウシの群れ　(70)5-18
９時30分（朝），ウシの群れが東南の丘をこえて帰ってくる。ほぼ一列になって帰ってくる。22頭。オスもメスもいる。オスは，そのうち３頭だけ。（すでに10頭は，そのまえに帰っている。みなメス。）

59-92　ウシの群れ　(67)4-75
雨裂のところに，ウシの群れ。メスウシ10頭。当歳子ウシ３頭（オス２，メス１）

子畜の放牧

59-93　子ヒツジの番　(S)7-86
子ヒツジ，子ヤギの番には，子どもがついてゆく。草のよいところで草を食わす。Sの話。
59-94　子ラクダの行動　(51)3-68
子ラクダは，毎日，夜には帰ってくる。人がつれにゆくのである。人がゆかないでも，ひとりで帰ってくることもある。
59-95　ペンクウェイ　(51)3-92
ホローについている小さい柳条の家は，ペンクウェイという。チャハルでは，オーブンという。冬に小さいウシ，ヒツジ，ヤギを入れる。[図譜47]
59-96　子ヤギと子ヒツジ　(51)3-90
子ヤギと子ヒツジは，夏のあいだは，当歳子ウシと一緒のホローに入れてある。
59-97　冬の当歳子ウシ　(51)3-91
夏のあいだは，当歳子ウシ，子ヒツジ，子ヤギが１つのホローのなかに入る。冬は，ヒツジ，ヤギは大きいのもみなカシャーのなかに入って寝る。そのときは，当歳子ウシはもうそとに出て親と一緒に寝る。冬はもうメスウシの乳をしぼらないから。
59-98　当歳子ウシの群れ　(336)17-93
冬は，当歳子ウシは別の群れにしないで，メスウシ（母ウシ）と一緒に放牧する。
59-99　当歳子ウシの放牧　(51)3-65
９月になると，当歳子ウシはメスウシ（母ウシ）と一緒にそとへ出る。ゆえに，９月からは乳をしぼらない。
59-100　家畜の群れの行動　0-49
冬は，当歳子ウシは家にのこしてない。親と一緒に放牧に出ている。そのときは，人がついていたら，家に帰ってくるが，人がついていないと，帰ってこないことがある。（砂丘地帯）
59-101　家畜の帰り　4-36
ゴルブン・ホトクにて。17時50分，当歳子ウシが帰ってくる。人が追ってきた。
18時，ウシが帰ってくる。18時５分，ヒツジが帰ってくる。
59-102　乳しぼりとウシの行動　0-48
砂丘地帯では，ウシには番人がついていない。しかし，毎日帰ってくる。親ウシは乳がはって帰ってくる。それをしぼる。当歳子ウシは家にのこしておく。当歳子ウシをのこしてないときには，帰ってこないこともある。

59-103 当歳子ウシの群れ 7-42
メーリン・ホトクにて。オス17頭。メス11頭。
59-104 当歳子ウシの群れ 7-54
当歳子ウシ，3頭。10頭。
59-105 当歳子ウシの番 (86)6-14
当歳子ウシには，番人がついていない。夜には，人が連れて帰ってくる。
59-106 当歳子ウシの世話役 (86)6-14
当歳子ウシは，夜になると人が行って連れて帰ってくる。その役は，だれでもよい。娘と子どもがその役にあたる。
59-107 群れと番人 (73)5-5
ヒツジ，当歳子ウシには，人がつく。ウシには人がついていない。
59-108 当歳子ウシの番人 (62)4-43
当歳子ウシは，朝，草を食いに出てゆく。人はついてゆかない。遠くへ行ったときだけ，人がつれにゆく。ふつうは，勝手に帰ってくる。
59-109 当歳子ウシの放牧 0-48
当歳子ウシは，家にのこしておく。当歳子ウシは，家の近所で放牧する。冬は，当歳子ウシは親ウシについて放牧地へゆく。そのときは，危険だから，原則として人がついていゆく。(砂丘地帯)
59-110 当歳子ウシの群れ 10-12
当歳子ウシは，ヒツジと一緒に，1人のものが見はりして放牧しているが，当歳子ウシは，羊群のなかに入らずに，別に当歳子ウシのみの群れをつくっている。ともすれば，羊群をはなれて，勝手なほうに行ってしまうので，女がときどきそれを追いもどす。
59-111 当歳子ウシの世話 (223)10-29
家のなかに当歳子ウシを入れている。生まれて1カ月。背なかにフェルトのおでんちを着せてもらっている。*ネムネイ*という。[図譜64]
59-112 当歳子ウシと*ホロー*[円形の家畜囲い] (62)4-42
当歳子ウシのための*ホロー*はない。この集落3軒ともない。夜は，当歳子ウシは*オヤー*[駒つなぎ]につないでおく。
59-113 当歳子ウシの世話 (70)5-17
当歳子ウシは，夜は，*ホロー*のなかに寝る。
59-114 当歳子ウシの世話 (266)14-70
当歳子ウシは，メスウシと一緒に放牧に出さない。いま，*カシャー*のなかにいる。朝，草を食わす。乾草をやるのである。

イヌと家畜

58-7　イヌと家畜　(136)8-10

寺のイヌが家畜を取りにくる。寺の井戸に家畜に水を飲ますために連れて行くと，そのときにとる。人がついていてもだめである。

58-8　羊群とイヌ　8-65

ノロ・ハシャート付近の羊群は224頭。女１人ついている。くろい大きいイヌが１頭，女のそばに立っている。

58-9　イヌと家畜　(136)8-35

観察：包のそとにヒツジが１頭つながれている。首の下に傷をしている。肉が露出している。寺のほうへ井戸の水を飲ましに連れて行ったときに寺のイヌが噛んだのだ，という。

家畜さがし

58-11　家畜さがし　(272)15-10

10月15日の吹雪でウシがいなくなった。さがしに行った。廂黄旗［モンゴル語ではホボート・シャル。チャハル盟］のなかに行った。道に死んでいたのもある。廂黄旗のジョルガージン・ガチャー（漢人地帯）［六支箭？］で去勢ウシが１頭死んで見つかった。メスウシは，やはりそこで無事にいるのが見つかった。まだ２歳子ウシ１頭，３歳ウシ１頭がゆくえ不明である。

58-12　家畜さがし　(272)15-11

10月15日の吹雪でゆくえ不明になったウシをさがして，廂黄旗のほうへ行った。さがしながら，人に聞きながらさがして行った。20日かかった。ジョルガージン・ガチャー（漢人地帯）で見つかった。

58-13　家畜さがし　(267)41-85

女。家畜を（ウシを）さがしにきた。ドルジの家で婆さんに縫いものをたのまれたので，ここにとまって手つだっている。

58-14　家畜さがし　(267)41-85

男。ウシがゆくえ不明となったので，さがしに行った。

58-15　家畜をさがしに　(266)14-62

10月15日の風で牛車用のウシがいなくなった。さがしにゆくにも天気がわるい。さがしにゆく元気がでない。

58-16　ラクダさがし　(S)7-72

ラクダは風のほうを向いてすすむものだ。それで，しばらく西北風がふきつづくと，チャハルのラクダがシリンゴルへ入ってゆく。とくに正藍旗の人はよくシリンゴルまでラクダをさがしにあるいている。Sの話。

58-17　ラクダさがし　(62)4-42
娘，ヤンジン，26歳。アバガの人。ガルサンの家に泊まっている。ラクダをさがしにきた。

まじりの群れ
58-19　まじりの群れ　8-65
ノロ・ハシャートの付近の羊群224頭。羊群のなかに当歳子ウシが4頭まじっている。ゆうゆうと草をはんでいる。
58-20　群れのまじり　7-56
寺のまえに馬群がいる。馬群のなかにラクダが1頭まじっている。馬群は別になんともしない。平静にしている。すぐそばを4～5頭のウシがゆうゆうとうごいている。

家畜の知識
58-22　家畜の知識　(261)14-8
家畜の数を聞いているとき，女26歳が答えをしぶっていると，そばにいた9歳の男の子が，3歳メスウシが1頭いると答えた。

オトル［ローマ字カードでは一貫してotoriと記載されている。］
オトル［**分派移動**］
52-3　*オトル*　(297)17-24
ここは草がよい。包をもって*オトル*に出てゆくようなことは，この近所にはない。
52-4　*オトル*　(341)18-25
むかしから，このあたりは*オトル*にはでない。
52-5　*オトル*　(268)14-85
ウシは乳がでなくなってから，*オトル*に出してしまった。
52-6　*オトル*　(360)18-68
*オトル*に出るのは金もち，貧乏の関係はない。家庭に人手があるかないかに関係する。
52-7　*オトル*　(360)18-69
*オトル*に出るのに，家畜を全部*オトル*に出す人もあり，一部分だけ出す家もある。
52-8　*オトル*　(387)23-82
例年は*オトル*に出る家はめったにない。去年は盟長の家の馬群が右翼のシャンディン・ゴル［上都川］まで行った。去年はそれだけである。*オトル*にはやっぱり*ゲル*をもってゆく。
52-9　*オトル*　(360)18-68
いまでも草のわるい年はうごく。去年は草がわるかった。Bの家はうごかなかったが，

*オトル*に出た。
52-10　*オトル*　18-12
いままで聞いたところでは，*オトル*は大部分がアトーチン旗のものである。ただ　1例，パーホで廂黄旗のジャランの*オトル*が来ていたのを知っている。それは包なしで，漢人の固定家屋を借りて住んでいた。
52-11　*オトル*　(333)17-78
チェールテ・スムの近所に*オトル*に来るのは，チブグジャブとロトノインの2軒のほかにもまだある。
52-12　*オトル*　(333)17-78
ロトノインの*オトル*がここへ来るのは，3～4年まえから毎年のことである。
52-13　*オトル*　(333)17-78
ロトノインの家畜が*オトル*に来ている。馬群は700頭。そのほかにウシ，ヒツジ，ラクダも来ている。人間はあわせて6人ついている。
52-14　*オトル*　(333)17-78
アトーチン旗のチブグジャブの家畜が*オトル*に来たのは，ことしはじめてである。
52-15　*オトル*　(333)17-77
アトーチン旗から，*オトル*に来ている。ヒツジ，ウシはチェールテ・スムにいる。ラクダ，ウマはダルハン旗（ここから少し南，ダルハダの近所）に来ている。それぞれ2人ずつ人がついている。（アトーチンのチブグジャブの家畜）
52-16　*オトル*　(333)17-77
アトーチン旗のチブグジャブの家から家畜を連れてここへ*オトル*に来ている。
ヒツジ300頭，ウシ50頭。これだけに人が2人ついて，チェールテ・スムへ来ている。ウマとラクダは別にいる。
52-17　*オトル*　(309)17-47
アトーチン旗第7佐。家畜を連れて主人が*オトル*に来ている。10数日まえに来ている。10数頭のウシを連れて。春までここにいるつもり。
52-18　*オトル*　(288)16-62
*オトル*に行っている包は，冬のあいだはじっとしていてうごかない。
52-19　*オトル*　(288)16-60
ヒツジとウシはおなじところへ*オトル*に行っている。徳化県のガシャートというところ。馬群はホンゴル・オボに行っている。（廂黄旗）
52-20　*オトル*　(288)16-59
いま民政科長の羊群は徳化県のなか，ガシャートというところへ行っている。ガルサンはそれについて行っている。
52-21　*オトル*　(360)18-66

いまでも年によって雨が少なくて草がわるければうごく。去年は草がわるかった。第16佐，第3佐は草がわるかったので，第9佐，第7佐へうごいた。ことしはうごいた佐［モンゴル語のソムの略］はない。

52-22　*オトル*　(268)14-83

馬群はオラン・ノールのほうへ行っている。オラン・ノールは徳化のほう，アルグント（二根土）からまだ南の漢人地帯である。包をもって3人ついて行っている。

52-23　*オトル*　(268)14-82

ラクダは正白旗のほうへ出ている。モンゴル人のラクダ飼いが2人ついている。包をもって行っている。ラクダの群れは，夏はこの旗のなかにいるが，冬は*デリス*［ハネガヤ］，*ホジル*［ソーダ］がないので，毎年，正白旗へ出かけてゆく。

52-24　*オトル*　(268)14-82

ウシはヒツジ，ヤギとおなじところへ出ている。セーリン・ゴルのそば，西南。道のそば。ウシ飼いが1人ついて行っている。

52-25　*オトル*　(268)14-82

ヒツジ，ヤギはドホイというところへ出ている。セーリン・ゴルの西南。道のそば。ヒツジ飼いが2人ついている。そのうち1人は漢人である。

52-26　*オトル*　(268)14-82

毎年冬になると家畜をそとに出す。ことしは10月から出した。

オトルの理由

52-28　*オトル*の理由　(309)17-47

アトーチンから*オトル*に来ている。アトーチンには家畜に食わす草がないから。

オトルの歴史

52-30　*オトル*の歴史　(373)20-22

むかし，張北の近所にいたころから移動はしていない。家畜が多い家では夏に*オトル*に行った。ヒツジなんかを連れて，草のよいところに食わせに行った。

52-31　*オトル*の歴史　(369)20-43

むかしは移動するかまたは*オトル*に出た。*オトル*もやはり施設をもっていた。ことし，もし*オトル*に出ると決まり，その場所が決定されると，あらかじめそこへ出かけて*ホロー*その他の施設をつくり，9月ごろから出かけるのであった。

52-32　*オトル*の歴史　(360)18-66

明安も，いまはこなくなったが，むかしはここへも*オトル*に来た。

52-33　*オトル*の歴史　(360)18-66

タイブスの2つの旗は，むかしは明安の地，廂白旗、正白旗へ*オトル*に来た。むかしは

これら２つの旗は国の家畜をあずかっていたが，家畜がたくさんであるから，*オトル*に来た。いまは自分の家畜だけだから，*オトル*に来なくなった。
52-34　*オトル*の歴史　(360)18-66
アトーチンはいまの位置にうつってから，（南から北に引っ越してから），よその旗のなかに*オトル*をこころみるようになった。
52-35　*オトル*の歴史　(360)18-66
*オトル*はむかしから，何百年もまえからやっている。

オトルと家畜

52-37　*オトル*と家畜　(309)17-47
アトーチンから*オトル*に来ている。ウシを連れて主人が出てきている。家には人がいる。ヒツジは家においてある。10数頭のヒツジ。ヒツジには乾草とそとの草を食わしてある。
52-38　*オトル*の季節　(288)16-61
民政科長のウシとヒツジ，*オトル*に出ている。10月に南に行った。天気がよければ３～４月に帰ってくる。

オトルの許可

52-40　*オトル*の許可　(360)18-68
*オトル*に来る人は，よその旗からくる人はみんな旗公署の許可を受けている。
52-41　*オトル*の許可　(333)17-78
*オトル*に来るのは，旗公署の許可を受けてからくる。

オトルの番

52-43　*オトル*の番　(288)16-60
民政科長の*オトル*。包を１つもって行っている。羊群にはゴムスルン，ガルサン，ラシガワーの３人がついている。ウシにはエンケ（シャブルトの人）と夜番が１人ついている。
52-44　*オトル*の番（288)16-60
民政科長の馬群は，廂黄旗のホンゴル・オボに行っている。スルンという人（タリブルの人）がついて行っている。

オトルの帰り

52-46　*オトル*の帰り　(271)15-7
２～３月になると，ジャンギの羊群はみなこちらへ帰ってくる。そして生まれた子ヒツジ，子ヤギはそれぞれの家で世話をする。

52-47　*オトル*の帰り　(288)16-62
馬群は草がでたのちに，こちらへ帰ってくる。

乾草と飼料

乾草

51-3　乾草　(273)15-37
乾草は刈った。牛車３台［分］刈った。自分で刈った。シンディーの近所まで刈りにゆく。
51-4　乾草を刈る ── 分量　(255)13-13
直径15㎝くらいの束を100束ほど刈った。*ハトール*［図譜の補17］で刈った。
51-5　乾草　(270)14-96
刈った。牛車に２台。
51-6　乾草　(86)6-3
乾草は刈る。ことし刈った。ことし２～３台刈った。
51-7　乾草　(73)5-23
乾草は少し刈った。
51-8　乾草　(50)3-49
ことし刈った。ひとかかえを500束刈った。
51-9　乾草　(86)6-12
乾草は毎年少し刈る。牛車に１台。
51-10　乾草　(99)7-41
乾草は１台刈った。
51-11　乾草　(32)21-46
乾草は35台刈った。１台に250斤。
51-12　乾草　(33)21-49
15台刈った。これで不足である。
51-13　乾草　(61)21-53
刈った。５台。
51-14　乾草　(270)15-6
乾草は刈った。１台。
51-15　乾草　(272)15-12
乾草は，ことしは少ししか刈れなかった。車に１台。
51-16　乾草　(275)15-49
刈った。５～６台。
51-17　乾草　(277)15-62

乾草は刈った。分量はわからない。
51-18　乾草　(297)17-23
乾草は6～7台刈った。
51-19　乾草　(299)17-49
乾草は刈る。5～6台刈った。
51-20　乾草　(269)14-88
刈る。10台ほど刈った。
51-21　乾草　(266)14-61
ことしは牛車に1台刈ったが，すでにみんな食ってしまった。「それではこれからまだ冬のあいだこまるではないか？」「こまる。こまるけれど，しかたがない。」「ことしは10月は毎日毎日風がふいて，大雪がふったので，そのときにみんな食わしてしまったのだ。」
51-22　乾草　(266)14-61
乾草は刈る。ことしは牛車に1台刈った。もうすでにみんな食ってしまった。
51-23　乾草　(261)14-11
毎年2～3台の牛車分ほど乾草を刈る。
51-24　乾草　(35)2-46
刈る。ことし牛車3～4台。100斤。
51-25　乾草　(36)2-67
刈る。ことしはもうすんだ。ゲンドゥン（われわれの牛車夫）にたのんだ。10円やった。牛車に4台刈った。
51-26　草刈り道具　(36)2-70
草，車4台刈った。車は監視佐領ダムディンスルンに借りた。お礼は出さなかった。
51-27　乾草　(39)2-61
刈る。ことしはまだ。あす1日かけて刈る。それが終わったら学校へカシャーの仕事にゆく。
51-28　乾草　(41)2-78
ことし，5台刈った。自分で刈った。牛車なし。
51-29　乾草　(44)3-12
2台刈った。自分で刈った。手つだいなし。雇い人なし。牛車なし。
51-30　乾草　(45)3-20
5台刈った。自分で刈った。牛車なし。監視佐領［ハロール・ジャンギ］のを借りた。
51-31　乾草　(66)4-67
ディンドゥーの家では牛車に1～2台の乾草を刈った。
51-32　乾草――分量　(27)5-71
乾草は十数台刈る。

51-33　乾草　(70) 4-86
車に4～5台刈る。

ウシと乾草

51-35　ウシと乾草　(S)18-14
ウシはウマにくらべてはるかに少食である。だいたい乾草をやる分量はウマの3分の1でよいという。Sの話。
51-36　ウマと乾草　(S)18-14
ウマは一晩に乾草をどれくらい食べるだろうか？だいたい*アルグ*［かご］に5～6杯だという。夜2杯やり，夜ふけて寝るまえに1杯，夜あけ近く，人が小便などにおきると，もう何もなくなっていて，鼻をならして催促する。そこでもう2～3杯やる。Sの話。

草刈り鎌

51-38　草刈り鎌　(275)15-49
*サンドー*で刈る。［図譜の補16］
51-39　草刈り鎌　(299)17-49
サンドー
51-40　草刈り鎌　(270)14-97
*サンドー*で刈る。この近所に*ハトール*で刈る人はない。
51-41　草刈り鎌　(268)14-88
*サンドー*で刈る。*ハトール*はつかわない。
51-42　草刈り鎌　(266)14-61
*サンドー*はない。*ハトール*で刈る。
51-43　草刈り鎌　14-24
ディヤンチ・ラミン・スムのわれわれの部屋の*アルガリ*役［*アルガリ*をはこぶ役］のラマに「草の刈るのは*ハトール*で刈るか？」と聞いてみたら，すると向こうから「*ハトール*もあるが，sandoo ya baina［*サンドー*もある］」とこたえている。
51-44　草刈り鎌　14-24
チョルンビルの家では，草刈りは*ハトール*で刈ると言った。もう1つの*ゴト*へ行ったら，出てきた男がまさしくその*ハトール*を手にもっていた。まえにスケッチしたものと，ほとんどまったくおなじものであった。
51-45　草刈り鎌　(261)14-14
乾草を刈るのは*ハトール*で刈る。
51-46　乾草――刈らない　(278)15-69
毎年は刈るのだが，ことしは刈らなかった。

51-47　乾草――刈り場　(266)14-62
草はごく近所で刈った。遠くへゆくにも車もなし，人手もない。
51-48　乾草――草刈り場　(387)23-81
乾草はかなり遠くまででも刈りにゆく。乾草がなくてはたいへんだから。
51-49　乾草の歴史　(360)18-67
ウマに草を食わす習慣も，むかしからある。
51-50　乾草――労働力　(272)15-13
まえはヒツジ飼いを雇ってなかったし，主人がヒツジ飼いにゆかねばならず，母は家の仕事があるので，人がなくて，乾草は刈れなかった。（これだけのことは問わず語りに自分から話しだした。）
51-51　乾草――刈らない　(87)6-17
乾草は刈らなかった。人がいないので，しかたがない。ことしの夏は，婆さんと娘が病気だった。去年も刈らなかった。いままでに刈ったことはない。ヒツジがいないから乾草を刈らない。
51-52　乾草――刈らない　(51)3-80
乾草は，ことしは刈らない。手がたりないから刈れないのだ。ことしは刈らずに冬を越すつもりだ。去年は刈ったか？去年も刈らない。まえから乾草は刈らないのだ。（というけれども，ちゃんとサンドーをもっている。）

草刈りの手つだい

51-54　草刈りの手つだい　(387)23-81
草刈りは各家別々に勝手なときに勝手なところへゆくのだが，人手のたらぬときはよその家から人手を借りる。その代わりに，その家が刈るときには手つだってやる。雇い雇われの関係ではない。
51-55　草刈りの手つだい　(387)23-81
草刈りは集落の牛車をあつめて一緒にゆく。しかし草を刈るのは，やはり各家別々である。刈る場所も時間も別々である。
51-56　草刈りの手つだい　(346)18-50
イントの集落。草刈りは各家別々に刈る。牛車がない家は，よその家からまわしてもらう。
51-57　乾草を刈る手つだい　(273)15-37
ジャンギ［ソムの長官を意味する満州語。章京。佐領と漢訳される。］の家でジャンギの乾草を刈るときには，parasite［居候］どもは別に手つだいをしない。ジャンギが雇っている連中だけが刈る。
51-58　草刈りの手つだい　(299)17-50

草刈りのときは近所どうし手つだいをしない。
51-59　草刈りの手つだい　(43)3-2
寺に住むラマである。家の仕事をしてかせいでいる。去年は，正藍旗の人間の草を刈ってやって，ヤギを１頭もらった。食べた。ことしの秋には寺の草刈りをした。代金として40円もらった。
51-60　乾草 ── 手つだい (287)16-57
秋に人のために乾草を刈ってやった。西のほうへ行って刈った。分量はわからない。売った先もわからない。
89-192　共同作業　(387)23-81
草刈りは各家別々である。刈る場所も時間も別々である。好きなところをかんがえてゆく。

マース
51-62　マース　(341)18-37
マースは買わない。
51-63　マース　(310)17-65
マースは買わない。乾草があるから。
51-64　マース　(335)17-87
マースは買わない。
51-65　マース　(267)41-89
ことしは買っていない。
51-66　マース　(266)14-59
馬油のかすのこと。痩せた当歳子ウシに食わす。チャハルでは，どこの家にもこれがあると，ＳとＢはいう。漢人から買う。

濃厚飼料
51-68　濃厚飼料　(341)18-37
濃厚飼料は買わない。
51-69　濃厚飼料　(335)17-87
買わない。

舎飼い
89-193　舎飼い　(387)23-86
*ボルタナ*ということば。そとへ放牧に出さずに，舎飼いにすること。濃厚飼料などで。これはこのあたりでも，冬にはこんな家がある。

乾草――かきあつめ

51-71　乾草――かきあつめ　(137)8-46

乾草は刈らない。枯れておいている乾草をサブル［熊手］でかきあつめて子ヒツジ，子ヤギに食わす。

51-72　草のかきあつめ　(136)8-35

観察：女，包のついそばの右列のなかの草ばえのよいところで，ハマムギをかきあつめてくる。サブルをつかって。

乾草を売る

51-74　乾草を売る　(387)23-81

乾草の売買をする。乾草を刈ってあまっただけよそへ売る。去年の冬の相場で，10,000斤で500円。

51-75　乾草を売る　(287)16-57

秋に，人のために乾草を刈ってやった。そのお礼にヒツジ，ヤギを1頭ずつもらった。

51-76　乾草を売る　(287)16-58

乾草を売ったのはことしがはじめてである。

乾草――種類

51-78　乾草――種類　(270)14-96

シェレルチを刈る。ほかにどんな草でもよい。

51-79　乾草――種類　(73)5-23

乾草にはヒャアグがいちばんよい。

51-80乾草――種類　(99)7-41

ボチモグという草を刈る。（見に行ったら，*A.campestris* ではない。別のヨモギであった。）

51-81　乾草の種類　(272)15-13

自分の家で刈った乾草はシェレルチである。漢人から買ったのはボダーニイ・ウブス（漢名はミイラ）である。粟の葉っぱである。

51-82　乾草の種類　(275)15-49

ヒャアグ，ホロゲン・シェレルチ，アイグを刈った。家畜のためにはアイグがいちばんよい。

51-83　乾草の種類　(297)17-27

観察：この家の乾草置き場を見ると，その大部分はヒャアグにまちがいない。若干の *scoparia* をまじえる程度。どこにこんなヒャアグのよくはえたところがあるのだろうか？

51-84　草の種類　(299)17-49

乾草はシェレルチを刈った。
51-85　乾草の種類　(266)14-71
中尾君の鑑定によれば，シェレルチは *Artemsia scoparia*, 太いほうはクソニンジン，*A.annua*, クソニンジンのほうは漢人から買った。
51-86　乾草の種類　(101)7-44
乾草はヒャアグを刈る。(キシクトン旗の場合)
51-87　乾草の種類　(266)14-70
当歳子ウシに食わすために乾草を刈った。シェレルチを刈った。
51-88　乾草の種類　(255)13-12
乾草は刈る。ソリを刈る。ここにはヒャアグがない。ボチモグは，このあたりにはない。
51-89　乾草の種類　(261)14-14
乾草に刈る草の種類は，シェレルチ，ボチモグである。ヒャアグ，デスグネも刈る。このあたりには，ソリははえていない。

乾草を買う
51-91　乾草を買う　(267)41-88
例年は刈る。ことしは刈らなかった。ことしは漢人のところから柴を買ってきた。
51-92　乾草を買う　(310)17-64
乾草は自分で刈っている。漢人の家から草を買う家はない。
51-93　乾草を買う　(341)18-37
乾草は買わない。
51-94　乾草を買う　(272)15-13
自分の家で車に1台乾草を刈った。そのほかにヘレート・シンディーの漢人から1台買った。アルガリ［牛糞］1台と交換したのである。
51-95　乾草を買う (275)15-49
自分の家で5～6台刈ったほかに，シンディーの漢人から2～3台の草を買った。ミイラ（ボダーニイ・ウブス)。1台30円。現金で買った。車をもって取りに行った。
51-96　乾草を買う　(297)17-23
乾草は自分の家で刈った。漢人からは買わなかった。
51-97　乾草を買う　(310)17-65
乾草を自分で刈っている。漢人から買う家はない。
51-98　乾草を買う　(335)17-87
漢人から乾草を買わない。
51-99　乾草を買う　(267)41-88
例年は乾草を刈るのだが，ことしはつい近所の漢人のところから2台買ってきた。1台

100円くらい。
51-100　乾草を買う　(266)14-71
乾草置き場に２種類の草がある。１つはシェレルチ。これは自分で刈った。もう１つは太い。*Artemisia annua.*　これは漢人から買ってきたものである。
92-1　乾草の値段　(387)23-81
あまった乾草は売る。去年の冬の相場は，１万斤［１斤は約500g］で500円。

乾草――時期

51-102　乾草――時期　(85)6-3
８月ごろ刈った。２～３日かかって刈った。
51-103　乾草――時期　(35)2-35
ことし刈り入れ終わった。８月に取り入れる。７～８日で取り入れ終わった。

乾草――置き場

51-105　乾草――置き場　(43)3-6
草は寺のなかのほかのラマのところへたのんでおいてもらう。
51-106　乾草――置き場　(73)5-23
南のほうのデリス［カヤの１種］のなかに入れてある。
51-107　乾草――置き場　(85)6-3
北のほうに土を掘っておいてある。
51-108　乾草――置き場　(268)14-88
刈った草はカシャーのなかに入れておく。
51-109　乾草――置き場　(266)14-61
刈った草はペンクウォに入れておいた。
51-110　乾草置き場　(99)7-41
家にもってきて，アルガリをのせておく。
51-111　乾草置き場　(66)4-67
刈った乾草は，デリスのまんなかに入れてある。
51-112　乾草置き場　(86)6-12
東の山のうえの石のあるところに石のなかに入れてある。
51-114　乾草置き場　(50)3-49
土を掘ってそのなかに入れた。

乾草――はこびかた

51-116　乾草――はこびかた　(50)3-49

ひとかかえを500束刈った。牛車がないので，背中に背おって帰った。

乾草――もらう

51-118　乾草――もらう　(276)15-54

乾草は刈らない。当歳子ウシに食わす草は，となりのラシーデリゲル（娘の嫁入り先）からもらってくる。

草刈り――道具

51-120　草刈り――道具　(35)2-36

牛車，サンドー，サブルいずれも近所から借りてくる。

51-121　乾草　(100)7-41

バルジルの家もジョクスンスルンの家とおなじくらい乾草を刈った。別々にしまってある。

51-122　乾草の分量（S)18-15

牛車１台の乾草はよくつんで，だいたいアルグ［かご］20杯分くらいであろう。Sの話。

51-123　乾草　(48)3-39

刈る。ことしは半分ばかり刈った。つい近くで刈る。家のものが自分で刈る。刈っただけで，まだはこんでない。草を刈るについてウシを借りてきた。

乾草――労働力

51-125　乾草――労働力　(85)6-3

乾草は刈る。ことし刈った。娘が刈る。主人も刈る。

51-126　乾草――労働力　(66)4-67

ハンドマーのところではアルグ［かご］に10杯の乾草を刈った。婆さんが自分で刈った。

51-127　乾草――労働力　(35)2-35

刈る。夫婦で刈る。

51-128　乾草の刈り手　(288)16-62

民政科長の家の乾草は，科長の家で働いている人が刈った。

乾草――つかいみち

51-130　乾草――つかいみち　(261)14-11

ことしは近所に草のよいところがなかったので，刈らなかった。刈らないとこまるけれどもしかたがない。ウマ１頭はディヤンチ・ラミン・スムの馬群のなかに入れてある。

51-131　草をやる　(136)8-35

女，包のそばでかきあつめてきた草を包につながれたヒツジ（イヌにかまれて首にけが

をしている。）のそばにおいてやる。ヒツジ，それをむさぼり食う。
51-132　乾草――つかいみち　(275)15-49
乾草はウマ，ウシに食わす。大きい家畜にも食わす。（この家は羊群をもっていない。）
51-133　乾草――つかいみち　(43)3-6
冬のために乾草を少し刈る。
51-134　乾草のつかいみち　(268)14-89
ここは，冬は，家畜はオトルに出ているのでいない。お客さんのウマ，または自分の乗るウマに食わすのである。また。当歳子ウシ，子ヤギ，子ヒツジが春生まれたら，ここへ連れて帰ってくる。それに食わすのである。２～３月のころ。
51-135　乾草――つかいみち　(98)7-24
乾草は，イムジルの子ヤギと子ヒツジにやる。ウマには乾草は食わさない。
51-136　乾草　刈らない　(98)7-24
乾草は刈る。ことしは刈れなかった。去年は刈った。牛車に１台。イムジルの子ヤギと子ヒツジにやる。（自分は，ウマ３歳種オス１頭，メスウマ１頭をもつだけ。）
ウマには乾草を食わさない。冬になったら，ウマには乗らない。いつも家に閉じこもっている。
51-137　乾草――つかいみち　(86)6-12
冬に２歳の子ヤギ，当歳子ウシ，または病気のウシなどに食わす。
51-138　乾草――つかいみち　(99)7-41
春，子ヒツジに食わす。
51-139　草をやる　(266)14-70
いま，室内のカシャーにいる子ヒツジ，子ヤギにはシェレルチを食わせてある。［図譜の補20］
51-140　乾草――つかいみち (266)14-61
乾草は当歳子ウシにだけ食わす。ヒツジには食わせない。
51-141　乾草のつかいかた　(271)15-6
乾草１台刈った。子ヒツジ１，子ヤギ１がいる。それに食わす。
51-142　乾草――つかいみち　(35)2-36
当歳子ウシ，子ヤギ，子ヒツジのみに食わす。親には食わさない。昼間は子どももそとの草を食う。朝と夕がたに毎日乾草を少し食わす。
51-143　乾草――つかいみち　(70)4-86
冬のあいだに子ヒツジに食わすためにいくらか刈るのである。
51-144　乾草――つかいみち　(73)5-6
春になってから生まれる当歳子ウシに食べさすのである。
51-145　乾草――つかいみち　(57)4-27

ウマ１頭をもっている。ウマのためには乾草は刈らない。
51-146　草を食わす家畜　(255)13-12
乾草は子ヒツジ，子ヤギ，当歳子ウシに食わす。子ヒツジ，子ヤギは，ことしのにも食わせるが，当歳子ウシはことしの子どもに食わせるのではない。ことしの冬または来年の春に生まれた当歳子ウシに食わすのである。ことしは雪が多いので，とくに，ことしの当歳子ウシにも食わせた。

乾草――刈らない
51-165　乾草――刈らない（261)14-11
毎年は刈るのだが，ことしは刈らなかった。
51-166　乾草　(73)5-6
毎年刈る。ことしはまだ刈っていない。毎年牛車に１～２台。（これはだいぶん金もちだ。）
51-167　乾草　(70) 4 -86
ことしはまだ刈っていない。草を刈るほどよいところが見当たらない。
51-168　乾草は刈らない　(67)4-74
乾草は刈らない。去年は刈った。ことしは近くがなくて刈らない。
51-169　乾草（99)7-41
乾草は，毎年は刈らない。草のよい年は刈るが，わるい年は刈らない。
51-170　乾草（267)41-88
例年は刈る。ことしは刈らなかった。去年は自分で刈った。３台くらい。ことしは漢人のところから柴を買ってきた。
51-171　乾草　(261)14-11
ことしは近所に草のよいところがなかったので，刈らなかった。刈らないとこまるけれどもしかたがない。ウマ１頭はディヤンチ・ラミン・スムの馬群のなかに入れてある。

乾草――刈らない（つづき）
51-148　乾草――刈らない　(169)9-53
乾草は刈らない。いままでに刈ったことがない。
51-149　乾草――刈らない　(136)8-22
この近所で乾草を刈る家はない。刈るような丈の高い草がない。
51-150　乾草――刈らない　(138)8-61
乾草は刈らない。
51-151　乾草――刈らない　(181)9-19
刈らない。

51-152　乾草――刈らない　(250)12-92
乾草は刈らない。
51-153　乾草――刈らない　(257)13-47
外モンゴルに行ったころから草は刈らない。
51-154　乾草――刈らない　(257)13-47
草は刈らない。
51-155　乾草――刈らない　(256)13-39
乾草は刈らない。
51-156　乾草――刈らない　(189)40-12
乾草は刈らない。いままでから刈ったことがない。
51-157　乾草――刈らない　(248)12-85
乾草はむかしから刈らない。
51-158　乾草――刈らない　(89)6-54
乾草は刈らない。むかしから刈らない。この近所で乾草を刈る家はない。
51-159　乾草――刈らない　(93)6-76
乾草は刈らない。むかしから刈らない。彼には力がないので，刈らない。
51-160　乾草――刈らない　(74)5-25
乾草は刈らない。
51-161　乾草――刈らない　(62)4-38
乾草刈り取りはしない。できない。むかしから刈らない。
51-162　乾草――刈らない　(76)5-30
乾草は刈らない。毎年刈らない。刈らなくても大丈夫である。
51-163　乾草――刈らない　(136)8-12
乾草は刈らない。

草刈り場

51-173　草刈り場　(273)15-37
乾草は刈った。シンディーの近所まで刈りにゆく。
51-174　草刈り場　(288)16-63
ことしは，民政科長の家の乾草は西のほう，漢人地帯との境のあたりで刈った。
51-175　草刈り場　(297)17-23
草は，西北のボロンというところで刈った。
51-176　草刈り場　(387)23-80
乾草刈り取り場は，年によって一定していない。かなり遠くまででも刈りにゆく。乾草がなくてはたいへんだから。

51-177　乾草の刈り取り場　(267)41-89
乾草の刈り取り場は別に決まってはない。どこでも草のはえているところから刈る。
51-178　草刈り場　(387)23-82
いまはまだ草の伸びかたが少ないので，どこがことしの草刈り場になるかわからないが，もうしばらくすると（1カ月）わかる。そうしたら，そこには家畜を入れないように申し合わせをする。別に相談してするわけではないが，各家でだいたいそういうことになる。
51-179　草刈り場　(387)23-82
草刈り場の予定地がだいたいきまると，そこに家畜をいれないように申し合わせる。別に相談してするわけではないが，各家で自然にそうなる。しいて家畜を入れないようにするのでなくても，夏の家畜というものはそう遠くへゆくものではないから，大丈夫だ。遠くへさえゆけば草はある。
51-180　草刈り場　(S)6-61
チャハル，明安あたりでは，家畜が立ちいらず，草の丈が高くなった場所がある。しかし，そこは秋になるとみんな草を刈ってしまう場所になってしまうのである。しかし，それも別に注意して家畜を立ちいらせないのではない。家から遠いので家畜があまり入らないのである。計画的に家畜を入れない場所などはない。Sの話。

乾草――歴史

51-182　乾草――歴史　(35)2-35
主人の子どものときから乾草は刈っている。
51-183　乾草――歴史　(50)3-49
むかしから刈った。子どものときから刈った。
51-184　乾草――歴史　(99)7-41
婆さんの若いときから刈っている。
51-185　乾草――歴史　(360)18-67
乾草の刈りとりの習慣はむかしからある。むかしからいまのようにたくさんの草を刈った。
51-186　乾草――歴史　(373)20-29
乾草を刈る習慣はむかしからあった。張北の近所にいたころからあった。そのころは草がよかったから，家畜にたくさん食わすことも必要がなく，乾草の量は少なかった。

移動

***アイル*の集結**

57-3　*アイル*の集結　(387)24-17

(390) と (391) は，去年，デリスン・アイルからここへ引っ越してきた。デリスン・アイルのゴトから，かなりはなれていて，匪賊があぶないので，ここに引っ越したのである。

牧野と人口

57-5　牧野と人口　(373)20-29
明安旗のアイルがここへうつってきてから，その後，アイルが増えたので，草がだんだんわるくなった。草が伸びるひまがないうちに，みんな食ってしまうのだ。
57-6　牧野と人口　(310)17-63
アイルがあつまっていても大丈夫。家畜がたくさんないから大丈夫である。
57-7　牧野と人口　(314)17-67
こちらにたくさんのアイルがあつまってきても，草は別にわるくなるということはない。草は自然にはえているものだから，わるくなることはない。
57-8　牧野と人口　(255)13-24
このあたりは，ハルハがうつってきてから，人が増えた。人が増えたので，家畜の飼う場所が少しせまくなった。

Nuguudalin

57-10　Nuguudalin［遊牧，文語つづりでは negüdel］モンゴル　(89)6-55
遊牧モンゴル人というものは，いまはもういない。それは昔の話である。
57-11　Nuguudalin モンゴル　(98)7-27
むかしは，大雪のときに，タムチン・タラのなかまで移動してゆく家があった。そんな家は大畜群の所有者であった。いまは，そんな大畜群の所有者はいない。

冬営地の利用

57-13　冬営地の利用　(190)9-61
去年の冬もここへきた。ジュルトゥムもここにきた。ここには羊糞の囲いがあるから。３年まえからここに来ている。羊糞の囲いは３年まえにできた。
57-14　冬営地の利用　(255)13-11
去年の冬営地もここであった。まえから冬営地はここに決めている。
57-15　冬営地の利用　(189)9-46
ジュルトゥムも，ここが冬営地である。去年の冬もここへきた。
57-16　冬営地の利用　(189)9-45
バトルホはまえからここが冬営地であった。
57-17　冬営地の利用　(189)9-44

もう２～３日したら，ホロートの冬営地へゆくつもりである。ホロートには土でつくったヒツジの垣がある。自分の家でつくった。ホロートには，去年はアイルがあった。

冬営地

57-19　冬営地　(32)21-44

現在は夏営地にいる。冬営地は，東７ガザル［約3.5km］のところ。

57-20　冬営地　(61)21-53

いまは夏営地にいる。冬営地は，北200mのところにある。

57-21　冬営地　(189)9-45

ホロートには，ヒツジを入れる土の垣がつくってある。自分の家でつくった。

57-22　冬営地　(105)7-51

冬営地は，ことしも去年の冬営地にゆくつもりである。

57-23　冬営地　(99)7-29

いま夏営地にいる。冬営地は東南のほう。イフルというところ。あんまり遠くない。

57-24　冬営地　(85)6-4

ことしの冬営地は，去年のとおなじところへ行くつもりである。

57-25　冬営地の予定　(84)5-88

ことしの冬営地は，どこへゆくかわからない。しかし，アルガリ［牛糞］がないとこまる。去年の冬営地にはアルガリがあるから，そこへゆきたいと思う。

57-26　冬営地の条件　(84)5-88

ことしの冬営地はどこへゆくかわからない。デリス［カヤの１種］のあるところ，ヌムル（風よけ）のあるところ。そのほかに，別に条件はない。アルガリがないとこまる。

57-27　冬営地　(84)5-82

冬営地は決まっていない。去年は東のほう。この谷のなかのデリスのなかだった。

57-28　冬営地　(98)7-26

冬営地は，どこへゆくか決まっていない。

57-29　冬営地　(98)7-26

冬営地へは，雪が降ったらゆく。雪がふらなかったら，うごかない。

57-30　冬営地　(77)7-4

ウブルジュー［冬営地］はジョンジャー［夏営地］のすぐそば，北のほう。

57-31　冬営地　(95)6-77

いま，秋営地にいる。これは夏営地も，春営地も兼用である。冬営地は，去年の冬営地とおなじところ，南のほう，デリスのなかへゆく。

57-32　冬営地の予定　(93)6-65

ことしの冬は南にゆく。デリスのなかに入る。だが，デリスのなかのどこだかは，まだ

決まってはいない。
57-33　冬営地　(51)3-91
なぜ冬は冬営地へゆくのか？　冬営地は暖かい。*デリス*がたくさんあるから。
57-34　冬営地　(62)4-41
冬営地までの距離は100m。
57-35　冬営地　(47)4-47
ダムディンの冬営地。夏営地から約300mはなれたところにある。冬営地のほうが北にある。*デリス*のなか。
57-36　冬営地　(47)4-47
ダムディンの冬営地からすぐ北のほうにもう1つの*アイル*がある。約700mはなれて，冬営地がある。*アルガリ*がまるく積んであるだけ，ほかに何もない。冬営地のほうが北にある。*デリス*のなか。
57-37　冬営地の予定　(66)4-66
去年の冬営地は東のほうにあった。ことしはどこへゆくかわからない。*デリス*地帯へゆく。
57-38　冬営地　(70)4-79
冬営地は2つある。大雪でいっぽうがだめになったら，もういっぽうに移る。だから，そのときは1年に5回うごくことになる。

秋営地

57-40　秋営地　(87)6-16
ナムルジョー［秋営地］は，冬営地と一緒である。

春営地

57-42　春営地　(84)5-82
春営地もどことは決まっていない。どこでもよい。ことしの春営地は，この，いまの春営地とおなじ場所であった。
57-43　春営地の観察　5-21
郭王の春営地。*デリス*のなかにうずもれている。井戸なし。春営地を見捨ててからはえた草がずいぶんしげっている。それをまた家畜が食ったあとがある。また，あたらしい*アルガリ*がたくさんおちている。

夏営地

57-45　夏営地　(255)13-11
ジョスラン［夏営地］は，*ジョンジャー*ともいう。

57-46　夏営地　(87)6-20
われわれの牛車夫の言によれば，シュフルタイの家は，夏営地に5日間いて，すぐこの秋営地にもどってきたのだという。
57-47　夏営地　(87)6-16
*ジョスラン*は東のほう。遠いところにある。ジャブチルというところ。
57-48　夏営地　(86)6-6
夏営地と春営地は，ベーリン・スムの近所，西のほうへゆく。春営地は，夏営地のつい近所，北のほうにある。毎年，おなじところへゆく。向こうは草が多い。
57-49　夏営地　(26)5-65
夏営地はすぐそばにある。20mたらずよりはなれていない。
57-50　夏営地　(98)7-26
いま，秋営地にいる。そのまえは夏営地にいた。夏営地は，秋営地のすぐそば，近所。
57-51　夏営地　(66)4-66
東のほうにある。ちかきところ。

移動の範囲

57-53　移動の範囲　(360)18-67
むかし，移動をしていたころの話。移動は冬営地のまわりの草のない範囲からそとへ出て夏営地をつくるのであるから，だいたい5*ガザル*［2.5km］くらいのものだろうか。
57-54　移動の回数　(257)13-47
外モンゴルにいたころ，移動の回数は，まったく一定していなかった。草がよく，雨がよく降ればあまりうごかないし，草がわるければよくうごく。
57-55　移動の距離　(190)9-61
タブン・ホトクに春にきた。夏と秋はその付近でほんのちょっぴりうつった。となりの家くらいの距離をうつった。
57-56　移動の回数　(137)8-40
現在の位置は去年の秋から数えて5回目である。

移動と家畜

57-58　移動と家畜　(373)20-25
南から北へ命令によって引っ越してくる途中に，家畜をだいぶん減らしてしまった。
57-59　移動の放牧　(360)18-64
移動したほうが家畜のためにはよい。
57-60　移動の家畜　(255)13-13
移動のときには，全部ラクダでゆく。車はもっていない。

57-61　移動の手段　(248)12-88
移動はラクダと牛車による。
57-62　移動と家畜　(137)8-45
移動のときは，牛車とラクダと両方でゆく。

ネズミと移動

57-64　*ジョルマイ*［ネズミ］と移動　(S)7-33
このあたりの家は，移動の回数が大きいから，*ジョルマイ*がたえない。何年もおなじところにすみついていると，ネズミはいなくなるものである。Sの話。

移動と労働力

57-66　移動と労働力　(99)7-29
いつもなら，年に4回移動する。ことしは人手がなくて2回になった。

移動の変遷

57-68　移動の変遷　(369)20-42
チャハルの民はむかしから*ホロー*をもっていた。冬営地，夏営地のあいだを移動していても，その場所は毎年一定していて，そのどちらにも*ホロー*をもっていた。
57-69　移動の変遷　(387)23-83
むかしから，冬営地と夏営地のある家はほとんどない。
57-70　移動の変遷　(275)15-41
14年まえまでは徳化にいた。徳化にいたときも，むかしから定期の季節移動はぜんぜんしていなかった。固定の包であった。固定家屋を1つもっていた。いまはない。
57-71　移動の変遷　(373)20-22
エンゲル・チャガン，チャガン・ホローにいたころから，移動はしていない。家畜の多い家では，夏に，*オトル*に行ったものである。ヒツジなんかを連れて，草のよいところに食わせに行った。
57-72　移動の変遷　(360)18-68
むかし，移動していたころは，毎年うごいた。
57-73　移動の変遷　(360)18-64
30年まえまでは夏営地と冬営地とがあった。いまは，まったくなくなってしまった。いま，チャハルのなかで移動するのは，正白旗，明安旗の一部，それに正藍旗の人のなかにうごく人があるだけである。
57-74　移動の変遷　(360)18-64
移動したほうが家畜のためにはよいのだが，固定家屋に住むようになったので，うごけ

なくなってしまった。
57-75　移動の変遷　(360)18-66
10数年まえまでは固定していない家があった。
57-76　移動の変遷　(369)20-42
たいていの家はむかしは，夏，冬の２回の移動するのが多かった。夏は夏営し，冬は冬営する。固定家屋ができてからも移動はあった。固定家屋は，冬に住むところであり，夏には夏営地にうつった。
57-77　移動の変遷　(276)15-52
ここへくるまえには，チョールトにいた。チョールトのまえは，あちこち移動していたので忘れた。むかしから１～２年になると，うごいていた。徳化の近所にいたこともある。
57-78　固定の歴史　(360)18-65
固定化しはじめたのは，金もちが先に固定したということはない。

移動しない
57-80　移動しない　(261)14-7
ボルトトにいるときから移動しない。
57-81　移動しない理由　(261)14-7
このあたりは，草がよいから，うごかなかくても大丈夫。近所にうごく家はない。
57-82　移動しない理由　(360)18-65
移動しなくなったのは，固定家屋ができてから。また，草がよいから，移動しなくてもよい。
57-83　移動しない　(297)17-24
冬営地，夏営地をもっている家はない。年じゅう，固定している。

引っ越し
57-85　引っ越し　(45)3-26
プルブトは，この近所にすんでいたが，かれの妻の家が貝子廟のほうにある。それで妻が家に帰るときに一緒にそっちのほうへついて行った。４月に引っ越して行った。かれの親戚は，まだこの近所にいる。
57-86　引っ越し (73)5-23
ソドノムはまえから，ここバローン・ホーブルのアイル群のなかにいるのだが，夏だけは，郭王の家の近所に引っ越してゆく。郭王のウシの乳しぼりをするのである。
57-88　引っ越し　(93)6-66
ここから西北のほう。外モンゴルとの国境に近いシリン・チャガン・オボのアムン・オ

スというところにいた。この４月に引っ越してきた。ラクダに荷物を積んで引っ越してきた。ここまでくるのに，４日かかった。
57-89　引っ越し　(97)6-85
まえは，メーリン・ホトクにいた。ことしの４月にここへ引っ越してきた。
57-90　引っ越し　(77)7-5
オスルは，もとザリン・スムの南のボルハン・ラミン・スムの近所にいた。15〜16年まえに，こちらへうつってきた。
57-91　引っ越し　(89)7-10
サンボー・タイジ［台吉。爵位の１種］は，モーギン・ホーブル（西南のほう）にいた。ことしの６月にここにやってきた。なぜここへ引っ越してきたのか知らない。
57-92　引っ越し　(60)5-73
10年まえからこの土地にいる。
57-93　引っ越し　(84)5-83
むかしから，このオラン・シャントにいる。この近所で移動している。亥年の雪害のときは，冬営地だけタムチン・タラにあった。午年の雪害のときには，イフノ・ホトクにいたが，それも冬営地だけである。
57-94　引っ越し　(188)9-34
まえ，ゴホース・スムの近所にいた。９月にこっちへ引っ越してきた。
57-95　引っ越し　(99)7-30
このメーリン・ホトクの水をつかいだしてから，10数年になる。そのまえは，ジャミン・シャント・ホトクの水をつかっていた。ネルンパラムの家の近所にいた。
57-96　引っ越し　(99)7-30
メーリン・ホトクの東北のほうに，もう１軒家があったが，それは北のほうに引っ越して行った。
57-97　引っ越し　(99)7-30
ジャムスルンは10数年まえから，このメーリン・ホトクにいた。ことし，ついさきごろ，サイン・ホーブルの東のいまの位置に引っ越して行った。
57-98　引っ越し　(99)7-37
亥年の雪害の年には，オホトナイ冬営地にいた。東南のほう。その年の春に，ジャミン・シャント・ホトクに引っ越した。
57-99　引っ越し　(100)7-40
むかしは，バルジルの家は北のほうにいた。どこにいたのか知らない。オホトナイ冬営地で一緒になった。
57-100　引っ越し　(137)8-41
フルム，スーチン・ホトクには，いまは家が１軒もないが，むかしは，このあたりにも

家があったことがある。
57-101　引っ越しのしかた　(190)9-62
ジョンダエジャムソ，バトルホ，バズルサトの３軒は，相談のうえで，ここへ引っ越してきた。バズルサトが１日先に来ていた。ジョンダエジャムソとバトルホがつぎの日にきた。人手が少ないので，少しずつにわけてきたのである。
57-102　引っ越し　(178)9-8
商売に毎年きていたときの経験からいうと，この近所の家は毎年，いつもおなじところにいる。引っ越しても８～10ガザル［４～５km］のところにいる。
57-103　引っ越し　(190)9-56
ジュルトゥムもまたタブン・ホトクのオブトゥギン冬営地にいた。ここへくるまで。
57-104　引っ越し　(190)9-56
ここへくるまえは，オール・エンゲルのタブン・ホトクにいた。ジョンダエジャムソ，バトルホ，バズルサトが一緒にいた。タブン・ホトクにはほかの家がなかった。
57-105　引っ越し　(189)9-49
もと，フルムの近所にいた。それからだんだんダルハン・オーラなどをまわってここにきた。フルムを立ち去ったのは，雪害のつぎの年。
57-106　引っ越しの歴史　(261)14-5
移動しない。５～６年まえまでボルトトにいた。北。そこからここにきた。
57-107　引っ越しの経歴　(262)14-13
ザトムは居候で，10月にここにきた。そのまえは，ホジリン・ゴルにいた。４月に行った。そのまえはディヤンチ・ラミン・スムの近所にいた。ジェス［寺所有の畜群］のメスウシをあずかっていた。
57-108　引っ越しの経歴　(266)14-60
移動はしない。このまえはウラン・ノールにいた。５～６年まえにここへきた。
57-109　引っ越しの歴史　(269)14-91
ずっとまえは，北のほう，ガフチルというところにいた。８～９年まえから，すぐ西南のフルミン・オスにいた。去年の春ここへきた。
57-110　引っ越しの歴史　(270)14-95
ずっとむかしは，ずっと南のほう，タブン・オーラにいた。10数年まえに，イントに引っ越した。おととしの春，ここにきた。
57-111　引っ越しの歴史　(267)41-90
まえ，モーテーにいた（ハディン・スムの北のほう）。それから，オラン・ノールにきた。５年まえにここにうつってきた。
57-112　引っ越しの歴史　(271)15-4
もとは，南のほう，シュベートにいた。４年まえにここへきた。

57-113　引っ越しの歴史　(335)17-84
まえ，西北のゴルブン・オボ（第４佐）にいた。ここへ来てから５～６年になる。ゴルブン・オボには，スルンドルジの小さいときからすんでいた。
57-114　引っ越しの歴史　(334)17-80
エルデニオチルの母（50歳）は，ここに嫁入りしてきたのだが，そのまえからこの家はここにいた。

引っ越しの歴史
57-116　引っ越しの歴史　(387)24-17
セトウェーゼル（391）は，去年，デリスン・アイルから引っ越してきた。
57-117　引っ越しの歴史　(387)24-17
ノルブサムボ（390）は，去年，デリスン・アイルから引っ越してきた。
57-118　引っ越しの歴史　(387)24-17
南ワーヨのゴトのアイルは，(390)（391）の２軒をのぞいてほかはみな，むかしから（10年以上まえから）住んでいる。
57-119　引っ越しの歴史　(61)21-55
16年まえから，現在の土地に住んでいる。
57-120　引っ越しの歴史18-24
(334)（335）(336)（342）は，ゴルブン・オボからきた。西北。６年まえ。
57-121　引っ越しの歴史　(337)18-24
むかしからここにいる。
57-122　引っ越しの歴史　(338)18-24
ダビー，エル・ドビからきた。５年まえ。
57-123　引っ越しの歴史　(339)18-24
ハビルガン・ゴル（寺の近所）からきた。15年まえ。
57-124　引っ越しの歴史　(340)18-24
ゴルブン・オボからきた。６年まえ。
57-125　引っ越しの歴史　(341)18-24
ウフル・チョロー（羊台山の南）からきた。20年まえ。
57-126　引っ越しの歴史　(344)18-48
イントの村，だいたいはみんなスウェート，スージ，ダルゴエ，イフ・ホトクなどから来ている。みんな正白旗［モンゴル語でグル・チャガン］の漢人地帯のなか。
57-127　引っ越しの歴史　(360)19-16
むかしは，正白旗はもっと南，宝源県のほうにひろがっていた。漢人の入植のために追われて，数回にわたって北へうつってきたのだ。

57-128　引っ越しの歴史　(360)19-16
正白旗の北遷の歴史。最初は康熙年間。第２回は，民国１年。第３回は，民国６年。
57-129　引っ越しの歴史　(373)20-18
32年まえの戦争のころ，Ｓの家は，張北から徳化へゆく道の途中のチャガン・ホローというところにすんでいた。
57-130　引っ越しの歴史　(373)20-24
命令によって，チャガン・ホローから北へ引っ越しをはじめた。粛親王府の西に見える高い山の少し東のほうにはじめておちついた。そこに４年間いた。Ｓが１歳のとき，うつった。そのつぎ，スージ・オボ（ボラグ）にうつり，それから現在の土地におちついたのだ。
57-131　引っ越しの歴史　(373)20-26
Ｓの家がスージ・オボからここへ引っ越してきて４年になる。Ｓが中学生のときであった。
57-132　引っ越し　(272)15-8
むかしはゴトというところにいた。むかしのヘンケルワ・スムの近所。ここへ来てから10年になる。
57-133　引っ越しの歴史　(273)15-32
もとは南のゴトというところにいた。20年まえにきた。ジャンギとモンフエルデニなどみな一緒に引っ越してきた。
57-134　引っ越しの歴史　(275)15-40
まえは徳化にいた。徳化の町のなかにいた。14年まえにここへ引っ越してきた。
57-135　引っ越しの歴史　(276)15-51
ここへくるまえはチョールトにいた。チョールトは，セーリン・ゴルの近所，東北。チョールトのまえはあちこち移動していたので忘れた。ここへきたのは去年のこと。
57-136　引っ越し　(276)15-51
去年ここへきた。
57-137　引っ越しの歴史　(277)15-59
むかしからここにいる。ここに来てから20年くらいになる。このまえはどこにいたのか知らない。（この話をした妻は，10年まえにここへ嫁入りしてきた後妻であるから。）
57-138　引っ越しの歴史　(278)15-66
ここへ引っ越してきてから20年くらいになる。そのまえはゴトにいた。ジャンギなどと一緒にここへうつってきた。
57-139　引っ越しの歴史　(286)16-53
まえは，アトン・チョローにいた。南。10数年まえにここへうつってきた。
57-140　引っ越しの歴史　(287)16-55

もとはラブラン［甘粛省にある寺院］にいた。ラブランには10数年すんでいた。3年まえにここにきた。それ以前のことは妻ではわからない。

57-141　引っ越しの歴史　(290)16-66

まえは，アリン・オス（南のほう）というところにいた。ここへ引っ越してきてから3～4年になる。

57-142　引っ越しの歴史　(297)17-20

ここへくるまえはオンドルというところにいた。（漢人地帯ではない。南。廂黄旗のなか。近い。）ここへ来てから60年以上になる。

57-143　引っ越しの歴史　(289)16-63

まえはボル・ダブス（第7佐）にいた。ここへ引っ越してきてから2年になる。

57-144　引っ越しの歴史　(295)17-28

ここへすみついてから20年以上になる。（ダライは漢人の帰化人）

57-145　引っ越しの歴史　(299～308)17-49

全部むかしからここに住んでいる。最近にきた家はない。第6佐全部。

57-146　引っ越しの歴史　(317)17-54

バグ・チャガンから2年まえにここにうつってきた。

57-147　引っ越しの歴史　(314)17-54

ボグトイン・ゴルから2年まえにここにうつってきた。

57-148　引っ越しの歴史　(313)17-54

ボグトイン・ゴルから，ことしここにうつってきた。

57-149　引っ越しの歴史　(310)17-54

バグ・チャガンから，ことしの6月にここへうつってきた。

57-150　引っ越しの歴史　(312)17-54

ボグトイン・ゴルから，ことしここにうつってきた。

57-151　引っ越しの歴史　(310)17-63

ジョンダ，リンチン，ラシチルンの3軒はむかしからある。その包の位置も，いまの位置のままである。

57-152　引っ越しの歴史　(314)17-66

シャル・ハダ→ボグトイン・ゴル→チャガン・ハダ

57-153　引っ越しの歴史　(314)17-66

ジャンギの家も，もとはシャル・ハダにドゴルの家と一緒にいた。それからバグ・チャガンに行って，それからここへきた。

引っ越しの理由

57-155　引っ越しの理由　(93)6-65

むかしからシリン・チャガン・オボのほうにいたのであるが，まえのエドゥル佐領のころから，遠くて不便だから，こっちへ引っ越してこい，としきりに行ってきた。（エドゥルはジュン・ホーブルにいた）いまのシャグダル佐領になってからも，しきりに引っ越しを言ってきたので，こちらへ引っ越してきた。２～３軒，シャグダル・ソム［佐］の者がいたが，みなこちらへうつってきた。

57-156　引っ越しの理由　(97)6-85

主人のドルジがまえからボロン・スムのラマであった。それでそこに近いほうにと思って，メーリンからここに引っ越してきた。ところが，この７月にドルジはジャラー・スムにうつってしまった。

57-157　引っ越しの理由　(77)7-5

もと，ボルハン・ラミン・スムの近所にいたのだけれども，ベール王のところで働くようになってから，便利なようにこちらへうつってきた。15～16年まえのこと。

57-158　引っ越しの理由　(89)7-7

バイン・ノールにながらくいたのであるが，そこは草がなくなったので，アタカに引っ越した。そこは水がある。草がよい。

57-159　引っ越しの理由　(89)7-7

アタカには２カ月いた。すると，アタカにたくさんの家が集結してたちまち草がなくなってしまった。それで，グーニー・スムに引っ越した。

57-160　引っ越しの理由　(89)7-9

イシジャムソの家は，グーニー・スムにあった。ところが，主人のラマがグーニー・スムからシリン・チャガン・オボに転勤になったので，そちらに近いところにゆくつもりで引っ越しをはじめた。ことしの冬はもっとそちらに近いほうにうつってゆく。到着するまでにまだ２年はかかるであろう。

57-161　オオカミと引っ越し　(87)6-20

シュフルタイの家は，夏営地に５日間いて，すぐこの秋営地にもどってきたという。ベーリン・スムの夏営地は，オオカミが多いから。

57-162　引っ越しの理由　(27)5-71

このタリャーランに来てから７年になる。そのまえは，まえに見えている砂丘の向こうにすんでいた。１軒きりですんでいた。そこは，地相がわるくてここに引っ越した。

57-163　引っ越しの理由　(188)9-34

まえ，ゴホース・スムの近所にいた。９月にこっちへ引っ越してきた。佐領のところに近いところに引っ越してきたのである。

57-164　引っ越しの理由　(99)7-38

できることなら，ずっとこのあたりにいたいのであるが，草がなくなったり，水がなくなったり，または旗公署からの命令があったりすれば，よそへ引っ越しをする。

57-165　引っ越しの理由　(189)9-46
２～３日したら，ホロートに引っ越してゆくつもり。ここはヒツジのいれものがない。アイルがたくさんいて，ラクダやウシが多くて，夜にごそごそあるくので，ヒツジが安眠できない。
57-166　引っ越しの理由　(189)9-52
いまの位置にきた理由は，ことしははじめジュルトゥム，バトルホがここへこないということを聞いたので，ここへきた。ここにはジュルトゥムらの家畜囲いがある。ところが，またやっぱりジュルトゥムらがここへくることに変わって，やってきてしまったのだ。
57-167　引っ越しと使役　(189)9-50
丑年にリン王に呼ばれて，旗公署に行った。リン王のところでは，馬群の放牧をしていた。家族，家畜をすっかり連れて行った。それから，済んでから，まっすぐにここへやってきた。
57-168　引っ越しの理由　(189)9-51
もう，フルムには帰らない。フルムには草がない。
57-169　引っ越しの理由　(261)14-6
５～６年まえに，ボルトトからここへ引っ越した。ボルトトには草がなくなった。ここは草がよいので，ここにうつった。
57-170　引っ越しの理由　(266)14-60
５～６年まえにウラン・ノールからここへ引っ越した。ウラン・ノールは場所がわるい。家畜がたくさん死んだ。また人が病気になる。それでここへうつった。ここは「gajir jugr!」［モンゴル語で，土地はまあまあ！という意味。gajir jügeer!］
57-171　引っ越しの理由　(269)14-91
去年の春，フルミン・オスからここに引っ越してきたのはジャンギ［佐領］の家で働かせてもらうためである。
57-172　引っ越しの理由　(270)14-94
ずっと南，タブン・オーラにいたとき，漢人の農民がしだいに近くまで押しよせてきて，匪賊の危険が多くなったので，イントに引っ越した。
57-173　引っ越しの理由　(270)14-94
イントからここに引っ越してきたのは，イントは草がわるいからである。
57-174　引っ越しの理由　(271)15-4
ジャンギ［佐領］のところで雇われることになったので，南のシュベートから４年まえに引っ越してきた。
57-175　引っ越しの理由　(335)17-84
ゴルブン・オボからここへ引っ越してきた。ゴルブン・オボは場所がわるいと年寄りが

いいだして，きかない。もう長いこと住んでいたので，土地がわるくなったというわけである。

57-176　引っ越しの理由　(310)17-63

(312)（313）(314)（317）(318）の各家が，ここに引っ越してきたのは，旗公署の命令によるものである。一緒にあつまっていると，供出のときなどに便利であるから。

57-177　引っ越しの理由　(310)17-63

トゥムルボルト佐領がここへ引っ越してきたのは，まったく自発的である。家に人手がなくなったので，こちらには親戚があるので，こちはへうつってきた。

57-178　引っ越しの理由　(297)17-24

むかしからいまでも，引っ越しをする家がある。草がわるければうつる。

57-179　引っ越しの理由　(289)16-63

ロブスンの妹が民政科長の家で炊事婦として働くために，ここへ引っ越してきた。

57-180　引っ越しの理由　(290)16-66

アリン・オスからここへ引っ越してきてから，３～４年になる。こちらで乳製品なんかにありつこうとしてやってきたのだ。自分では家畜は何ももっていない。

57-181　引っ越しの理由　(287)16-55

ラブランからここへ来てから３年になる。なぜここへきたのか？貧乏で家畜がないから，人を手つだって，乳などをもらうためにここへきた。

57-182　引っ越しの理由　(286)16-53

10数年まえまでは，南のアトン・チョローにいた。漢人が多くなってきたので，ここへ引っ越した。アトン・チョローにいたときに，匪賊におそわれたことはない。

57-183　引っ越しの理由　(276)15-51

人手がない。年寄りと子どもだけである。それで，自分の娘が嫁入りしている先，（ラシーデリゲルの妻はスドゥルラブジーの娘）のとなりに引っ越してきた。去年のこと。

57-184　引っ越しの理由　(275)15-41

まえは徳化にいた。徳化はもとモンゴル人の家があった。漢人はいなかった。漢人が来て，農業をはじめたので，草がなくなり，家畜がこまったので，ここへ引っ越してきた。

57-185　引っ越しの理由　(273)15-36

ここは草がわるいとしきりにいう。草がわるければうつったらよいではないか？というと，子どもが佐領に雇われているので，そういうわけにはゆかないという。佐領がうつったら，一緒についてうつるという。

57-186　引っ越しの理由　(272)15-10

ゴトにいたころは，草がとてもよかった。ここはだめだ。草の点からいえば，なんでこんなところへくるものか？ 漢人と匪賊のためにこんなところへくることになったのである。

57-187　引っ越しの理由　(272)15-9
むかしは南のゴトというところにいた。ゴトは，いまはすっかり漢人の地帯になってしまった。イルゲン・フン［漢人］が来て，匪賊の危険がましてきたので，ここに引っ越してきた。
57-188　引っ越しの理由　(344)18-48
イントの村，だいたいみんな正白旗の漢人地帯のなかからきた。漢人が増えて，まわりに畑が多くなり，家畜が放牧できない。また匪賊も出る。
57-189　引っ越しの理由　(341)18-25
南のウフル・チョローにいた。そこはタリャー［耕地］になった。正白，廂黄の境。農民がせまってきたので，ここにうつってきた。
57-190　引っ越しの理由　(50)3-51
８～９年まえにチャガン・ノールからここへ引っ越してきた。チャガン・ノールはわるいところだ。ジャガーサンが病気になった。ラマが，土地がわるいと言った。それで引っ越してきた。

移動の理由

57-192　移動の理由（引っ越し）　(387)23-83
何年もおなじところにいると，草がわるくなる。というけれども，実際は人が病気になったり，そのほかわるいことがかさなると，移動するのだ。
57-193　雪と移動　(251)13-4
ことしはもううごかない。雪がなくなったらうごく。
57-194　移動の理由　(66)4-68
どこでも草のよいところへうつる。ここは草がよいので，井戸からは遠いけれども，ここへきた。
57-195　移動の理由　(73)5-22
移動の理由は気候によることである。夏は当歳子ウシがちいさくて，井戸から遠いとあるいてゆけないから，井戸に近いところへゆく。このごろは，当歳子ウシがだいぶん大きくなったので，あるいて井戸までゆく。
57-196　移動の理由　(70)5-21
春，夏，秋，冬に移動しなければならないというのは，もっぱら子どもの家畜を管理するうえについての必要からである。おとなの家畜は，この際，問題ではない。おとなの家畜ばかりなら，移動の必要はない。
57-197　移動の理由　(48)3-39
冬営地は，あついから夏営地へうつるのである。
57-198　移動の理由とヒツジ　(77)7-4

もし，羊群をもっておれば，移動しなければならない。
57-199　移動の理由　(89)6-54
いつもは，年に2回の移動であるが，ことしは年に3回になった。ことしは草がわるいから。
57-200　ヒツジと移動　(98)7-25
イムジルは，ヒツジが相当にある。ヒツジがあれば，もっとうごくのが本当であるが，男手がないので，年に2回しかうごかない。
57-201　移動の理由　(77)7-4
ベール王は家畜がたくさんだから，1年に4回も大きい距離をうごかねばならない。オスルは家畜が少ないから，うごかなくてもよい。
57-202　移動とヒツジ　(87)6-16
冬営地と秋営地とは一緒である。ヒツジがないと，移動する必要がない。
57-203　移動の理由　(84)5-83
いつもは夏もオラン・シャントにいるのだが，ことしの夏は，ここは井戸の水がなくなったので，引っ越した。ベーリン・スムの南のオボのその南にことしの夏営地をつくった。
57-205　移動の理由　(86)6-7
ここは，夏は水がなくなってしまう。秋になると水がでる。だから，夏営地はベーリン・スムの近所に移動する。
57-206　移動と大雪　(73)5-5
例年は，移動は1年に4回であるが，冬は大雪がふると，たびたび移動をおこなう。かなり遠いところへもゆかなければならない。
57-207　移動とつとめ　(77)7-4
王のところで働いているが，移動は王とはぜんぜん関係なしにうごいている。
57-208　移動の理由　(86)6-11
タムチン・タラはたとえ近いところに井戸があってもそこへはゆかない。なぜゆかないのか？　アイルがないから。
57-209　移動の理由　(137)8-41
移動するのは，草の関係である。付近に草がなくなってしまう。
57-210　移動の理由　(138)8-61
草のよいところへゆく。
57-211　移動の理由　(223)10-30
雪が多くふれば，うごく。
57-212　移動の理由　(190)9-61
冬にここにきた理由は，ここにはヒツジのいれもの，囲いがあるから。羊糞の囲い。去

年の冬もここにきた。
57-213　移動の理由　(190)9-61
夏と秋は，となりの家くらいの距離をほんのちょっぴりうつった。1つのところにヒツジが長く寝てくれない。雨がふると羊糞がどろどろになってだめになる。

移動と仕事

57-215　移動と仕事　(255)13-13
ハロール［警備］の*ホイグ*［兵役］である。草がわるくなってもどうなっても，*ハロール*の仕事にしたがわねばならないので，ずっとこの近所ばかりをうごいている。

移動の季節

57-217　移動の季節　(73)5-23
冬営地から春営地には2月に，春営地から夏営地には5月に，夏営地から秋営地には8月に，秋営地から冬営地には10月に，移動する。いまは秋営地にいる。
57-218　移動の季節　(98)7-26
いま秋営地にいる。7月にきた。
57-219　移動の季節　(70)4-89
春営地から夏営地には5月に，夏営地から秋営地に来て1カ月，秋営地から冬営地には雪がふったら9月に，ふらなかったら10月に，冬営地から春営地には2～3月に，移動する。
57-220　移動の季節　(84)5-83
冬営地から春営地には3～4月に，春営地から夏営地には5月に，夏営地から秋営地には8月に，秋営地から冬営地には11月に，移動する予定。
57-221　移動の季節　(86)6-9
春営地から夏営地には5月に，夏営地から秋営地には9月に，秋営地から冬営地には10月に，冬営地から春営地には2～3月に，移動する。
57-222　移動の季節　(87)6-16
冬営地から夏営地には5月に，夏営地から冬営地には8月に移動する。
57-223　移動の季節　(99)7-29
いま，夏営地にいる。4月にここにきた。
57-224　移動の季節　(248)12-84
現在，冬営地，1カ月まえにきた。

移動

57-226　移動　(108)21-56

いま，秋営地にいる。９月にきた。６～９月は夏営地。ホチェルトというところ。（ここから西１日行程。）４～６月は冬営地。ゴフ・シャントというところ。（ここから北１日行程。）

57-227　移送　(194)21-60

去年の冬営地はここ，ホンタイ。３月から９月はすぐ西にいき，そのあとまたここにきた。年に２回移動する。

57-228　移動　(378)20-69

ジョクスンジャブは，夏はブドゥン・オボに住んでいる。ブドゥン・オボに固定家屋をもっている。ここにも固定家屋をもっている。

57-229　移動　(261)14-5

移動しない。１年じゅうここにいる。

57-230　移動　(258)13-48

冬営地と夏営地とがある。夏営地はこのつい近所，西のほう。

57-231　移動　(190)9-61

ここへは８日にきた。（きょうは13日）それまではタブン・ホトクにいた。タブン・ホトクには春にきた。

57-232　移動　(223)40-59

いま移動の最中である。包２つのうち，１つは寺（マンダルト）の近くにうつした。１つがのこっている。これから引っ越すところである。

57-233　移動　10-17

グフ・トロガイ・スムの寺付きの家畜。番人のゲル。いつも寺から１～２ガザル［0.5～１km］はなれたところにいる。別に，冬営地，夏営地などの区別はない。ときどき，草水のよいところへ移動することもある。（湖の関係である。）

57-234　移動のしかた　(223)10-30

現在，マンダルト・スムの近所からいまの位置に，移動の途中である。包が２つあって，１つはまだ寺の近所にのこしてある。

57-235　移動　(246)10-73

オイルクに家がある。１年に４回うごく。いずれもオイルクのなかの小さい範囲。

57-236　移動　(248)12-84

去年の冬営地はここで，４月にドゥスグネというところ（サーリン・オールの近所）にいき，１カ月まえにここにきた。

57-237　移動　(189)9-43

去年の冬はトグロクにいて，３月にオール・カショーンにいき，５月にホレー・ノールにいき，９月25日にいまの位置にきた。もう２～３日したら，ホロートへゆくつもり。

57-238　移動　(105)7-51

いま秋営地にいる。夏営地は西のほう，山の向こうにある。冬営地はこの谷のなかで北のほう，ゴリン・カシャートの近所。井戸がある。春営地はない。

57-239　移動　(101)7-44

キシクトン旗の移動。移動は年に2回。または3回のもある。夏はタラ［平原］に出て放牧し，冬はマンハ［砂丘］のなかに入る。(マンハは正藍旗のマンハのつづき。)

57-240　移動　(99)7-29

いつもは年に4回移動する。ことしは人手がなくて2回になった。

57-241　移動　(98)7-27

年に10回ぐらいうごく家がある。シリン・チャガン・オボのほうには，そんな人がいる。この近所には，そんな人はいない。シリン・チャガン・オボのほうは，たいていそんなにうごく。

57-242　移動　(136)8-13

冬営地，夏営地などの名称はない。(年じゅう，うごきまわるから。)

57-243　移動　(136)8-13

ことしになってから，5～6度うごいた。まだ，うごくつもりである。どこへゆくかはわからない。どこでも「Xamaa uguei［かまわないの意。Xamaa-gui］」

57-244　移動　(87)6-16

いま，秋営地にいる。冬営地は秋営地とおなじところ。夏営地は東のほう，遠いところ。ジャブチルというところ。春営地はない。ここである。

57-245　移動　(73)5-5

1年に4回うごく。いずれも1～2*ガザル*［0.5～1 km］はなれたところ。

57-246　移動　(71)5-3

オスルもまたワンジルとおなじく移動しない。*デリス*［カヤの1種］のなかに住んでいるから。

57-247　移動　(72)5-3

移動しない。冬営地，夏営地はない。*デリス*のなかに住んでいるから移動しなくてもよい。

57-248　移動の範囲　(70)4-79

草の都合によってかなりうごく。ベーリン・スムまではゆかないけれど，ゴーリン・ホトクのあたりまでゆくこともある。

57-249　*メーリン*［梅倫。書記官吏］の移動　(45)3-23

彼は家畜をだいぶんたくさんもっている。春，夏，秋の3回うごく。ガルサンの家のとなりにあった，りっぱな家畜囲いの施設は，彼の春営地である。

57-250　移動の場所　(89)6-54

夏営地，冬営地は，毎年一定していない。去年のとおなじところとはかぎらない。

57-251　移動　(98)7-19
むかし小さいとき，オラン・シャントとベーリン・スムの近所をうごいていた。
57-252　移動　(77)7-4
１年に２回うごいている。いま，夏営地にいる。夏営地と冬営地。毎年どちらもおなじところにゆく。
57-253　移動　(97)6-85
メーリンにいたときには，１年に３度うごいた。冬営地，夏営地，秋営地があった。
57-254　移動　(96)6-81
いま，秋営地にいる。春営地，夏営地はこの秋営地におなじ。冬営地は南にある。*デリス*のなか。
57-255　移動　(95)6-78
むかしからこの場所で，*デリス*のなかとそとを行ったりきたりしている。よそのところへ移動したことはない。
57-256　移動　(93)6-65
シリン・チャガン・オボにいたころは，１年に幾度となく移動した。草がなくなれば，ここにひと月，あそこにふた月とうごきまわっていた。草のはえかたはここととおなじ程度。
57-257　移動　(93)6-65
ここへは４月にきた。いま秋営地にいる。秋営地と夏営地はおなじところ。やがて冬は冬営地へゆく。冬営地と春営地はおなじ。
57-258　移動　(89)6-54
例年は年に２回の移動。ことしは年に３回の移動。夏営地，秋営地，冬営地。
57-259　移動　(29)1-54
いま，夏営地にいる。９月に冬営地にゆく。東のほう，３*ガザル*［1.5km］。ダフチン・アムバ［アムバは総監］のとなり。
57-260　移動　(35)2-35
夏営地，冬営地の区別なし。草が豊富で，移動の必要なし。
57-261　移動　(50)3-51
いまは夏営地にいる。近いうちに冬営地へゆく予定である。冬営地はごく近くにある。
57-262　移動　(51)3-62
いま，夏営地にいる。冬営地は南のほう，近いところにある。
観察：冬営地を見に行った。つい近くにある。施設は何もない。羊糞が半円形に積みあげてあるだけ。※
57-263　移動　(51)3-62
いま夏営地にいる。冬営地は南のほう，近いところにある。

57-264　移動　(66)4-66
１年に４回うごく。秋営地，冬営地，春営地，夏営地。ことしは春営地がなかった。１月に冬営地にいた。春は，うごかなかった。４月に夏営地にきた。ひと月まえに，秋営地にきた。冬営地は東のほうにあった。
57-265　移動　(78)5-26
１年に４回移動する。その場所は毎年一定していない。
57-266　移動　(73)5-22
１年に４回。ただし，春営地と秋営地はおなじところ。
57-267　移動　(70)4-79
１年に４回うごく。春夏秋冬。冬営地として２か所が決まっているほかは，位置は決まっていない。草の都合によってかなりうごく。

移動の経歴

57-269　移動の経歴　(257)13-43
去年の冬営地は，オスヌン・ゲル，ホーブル。きょうの砂丘をちょっと越えたところ。春はチャガン・バイシン。きょうの道のなかば，東のほう。夏はハラート。きょうのオボのあったところ。10月にチャガン・バイシンの近所。10月にチャント。いまの位置。
57-270　移動の歴史　(256)13-38
去年の冬営地はアラシャント・ホトク。３月に少し南にうつった。１*ガザル*もない。４月に，マンカチン・シャントへ。ここから近い。１*ガザル*くらい。６月に，ボラク［泉の意］にきた。アラシャントの東１*ガザル*。９月にここへきた。
57-271　移動の経歴　(192)9-68
去年の冬にここにいた。３月にゴルブン・ガシャート。５月にタブン・ホトク。６月にドート（南）。８月にタブン・ホトク。10月にここへきた。
57-272　移動の経歴　(223)10-30
去年の冬営地はジャプサル。そのつぎ，春にマンダルト・スムの近所。そのつぎ，西のほう，ダリビン。そのつぎ，マンダルト・スムの付近。そのつぎ，いまのところ。
57-273　移動の歴史　(248)12-85
ここで生まれて，むかしからずっとこの場所を移動している。
57-274　移動の経歴　(251)13-3
去年の冬営地はザンゴート。夏，ダライ・チョルジン。10月にウイトィン・ボーズ（南のほう）。20日まえにジャミン・ウブルジュー［冬営地］。
57-275　移動の経歴　(255)13-11
ことしは２回の移動であったが，例年は４回である。ザンゴートに春営地，夏営地，秋営地の３つがある。

57-276　移動の経歴　(255)13-11
去年の冬営地はここ，ボンブシャルブ。２月に夏営地，ザンゴート。９月21日にここ，冬営地に。(例年は，ザンゴートに秋営地もあるのだが，ことしだけ，とくに秋営地もこの近所になったのだ。)
57-277　移動の歴史　(180)9-14
まえは東スニトにいた。去年の冬，西スニトに行った。ことしの春また，ここ東スニトにきた。それ以来ここにいる。
57-278　移動の歴史　(179)9-13
まえはシャル・ボクにいた。去年の冬，西スニトにきた。ことしの春，ここ，東スニトにきた。それ以来ここにいる。
57-279　移動の経歴　(138)8-61
あまり遠くには行っていない。この近所をまわりあるいている。ここには，まえにもきたことがある。
57-280　移動の歴史　(137)8-41
去年もこの付近でまわっていた。一昨年もダボス，バローン・エリゲンのあたりをまわっていた。
57-281　移動の歴史　(136)8-14
むかしから，この近所でうごきまわっている。
57-282　移動の経歴　(189)9-43
去年の冬，トグロクにいた。３月にオール・カショーン。５月にホレー・ノール（いまの位置の近所)。９月25日にいまの位置（ショールフト)。もう２～３日したら，ホロート（少し東のほう）へうごく。
57-283　移動の経歴　(186)9-32
去年の冬営地は南のほう，オーリン・ホトク。それから，春２～３月ごろ，その付近にいて，それから，５月にガンツ・ホトクにいき，それからつい20日まえにここ（ゴルブン・ガシャート）にきた。
57-284　移動の歴史　(185)9-30
夏もこの近所にいた。それから，この西にうつった。それから９月にいまの位置にきた。
57-285　移動の経歴　(185)9-30
去年の冬から，この近所をぐるぐるまわっている。３～４回うつった。
57-286　移動の経歴　(184)9-26
去年の冬は，ハトノ・ボーズ。それから，ヤルガイト。それから春に東スニト。それから９月にヤルガイト。
57-287　移動の経歴　(183)9-25
まえはホンゴル（北のほう）にいた。それから，ことしの春，東バインに行った。それ

以来，ニマ（182）と一緒に移動している。
57-288　移動の経歴　(182)9-23
去年の冬営地は，スール（東バイン）。それから東バイン付近。それから東バイン。それから8月にゴルブン・ガシャート。それから9月にヤルガイト。
57-289　移動の歴史　(72)5-3
むかしはジャラン・スムにいた。ベール王が来いと言ったので，ここへきた。ベール王のヒツジ飼いをしている。
57-290　移動の経歴　(27)5-71
もとは，正白旗にいた。正白旗からこの粛親王府にきた。タリャーランに来てから7年になる。そのまえは，まえ［南］に見えている砂丘の向こうに住んでいた。
57-291　移動の歴史　(50)3-50
ここへきたのは8～9年まえのことである。それまではチャガン・ノールにいた。
57-292　移動の歴史　(62)4-44
むかしから，ここに住んでいる。
57-293　移動の変遷　(369)20-42
むかしは，移動するか，またはオトルに出る家もあった。
57-294　引っ越しの変遷　(297)17-24
いまでも，むかしも引っ越しをする家がある。

場所決めと羊糞の関係

57-296　場所決めと羊糞の関係　(257)13-43
場所決めは，毎年，一定していない。一定していないから，羊糞のホローがない。

場所決めとアイル

57-298　場所決めとアイル　(137)8-41
場所を決めるには，もしアイルにゆきあたれば，そこに腰をすえてもよいし，1軒だけでそこに居をかまえてもよい。
57-299　引っ越しとアイル　(189)9-44
9月にここへ引っ越してきたときには，ほかのアイルは1つもなかった。
57-300　引っ越しとアイル　(189)9-46
ここは，アイルがたくさんあって，ウシやラクダが多いので，夜ごそごそあるくので，ヒツジが安眠できない。それで，2～3日したら，ホロートへ引っ越す。
57-301　場所決めとアイル　(93)6-68
この地を見て，ここには水もある，アイルもある，ここがよいと思って，ここに決めた。
57-302　場所決めと近所　(93)6-68

ここに場所を決めたのは，ここにまえからの知人があるからではない。ここに場所を決めるについては，別にまえからいる近所の人に相談をもちかけなかった。ここに勝手にいすわることに決めたのである。モンゴルの土地である。何も近所のアイルの土地ではない。

引っ越しと家畜

57-304　引っ越しと家畜　(257)13-45

４年まえ，外モンゴルから家畜を連れて逃げてきた。ラクダ40～50頭。ヒツジ，ヤギ100頭くらい連れてきた。ウシ，ウマはのこしてきた。

57-305　引っ越しと家畜　(257)13-44

４年まえ外モンゴルから引っ越してきた。家畜は，全部はもってこなかった。少しもってきた。ウシは追うのに自由がきかないので，おいてきた。ヒツジは自由に追いたてることができるので，みな連れてきた。

57-306　馬群と引っ越し　(99)7-30

ジョクスンスルンは，馬群をあずかっている。ことし，つい先ごろ，メーリン・ホトクからサイン・ホーブルへと引っ越して行った。馬群を連れて引っ越して行った。

場所決めの偵察

57-308　場所決めの偵察　(89)7-7

アタカが，草がなくなってしまったので，グーニー・スムを見に行った。そこは，草がよいとおもったので，そこへ引っ越した。

57-309　場所決めとヒツジ　(71)6-90

移動先を決めるときに，いろいろ草の条件などをかんがえるが，そのときには，第１にヒツジのことをかんがえて決める。

57-310　場所決め　(84)5-89

ことしの冬営地は，どこへゆくかわからない。みんなで相談して決める。ラマに相談して決めてもらう。ベーリン・スムのシャブルンに相談する。また，マーワン［馬王］に相談する。マーワンはラマである。こちらから相談にゆく。このあたりの人はみなだれでもラマに相談する。

57-311　引っ越し先の決定　(86)6-7

営地の決定は，ラマに相談する。ベーリン・スムのシャブルンに相談する。

57-312　場所決め　(93)6-68

こちらをさして引っ越してくる途中，この土地を通りかかったとき，ここを見て，ここには水もある，アイルもある。ここがよいと思って，オヨンはここにいすわることに決定した。ラマには相談しなかった。

57-313　場所決め　(137)8-41
移動の場所を決めるには，ものをラクダに積みこんでしまって，あるきまわりながら，どこかよいところがないかと草を見てまわる。
57-314　場所決め　(137)8-43
移動の方向については，別に偉いラマに相談することはない。その方角はあらかじめ自分で決めてから，出発するのである。
57-315　場所決め　(137)8-41
いまの場所には，まえにもきたことがある。
57-316　場所決め　(257)13-43
場所決めは毎年，一定していない。

井戸

水汲み

54-7　水汲み　(387)24-36
水道子は各家にそなえつけている。中国ふうの模倣に絵をつけてある。

井戸の所有権

54-2　井戸の所有権　(387)24-14
集落全部の寄付をあつめて井戸をほった。だから，この井戸の所有権は集落全部である。しかし，お金を出しても，出さなくても，井戸をつかう権利はある。
54-3　井戸ほり　(387)24-14
南ワーヨの井戸。①は，むかしからある。②は，去年ほった。③は，集落の寄付でほった。
54-4　井戸　(387)24-13
①の井戸はむかしからあった。水がわるいので，②をほった。去年ほった。これも水がくさい。③は，集落全部の寄付金であつめてほった。所有者は集落全部。
54-9　井戸の所有権　(341)18-27
チェールテ・ゴルの井戸の所有権は決まってはいない。ただ③の井戸だけは，(341) の所有である。(ほかの家はこの井戸をつかっていない。)
54-10　井戸の所有権　(346)18-49
イントには3つの井戸がある。所有権は決まっていない。いまつかっている人が所有者である。ふるくからある井戸だ。

井戸の修繕

54-12　井戸の修繕　(335)17-89

井戸は修繕したことがない。むかしからのまま。もし修繕の必要があれば，３軒の家が働いて修繕する。

オンゴチャ

54-14　*オンゴチャ*［井戸の桶］(335)17-89

井戸は，３軒で共同でつかっているけれども，*オンゴチャ*はスルンドルジのものである。［図譜59，60］

雪と井戸

54-16　雪と井戸　(189)9-52

井戸は，ゴルブン・ガシャートの井戸をつかうのであるが，雪がふってからは雪でやってゆく。井戸はつかわない。

54-17　井戸と雪　(248)12-88

ここの井戸はつかっていない。雪がなければこの井戸をつかう。

井戸と家

54-19　井戸と家　(248)12-89

マイテン・ホトクには井戸はある。家はない。冬にも夏にもない。

54-20　井戸と家　(248)12-89

冬営地のドスグネにも井戸はある。

井戸ほり

54-22　井戸ほり　(45)3-20

おととし井戸を１つほった。15円もらった。去年はほらなかった。ことしの春２月，メーリンの井戸をほった。25円もらった。われわれの隊の牛車をひいてくるまえは，ヌクセン・ゴルのナムジルの家で井戸をほっていた。まだできあがらない。その報酬もまだ決まっていない。

54-23　井戸ほりの技術　(45)3-20

井戸ほりの技術はだれにもおそわならい。自分１人でその技術をおぼえた。井戸ほりはだれにでもできる。

井戸の水

54-25　井戸の水　(84)5-83

ことしの夏は，このオラン・シャントは井戸の水がでなかった。この近所のどこにも，家がなかった。

54-26　井戸の水　(87)6-16
夏は，この土地は井戸の水がでない。

井戸
54-28　井戸　(278)15-71
汽車公司［バス会社］の井戸。みんながつかう井戸。もう１つ北の井戸。（これはいま水がない。夏には少し水がある。）
54-29　井戸　(310)17-54
チャガン・ハダには井戸が２つある。１つは飲料水。１つは家畜，人間の兼用の井戸。（これは，夏は水があるが，冬は水が少なくて凍ってしまう。）
54-30　井戸　(189)9-52
井戸はゴルブン・ガシャートの井戸をつかう。雪がふってからは雪でやってゆく。井戸をつかわない。
54-31　井戸　(255)13-12
ザンゴートには井戸が２つある。
54-32　井戸　39-44
井戸（オングチン・ホトク）には，氷がはっていた。氷をわったら硫化水素のにおいがした。しかし，これを煮沸したら，少しもにおいがしなかった。
54-33　井戸　(181)9-15
バガ・オボの冬営地にいる。井戸は東スニト［旗の中心地］のをつかう。
54-34　井戸　(182)9-21
ヤルガイトにいる。ここには井戸がない。井戸は東スニトのをつかう。
54-35　井戸と冬営地，夏営地　(99)7-29
冬営地においても，夏営地においても，井戸はこのメーリン・ホトクである。１年じゅうおなじ井戸の水をつかう。去年も１年じゅうこの井戸の水をつかっていた。この井戸の水をつかいだしてから10数年になる。
54-5　井戸　0-47
家畜に飲ます水に，井戸は草原ではつかうが，砂漠では湖がおおいから井戸をつかわない。
89-202　家畜と井戸　(341)18-27
夏も，家畜は井戸の水を飲む。ヒツジもウシも。川の水は飲まない。

草・牧野
48-2　牧野とえらびかた　0-46〜47
粛親王府にて。牧野のえらびかたについて，草，水，地形と家畜の種類との関係につい

て。
48-3　草のはえかた　(387)23-81
草。*ヒャアグ*。山手の草の伸びかたがよいときにはヒャアグは少ない。
48-4　草と家畜　0-47
ウシによい草は，*オロン*，*ソリ*，*ヒャアグ*，*シャル・ボルガース*（*シャル・ショガイ*）
48-5　草と家畜　0-46
ヤギによい草は，*シャボグ*，*エムゲン・シルブ*，*エイグ*（*アイグ*），*ハルグナイ*（黄花），ニレの葉，ヤナギの葉。
48-6　草と家畜　0-46
ヒツジによい草は，*シャボグ*，*エイグ*，*エムゲン・シルブ*。これは砂漠にある。
48-7　草　0-46
砂漠の草は，*シャボグ*，*エイグ*またはエイギ。草原の草は，*ヒャアグ*。
48-8　草の種類　(387)23-81
乾草にはもちろんヒャアグがよいが，その年によってもちがう。山手の草の伸びかたがよければヒャアグは少ない。
48-9　草と家畜　0-46
ウマによい草は，*ヒャアグ*，*エイグ*，*シャボグ*。

砂漠

48-11　砂漠　(257)13-46
外モンゴルから逃げてきた。その途中に何にもはえていないところがわずかあった。また，*オラン・ボットルガン*だけで，ほかに何もないところを２日ぐらい通った。
48-12　砂漠　(257)13-46
４年まえの９月，未の年，外モンゴルからこちらへ越境してきた。途中，まだ外モンゴルの領域のなかに何もはえていないところがあった。そんな土地はごくわずかであった。

雨と草

48-14　雨と草　(360)18-68
いまでも雨が少なくて，草がわるい年はうごく。
48-15　雨と牧畜　(255)13-26
夏は雨が多くふるほどよい。秋の雨はだめ。地面がこおって寒くなる。

雪と草

48-17　雪と草　(360)18-68
ことしは，雪は多いが草はよい。

48-18　草と雪　(255)13-28
草は，冬の雪の多い少ないには関係がない。夏の気候で変わるのである。
48-19　草と雨　(255)13-25
ことしは雨がちょうどよいくらいふった。
Bolčeer yamar wə? Ubus sain!［モンゴル語で，牧野はどう？　草はよい！の意。Belcheer yamar we? Öbs sain!］

過放牧

48-21　overgrazing　(373)20-29
［過放牧］明安旗の家がここへ来てから，その後，家が増えたので，草がだんだんわるくなった。伸びるひまもないうちにみんな食ってしまうのだ。

遠牧

89-191　家畜の行動　(387)23-82
夏の家畜というものは，そう遠くへ行くものではない。だから，遠くへさえ行けば草はある。

草

48-23　草　(341)18-27
10月15日の吹雪でこのあたりで家畜の死んだ家はない。このあたりは草がよい。
48-24　草　(360)18-65
草がよいから移動しなくてもよい。
48-25　草　(273)15-36
ここは草がわるい，としきりにいう。
48-26　草　(275)15-41
14年まえまでは徳化にいた。徳化にくらべてこのあたりは草がわるい。こちらへ来てからは草がわるいので家畜が減った。
48-27　草　(297)17-24
ここは草がよい。包をもって*オトル*に出てゆくようなことは，このあたりではない。
48-28　*ボットルガン*　(245)10-72
*ボットルガン*の大きいものは固定家屋くらいの大きさがある。
48-29　*ボチモグ*　(251)13-6
スンディーの家のなかのカシャー。ハナ［壁］に*ボチモグ*（ニオイヨモギに類似した草）と*ヒルガナ*とを束にしてくくりつけてある。
48-30　草　(98)7-27

シリン・チャガン・オボのほうはこのあたりよりも草がわるい。地面がかたい。*チョロータイ*［石がある］だ。草はどんな草でもあるが，みな短い。

48-31　草と天候　(136)8-12

ことしは草がわるい。ことしは雨が少なかった。

48-32　草の名まえ　6-62

ヒルガナ（ヒメハネガヤ，*ノゲハネガヤ*），*ハジャール*（シナガリヤス），*ハムハグ*（*Aster altaicus*），*アエグ*（*Artemisia frigida*），*ボチモグ*（*Artemisia campestris*），*テメーネイ・スール*（イトノヤマスゲ），*ブチンヌル*（ムヒョウソウ）。

48-33　草の名まえ　6-62

ウフル・ホムホク（*Atriplex*）

48-34　ハネガヤ　6-62

ヒメハネガヤもノゲナガハネガヤもどちらも*ヒルガナ*という名まえで呼んでいる。ヒメハネガヤがよく伸びたものがノゲハネガヤになる，という。

48-35　草の名まえ　6-88

ウイ・チャガン（ケハマムギ），*ウフル・スルヘイ*（チャハルでは*ウムヒー・シェレルチ*）（ニオイヨモギ），*オラン・ボットルガン*（コゴメギョリュウ），*シャル・モド*（チャハルでは*フルス*）（ダブス［塩］アツケシソウ），*ボル・ボットルガン*（シロサンゴ），*ボチモグ*（チャハルでは*ホルガン・シェレルチ*）（*A.campestris*）

48-36　*Stipa*　6-88

Stipa［ハネガヤの学名］の２種類は区別していない。

*シュベー*は穂。*ヒルガナ*は茎。

48-37　*ハルモク*　6 -88

正体はわからない。塩性の灌木。ツゲのごとし。ラクダだけが食う。［白刺科白刺属，和名なし］

48-38　*シャル・モド*　6-88

タイブスにて，アツケシソウ。ラクダがたいへんこのむ。ヤギ，ヒツジも食べるが，ほとんど食わない。

48-39　夏営地の草　6-89

夏営地としてはつぎの草があるところが適している。

フムール，*ゴゴト*（ニラ），*ターナ*。なければないでもよい。これらの草はヒツジに対して夏の栄養がよい。

48-40　秋営地の草　6-90

*ヒルガナ*の多いところがよい。これはどの家畜にもよい。夏にもこの草は栄養があるが，夏はほかによい草がたくさんあるから家畜はあまり食わない。

48-41　春の草　6-90

冬と春にはアイグがいちばんよい。アイグは冬でもいちばん枯れない。春にはいちばん先に芽がでる。ヒツジをおもにかんがえて。

48-42　ハネガヤ　6-91

ハネガヤとアイグは一緒にはえる。ゴビ地にはえる。ハネガヤとシロサンゴは一緒にはえない。ハネガヤとアツケシソウは一緒にはえる。

48-43　*Stipa* とヒツジ　6-91

Stipa［ハネガヤ］の大きいのはわるい草である。穂が羊毛のなかに入って肉にささる。食べものとしてよいのは，下の葉っぱである。

48-44　ハネガヤ　(S)6-91

ヒルガナはヒメハネガヤ。ノホイ・シュベーはノゲナガハネガヤ。

これはチャハルの呼びかただという。S の話。ヒルガナは山のうえにはえるという。

48-46　草の名まえ　6-92

オスルによれば，ウイ・チャガンというのは 1 つの植物の名まえではない。禾本植物［現在ではイネ科という］の先に長く伸びている穂のことである。だから，ウイ・チャガンはハネガヤ類の穂にでも適用できる。穂の先に出ている棒がシュベーである。下の葉っぱがヒャアグである。

48-47　ヒャアグ　(73)5-23

乾草にするにはヒャアグがいちばんよい。

48-48　草のはえかた　(73)5-23

ことしはヒャアグが少し少ない。

48-49　スム現象　4-56

バイン・エルテ・スム。スム［寺院］付近はおそろしく grazing されている。まもなく，禾本を主とする，かなり伸びのよい草原になる。はじめの惨憺たる草原で，これから北へ行ったら，どこまでもこんなものだろうと今西さんは言っておられたが，そうでもなく，どんどん草はよくなった。

48-50　天候と草　(41)2-84

ことしは雨がよくふった。ことしは草がよい。これ以上，草のよい年はない。

ゴビ

48-52　ゴビ　(245)10-72

ゴビというのは草の名まえである。

野火

48-54　野火　(360)18-69

むかしは野火があったが，いまはない。10数年まえにあった。1 年に 2 ～ 3 回あったこ

ともあり，ないときは少しもない。
48-55　野火と家畜　(360)18-69
野火のあった年，別にたいしてこまらなかった。
48-56　野火の原因 (360)18-69
野火の原因は，ヒツジ飼い，ウシ飼いなどのたばこの火がおもな原因であろう。
48-57　野火の季節 (360)18-69
野火が多いのは秋である。
48-58　野火と草　(360)18-69
野火で燃えたあと，ヒャアグのあとには，またヒャアグがはえる。
48-59　野火の対策　(360)18-69
このあたりは集落があつまっているから，野火が出ても村じゅう総出で，スコップで土をぶっかけて消してしまうから大事にはいたらない。
48-60　野火の被害　(360)18-69
野火が出ても第1佐［佐は人頭支配の行政単位。モンゴル語でソム］，第2佐の牧野がまるやけになったなんていうことはない。燃えても少しである。
48-61　野火　(137)8-54
野火はない。
48-62　野火　6-93
このあたりには野火はまったくない。タムチン・タラに火が出たことはない。
48-63　野火と罰　(S)6-93
もし失火とすれば，とらえられて罰せられる。意識的に火をつけるというようなことはまったくない。Sの話。

踏みつけ

48-65　tramping　0-52
群れの大きさは（ヒツジ），どれだけ大きくてもかまわない。最大1,000頭でも遊牧ならかまわない。しかし，群れが大きくなると，tramping［踏みつけ］によって草がいたむ。しかし，1,000頭でも技術的には可能である。

天然現象

吹雪

50-3　吹雪　18-8
10月15日の吹雪で西スニト，アトーチンあたりのウシがどんどん風にふかれて，廂黄旗［モンゴル語ではホボート・シャル。チャハル盟］あたりまできたのがある。
50-4　吹雪　(341)18-27

10月15日の吹雪で家畜は死んでいない。
50-5　吹雪　(272)15-10
10月15日の吹雪でウシがみんなどこかへ行ってしまった。当歳子ウシだけがのこっている。
50-6　吹雪　(272)15-14
吹雪の日（10月15日）に，ヒツジは無事に帰ってきた。しかし，そのときヒツジがだいぶん死んだ。帰ってからカシャーのなかでずいぶん死んだ。10頭以上死んだ。
50-7　吹雪　(273)15-33
10月15日の吹雪でウシが全部逃げた。そしてメスウシが１頭死んだ。ほかの家畜は廂黄旗のホンゴル・スムで見つかった。まだ３歳ウシが２頭みつからない。
50-8　吹雪　(273)15-33
10月15日の吹雪でヒツジは死ななかった。
50-9　吹雪　(275)105-43
10月15日の吹雪でウシが死んだ。メスウシ１頭，当歳子ウシ２頭，３歳ウシ１頭。
どこへも逃げてゆかなかった。草がなくて死んだのである。１度に死んだのではない。14日から雪がふって，いつのまにか死んだ。天気がよくなったときにはもう死んでいた。ウシはホローのなかに入れていていたのだが，そのなかでも死んだ。そとで死んだものもある。
50-10　吹雪　(277)15-60
10月15日の吹雪でヒツジが全滅した。
50-11　吹雪　(267)41-86
ことし，12月15日のとき，ヒツジの群れがゆくえ不明になって一晩帰らなかった。その１日で20頭以上死んだ。
50-12　吹雪　(266)14-69
10月15日の吹雪でヒツジ飼いの漢人とともに羊群がいなくなってしまった。迷ってよその家（ラプトンドルジ）にたどりついて，そこで３日間帰れなかった。(グー・ホトク，ガシャートのあいだのあたり，グー・ホトクの近所)。

大風

50-14　大風（266)14-62
10月15日の風で牛車用のウシがどこかへ行ってしまった。さがしてもいない。
50-15　風向き　39-70
ゴーリン・ハシャートに着いた日からかぞえて11日のあいだ，ずっと南よりの風がふいている。ふしぎな現象だ。
50-16　季節の区分　(51)3-64

夏は４～６月，秋は７～９月，冬は10～12月，春は１～３月。

気温

50-18　気温　(255)13-28
ことしは少し寒い。

雪

50-20　雪　(360)18-68
ことしは，雪は多いけれども草はよい。
50-21　雪　(267)41-88
去年，おととしは雪が少なかった。ことしは雪が多い。
50-22　雨　(267)41-88
ことしは，雨は，はじめはよくふったが，あとになってふらなかった。例年よりわるい。
50-23　雪　(255)13-28
冬に雪の降らない年もまれにはある。
50-24　雪　(255)13-28
去年，一昨年と雪はおなじくらいふった。ことしも。ことしは少し寒い。
50-25　大雪　(255)13-26
亥年には大雪がふった。
50-26　大雪　(192)9-67
亥年の大雪害のとき，ここにいた。高いところでは１尺ぐらい。低いところでは人の膝ぐらい雪がつもった。
50-27　大雪　(193)40-32
８年まえの大雪のときは一晩でふったのであった。（陰暦の11月？）
包の入り口がうずもれて，ウシの角だけが出ていた。
50-28　雪　(255)13-13
ことしは雪が多いので，例年なら乾草はことしの当歳子ウシには食わさないのだが，ことしは食わせた。
50-29　雪　(189)9-43
ことしは雪が多い。
50-30　雪と風　(98)7-28
タムチン・タラのまんなかは大雪のときでも風が雪をふきとばしてしまうので，草が出ている。
50-31　大雪　(189)9-42
亥年の大雪。高い土地では１尺ぐらい。低いところは２歳子ウシが雪のなかにうずまっ

て見えなくなった。
50-32　大雪　(137)8-47
亥年に大雪がふった。30㎝くらいつもった。去年の冬は４㎝くらい。
50-33　初雪　(103)39-3
初雪は８月14日。去年は８月21日くらいであった。
50-34　大雪　(89)6-51
ここはたいして雪がふらない。せいぜいで30cmくらい。ネルンパラムの知っている範囲では１度だけそれくらいふった。８年まえのこと。
50-35　雪のふりかた　(70)4-86
年によると，雪がぜんぜんふらないときがある。ふつうは２～３㎝つもる。せいぜいで５㎝くらい。11年まえの大雪害のときは40㎝ほどつもった。
50-36　雪害と雪　(70)4-86
11年まえの大雪害のときには，10月から翌年の１月の中旬まで雪がふりつづいて，かたい雪が40㎝もつもった。

蜃気楼

50-38　蜃気楼　7-74
キャンプから１つ峠をこえようとしたら，すでに目のまえにダライ・スムのうつくしい姿が浮かびあがって見えた。ところが，ダライ・スムの姿は蜃気楼であったらしく，行ってみるとずいぶん遠かった。

3. 経済

生産経済

迷いウマ

80-3　迷いウマ　(32)21-46

ことしの5月に迷子の子ウマを1頭ひろった。

ヒツジをもらう

80-5　ヒツジをもらう　(288)16-62

民政科長からヒツジをもらった。働いてもらったのだ。殺した。

80-6　ただのヤギ　(45)3-25

五台山から派遣された寺のために，家畜の寄付をあつめてまわる役目の人（これをオテ・アムブという）で，正藍旗の出身の人から，ただで当歳子ヤギをもらった。どこの家でも，よい家畜はこんな寄付に出さない。だから痩せてだめなのが多い。そのうちで1頭をもらった。育てて2歳にして借金のかたにした。

80-7　もらいヒツジ　(48)3-36

もともとヒツジをもっていなかった。友だちや親戚からヒツジのわるい子どもをもらって来て，それを育てる。それでわざわざ人がついて行って追うほどのよいヒツジがいないので，羊群には人がついていない。

ブローカー

80-9　ブローカー　(273)15-34

バルジョールは，夏は塩のブローカーをしている。スニトの人から塩を買って，それをシンディーの漢人に売る。去勢オスウシはそのため（移動用役畜）にもっているのだ。ことしは夏は病気でその商売ができなかった。

80-10　ブローカー　(273)15-35

バルジョールは，去年の夏は塩のブローカーをした。去年は1台売っただけである。この商売をはじめたのは一昨年から。一昨年，やはり1回，売った。7～8斗を売った。

80-11　ブローカー　(275)15-46

まえ，徳化に住んでいたころには，家畜を人から買って，それをまたモンゴル人に売ってもうける商売をしていた。いまはそれをしていない。

80-12　ブローカー　(277)15-64

少しマイマイをする。塩など。ことしも少しマイマイをした。

80-13　ブローカー　(287)16-56

家畜の取り引きはしない。
80-14　ブローカー　(295)17-33
ダライは，もとは漢人のマイマイ。ここに住み着いてからはマイマイをしない。家畜のマイマイをしない。
80-15　博労　(267)41-87
トゥムルタイ［商都］との取り引きは，秋に家畜を先にやっておいて，あとで粟，麺類などを取りに行く。家畜を先にやっておくのは，そういう仲介をするモンゴル人がいるのである。(チャハルにもそんな人がいるという，Sの話。)
80-16　仲買　(269)14-92
シャルブの妻の父は，塩の仲買をして，一家を支えている。ダウス［塩］は近所にない。それで塩，ホジル［ソーダ］を人から買ってきた。それを車に積んで漢人に売って利益を得ていた。

家畜の売り買い

80-18　家畜の売り買い　(387)24-24
家畜の売り買いは，旗のそとに出すときには旗公署の許可がいるけれども，旗の中では闇値（時価）で売り買いしてもよい。
80-19　家畜の売り買い　(255)13-22
屠殺するウシを買った。これはただの売り買いではなくて，家畜の供出のとき，たくさん取られた家に，少ししか出さなかった家からまわすのである。これは，旗公署の口聞きである。

子どもに家畜

80-21　子どもに家畜　(275)15-42
当歳子ヤギが1頭。これは，ことし5歳になる男の子のために，ことしの10月に買ってやったものである。
80-22　子どもに家畜を買う　(276)15-57
ヤギが1頭いる。子どものために買ってやったもの。子どもの遊び相手である。別に財産として積み立てておくというような意味のものではない。

家畜を買う

80-24　家畜を買う　(387)24-23
賦役のウシをソムの共同出資で買って，それをさし出した。
80-25　家畜を買う　(61)21-52
去年はメスウシ4，当歳子ウシ3であったが，ことし，ダルヒン・スム，コショー・ス

ム［旗の寺］から現金でメスウシを２頭買った。１頭150円。ほかに屠殺するためにもう１頭買った。やはり150円。
80-26　家畜を買う　(61)21-53
ラクダを２頭買った。１頭は去年。１頭はことし，買った。
80-27　家畜を買う　(276)15-54
２頭のメスウシはむかしからあった。買ったものではない。
80-28　家畜を買う　(295)17-31
ダライ，漢人の帰化人。マイマイをしていたときに，300円ばかりお金を貯めた。最初にウネー［メスウシ］を買った。ヒャザーラン・トガルタイ・ウネー［３歳のメスウシとその当歳子ウシ］を買った。
80-29　家畜を買う　(189)9-43
去年，ことし，ともに家畜を買っていない。
80-30　家畜を買う　(89)6-48
家畜の買ったものは，ことしも去年もない。

家畜を売る
80-32　家畜を売る　(341)18-31
オスウシ２頭，ホリシャ［購買販売組合］に，５月。ウシ１頭700円，あわせて1400円。お金はくれた。
80-33　家畜を売る　(341)18-31
ヒツジ15，１頭につき200円，ホリシャに，７月。
80-34　家畜を売る　(32)21-46
ことしの７月にヒツジを25頭，旗公署へ売った。代金は未払い。
80-35　家畜を売る　(61)21-53
ヒツジ10，１頭50円。ヤギ３，１頭30円。
80-36　家畜を売る　(275)15-46
秋にメスウマを１頭売った。10歳。デムビーというモンゴル人に売った。
80-37　家畜を売る　(266)14-64
去年，徳王のところへウシ（シュドレン）を１頭売った。200円。
80-38　売った家畜　(192)9-66
去年，ウシを売った。４歳以上のを４～５頭。ホリシャへ売った。
80-39　家畜を売る　(255)13-17
なし。
80-40　家畜を売る　(86)6-12
ことしの８月にベーリン・スムのラマのハエト・デムチに雄ウシを１頭売った。食べも

ので支払いを受けた。いくらだったか，値段そのほかの詳しいことは主人が知っている。
80-41　家畜を売る　(60)5-74
家畜はヒツジを毎年売るが，数はわからない。
80-42　家畜を売る　(70)4-80
ウマ10頭くらい売った。ホリシャに。これは向こうから人が来て買ってゆくからお金がとれる。これはもうお金がきた。（1頭300円くらい）
80-43　家畜を売る　(70)4-80
最近，ウシを7～8頭ホリシャへ売った。これは向こうから人が来て買ってゆくからお金がとれる。これは最近もっていったので，まだお金はもらっていない。
80-44　家畜を売る　(89)6-41
最近，西スニトのホリシャからヒツジを買いにきたので，30頭を売った。ホリシャからであるけれども，これは向こうから買いにきたので，まったく自由意志による取り引きである。1頭100円として粟，麺類［小麦などの粉類］などでちゃんと支はらってくれた。こちらからホリシャへ行って品物を取ってきた。
80-45　家畜を売る　(77)7-3
毎年，子ウシが生まれるが，みなオオカミが食ったり自分が売ったりしてしまった。去年の当歳子ウシはベール王に売った。その代わりに綿布をもらった。
80-46　家畜を売る　(99)7-34
売った家畜なし。
80-47　家畜を売る　(189)9-39
ことし，ウマ2，去年，ヒツジ40。いずれもホリシャに売った。お金は現金でもうもらった。（供出とはっきり区別している。）
80-48　家畜を売る　(62)4-38
ことし，3歳メスウシを1頭売った。150円。代金は茶12枚とお金40円をもらった。
80-49　ヒツジを売る　(70)4-80
ことしは，200頭くらいヒツジをホリシャへ売った。いままでに1銭もくれない。
89-198　ヒツジの値段　(341)18-31
いまのヒツジの相場は，ホリシャで売ったら1頭500円。
89-212　家畜を売る　(61)21-55
われわれの調査隊にヤギを2頭売った。1頭130円。
89-213　ヤギの値段　(61)21-55
われわれの調査隊の買ったヤギの値段は，1頭130円。2頭買った。

家畜の取り引き

80-51　家畜の取り引き　(89)6-49

モンゴル人同士の取り引きはある。自分は売ったことがないけれども，売ったらいけないという決まりはない。
80-52　家畜の取り引き　(66)4-68
去年屠殺して食うためにヒツジを１頭買った。兵隊のアイルから買った。バターをやった。４斤。
80-53　家畜取り引き　(39)2-55
ウシ，５年まえに３歳のを買った。アドーノルトというアイルから買った。そののち当歳子ウシが生まれたが，病気で死んでしまった。

職をもとめて

80-55　職をもとめて　(67)4-74
ここへ引っ越してきたのは，ここでディンドゥーの仕事をさせてもらおうと思ってきたのである。ことしの夏は，ディンドゥーのヒツジの番をした。

パラサイト

80-57　パラサイト［居候］(341)18-26
家畜が少なくて，よその家の手つだいをしながら暮らしているアイルは，この集落には１軒もない。
80-58　パラサイト　(346)18-50
イントの集落。アイルの仕事をして暮らしているような家は１軒もない。皆，少ないながらも，それぞれ必要なだけの家畜をもっている。
80-59　パラサイト　(271)15-5
ジャンギのヒツジ飼いをしている。食料，着ものはジャンギがくれる。家族の食料，着ものもジャンギがくれる。月給はいくらか知らない。
80-60　パラサイト　(271)15-7
ジャンギのヒツジ飼い。食料は家族の分もみんなジャンギにもらうというのだけれども，それにしては，家のなかにある分量がちょっと多すぎる。
80-61　パラサイト　(273)15-32
バルジョールの兄の子（ゼー）のゴンチクは，ジャンギのウシ飼いをしていた。ジャンギの家で働いていたが，いまは背中が痛い病気になったので，家に帰って住んでいる。
80-62　パラサイト　(273)15-34
ゴンチクはジャンギのウシ飼いをして，小もの，麺類をもらう。ものがなくなったら行ってもらってくる。月給としては別に何もお金をもらわない。家族の食べものもジャンギがくれる。しかし，それは少しである。
80-63　パラサイト　(274)15-39

ゴンチクの家がどうして暮らしているのか，知らない。あちこちのアイルにたのんで暮らしているだろう。（ところが，そのゴンチクの家にまた，雇い婆さんが１人いることに注意。）

80-64 パラサイト (287)16-56

ラブランからここへ来てから３年になる。なぜここへ来たか？ 貧乏で家畜がないから，手つだいなどをして乳などをもらうために，ここへ来た。

80-65 パラサイト (287)16-56

仕事は一定していないが，たいていは民政科長の家で働いている。月給としては一定していない。食べものがあればもらってくる。夫婦２人の食べるものは全部くれる。

80-66 パラサイト (290)16-66

アリン・オスからこちらへ引っ越してきてから，３～４年になる。こちらで乳製品などにありつこうと思ってやってきたのだ。自分では家畜は何ももっていない。

80-67 パラサイト (290)16-67

ゲンドゥンの妻は民政科長の家畜の乳しぼりなどする。その代わりに乳をもらうのである。

80-68 パラサイト (297)17-24

となりのアイルは女ばかり。ここの家の雇い女である。人手がないので，乳しぼりに雇った。着ものと食べものをやる。１人１日，半斤ずつの粟と麺。

80-69 パラサイト (310)17-62

ゴージョ，ダンジン，ドゴルの妻たちは，アイルの乳をしぼるけれども，食べものなどはジャンギやヨンダの家からやるなどということはない。みんな各自のアイルにおいてホリシャで買う。

80-70 パラサイト (262)14-16

夏はアイルにたのんで牛乳をもらう。チョルンビルのアイル。ホジリン・ゴルのアイル。寺の家畜をあずかっているアイルなどにたのんで，牛乳をもらう。

80-71 パラサイトのパラサイト (262)14-16

ザトムは，ディヤンチ・ラミン・スムの炊事夫。夏はアイルにたのんで牛乳をもらう。寺の家畜をあずかっているアイルなどにたのんでもらう。

80-72 パラサイト (262)14-15

あちこち働いて暮らしている。いまは寺のトゴーナイ・フン［原義は「鍋の人」という意味で，炊事夫をさす。］である。

80-73 パラサイト (262)14-13

ザトムは，家畜が一つもない。チョルンビルの羊群を見はりに行く。また，寺から物をもらう。

80-74 パラサイト (107)7-58

食べものはあちこちのアイルの人にたのんでもらう。
80-75　パラサイト　(S)7-85
ヒツジを互い違いに縛っておいて，乳をしぼるとき，はじめのひとまわりはそのヒツジの所有者のものとなる。ふたまわりめに出た乳は，その手つだいの乳しぼりの女のものになる。Sの話。
80-77　パラサイト　(76)5-28
メスウシが1頭では食べものがたりない。毎日アイルにたのんで物をもらって食べる。アイルはどのアイルにたのんでもかまわない。
80-78　パラサイトと引っ越し　(76)5-30
ことしの春，ここに引っ越してきた。サンジ・デムチの家に寄生している。サンジ・デムチの家と一緒に移動する。
80-79　パラサイト　(71)5-1
ベール王から茶，粟をもらう。なくなればもらいに行く。必要な量だけもらう。だから，ホリシャへ行く必要がない。
80-80　パラサイト　(89)6-54
となりのアイルは母の実家，これはずっと一緒にうごいている。もう1軒のアイルは貧乏で，やっと暮らしが立つだけ。ことし，ここで一緒になった。
80-81　パラサイト　(95)6-82
メスウシ1頭では暮らしが成り立たない。働いてアイルから食べものをもらう。縫いもの，ヒツジ飼いなど。
80-82　パラサイト　(98)7-19
乳製品は，イムジルのアイルからもらう。布も茶も何もかもイムジルからもらう。ヒツジ飼いの代償として。
80-83　パラサイト　(98)7-26
バトモンフは，イムジルとは別に「xamaa uguei［関係ない］」。しかし，イムジルの家の手つだいをしなかったら，食べものがもらえなくなる。
80-84　パラサイト　(76)5-7
バトノインタイの家。サンジ・デムチの家のヒツジの番をしている。サンジ・デムチの家から牛乳などをもらって生活している。

手つだいの男

80-86　手つだいの男　(98)7-25
イムジルのうちは女ばかりである。移動のときにはバトモンフが力のかぎり働く。ほかにこんな関係の男はいない。男手の要るときには，だれでも適当にたのんでくる。バトモンフは常雇いである。

家畜番人の給与

80-88 家畜番人の給与 (268)14-86

ヒツジ飼い，ウシ飼いは着ものを与えて，そのほかに月に50円を与える。食べものも雇い主もち，馬群監視員は，着ものを与えて，ほかに30円と食べものを与える。

80-89 ヒツジ飼いの給料 (266)14-65

２軒の家の羊群をあわせて，共同で漢人のヒツジ飼いを雇っている。月給はあわせて１カ月に50円。（２軒が25円ずつ出す。）その実，25円やる代わりに，ことし毛皮を３枚やった。お金はぜんぜんやっていない！

80-90 羊番の給料 (262)14-13

チョルンビルのヒツジ飼いザトムには，お金を支給する。１カ月に100円もやるだろう，という。はっきりはわからない。

80-91 ヒツジ飼いの給料 (76)5-29

ダムディンツォーは，サンジのうちでヒツジ飼いをした。１月に20円という約束。茶３枚（１枚６円），シャツ１枚（24円）をもらった。そのほかに食べものはサンジの家の物を食べた。６カ月つとめた。お金は40円もらった。

80-92 ヒツジ飼いの給料 (89)6-48

漢人のヒツジ飼い。月給は80円。これは現金でも，また品物でも与える。こんどはガゼルの皮を与えた。

80-93 馬群番人の給料 (73)5-4

ヨンドンはベール王の馬群の番人をして，その礼として１年に３歳のウマを１頭もらう。もらったウマはもう５～６頭にもなるが，１頭も残っていない。みんなホリシャへ売った。

80-94 雇い人に家畜をやる (42)2-86

ポンスク，女の雇い人を１人おいている。この雇い人は，ポンスクの家畜のほかに，自分の家畜をもっている。メスウシ１頭，子ウシ１頭。このメスウシは去年の冬やったものである。この雇い人は４年まえからいる。

80-95 雇い人の給与 (25)1-39

漢人の雇い人は，ナワーとタルバン。着もの，食べもの，別に月50円。モンゴル人の雇い人は，ダムディンとヤンジマー。着もの，食べもの，別に月30円。

80-96 月給 (77)7-3

王の仕事をするが，食べもの，布などをもらうだけで，ほかに月給はもらっていない。もらう食べものの量も決まっていない。欲しいときにもらう。ふるい着ものももらう。

80-97 月給 (98)7-19

イムジルのヒツジ飼いをバトモンフの妻がする。その代わりに，物をもらう。そのほかに月給というものをもらわない。

ラクダ飼い

80-99　ラクダ飼い　(289)16-63

ロブスンは，元第７佐のジャンギの家のラクダ飼いをしていた。そのジャンギは最近死んだ。

80-100　ラクダ飼い　(270)15-1

若いときは，ラクダ飼いをしていた。

80-101　*アトーナイ・フン*［馬群の人］　(269)14-90

ジャンギの*アトーナイ・フン*である。オラン・ノールのシャル・ハダに行っている。*オトル*に。他の雇い人たちと一緒に。去年からなった。

共同のヒツジ飼い

80-103　共同のヒツジ飼い　(311)17-51

インフォーマント（311）（315）（316）は共同のヒツジ飼いが１人いる。ボルグトという男。ホンドルンの人。兵隊帰りの男。

80-104　共同の雇い人　(266)14-65

２軒が共同で漢人のヒツジ飼いを雇っている。月給は１月に50円。２軒が半分ずつ負担するのが建前になっている。毎日の食事は２軒の家で交代に食べさす。

89-244　共同の雇い人　(387)24-12

南ワーヨのヒツジはみんな一緒の群れにして，それにヤンゴルが１人つけてある。

89-245　共同の雇い人　(344)18-47

イントの村。家畜は，ヒツジは３つの群れに一緒にまとめている。各々の群れに共同の雇い人を１人ずつ雇ってある。全部漢人。

１つめの群れは（344）（345）（346）（347）。２つめの群れは（348）（349）。３つめの群れは（350）（351）。

89-246　共同の雇い人　(344)18-47

イントの*アイル*のウシは２つの群れにまとめてある。それぞれの群れに，共同の雇い人が１人ずつついている。漢人。

89-247　共同の雇い人　(373)20-32

ウシの群れの番は各*アイル*が交代で２頭につき１日の割で勤める決まりであった。いまは人手がたりないので，たいていは漢人を雇っている。ここもウシ飼いは共同の雇い人として漢人を雇っている。

90-12　共同の雇い人　(387)24-22

ヤンゴル。泊まり，食事はあちこちの*アイル*のまわりもち。月給とともに，各*アイル*のヒツジの数の比例配分による。

炊事夫

80-106　炊事夫　(268)15-81

漢人。五台山の出身。もう１人の漢人の子どもとは関係がない。

ヒツジ飼い

80-108　ヒツジ飼い　(341)18-2

漢人の雇い人，ヒツジ飼い。15歳。

80-109　ヒツジ飼い　(272)15-13

ことしの10月からヒツジ飼いが雇ってある。シンディーの漢人である。10月15日の吹雪のまえに雇った。

80-110　ヒツジ飼い　(268)15-80

漢人の子ども。夏には子ヤギ，子ヒツジを放牧する役。北京から来ている。

80-111　ヒツジ飼い　(286)16-54

民政科長のヒツジ飼いをしている。10数年まえにここに引っ越してくるときも，科長の家についてきたのだ。羊群はいま一緒にしている。

80-112　ヒツジ飼い　(288)16-59

主人は民政科長の家のヒツジ飼いをしている。冬ならヒツジを草のよいところへ連れてゆく。夏はこちら（科長の家）で仕事をする。

80-113　ヒツジ飼い　(290)16-66

ゲンドゥンはヒツジ飼いをしている。ボル・ダブスのほうへ行っていた。トゥムルジャルガルという人（第７佐の人）のヒツジ飼いをしている。

80-114　ヒツジ飼い　(312)17-60

ゴージョはヒツジ飼い，ウシ飼いなどをしている。いまはしていない。ここのアイルのヒツジ飼いをしていたこともある。ことしは衙門のホリシャへ出ている。

80-115　ヒツジ飼い　(313)17-61

ダンジンの弟は明安旗へヒツジ飼いに行っている。

80-116　ヒツジ飼い　(271)15-4

主人はジャンギのヒツジ飼いに行っている。

80-117　ヒツジ飼い　(267)41-84

２軒の家で１人のヒツジ飼いを雇っている。食料は２軒交代で出す。月に150円。食費は差し引かずに，現金や物で渡す。

80-118　ヒツジ飼い　(89)6-49

いま，漢人のヒツジ飼いがいる。数カ月まえから来ている。そのまえはモンゴル人のヒツジ飼いがいた。

80-119　ラクダ飼い　6-24

ドゴルは30歳。いま，ラクダ飼いをしている。
80-120　ヒツジ飼い　(67)4-74
ディンドゥーの集落へ引っ越してきたのは，ここでディンドゥーの仕事をさせてもらおうとおもったからである。ことしの夏は，ディンドゥーのヒツジの番をした。いまはディンドゥーの家にはヒツジ飼いがいる。ひと月まえにきた。それと交代した。
80-121　ヒツジ飼い　(71)5-1
主人のオスルは，ベール王のヒツジ飼いである。食料は必要なだけベール王からもらう。
80-122　ヒツジ飼い　(72)5-3
主人のワンジルは，ベール王のヒツジ飼いをしている。食料は要るだけもらう。
80-123　ヒツジ飼い　(107)7-58
若いときはアイルのヒツジ飼いをしたこともある。馬群の監視をしたこともある。

雇い女の家
80-125　雇い女の家　(61)21-51
同居人の女。この家で働いている。別に包を１つもっている。
80-126　雇い人の家　(291)16-69
ソンデーは，第３佐の人。民政科長の家の雇い人。本人は科長の家に住み込み，家族は自分の家にいる。
80-127　雇い人の家　(289)16-64
ロブスンは第７佐のジャンギの家に雇われている。そちらへ泊まり込みである。
80-128　ヒツジ飼いの家　(267)41-84
２軒が共同で雇っている。寝るのは，ドルジの家で寝る。
80-129　雇い女と家　(189)9-45
雇い女は40歳くらい。独身，家族なし。家を１軒，別にもっている。ことしの８月に雇った。それまではジャプチョルにいた。雇ってからあとでゲルをもってきた。
80-130　雇い女と家　(189)9-35
シャグドゥル・タイジの家の雇い女。別に包を１つもっている。

乳しぼりの女
80-132　乳しぼりの女　(310)17-61
ゴージョ，ダンジン，ドゴルの３人の妻たちはアイルの乳をしぼる。

雇い人の給与
80-134　雇い人の給与　(387)24-22
共同の雇い人。漢人のヤンゴル。16歳。冬の着もの用の皮を与える。食べものはここか

ら出す。旗公署からの配給はない。月給は60円。
80-135　雇い人の給与　(344)18-47
ヒツジ飼い，漢人。月に150円。ただし，食べもの，着ものはこのほかに与える。共同の雇い人。ウシ飼いもこれとまったくおなじ。
80-136　雇い人の給料　(32)21-47
雇い人は漢人。月給は30円。
80-137　雇い人の給料　(33)21-49
漢人１名20円。モンゴル人１名15円。
80-138　ヒツジ飼いの給与　(271)15-5
食料，着ものはジャンギからもらっている。家族の食料や着ものもジャンギがくれる。月給はいくらか知らない。
80-139　ヒツジ飼いの給与　(272)15-14
ヒツジ飼いの漢人。着もの，靴，ズボン，帽子は支給する。月給はない。食事は与える。
80-140　ウシ飼いの給与　(273)15-34
ゴンチクはジャンギのウシ飼いをして，着ものと麺類をジャンギからもらう。物がなくなったら，行ってもらってくる。月給としてはお金は別にもらわない。家族の食うものもジャンギからもらう。
80-141　ヒツジ飼いの給与　(288)16-61
民政科長のヒツジ飼い。月給としては別に決まってもらわない。着もの，食べものなどをもらう。
80-142　雇い人の給与　(291)16-68～69
ソンデーは第３佐の人，民政科長の家の雇い人。本人は住み込み。家には妻がいる。家族の食べものは科長の家からみんなもらって，もっていってやる。
80-143　雇い女の給与　(297)17-24
人がないので，乳しぼりの女を雇った。月給をやる。着もの，お金は決まってはいない。食料と着ものをやる。１日に人間１人につき，半斤ずつの麺［小麦粉］と粟。
80-144　雇い女の契約　(189)9-45
ことしの８月に雇った。３カ月間雇う約束である。服装と食事を支給する。まだやっていない。期限が切れるまえにやるつもりである。
89-201　雇い人の給与　(341)18-28
漢人の子ども，月給は月に100円。着もの，食べものはここの家から月給とは別に食わす。

雇い女

80-146　雇い女　(61)21-51

同居人の女。53歳。この家で働いている。別に包を１つもっている。（この家で働いているのだが，雇い人の中に勘定しなかった。同居人と言った。）
80-147　雇い女　(274)15-38
婆さん，グシグドクトグの家で雇っている。お茶などをつくっている。ボグド・オボの近所の出身。
80-148　雇い女　(268)15-79
ジャンギの家の女中。ついこの近所，ボグド・オボの近所，バロンタイの南，シュウェートから来ている。家が貧乏で雇われている。お茶つぎその他の雑務をする。
80-149　雇い女　(297)17-24
乳しぼりは，となりのアイルの女がしぼる。人がないので，女を雇った。
80-150　雇い女　(335)17-89
雇い女は30歳。乳しぼり。
80-151　雇い女　(189)9-45
ことしの８月に雇った。それまではジャプチョルにいた。よその家でウシ飼いをしていた。
80-152　雇い女　(184)9-27
30歳ばかりの女。(182）のニマの家が雇っている。ヒツジ飼い。
80-153　雇い女　(105)39-18
バートルの兄の家には雇い女がいる。養女ではない。20歳くらい。別に１軒の家を構えている。
80-154　雇い女　(26)5-63
63歳の婆さんをつかっている。西スニト旗の出身である。乳しぼりをして各地を渡りあるいてきた女。ここで死ぬまで飼い殺しにするつもりである。
80-155　雇い女　(42)2-92
ポンスクの雇い女ノレルは，アバガからきた。家にだれがいるか知らない。もとからの働き女である。
80-156　雇い女　(36)2-69
実の母親はチャハルへ，人のウシの乳をしぼりに行っている。

雇い人

80-158　雇い人　(33)21-49
漢人１人。モンゴル人１人。
80-159　雇い人　(291)16-68
ソンデーは民政科長の家の雇い人。科長の家のなかの仕事をする。お客があれば，お茶をついだり，ウマの世話をしたり。科長の家には，こんな仕事をする雇い人は，ほかに

はいない。
80-160　雇い人　(268)15-80
エリンチン。ジャンギの雇い人。家がない。Yû či baixu kwei xun［何もない人の意。Yuu ch baix-gui xün］の人。独り者。お茶つくり，飯つくり，ウマの糞をそとに運びだす。そのほかの雑役。

労働
80-162　労働　(287)16-56
仕事としては一定の仕事はない。ちょいちょい，いろいろな仕事をする。たいていは民政科長の家で働いている。
80-163　労働　(290)16-67
この冬にヒツジ飼いになるまでは，家をたてるか家畜囲いをつくるか，そんな仕事をあちこちで引き受けてやった。
80-164　労働　(184)9-26
主人のワンチクはバインゴトブのところで働いている。
80-165　労働　(76)5-28
アイルの仕事を手つだう。ことしの夏はサンジ・デムチの家で乳をしぼった。ダムディンツォーはサンジ・デムチのヒツジ飼いをした。6カ月間つとめた。
80-166　労働　(76)5-31
冬はアイルの仕事をしない。冬はアイルにたのんで食べものをもらって食べた。
80-167　労働　(98)7-20
バトモンフの妻がヒツジ飼いをしている。いまはイムジルのヒツジ飼い。4～5年まえから。それまではあちらこちらのアイルで働いた。
80-168　労働　(43)3-6
西アバガのリャンクワという人のところへ働きに行った。アングルトの近所に住んでいる。3月から2カ月間働いた。ヒツジ飼いをした。1カ月に15円。ゆえに30円もらった。
80-169　労働　(41)2-81
よそのアイルへ働きに行ってお金をもうける。最近は行っていない。去年の5月に1週間，アングルト・スムでアルガリ入れの庭をつくった。粟，茶をもらった。分量は忘れた。

馬群のあずかり
80-171　馬群のあずかり　(137)8-53
馬群は，ガンジョール・ホトクのアイルにあずけた。その人は自分の馬群はもっていない。あちこちのアイルのウマを1頭，2頭ずつあずかって大きな馬群にして監視してい

る。
80-172 馬群のあずかり (99)7-30
ジャムスルンは，ジョクスンスルンがこのメーリン・ホトクにうつってきたころ（10数年まえ）から，すでに馬群をあずかっていた。

あずかり家畜の税金

80-174 あずかり家畜の税金 (137)8-53
馬群はガンジョール・ホトクの家にあずけてある。その税金は自分のほうから払う。
80-175 あずかり家畜の税金 (137)8-53
ノロ・ハシャートからヒツジなどをあずかっているが，その税金は寺のほうが払う。
80-176 あずかり家畜の税金 (136)8-18
寺の家畜をあずかっている。その税金は寺が払う。

家畜のあずけの契約

80-178 家畜のあずけの契約 (18)21-35
ヒツジだけ人にあずけている。その契約は，羊毛，乳，糞はやる。2歳のヒツジが子どもを産んだとき，また双子が生まれたとき，その1頭をやる。
80-179 あずけの契約 (21)21-41
ヒツジ100頭はアイルにあずけてある。羊毛はあずかり人の取り分になる。
80-180 家畜あずかりの契約 (261)14-12
ヒツジをあずかっている。羊毛は自分のものになる。子どもが生まれたら，それは寺のもの。税金は寺で出す。
80-181 あずかりの契約 (137)8-53
馬群はガンジョール・ホトクのアイルにあずけてある。契約は，1年にウマを1頭やる。去年はメスをやった。ことしはオスをやる。
80-182 あずかり家畜の死 (27)5-70
粛親王府のあずかりウシが死ぬと，その烙印のある皮を渡したらよい。

あずけ家畜

80-184 あずけ家畜 (18)21-35
ヒツジだけ人にあずけている。1,500頭。
80-185 あずけヒツジ (20)21-41
北牧場のマイマイ。ヒツジ100頭は集落にあずけてある。これは借金のかたとしてこちらの所有に帰したもの。
80-186 家畜のあずけ (277)15-60

ヒツジ10頭があった。あんまりたくさんないので，みんなアイルにあずけてあった。マージンダガイという人にあずけた。その人は，ヘンケルワ・スムの後ろに住んでいる。
80-187　あずけウシ　(278)15-69
ことしは乾草を刈らなかった。ことしは草がわるいので，ウシ２頭はよそのアイルにあずけた。嫁の実家にあずけた。そこは乾草を刈ってあるので，大丈夫である。
80-188　あずけ家畜　(295)17-32
家畜は全部自分の家で飼っている。あずけていない。
80-189　ウシのあずけ　(81)5-44
ラマでムージャン［漢字で木匠。大工の意味］。シュドレンのオスウシを１頭もっている。アイルにあずけてある。ベーリン・スムのすぐ南のオボの近所のアイル。ガルトンオスルという人。

寺よりあずかり

80-191　寺よりあずかり　(277)15-60
寺から２歳ヒツジをあずかっている。５頭。ことしの秋からあずかった。ヘンケルワ・スム。
80-192　あずけ，あずかり　(277)15-61
ヒツジは10頭しかいないので，あんまりたくさんないので，アイルにあずけてあった。ことしの秋から，ヘンケルワ・スムの２歳ヒツジを５頭あずかった。２歳ヒツジは囲いのなかで乾草を食うだけでそとへ放牧にゆくことはないので，あずかっている。
80-193　あずかり家畜　(263)41-78
サンの家畜はアイルにあずけてある。乳はすべてアイルのものになる。税金はアイルで払う。
80-194　あずけ家畜　(136)8-21
この家では寺からかなりの数の家畜をあずかっているが，そのほかに，こんどは逆に，ここからよそのアイルにあずけている家畜がある。メスウシ４頭，当歳子ウシ４頭，近所のアイルにあずけている。これは所有家畜の数の中に入れて申し立てた。
80-195　家畜のあずけ　(137)8-53
馬群はガンジョール・ホトクのアイルにあずけてある。
80-196　寺の家畜あずけ　(130)39-52
近くにアイルが３軒くらいある。寺の家畜はこれらの近くのアイルにあずけてある。
80-197　羊群のあずかり　(51)3-77
ヒツジとヤギをあちこちのアイルからあずかっている。お金をもらう。お金をくれない人からは，そのヒツジの毛をもらう。
80-198～199　ヒツジをあずかるまでのいきさつ　(51)3-70

プツグという人からあずかった。プツグはもともと役人である。家にはいない。ヒツジはもとからよその人にあずけていた。オチルはまえからプツグを知っている。プツグの家へ遊びに行ったときに，いまのヒツジのあずかり人はだめだから，おまえがあずかってくれないか，という話があった。プツグは独り者で，「人手がないので，困っているから，君あずかってくれ」とたのまれた。それでオチルがあずかることに決まった。プツグが自分でオチルのところへ連れてきた。

80-200　役人とヒツジのあずけ　(51)3-70

プツグという人からあずかっている。プツグは役人である。何の役人か知らない。プツグは独り者である。プツグは家にはいない。勤めに出ている。

80-201　あずかりヒツジ　(51)3-70

あちこちのアイルからあずかっている。プツグという人からあずかっている。プツグはときどきヒツジを見にくる。

80-202　家畜のあずかり料　(39)2-58

オルン・ノール・スムの家畜をあずかっている。あずかり料はなし。乳は自分がもらう。子どもが生まれても自分の物にはならない。

80-203　あずかり家畜の死　(29)1-54

粛親王府からあずかっている家畜が死んだら，烙印のついた角と皮をもってゆく。

80-204　家畜のあずかり　(27)5-70

粛親王府の北牧場からウシをあずかっている。あずかり賃として，１カ月に30円に相当する品物をもらう。

89-221　家畜あずかりの契約　(108)21-57

あずかりヒツジの羊毛は自分のものになる。春だけ刈る。

毛と毛皮

毛皮の値段

64-3　毛皮の値段　(260)41-47

皮毛公司で買いつける毛皮の値段は，ヒツジ１枚10円くらいであるが，これがトゥムルタイへゆくと，100円くらいする。それで，トゥムルタイへ出る者が相当に多い。

64-4　毛皮を売る　(89)6-44

毛皮は大蒙公司へ売る。去年は，ヒツジとガゼルが20数枚ずつ。ことしはウシとオオカミが１枚ずつ。

64-5　毛皮のゆくえ　(137)8-52

ヒツジとヤギの皮を７枚，ホリシャに売った。その代わりとして，茶をもらった。

64-6　毛皮の値段（ヒツジ）　(89)6-44

大蒙公司におさめた。ヒツジの皮１枚８円。これは品物をくれる。

64-7　毛皮の値段（ウシ）　(89)6-44
大蒙公司におさめた。去年，１枚15円。
64-8　毛皮の値段（黄羊）(89)6-44
大蒙公司に出した。去年，１枚３円。
64-9　毛皮の値段（オオカミ）　(89)6-44
去年，大蒙公司に出した。１頭40円。
64-10　けものを売る　(26)5-67
オオカミやキツネを罠でとらえて，それをマイマイに売る。そのお金で屠殺する家畜を買う。

フェルト屋

64-12　フェルト屋　(22)21-42
北牧場のバストのフェルト屋。主人の家はハビルガにある。
90-10　漢人のフェルト屋　(387)24-21
フェルトをつくる人は50歳。妻（漢人）。子ども（男）が１人あるが，タリャーにあずけてある。ここ［南ワーヨ］に住んでいない。20〜30年まえからここに住んでいる。

羊毛のゆくえ

64-14　羊毛のゆくえ　(341)18-30
ホリシャのほかに羊毛があれば，大蒙公司で取り引きをする。ことしは，大蒙には何も取り引きはなかった。
64-15　羊毛のゆくえ　(20)21-38
アイルのそばへマイハン［テント］を張って，漢人が羊毛の刈り取りにきている。ホリシャから派遣されたもの。刈り取った羊毛はホリシャへおさめる。
64-16　羊毛のゆくえ　(32)21-46
去年の秋の毛は，フェルトにした。ことしの春の毛は，ホリシャにおさめた。
64-17　羊毛のゆくえ　(33)21-48
ことしの春は，100頭分をホリシャに出した。まだ払ってもらわない。
64-18　羊毛のゆくえ　(33)21-49
去年の羊毛はみなフェルトにしたので，ホリシャには出していない。
64-19　羊毛のゆくえ　(61)21-53
去年の秋の毛は，フェルトにした。ことしの春の毛は，ホリシャにおさめた。105斤おさめた。
64-20　羊毛のゆくえ　(297)17-27
春毛は衙門に。秋毛は衙門に。

64-21　羊毛のゆくえ　(267)41-87
羊毛は全部フェルトにするために，どこへも出していない。
64-22　羊毛のゆくえ　(268)14-88
春毛はホリシャにやった。秋毛は自分でフェルトにつくった。
64-23　羊毛のゆくえ　(266)14-66
秋の毛も春の毛も一緒にして，フェルトをつくった。ホリシャにはやらなかった。
64-24　羊毛のゆくえ　(261)14-13
春毛と秋毛を一緒にして，フェルトをつくった。ホリシャにもやった。
64-25　羊毛のゆくえ　(192)9-69
春の羊毛は200斤以上。グフ・トロガイのホリシャに出した。
64-26　羊毛のゆくえ　(189)9-47
春の毛は500斤出た。大蒙公司におさめた。よい毛はのこしておいて，フェルトをつくる。
64-27　羊毛のゆくえ　(178)40-5
羊毛をホリシャに出すか，大蒙公司に出すかは，モンゴル人自身の判断によるのである。しかし，大蒙はすぐ見返り物資を出してやる。
64-28　羊毛のゆくえ　(138)8-57
グフ・トロガイのホリシャにあつまった羊毛をこんどは貝子廟にもってゆく。いまわれわれのつかっているラクダは，このあいだ，ラクダの毛と羊毛を積んで貝子廟に行ったラクダ隊である。
64-29　羊毛のゆくえ　(137)8-50
秋の羊毛はことし少し刈った。ジェールに入れてある。フェルトをつくるつもり。1枚できるだろう。
64-30　羊毛のゆくえ　(137)8-50
春の毛はホリシャに出した。
64-31　羊毛のゆくえ　(136)8-22
羊毛（春毛）は，ことしはホリシャへ出した。
64-32　羊毛のゆくえ　(136)8-12
羊毛はホリシャと大蒙公司に出す。ホリシャでは茶，布を少しもらった。
64-33　羊毛のゆくえ　(103)39-6
この旗だけでも，もっと羊毛があつまるはずだが，それが例のトゥムルタイあたりへながれ出てゆくのである。これをふせぐために，旗の境に監視の兵隊を立てたりしたが，だめである。これはトゥムルタイには供出したうえに，まだ余分の穀類をもっているからである。
64-34　羊毛のゆくえ　(103)39-4

これらの羊毛は全部，内地へ送る。おもに，飛行機製作につかわれるということである。ふるい毡子［フェルト］まで回収しているようなありさまである。

64-35　羊毛のゆくえ　(89)6-42

羊毛は去年もことしも，大蒙公司にやった。

64-36　羊毛のゆくえ　(93)6-75

羊毛はみなホリシャに出した（と言っているが，実は，これはホリシャと大蒙公司をまちがえているのである）。

64-37　羊毛のゆくえ　(87)6-18

ヒツジ少ししかいない。羊毛も少しだから，ホリシャには出さない。

64-38　羊毛のゆくえ　(86)6-11

春の羊毛はホリシャへもっていった。

64-39　ヒツジの毛のゆくえ　(85)6-1

主人はグフ・ノールのホリシャへ行った。ヒツジの毛をもっていった。ノルジマーと一緒に行った。

64-40　ヒツジの毛のゆくえ　(84)5-85

いま，ノルジマーがグフ・ノールのホリシャへ行っている。ヒツジの毛をもっていった。

64-41　羊毛のゆくえ　(70)4-81

羊毛は大蒙公司へ直接もっていった。大蒙は先にものをくれて，あとから羊毛をとる。ホリシャへはぜんぜんやらなかった。

64-42　羊毛のゆくえ　(35)2-24

ヒツジの毛，ヤギの毛はきってジャーモンに出した。東スニト，エルデニ・スムのジャーモン（ホリシャのこと）。

64-43　ヒツジの毛とホリシャ　(47)3-30

春のヒツジの毛を刈った。自分で刈った。50斤ほど出た。ホリシャにやった。綿布５尺。茶何枚か忘れた。これでまだこれだけの品物の代価としては毛がたりないから秋の毛もよこせと言った。差し引き28円の借金になっている。お金をもっていったが，お金は受け取らない。毛をよこせと言った。

64-44　ヒツジの毛のゆくえ　(51)3-69

ヒツジの毛はホリシャへおさめた。代わりに茶と布をもらった。ヒツジの毛はいくらか分量はわからない。

64-45　ヤギの毛のゆくえ　(59)4-35

ここでつくるフェルトは，ヒツジの毛だけでつくる。ヤギの毛はホリシャから貝子廟にゆく。

ウシの皮のつかいみち

64-47　ウシの皮のつかいみち　(89)6-44

ふつう，死んだウシの皮は，家の下敷きにつかう。

革製品の内職

64-49　革製品の内職　(64)4-51

去年は働いてお金をもうけた。ウシの革で頭絡などの革，*ソル*［革紐］などをつくった。100円くらいもうけた。（革紐の革は，よそのアイルの家畜の革。それをここへもってきて，加工する）

64-50　靴つくり　(51)3-85

靴は自分ではつくらない。よそのアイルの娘がつくる。モンゴル人。そこの家へ革をもって行ってつくってもらう。革は，当歳子ウシの革をなめしてつくる。

64-51　羊毛のゆくえ　(108)21-57

ホリシャ，大蒙公司には出さない。自分の包をつくる。半分はトゥムルタイへもって行って食料を買う。

64-52　羊毛の集荷　(387)23-85

春の毛は，漢人にたのむ。漢人は，ホリシャの漢人ではない。このあたりの羊毛の収買をやっている漢人である。

64-53　羊毛を刈る漢人　(387)23-85

春の毛は漢人の手による。漢人は，ホリシャの漢人ではない。このあたりの羊毛の収買をやっている漢人である。

64-54　羊毛の刈りかた　(387)23-85

漢人が刈るときにも，春の毛はサム［梳き櫛］で刈る。サムは漢人がもっている。

64-55　羊毛の名まえ　(387)23-84

春の毛は，*ハバリン・オンゴス*［春の毛］，*サムネスン・オンゴス*［梳いた毛］という。秋の毛は，*ナモリン・オンゴス*［秋の毛］，*ハイチスン・オンゴス*［切った毛］という。

64-56　羊毛を刈る　(387)23-84

秋の毛は，自分で刈る。春の毛は，漢人にたのむ。

64-57　羊毛を刈る季節　(108)21-57

羊毛は春だけ刈る。

64-58　フェルトをつくる毛　(108)21-57

羊毛は春だけ刈る。ホリシャ，大蒙［公司］などには出さない。自分の包をつくる。

毛皮のゆくえ

64-60　毛皮のゆくえ　(276)15-55

シンディーで食料の代金として払ったヒツジの毛皮２枚は，自分の屠殺したヒツジの毛皮である。

64-61　毛皮のゆくえ　(287)16-57

秋に乾草を人のために刈ってやったお礼に，ヒツジ，ヤギを１頭ずつもらった。それをころして肉は冬の食料にたくわえ，皮はそれで11月に漢人から粟と麺を少しずつ買った。

64-62　毛皮のゆくえ　(192)9-69

ヒツジ８頭，ヤギ６頭，ウシ２頭，グフ・トロガイのホリシャに出した。

64-63　毛皮のゆくえ　(189)9-47

羊毛とラクダの毛は大蒙公司にやったが，皮はやっていない。

64-64　毛皮のゆくえ　(98)7-23

むかしは，商人に毛皮（野生のけもの）を売った。そして，その代わりに食料をもらった。

64-65　毛皮のゆくえ　(98)7-23

いまは野生のけものの毛皮は貝子廟にやる。貝子廟には商人がいる。そして，白麺，粟をもらう。

64-66　キツネの毛皮　(56)4-23

死んだキツネをひろった。オオカミかなにかに食われたのか，半分だけ欠けていた。それを毛皮にして，外套のえりまきをつくった。

ラクダの革

64-68　ラクダの革　(136)8-17

水につけてやわらくして，包の壁の交差点を止める木々としてつかう。

革なめしと乳

64-70　革なめしと乳　(101)7-43

漢人は革なめしのときに乳をつかう。

64-71　革なめし　(136)8-17

桶のなかにラクダの皮を入れて，水につけて，上から石の重しをかけてある。ラクダの皮をやわらかくする。

64-72　革なめしのあと　(63)4-46

ダムディンの家のまえに小さい穴がある。シャベルで土をほった。そのなかへ革を入れて，やわらかくする。なめすところ。

64-73　革なめし　(51)3-79

数日まえにころしたヒツジの毛皮。その裏にラクダのチャガン・トスと，チャガーとを

ながして，手で一面にぬりつける。四足およびふちの部分をなかにおりこんで，くるくるとまく。そして，包のかたすみにおいた。ドルガルの仕事。18時30分。
64-74　革なめし　(51)3-79
毛皮をなめすには，チャガーにはかならずしもつけなくてもよい。
64-75　革なめし　(51)3-73
観察：いま，２つの当歳子ウシの皮がチャガーにつかっている。袋をつくるつもりだという。
64-76　革なめし　(51)3-73
死んだ家畜の皮はチャガーにつけて（10日間ぐらい），そとに出す。そして，一日太陽にほす。そしたらできあがり。
64-77　革なめし　(35)2-39
革は自分でつくる。当歳子ウシの革。革の上着を妻がつくった。ヒツジとヤギの毛皮がまじっている。

フェルトを買う
64-79　フェルトを買う　(275)15-50
ヒツジをもっていない。ヒツジがなかったら，どうするか？ *アイル*から買う。ことし少し買った。３枚買った。１枚100円であった。現金で買った。
64-80　フェルトを買う　(297)17-27
フェルトもむかしからあったもので，最近は買っていない。いまの包のフェルトは，７～８年まえのものである。

包のフェルト換え
64-82　包のフェルト換え　(89)6-51
いま，包のフェルトを換えている。このフェルトは，ことしの秋の毛でつくったフェルトである。

フェルトつくりの代金
64-84　フェルトつくりの代金　(335)17-88
ことしはフェルトつくりの漢人に，フェルトを３枚つくらせた。１枚につき，いくら払ったかわからない。

フェルトつくり
64-86　フェルトつくり　(341)18-26
フェルトは全部，漢人につくってもらう。

64-87 フェルトをつくる (346)18-56
フェルトは，自分ではつくらない。漢人がまわってきてつくる。いつまわってくるかは決まっていない。
64-88 フェルトつくり (369)20-12
ハスオチルの子どものときから，羊毛刈り取り，フェルトつくりの漢人は，少しはいたが，少なかった。モンゴル人がすべて自分で処理していたのである。そののち，この30年くらいに漢人が次第に増えてきた。
64-89 フェルトをつくる (33)21-49
去年の羊毛はみなフェルトにしたので，ホリシャには出していない。
64-90 フェルトつくり (299)17-50
自分のところでつくる。フェルトをつくるときには，近所がおたがいに手つだう。
64-91 フェルトつくり (335)17-88
フェルトは自分ではつくらない。みんな漢人がする。春に漢人がまわってくる。ここでフェルトをつくってくれる。
64-92 フェルトつくり (335)17-88
フェルトは春にまわってくる漢人がつくる。ことしは3枚つくらせた。
64-93 フェルトつくり (268)14-88
自分でつくる。解絮も漢人の手を借りずに，モンゴル人たちが自分でする。やっぱり2本の棒でたたいて解絮する。フェルトにしたあとは，ウシに引っぱらし，ころがしてかためる。
64-94 フェルトつくり (266)14-69
フェルトをつくるのは自分でする。解絮も自分でする。サヴァーという棒を両手にもってたたく。どんな棒でもよい。
64-95 フェルトをつくる (261)14-12
フェルトは自分の家でつくるのだが，解絮だけは漢人にたのんだ。漢人がまわってくる。
64-96 フェルトをつくる (261)14-12
春毛と秋毛を一緒にして，フェルトをつくった。自分の家でつくった。近所の人には手つだってもらわない。人の家だけでつくった。解絮は漢人にたのむ。
64-97 フェルトつくり (255)13-20
羊毛を自分で刈った。ヌムデネ［解絮］も自分でする。2本の柳条で解絮する。
64-98 フェルトつくり (255)13-19
フェルトは自分の家でつくる。ウマ1頭で引きずりまわしてつくる。近所のアイルの人が手つだってくれる。
64-99 フェルトつくり (192)9-69
秋のヒツジの毛，自分で刈った。100斤以下。フェルトをつくる。自分でつくる。

64-100　フェルトつくり　(189)9-47
フェルトは自分でつくります。
64-101　フェルトつくり　(136)8-22
フェルトは自分でつくる。秋の羊毛でつくる。フェルトつくりに特別の道具はない。ふるいフェルトのうえに，羊毛をひいて，水をかけ，フェルトをまく。そのうえを革で巻いて，ひもをつけて，そのひもの先をウマの鞍にむすぶ。ウマ２頭で交互にひく。この方法で，１日に４～５枚できる。（裏を見よ。）［64-102］
64-102　※
64-103　フェルトつくり　(99)7-34
秋に刈った毛は，漢人のフェルト屋にやった。近所，東のほうである。フェルトをつくってもらう。ことしの秋は，フェルトを５～６枚つくってもらう約束である。
64-104　フェルトつくり　(85)6-2
ヒツジの毛は，ホリシャでフェルトにしてくれる。１枚のフェルトをつくってもらうのに，12斤の毛をやる。ことしは何枚してくれるかわからない。主人がその交渉に行った。
64-105　フェルト屋　(89)6-42
東北のほうに，漢人のフェルト屋がある。そこへ秋毛をやって，フェルトをつくらせる。これはホリシャや大蒙公司とは関係なし。
64-106　フェルトつくりの代金　(89)6-43
フェルトつくりは，漢人のフェルト屋にさせる。その手間賃として，100斤の羊毛に対して16斤の羊毛をくれてやる。
64-107　フェルトと羊毛　(89)6-43
［無記入。カード64-106の裏面］
64-108　フェルト　(86)6-11
ホリシャは羊毛の代わりにフェルトを１枚やると言った。羊毛は持っていったけれどもまだ何もくれない。
64-109　フェルトつくり　(59)4-34
グフ・ノールの漢人のフェルト屋。ホリシャ。１年に１カ月ほど働く。去年は300枚ほどつくった。ことしは夏６月に200枚。秋は10日ほどまえからはじめて，100ほどつくった。あと100くらいつくったらやめる。１枚につき，７円の手間賃をホリシャからもらう。
64-110　フェルトつくり　(59)4-34
グフ・ノールのホリシャのフェルト屋。漢人。多倫から来ている。仕事がおわったら，多倫に帰る。
64-111　フェルトつくり　(35)2-39
フェルトは，すべて漢人がつくる。いま，その漢人は近所にいない。いま，つかっているのは，みなむかし（20年くらいまえ）につくったものである。

64-112　フェルトの原料　(59)4-35
フェルトは，ヤギの毛はつかわない。ヒツジの毛だけでつくる。ラクダの毛のはつくらない。

フェルトをつくる毛

59-138 フェルトをつくる毛　(32)21-46
去年の秋の羊毛は，フェルトにつくった。
59-139　フェルトをつくる毛　(61)21-53
去年の秋の毛は，フェルトをつくった。ことしの春の毛は，ホリシャにおさめた。
59-140　フェルトをつくる毛　(266)14-66
春の毛も秋の毛も一緒にしてフェルトをつくった。
59-141　フェルトをつくる毛　(261)14-12
春毛と秋毛を一緒にして，フェルトをつくった。
59-142　フェルトをつくる毛　(255)13-31
室内に袋に入れて，アハル［短毛，秋に刈ったもの］がたくわえてある。フェルトをつくるつもりである，という。
59-143　フェルトをつくる羊毛　(189)9-47
秋の毛は自分で，羊毛でフェルトをつくる。（春の毛は，よいものをのこしておいて，フェルトをつくる）
59-144　フェルトの羊毛　(189)9-47
春の毛は，大蒙公司におさめた。よい毛をのこしておいて，フェルトをつくる。
59-145　フェルトをつくる毛　(99)7-34
フェルトは，秋に刈った羊毛でつくる。

毛製品

59-147　毛製品　(85)6-3
ラクダの毛とヒツジの毛とで，縄をつくる。角綱をつくる。これは自分の家でつかう。売らない。売ったことはない。
59-148　縄をつくる　(85)6-3
ラクダの毛とヒツジの毛とをまぜて，縄をつくる。ウシの角にかける綱にする。
59-149　羊毛のつかいみち　(36)2-70
羊毛4斤，縄をつくった。いま，ウシをつなぐのにつかっている。

フェルト

59-151　フェルト　(275)15-49

ヒツジをもっていない。ヒツジがなかったら，フェルトはどうするのか？ *アイル*で買う。

ラクダの毛の分量

59-153　ラクダの毛の分量　(192)9-69

70斤。

59-154　ラクダの毛のゆくえ　(192)9-69

70斤。*ホリシャ*に出した。

59-155　ラクダの毛の値段　(192)9-69

１斤３円。*グフ・トロガイ*の*ホリシャ*。

59-156　ラクダの毛を刈る季節　(245)10-67

ラクダの毛は５月に刈る。年に１回。

59-157　ラクダの毛を刈る　(245)10-67

当歳子ラクダの毛は刈らない。２歳以上は刈る。

59-158　ラクダの毛を刈る部分　(245)10-67

たてがみは刈らない。*ジョグドル*（首の下の毛），*オブトグ*（膝）は刈る。はさみで刈る。それ以外の部分は，手でひっぱって抜く。

59-159　ラクダの毛のゆくえ　(189)9-48

100斤刈った。大蒙公司にやった。

59-160　ラクダの毛の分量　(189)9-48

100斤刈った。

59-161　ラクダの毛を刈る　(137)8-51

ラクダの毛は毎年，*ジョグドル*だけ刈る。はさみで刈る。

59-162 ラクダの毛のつかいみち　(137)8-51

*ジョグドル*だけ毎年刈る。縄と糸をつくる。自分の家でつかうぶんだけつくる。

59-163　ラクダの毛を刈る季節　(137)8-51

毎年*ジョグドル*だけ刈る。３月に刈る。年に１回。

59-164　ラクダの毛を刈る　(137)8-51

ラクダの毛は刈っていない。毎年いつも刈らない。ただし，首の下の毛はいつも刈る。

59-165　ラクダの毛を刈る　(136)8-22

ラクダの毛を刈るのはヒツジの毛を刈るのとおなじ*ハイチ*［はさみ］で刈った。

59-166　ラクダの毛の量　(89)6-43

去年は，７～８斤を刈った。

59-167　ラクダの毛のゆくえ　(89)6-43

去年は，西ジャランの大蒙公司へやった。ことしは自分でつかっている。

59-168　ラクダの毛の値段　(89)6-43
大蒙公司へおさめた。１斤，１円60銭。これは現金でくれる。品物はくれない。
59-169　ラクダの毛を刈る季節　(89)6-43
ラクダの毛は４～５月に刈る。
59-170　ラクダの毛　(89)6-3
ラクダの毛とヒツジの毛をまぜて，縄をつくる。ウシの角綱にする。ラクダの毛はラクダをもっている家からもらってくる。ベーリン・スムの西のほうにいるヨーライ・タイジからもらってきた。
59-171　ラクダの毛のつかいみち　(84)5-87
包のフェルトの縫いとりにする。ベーリン・スムのシナン・デムチにたのまれた。フェルトと一緒にもってきた。
59-172　ラクダの毛　(93)6-75
ラクダの毛は４月に刈った。毛は大蒙公司にやった。

子ヒツジの毛

59-174　子ヒツジの毛　(89)6-43
子ヒツジの毛は，春は刈らない。秋には刈る。

あずかりヒツジの毛

59-176　あずかりヒツジの毛　(51)3-70
あずかりヒツジの毛は，自分のものにはならない。その代わりに，あずかり料として，１カ月に20円もらう。

羊毛のたくわえ

59-178　羊毛のたくわえ　(255)13-31
ガルサンの家，奥にむかって左側に，粗い毛布でつくった巨大な袋が２つ，つみかさねてある。180×80×100。中身はみんな，ことしの秋の毛，すなわちアハルだ，と言った。フェルトをつくるつもりである，という。

羊毛の値段

59-180　羊毛の値段　(192)9-69
１斤２円。グフ・トロガイのホリシャ。
59-181　羊毛を売る　(89)6-42
春の羊毛はみんな大蒙公司にやる。羊毛の値段はことし，１斤１円10銭で，去年は80銭だった。羊毛に対しては，10分の３が品物，10分の７がお金でくれる。

羊毛の刈り賃

59-183　羊毛の刈り賃　(89)6-43

漢人がまわって刈りにくる。秋毛。ヒツジ1頭につき刈り賃として，40銭を払う。

ヒツジの毛の刈りかた

59-185　ヒツジの毛の刈りかた　(S)8-67

秋にヒツジの毛を刈るときには，オスの毛はしっぽのところだけ残して刈る。それは，漢人に売るときに，しっぽを大きくみせるためである。Sの話。春は，こんなことはしない。みな刈ってしまう。

ヒツジの毛

59-187　ヒツジの毛　(51)3-57

ヒツジの長い毛を*オンゴス*という。ヒツジには長い毛の下に短い毛がない。

59-188　ヤギの毛　(51)3-57

上の長い毛は*ソル*という。下の綿毛は*ノーロル*という。

59-189　ラクダの毛　(51)3-57

首のしたの長い毛は，*ジョグドル*という。脚の膝のところの毛は，*オブトク*という。腹の毛は，*オンゴス*という。

羊毛の集荷

59-191　羊毛の集荷　(260)41-47

*ホリシャ*に2万斤。大蒙公司に3万斤。軍に4万斤。あわせて9万斤。しかし，税金からかんがえると，少なくとも20万斤は，この旗のなかにあるはずだから，11万斤は，どこかよそへながれているのである。

59-192　羊毛の集荷　(178)9-9

むかしは，マイマイが*アイル*まで出かけて羊毛をあつめたが，このごろはこちらから出かけずに，向こうから羊毛をもってくる。

59-193　羊毛あつめ　(103)39-5

シリンゴルの東のほうは，東蒙公司の勢力範囲である。シリンゴルは，漢人の指定業者は入れないことになっている。チャハルには漢人の業者が入っている。

59-194　羊毛あつめ　(103)39-5

大蒙公司の出張所では，いちばんたくさん羊毛をあつめるのは，この西ジャランの店である。

59-195　羊毛あつめ　(103)39-3

羊毛は，ほとんどグフ・トロガイを中心にあつまってくる。大部分ここ。

59-196　大蒙公司　(103)39-3
羊毛あつめ。羊毛の集荷量は，軍の命令では15万斤。そのうち，もう11万斤あつめた。去年の実績は，２万5,000斤。

羊毛を刈る季節

59-198　羊毛を刈る季節　(255)13-20
ヒツジの毛は春も秋も刈る。ヒツジは全部刈る。子ヒツジも刈る。ヤギの毛は春に刈るのもあるし，刈らないのもある。
59-199　羊毛を刈る季節　(189)9-47
秋の毛も刈った。
59-200　羊毛を刈る季節　(189)9-47
春の毛は６月に刈った。
59-201　羊毛を刈る季節　(136)8-22
秋の羊毛はもう刈った。フェルトにする。
59-202　羊毛を刈る季節　(136)8-12
羊毛は夏（６月）には全部のヒツジを刈る。秋は少しだけ刈る。
59-203　羊毛と季節　(103)39-5
大蒙公司であつめる羊毛は，全部春毛ばかりである。秋毛はヤギの毛のようなもので，つかいものにならない。モンゴル人はこれでフェルトをつくる。
59-204　羊毛を刈る季節　(137)8-50
春の毛は５月に刈った。秋の毛も刈った。ことしは少し。
59-205　羊毛を刈る季節　(86)6-11
春は刈った。秋はまだ刈っていない。
59-206　羊毛を刈る季節　(85)6-2
ヒツジの毛はホリシャの漢人のフェルト屋が来て刈った。８月10日ごろ来て刈った。
59-207　秋のヒツジの毛　(70)4-80
秋のヒツジの毛は，まだここに持っている。これでフェルトをつくるつもり。
59-208　羊毛を刈る季節　(36)2-70
ことし刈った。春も秋も刈った。ただし，ヤギは秋は刈らない。

羊毛の分量

59-210　羊毛の分量　(32)21-46
ことしの春の羊毛。300頭刈った。（ヒツジは500頭いる）２頭で平均１斤の毛が出る。
59-211　羊毛の分量　(61)21-53
ことしの春の羊毛は，ホリシャにおさめた。105斤おさめた。

59-212　羊毛の分量　(192)9-69
春の毛，200斤以上。
59-213　羊毛の分量　(192)9-69
秋のヒツジの毛，自分で刈った。100斤以下。
59-214　羊毛の分量　(189)9-47
秋の毛ももう刈ったが，どれだけ刈ったか，まだ計っていない。
59-215　羊毛の分量　(189)9-47
春の毛は500斤。
59-216　羊毛の量　(89)6-42
去年春は600斤。去年秋はフェルトにした。ことし春は800斤。ことし秋はまだ刈っていない。
59-217　羊毛の分量　(137)8-51
秋の毛は少し刈った。フェルトをつくるつもり。1枚できるだろう。
59-218　羊毛の量　(137)8-50
春の毛は，ホリシャに出した。200斤くらい出した。
59-219　羊毛の量　(93)6-75
羊毛は，春と秋と両方刈ったが，どちらが多くとれたか，また何斤ほどとれたか，知らない。
59-220　羊毛の量　(89)6-43
羊毛の量は，春と秋でたいしてかわらないが，春のほうが多い。
59-221　羊毛の量　(36)2-70
ヒツジ6頭。羊毛4斤ばかり。春毛。

ヒツジの毛を刈る

59-223　ヒツジの毛を刈る　(346)18-56
羊毛を刈るのは，漢人が刈るのもあり，自分で刈るのもある。春の毛も秋の毛も，両方がある。
59-224　羊毛を刈る　(369)20-12
ハスオチルが子どものときから，フェルトつくり，羊毛刈りとりの漢人は，少しはいたが，少なかった。それまでは，モンゴル人がみな自分で処理していた。30年くらいまえから，漢人にやらすのが，しだいに増えてきた。
59-225　羊毛の刈り取り　(20)21-38
ホリシャより派遣された漢人が羊毛の刈り取りに来ている。5人いる。アイルのそばにマイハンをはって。刈りとった羊毛は，ホリシャへおさめる。
59-226　羊毛の刈り取り　(20)21-38

羊毛刈り取りにまわっている漢人。賃金はわからない。そのときどきに旗公署からもらうが，お金のときもあり，もののときもある。去年の秋以来，ぜんぜん未払いである。

59-227　羊毛を刈る　(335)17-88

羊毛は，春も秋も漢人が刈る。

59-228　羊毛を刈る　(268)14-88

毛を切るのは，春毛は自分で刈る。秋毛は漢人が刈る。

59-229　ヒツジの毛を刈る　(266)14-66

ヒツジの毛は自分で刈った。１日に２～３頭しか刈れない。

59-230　羊毛を刈る　(266)14-66

ヒツジの毛は，春も秋も自分で刈った。ハイチ［はさみ］で刈る。雇い人の漢人も刈れないのだ。自分で刈った。

59-231　羊毛を刈る　(255)13-20

自分で刈る。

59-232　羊毛を刈る　(192)9-69

秋の羊毛はもう刈った。自分で刈った。

59-233　ヒツジの毛を刈る　(S)10-63

１人で１日に10頭くらい刈れる。それがふつうである。うまい人なら１日に15頭くらい。Sの話。

59-234　羊毛を刈る　(136)8-22

羊毛は，自分で刈った。ふつうのはさみで刈った。

59-235　羊毛を刈る　(86)6-11

春は，グフ・ノールのホリシャの漢人が来て刈った。

59-236　羊毛を刈る人　(89)6-42

秋の毛は漢人が来て刈る。この漢人は，ホリシャや大蒙公司とは関係がない。このあたりをまわって刈りにくるのである。

59-237　ヒツジの毛を刈る　(85)6-2

ヒツジの毛はホリシャの漢人が来て刈る。

59-238　ヒツジの毛を刈る　(93)6-75

ヒツジの毛は秋にも刈った。春にも刈った。

59-239　羊毛を刈る　(89)6-42

春の毛は自分で刈る。秋の毛は漢人が来て刈る。春毛は刈りやすい。秋毛はむつかしい。

59-240　羊毛を刈る　(70)4-80

春刈った。600斤くらい。秋も刈った。

59-241　羊毛を刈る人　(36)2-71

春は自分で刈った。秋はホリシャの漢人が来て刈った。

59-242 羊毛を刈る (51)3-70
秋，ヒツジの毛を刈った。
59-243 ヒツジの毛 (44)3-13
ことし，秋刈った。25斤。*ホリシャ*へ。春も刈った。25斤。*ホリシャ*へ。春は，毛がぬけかわったあとで刈ったので，毛の分量が少なかった。（上の25斤のなかには，ヤギの毛もまじっている。）漢人が来て刈っていった。代償として，フェルトをくれるそうな。
59-244 ヒツジの毛 (47)3-30
春の毛は刈った。自分で刈った。50斤ほど出た。秋の毛はまだ刈っていない。（あずかりヒツジとヤギで約100頭。）
59-245 ヒツジの毛 (35)2-24
自分のと，あずかりとあわせて10斤出た。5月に刈った。秋はまだ刈っていない。
59-246 ヒツジの毛の刈りかた (S)6-60
チャハルでは，羊毛を刈るのに，秋の羊毛は自分で刈る。春の羊毛は自分では刈らない。漢人にたのむ。Sの話。

羊毛の名まえ

59-248 羊毛の名まえ (297)17-27
秋毛は*アハル*という。春毛は*ゾルハイ*という。*オルト*（長いの意）。*オンドル*（高いの意）。
59-249 羊毛の名まえ (266)14-66
春の毛は*オルト*（長い），秋の毛は*アハル*（短い）。
59-250 羊毛の名まえ (261)14-12
春毛は*オルト*，秋毛は*アハル*。
59-251 羊毛の名まえ (S)(B)13-30
ガルサンの婆さんがヒツジの毛の名まえを*アハル*，*オンドル*と言ったのを聞いて，Sは，「そういえば，チャハルでも秋の毛のことを*アハール*ということを思い出した。」Bはこれらのことばを知らなかった。
59-252 羊毛の名まえ (255)13-30
ヤギの毛は，春のを*ノーロル*といい，秋のは刈らない。
59-253 羊毛の名まえ (255)13-30
秋の毛は*アハル*（*アハリン・オンゴス*）。春の毛は*オンドル*（*オンドリン・オンゴス*）。

商品経済

買いもの

81-3 買いもの (58)4-32

ホリシャで，ことし，茶を１つ買った。お金はまだ払っていない。

81-4　買いもの　(51)3-69

グフ・ノールのホリシャ。自分で行って買う。ことし，行った。茶３枚，布５尺を３枚，麺類は買わない，ホリシャになかった。タバコ，買わない。代金はヒツジの毛をもっていった。分量はわからない。上の物品では少ないが，しかたない。

81-5　買いもの　(50)3-51

人にたのんで，この５月にホリシャへ行ってもらった。茶３枚だけ。麺類，粟，何も買っていない。去年の冬，ホリシャで，粟を１斗買った。冬の間に食ってしまった。ことしも粟があったら買う。

81-6　ホリシャの買いもの　(47)3-31

このまえは，春にヒツジの毛をおさめて，綿布などを買いに行った。こんどは，つい近頃行った。物をもらいに行ったが，まえの借金28円がのこっていて，お金ではいけない，毛でよこせと言った。それが，全部すむまで，品物をくれぬと言った。

81-7　買いもの　(43)3-5

ホリシャ。ユウ麺［カラスムギの一種ユウマイの粉］10斤。茶２枚。１枚６円。

81-8　買いもの　(64)4-51

粟，麺類はホリシャで買う。現金で買うのもあり，借金して買うのもある。お金のないときには，家畜をホリシャへやる。去年，ホリシャで現金で買った。ことしはまだ粟などを買っていない。家畜もやっていない。

81-9　買いもの　(41)2-79

白麺10斤　単価３円。ユウ麺20斤，単価2.5円。粟１斗（30斤），単価40円。茶５枚，単価６円。タバコは１年に小さいつつみを20個。綿布は手に入らない。

81-10　買いもの　(36)2-67

ホリシャ。ことしの春。３歳のヒツジ１頭，２歳のヒツジ１頭をもって行って，ホリシャでユウマイ20斤，茶３枚，粟10斤を買ってきた。

81-11　買いもの　(35)2-25

ホリシャ。茶は１年に２枚。お金で買う。１枚６円。粟は１年に200斤。１斤は205銭。

81-12　買いもの　(29) 1 -54

粛親王府の管理所で買うもの，茶，マッチ，白酒，タバコ，砂糖，布，リンゴ。（子どものために。）

81-13　買いもの　(25)1-40

ボルガスタイ・タラに住む廂白の人間は，粛親王府の管理所の購買組合［ホリシャ］でマッチ，タバコだけを買うことを許されている。

89-211　買いものの予定　(61)21-54

ことしの買いものの予定はまだない。

買いものにゆく

81-15　買いものにゆく　(93)6-75

グフ・トロガイの大蒙公司にヒツジの毛とラクダの毛を出した。オヨン（女）が自分で行った。娘婿のジョクスムも一緒に行った。ネルンパラムの家は，一緒にはゆかなかった。

89-200　買いものにゆく　(341)18-30

ホリシャのほかに康保で取り引きをする。康保へは年に１回も行くか行かないかわからない。ことしは，１度も行かなかった。

暮らし向き

労働力

82-8　労働力　(387)24-22

道路工事その他の人夫にでるモンゴル人は，１人もいない。それよりこちらに人手がたりない。

82-9　労働力　(387)24-37

この集落のものは，ほとんどがアルガリを売りに行った。人手があって，アルガリがおおければ，だれでもゆく。ガジトソーなどは貧乏だが，人手がないのでゆかないのだ。

82-10　労働力　(387)24-44

農業をしてみようという気のある人間もあるらしいが，事実上できない。できない理由は，人手不足である。みんな，衙門その他に人手をとられてしまっている。

82-11　労働力　(360)18-68

オトルに出るのは，貧富には関係しない。家庭に人手があるかないかによる。

82-12　労働力　(360)18-73

在家のラマは，むかしは少なかったが，いまはたくさんになった。それは，きょうだいなどが兵隊に出て，家の人手が少なくなれば，ラマが家にかえらざるをえなくなったのだ。

82-13　労働力　(33)21-47

人手不足にこまったので，15歳の娘を養女にもらったが，学校にとられてしまったので，損をした。

82-14　労働力　(272)15-13

まえは，ヒツジ飼いをやとってなかったので，主人が自分でヒツジ飼いにゆかなければならず，母は家事をとらねばならず，人手がなかったので，乾草が刈れなかった。

82-15　労働力　(98)7-25

イムジルは，ヒツジがかなりたくさんいる。ヒツジがあれば，ほんとうはもっとうごくべきだが，男手がないので，年に２回しかうごかない。

82-3　働き手　(269)14-92
シャルブは，兵隊に行っていた。シャルブは，婿養子である。妻の父が働いて一家をささえていた。それが死んだので，シャルブは兵隊から帰してもらった。
82-5　力がない　(93)6-76
乾草はむかしから刈らない。刈るにも力がないのだ。
82-6　力がない　(51)3-62
やがて，出身地の西ジャラン・スムのほうへ帰っていこうとしている。しかし，ことしはもう力がなくなったので，ことしはできない。来年，帰るつもりである。
89-196　労働力　0-51
人手不足のため，馬群が半野生化してしまったのがある。長いこと見まわりに行かずに打ち捨ててあるから。人が近寄ると逃げる。
89-197　労働力　0-52
定牧ならば，ヒツジの群れは500頭でも大きすぎる。たいていは300以下。人手が不足ならば，もっと大きい群れにするが，それはいけない。

生活と収入

82-17　生活と収入　(269)14-93
生活は，シャルブがジャンギからもらう月給で暮らしている。いくらもらうのか，わからない。ジャンギからは，食べものも少しもらう。

家畜と暮らし

82-19　ヒツジを飼わない　(275)15-45
もとは，若干のヒツジがあった。735年に匪賊にすっかり持っていってしまわれた。それからのちは，ヒツジは飼わないことにした。ヒツジはあったほうがよい。なければ，こまるが，ないものはしかたがない。
82-20　ヒツジのない生活　(275)15-49
ヒツジがない。ヒツジがなかったら，フェルトをどうするのか？　*アイル*から買う。
82-21　ヒツジがない　(278)15-69
17～18年まえに，固定家屋をたてて，包を人に売ってしまった。ヒツジがなくてフェルトがないから，売ってしまった。
82-22　ヒツジがない　(287)16-58
まえからヒツジを飼っていない。毎年，冬の肉は，人のところに働くか，なにか仕事をして，ヒツジをもらって食べていた。
82-23　家畜と生活　(135)39-56
家畜は，生活ができる程度にいる。メスウシ１頭。ヒツジ30頭くらい。

82-24　ウシと暮らし　(99)7-32
メスウシ７頭。夏はこれだけのウシで十分暮らせる。乳はあまる。
82-25　ウシのない生活　(98)7-19
ウシをもっていない。むかしから，小さいときから，ウシがいない。ウシなしで暮らせてきた。
82-26　メスウシと暮らし　(95)6-82
メスウシ１頭をしぼるだけである。メスウシ１頭では暮らしがなりたたない。
82-27　ヒツジをもたないこと　(62)4-41
ヒツジはもっていない。むかしからもっていない。自分の若いときから，もっていない。手がないから，飼わなかった。
82-29　家畜の増えかた　(89)6-52
大雪害ののち，自然に子どもを産んで増えた。買って増やしたことはない。家畜は買ったのもあるが，たくさんはない。
82-30　家畜の増えかた　(77)7-2
メスウシ１頭からでも，毎年当歳子ウシが生まれるが，それはオオカミが食ったり，自分で売ったりして，みないない。
82-31　家畜の増やしかた　(98)7-23
家畜はどうして増やすのか？　メスウシを飼えば子どもを産む。２歳ヤギを飼えば，翌年には２倍になる。
82-32　家畜の増えかた　(70)5-11
モンゴルでは１頭のヤギがあれば，10年のちには100頭になる。だから，病気や大雪害で全滅しても，１つだけのこれば，またそれから100になる。
82-33　家畜の増えかた　(73)5-5
８年まえに大雪害があって，ほとんどすべて家畜が全滅した。いまの家畜は，そののちに増えたものである。家畜は雪害があっても，このように増えるから，たいして心配したものでもない。
82-34　家畜の増やしかた　(8)5-76
はじめは何もなかった。はじめ，左翼旗の人からヒツジをあずかり，そのヒツジから生まれた子どものうち，自分の礼としてもらったもののなかから育てて，いまのヒツジを得た，という。
82-35　家畜の増やしかた　(70)4-85
大雪害ののち，いまの状態にまで家畜を増やすのは，子どもを産んで自然に増えるのをまったのではない。メスとオスとを交換したり，買ったりしたからこそ，増えたのである。
82-64　暮らし　(274)15-39

グシグドクトグの家はどうして暮らしているのか知らない。家畜はメスウシ１頭だけ。別にジャンギの仕事も何もしていない。あちこちのアイルにたのんで，暮らしているのだろう。

没落

82-37　没落　(21)21-41
北牧場のマイマイ。この20年来，大所有者になったモンゴル人はない。しかし，没落したモンゴル人はたくさんある。とくに，６年まえの雪害によって［家畜が］死んだ。
82-38　没落　(314)17-67
家畜をなくしたのは，亥年の雪害のときである。
82-39　没落　(269)14-92
むかしは，もっとたくさん家畜があった。みんな亥年の雪害で死んでしまった。
82-40　没落　(189)9-43
ゴトブ，ジュルトゥムなどは，まえから金もちである。亥年の雪害で家畜を死なせたが，たいして死んでいない。
82-41　没落　(104)39-9
大分限者になったものはないが，大分限者が急に貧乏になった例はいくらもある。
82-42　没落の理由　(104)39-9
大分限者が急に没落して貧乏人になるのは，遺言でゲゲンや寺に家畜をやれと言われたのを忠実にまもるからである。それで，ゲゲンは自分の家畜をうんともっている。
82-43　没落　(26)5-65
３年まえには，ウシが30頭以上いた。伝染病で10頭をのこして，全滅した。また，そのうちから売ったりして，しだいに減った。去年また病気で３頭死んだ。いま，メスウシと当歳子ウシがそれぞれ５頭ずつしかいない。
82-44　没落　(27)5-72
この家がさかんなときには，ヒツジ100頭，ウシ30頭，ウマ２頭くらいいた。30年まえのこと。その後，病気で減ってしまった。
82-45　没落　(84)5-81
むかしは，家畜がたくさんあったが，雪害のために，みんな死んでしまった。ウマはみななくなった。ウシは少しのこった。
82-46　没落　(90)6-56
去年は，ウマが300頭もいた。いまは，150頭くらいになった。あとはみな，寺にやってしまった。ラクダは70頭いたが，いまは35頭くらい。
82-48　没落　(30)1-55
家畜はむかしあったが，みななくなってしまった。それから，靴つくりの商売をはじめ

た。

勃興

82-50　勃興　(18)21-35

この男は，20年まえまでは，牧夫をしていたのが，勃興して，いまでは大金もちになった。ウマ800，ウシ200，ヒツジ1,500，ラクダ30。

82-51　勃興　(21)21-41

この20年来，大所有者になったモンゴル人はない。北牧場のマイマイの話。

貧乏

82-53　貧乏　(271)15-4

４年まえに，ジャンギの家でヒツジ飼いにやとってもらった。家が貧乏だから，やとってもらった。

金もち

82-55　金もち　(189)9-43

ゴトブ，ジュルトゥムなどは，まえから金もちである。

82-56　バイン・ジュルトゥム　(178)9-9

バイン・ジュルトゥムは，むかしから知っている。マイマイの評判では，ウマ100，ラクダ30～40，ウシ50，ヒツジ1,000くらい持っているだろう。

内職

82-58　内職　(95)6-82

働いてアイルで食べものをもらう。縫いもの，ヒツジ飼いなどをする。いまは，どんな仕事もない。

82-59　手内職　(84)5-87

ベーリン・スムのシナン・デムチからたのまれた。包のフェルトの縁の縫いとりをしてくれと，たのまれた。縁を縫うためのラクダの毛は，シナン・デムチが一緒にもってきた。10日まえにもってきた。４日まえから仕事にかかり，あと４日したら帰る。

82-60　手内職のお礼　(84)5-88

包のフェルトの縁の縫いとり。ラクダの毛でする。毛はたのんだ人がもってくる。若い娘のイフ・ラムソーがする。お礼になにかくれるだろう。なにをくれるか，わからない。シナンのくれるものをもらう。

売り食(ぐ)い

82-62　売り食い　(270)14-98

むかしから，もっているふるい革の着ものなどをもって行って，その代わりに，食べものを買ってくるのである。もう夫婦が年を取ってしまったので，ほかに何の働きもできないのだ。

流通経済

塩の値段

79-3　塩の値段　(273)15-35

バルジョール，塩のブローカーをしている。去年の塩の値段は，買うとき１斗11円，売るとき１斗20円。

ヒツジの値段

79-5　ヒツジの値段　(260)41-46

ふつうに買えば，西スニトの相場で300～400円だという。軍はそれを60～70円で買う。

79-6　ウマの値段　(260)41-45

ウマの値段は，ふつう3,000円くらいのを，軍馬購買では，400円くらいで買ってゆく。

79-7　ウシの値段　(255)13-21

屠殺するウシを買った。４歳のメスウシ。700円。

79-8　ウマの値段　(189)40-9

ことしウマを２頭ホリシャへ売った。現金でもらった。1,000円と1,500円，２頭であわせて2,500円もらった。

79-9　ウマの自由価格　(89)6-49

モンゴル人同士の取り引き。このごろは，よいウマなら3,000円くらいする。

闇値

79-11　闇値　(387)24-24

家畜の売り買いには，旗のそとに出すときには，旗公署の許可がいるけれども，旗のなかでは闇値（時価）で売り買いしてもよい。

79-12　横流れ　(260)41-47

旗公署が旗民に配給するために，穀類を漢人地帯から買い入れている。しかし，それが旗民の手に入らないで，さらにどこかへ流れるらしい。

79-13　横流れ　(260)41-47

羊毛は，ホリシャ，大蒙公司，軍をあわせて９万斤を集荷しているが，税金の関係から計算すると，少なくとも20万斤は，この旗のなかから出るはずだから，11万斤というも

のは，どこかよそへながれていることになる。
79-14　闇　(260)41-46
軍は木綿の色ものでも１反300～400円で手に入れる。それで羊毛を買う値もやすい。ところが，これをこんどは，3,000～4,000円の闇値で売るものがある。
79-15　闇値　(103)39-6
チャハルでは，漢人の指定業者が入ってもよいことになっている。すると，これらの漢人の業者は，闇値をたてる。それで，日系の業者は，チャハルには入らないのである。
79-16　羊毛の値段　(103)39-7
羊毛の公定価格は，１斤１円70銭。ただし，貝子廟における値段。貝子廟までの運賃はモンゴル人の生産者の負担になる。だから，買い付け価格はもっとやすい。
79-17　闇取り引き　(103)39-6
トゥムルタイは，去年あたりは，闇取り引きの中心地であった。これは，ここが供出したうえに，まだ余分の穀類をもっているからである。去年は，軍のほうで相当没収したということである。

物々交換

79-19　物々交換　(272)15-13
ヘレート・シンディーの漢人から乾草を１台買った。*アルガリ*１台と物々交換したのである。

食料を買うお金

79-21　食料を買うお金　(266)14-64
食料をトゥムル・シュンティー［商都］へ買いに行った。現金で買った。去年ウシを売ったお金。200円。

金もちに対する態度

79-23　金もちに対する態度　(192)9-71
タンパイ［中国語で攤派，供出割り当ての意］や供出などでこれだけたくさんふんだくられても，これをやめてくれと言っていくところもない。別にこれはひどいことだとも思わない。金もちはたくさんださねばならない。
79-24　金もちと寄付　(192)9-72
寺への寄付は，金もちでもなんでも関係がない。こっちの自由意志で出すのである。400～500円ばかり，寺に寄付した。
79-25　金もちに対する態度　(98)7-24
家畜をたくさんもっている人は，別に偉い（erdemtei）とは思わない。家畜の多い人は，

運がよい（boyintai）人か？　それはわからない。
79-26　金もちからしぼる　(89)6-52
衙門から税金以外にずいぶんお金をとりたてる。学校をたてるなどの名目で，こんなお金は，貧乏な人からは取らない。

家畜の数

79-28　家畜の数　(61)21-52
家畜の数をちゃんと帳面につくっていた。だから，この家の家畜の数は非常に正確にわかっている。
79-29　家畜の数　(272)15-12
毎日ぞくぞくと死んでゆくので，正確にいま何頭いるか，わからない。きのうは30いても，きょうは10くらいになっているかもしれない。
79-30　家畜の数　(272)15-16
病気で死んだ家畜の数を聞いたら，ウシはわかったが，ヒツジ，ヤギはわからないと言った。そして，「いちいち帳面につけているわけじゃなし，そんなこと知るもんか」と言った。
79-31　家畜の数　(272)15-17
家畜の数の異動は，自分でジャンギのところへ届けにゆく。
79-32　家畜の数　(336)17-92
娘から聞いたのと，あとで父親から聞いたのとでは，かなり数がちがう。父親のほうが正確である。
メスウシ，娘２，父親４。当歳子ウシ，娘２，父親３。２歳子ウシ，娘１，父親２。ヒツジ，娘10，父親20，実際32。ヤギ，娘10，父親20，実際20頭。
79-33　家畜の数　(224)10-31
ダーラマが家畜の数をしらべて，その帳面をマンダルトにおいている。ここには，その総数だけがうつしておいてある。（オルン・ホトク・スムにて）
79-34　家畜の数　(138)8-59
近所のチョエンジルは，実の兄である。チョエンジルは，実際は馬群を70頭ぐらいもっている。（チョエンジル自身は40頭と言った）
79-35　家畜の数　(64)4-49
バイン・エルテ・スム。家畜はある。数を知っているか？　いま家畜の係のラマがコショー・スム［旗の寺］に行っているから，わからない。
79-36　家畜の数　(50)3-71
家畜の数を知っているか？　知らない。知りたかったら，ジャンギのところへ行ってくれ。あるいはグフ・ノールのホリシャにでもわかっている。帳面につけてある。ジャン

ギには家畜が１頭死んでも報告に行く。
79-37　家畜の報告　(51)3-71
家畜の数は全部ジャンギのところへ報告してある。１頭死んでもすぐジャンギの家へ行って，報告する。

金もうけ

79-39　金もうけ　(270)15-1
日本人についてエチン・ゴルの特務機関まで行ったことがある。旗公署からの命令ではない。お金をもうけようというつもりでついて行ったのである。

お金の出し入れ

79-41　お金の出し入れ　(277)15-64
嫁さんでは，お金の出し入れのことは，はっきりわからない。

経済観念

79-43　経済観念　(180)9-13
ヒツジは若干いる。私有のヒツジか，あずかりのヒツジか，知らない。婆さん66歳。
79-44　経済観念　(138)8-62
トゥムルタイに行くについて，チョエンジルから買い出しをたのまれたが，お金はあずかっていない。これも，ホリシャに羊毛を出しているから，票子で買える。お金は要らないのである。(ところが，チョエンジル自身はお金を100円あずけたと言っているのだが…。)
79-45　高い　(136)8-12
布も食料とおなじく，貝子廟で買う。ジャラー・スムのは高い。
79-46　経済観念　(137)8-52
ヒツジとヤギの皮をホリシャに売った。その代わりに，茶を20枚もらった。そのほかに，供出のヤギ，ヒツジの毛を出しているが，この茶はその代償としてくれたのかどうかは知らない。

月給

79-48　月給　(341)18-30
ボシュグの月給はない。一文もない。
79-49　月給　(31)21-44
廂白旗の小学校の先生。月給は80円。
79-50　月給　(287)16-56

仕事は一定していないが，たいていは民政科長の家で働いている。月給は決まっていない。食べものがあれば，もらってくる。
79-51　月給　(313)17-61
ダンジンは，ソムのボシュグ。月給は30円。
79-52　月給　(314)17-61
ドゴルは，ソムのボシュグ。月給は30円。
79-53　月給　(310)17-61
ボシュグの月給はジャンギからわたす。
79-54　月給　(310)17-62
ジョンダの月給は27円。
79-55　月給　(335)17-84
兵隊で月給をくれる。上等兵。月に21～22円。
79-56　月給　(263)41-78
ニルブの給料は年に１回。去年は50円もらった。
79-57　月給　(269)14-92
生活はシャルブがジャンギからもらう月給でささえている。いくら月給をもらうのか知らない。
79-58　月給　(268)14-86
ジャンギの月給は旗からもらう。総監の月給は盟からもらう。
79-59　月給　(268)14-86
ジャンギの月給は年に280円である。
79-60　月給　(138)8-57
ラマ。グフ・トロガイ・スムのホリシャの長をしている。月給は８円。現金でもらう。
79-61　月給　(105)39-19
バートル，兵隊。階級なし。月給は10円。

貯金

79-63　貯金　(295)17-31
ダライは漢人の帰化人，マイマイをしていたときに300円ばかりのお金をたくわえた。それで家畜を買った。
79-64　貯金　(295)17-34
ホリシャで食料を買うのは現金。現金収入はない。いまのお金は，むかしからのたくわえでやっているのである。
79-65　貯金　(335)17-84
兵隊で月給をくれる。貯金はしていない。いろいろなものを買う。みなつかってしまう。

家にはもって帰らない。

借金の払い

79-67　借金の払い　(21)21-41

北牧場のマイマイ。ヒツジ100頭は，*アイル*にあずけてある。これは借金のかたとして，こちらの所有に帰したもの。1頭，200〜150〜100円で取った。

借金

79-69　借金　(21)21-40

北牧場のマイマイ。モンゴル人に25,000円ほどお金が貸してあった。現在では，15,000円になった。最大の借金主は，4,000円。

79-70　借金　(272)15-15

去年のヘレート・シンディーにおける買い出しの代金は，粟（*ホーライ*［乾燥したもの］）10斗分は皮とヒツジの2〜3頭で交換したのだが，あとの粟，ユウ麺，白麺［小麦粉］は，借金になっている。

79-71　借金　(265)41-82

寺ではお金を貸さない。

79-72　借金　(263)41-78

借金には利子がいらない。

79-73　借金　(263)41-78

お金がないときには，人から借りても，寺から借りてもよい。

79-74　借金　(45)3-21

ことし，*ホリシャ*でユウ麺を10斤買った。また茶を3枚買った。どちらも，お金を払ってない。借金である。あわせて23円の借金。

79-75　借金の払いかた　(45)3-26

ジェートムという人から，わなを150円で買った。まだお金を払ってない。ことしの冬にはお金を払ってやるつもりをしている。いまは，お金がない。このわなをつかって，オオカミなどをつかまえて，それを売ってお金をつくる。

79-76　借金の払いかた　(45)3-26

プルブトという人から150円でわなを買った。ことしの正月。そのときには，30円ほどもっていた。それを払った。あとは，5円，10円となしくずしにして，100円ほど払った。子ヤギをもらって来て，それを2歳にそだてて，それをやった。（これで，この借金は済んだ。）

89-226　*ゼール*（借金）　(194)21-58

借金はない。

金貸し

79-78　金貸し　39-50

ダライ・スムは，ラマやアイルにお金を貸していない。

現金収入

79-80　現金収入　(387)24-27

ものさえあれば，現金収入のほうがありがたい。

79-81　現金収入　(278)15-70

息子が汽車公司の運転手。ことしの６月に帰ってきた。お金を600～700円もって帰ってくれた。

79-82　現金収入　(295)17-34

現金収入はない。いまいる現金はむかしからのたくわえでやっているのである。

79-83　現金収入　(313)17-61

ダンジンはソムのボシュグ，兄はホリシャの雑穀収入係。きょうだいで現金をもって帰る。

79-84　現金収入　(137)8-51

食料買い出しのため100円あずけて，買って来てもらった。その100円は，去年からためてあったお金である。去年，旗公署にヒツジを５頭出した。その代金に120円くれた。そのお金である。

79-85　現金収入　(45)3-26

去年とことしとあわせて，130円くらいの現金が入った。正月には30円ほどもっていた。いまはお金がない。

79-86　現金　(43)3-5

ことしの秋に寺の草刈りをして，40円もらったが，それはまだつかわずにもっている。いままでに100円以上をもったことがない。

89-209　現金収入　(61)21-54

労働による現金収入はない。

現金取り引き

79-88　現金取り引き　(277)15-63

食料の買い出しは，たとえば，シンディーなどから買ってくる。現金だと思うがはっきりはわからない。

79-89　現金取り引き　(278)15-70

食料を買った。ことし10月。お金は，汽車公司の運転手をしている息子が，この６月にもって帰ってくれたお金で買った。

79-90　現金取り引き　(192)9-70
去年，貝子廟で粟５～６斗と白麺300斤を買った。現金で買った。
89-257　現金　(295)17-34
ホリシャの買いものは現金。現金収入はない。むかしからのたくわえをいまつかっているのである。なくなったら，しかたがない。旗のウシでも売ってお金をつくる。
89-258　現金　(265)41-83
いま，寺に５円もっている。

供出と税金

軍の要求

78-4　軍の要求　(103)39-6
内モンゴルに対する軍の羊毛の要求は，400万斤である。
78-5　軍の指定物資　(103)39-8
ヒツジの皮，ウマの皮，ウシの皮は，軍の購買指定物資である。

ラクダの徴発

78-7　ラクダの徴発　(138)8-57
オラン・ホトク・スムからグフ・トロガイに羊毛を運ぶにつかっているラクダは，ホリシャのラクダではない。あちこちのアイルのラクダである。いま，われわれのつかっているラクダは，グフ・トロガイのホリシャから貝子廟まで，このあいだ羊毛とラクダの毛を積んで行ったものである。
78-8　ウマの徴発　(45)3-22
監視のときの見はり役の乗るウマは，官馬である。すなわち，私有のウマをソムの命令で徴発して，これにあてる。

物納

78-10　物納　(89)6-53
衙門からの取り立ては，家畜で払ってもよい。税金も，家畜で払ってもよい。

徴発係

78-13　徴発係　(98)7-28
バトモンフは，われわれの隊の徴発係として来ている。旗公署からの命令で来ている。

衙門の払い

78-15　衙門の払い　(341)18-31

肉を旗公署にもってゆく。19斤。これはお金をくれるのか，どうするのか，わからない。
78-16　役所の払い　(266)14-68
供出のお金は，くれると言ったが，そののち何の音沙汰もない。
78-17　衙門の払い　(20)21-38
アイルのそばにテントを張って，羊毛の刈り取りにきているホリシャの漢人。賃金は不明。そのときどきに旗公署からもらうが，もののときもあり，お金のときもある。去年の秋以来，ぜんぜん払っていない。
78-18　衙門の払い　(295)17-33
衙門のヒツジ２頭出した。お金はくれない。くれるのか，くれないのか，わからない。

衙門の取り立て

78-20　衙門の取り立て　(89)6-52
衙門から税金以外にずいぶんお金をとりたてる。たとえば，学校をたてるなどの名目で。ことしの春，第２女子学校をつくるというので，800円取られた。現金でやった。去年は忘れたが，ことしよりは少なかった。

人頭税

78-22　人頭税　(89)6-53
去年はとらなかった。ことしは２回とった。春。第１回，１人20円。第２回，１人50銭。子どもでもおなじ。これは，貧乏人でもおなじように取りたてた。

税金の取り立て

78-25　税金の取り立て　(89)6-48
税金は１年に１度おさめる。５月。ソムがとりにくる。ソムの徴集係がとりにくる。
78-26　税金をおさめる季節　(189)9-50
税金はもうおさめた。

賦役

78-28　賦役　(387)24-22
労働力を出すことはない。ただし，牛車などを出すことはある。なくならないで，みんな返ってくる。ただし，みな無料である。ことしは牧業中学の移転のために，ソムから３台出した。
78-29　賦役　(387)24-23
牧業中学の移転のために，牛車を３台，このソムから賦役に出した。この車は，建築が終わるまで，数カ月間返ってくる見こみがないので，だれでも出すのをいやがったから，

みんなで，共同出資で買った。ウシも車も一緒に買った。

税金

78-2　税金　(61)21-54

ラクダ３円，ウマ，ウシ２円，ヒツジ40銭，ヤギ25銭。

78-31　税金　(18)21-36

去年，ウシ２円，ウマ２円，ヒツジ60銭，ヤギ40銭。ことしは，ウシ10円，ウマ10円，ヒツジ３円，ヤギ３円。

78-32　税金　(21)21-40

北牧場の商人。税金は，ウマ・ウシ２円，ヒツジ40銭。

78-33　税金　(32)21-47

300円おさめた。

78-34　税金　(33)21-49

ウシ，ウマ２円。ヒツジ，ヤギ80銭。

78-35　人頭税　(33)21-50

１人につき150円。４人家族だから600円。

78-36　税金　(278)15-68

税金は，ことしはウシ２頭。第１回３円20銭，第２回２円，第３回２円であった。現金で払った。

78-37　税金　(263)41-78

寺のあずけ家畜の税金は，*アイル*で払う。

78-38　税金　(189)9-50

ボド［大型家畜］は２円。人頭税は１人50銭。（*ボド*とは，ウシ，ウマ，ラクダ）

78-39　税金　(192)9-71

人頭税　１人あたり60銭。

78-40　税金　(192)9-73

税金の比率はつぎのとおりである。６ヒツジ＝１ボド。６ヤギ＝１ボド。

78-41　税金　(192)40-29

ラクダ３円，ウマ，ウシ２円，ヒツジ６頭で２円，ヤギ８頭で２円。

78-42　税金　(89)6-48

ウシ，ウマ２円。ヒツジ40銭。ヤギ25銭。ラクダ３円。

78-43　税金　(26)5-67

税金は粛親王府のほうへおさめる。シャンパイチーからも税金をかけてくるが，王府のほうへおさめているから，二重の税金払いはできないと言って，はねつけている。

78-44　税金　(27)5-71

廂白旗から税金を払えと言ってくるが，払わない。
78-45　子どもの税金　(89)6-48
１歳の子どもの家畜もみな，税金の計算のなかに入れる。
78-46　税金　(44)3-11
ウシ３円，ウマ３円，ヒツジ，ヤギは１円くらい。
78-47　税金　(56)4-22
税金は１年にウマ２円。
78-48　税金　(35)2-45
税金は当歳子ウシにはかからない。
78-49　税金　(36)2-66
去年，夫が死んだ。ことしから夫がいないので，税金もおさめない。
78-50　税金　(41)2-82
ウシ１頭２円。
78-51　税金のおさめかた　(54)4-18
税金は佐領のところへもってくる。佐領はそれを旗公署へもってくる。
78-52　税金あつめ　(56)4-22
税金は*ボシュグ*があつめる。あつめにくる。*ボシュグ*は*ソム*の役人で，なにかあるとソムのなかをめぐる。

ボド
78-54　*ボド*　(189)9-50
(税金および*タンパイ*の話をするのに，*ボド*ということばをつかった。*ボド*というのは，ウシ，ウマ，ラクダの３つをいうのだと言った。)

タンパイ［中国語で攤派，供出割り当ての意］
78-56　*タンパイ*　(387)24-24
モンゴル軍の*タンパイ*。去年，ヒツジを１佐１年に20頭くらい。
78-57　*タンパイ*　(387)24-24
モンゴル軍の*タンパイ*。去年，１佐に乗馬10～20頭くらい。
78-58　*タンパイ*　(387)24-24
モンゴル軍の*タンパイ*。去年，旗民１人にかご１杯の*アルガリ*。これはお金をくれた。１杯50銭。
78-59　*タンパイ*　(387)24-24
学校の*タンパイ*。去年，女子部が旗全体で20頭ほどのウマをあつめた。これを売って，学校の予算をおぎなうのである。

78-60　*タンパイ*　(387)24-25
学校の*タンパイ*。去年，旗民１人にかご10杯。これはお金をくれなかった。
78-61　*タンパイ*　(387)24-25
学校の*タンパイ*。去年はウシ，ヒツジ。若干のお金をくれて出した。
78-62　*タンパイ*　(387)24-25
去年，*ホリシャ*で*アルガリ*の買い上げ。１車30円。これは自由販売であった。
78-63　*タンパイ*　(387)24-25
去年，衙門の*アルガリ*。１車10円のわりで買いあげ。2.5戸に対して１車のわりでわりあてた。
78-64　*タンパイ*　(387)24-25
去年，衙門の*アルガリ*。漢人地帯全部で300車。これは全部無料で取りあげた。
78-65　*タンパイ*　(189)9-50
*ボド*に対して１円。(*ボド*とは，ウシ，ウマ，ラクダ)
78-66　*タンパイ*　(192)9-71
ことしは，1,000円くらい取られた。学校を創立する助成金。現金で出した。
78-67　*ゲル*の供出　(192)9-71
*ゲル*はふたつもっていたが，１つは女子小学校ができるので，そのために供出で取られた。お金はくれない。かえしてくれない。
78-68　供出に対する批判　(192)9-72
*タンパイ*や*ゲル*の供出など，これだけとられても，これをやめてくれと言って行くところもない。これは，別にひどいことだとか思わない。しかたがない。金もちはたくさんださねばならない。
78-69　取り上げ　(190)40-23
このあいだ，役人がいちばんよいウマを勝手に取っていって殺した。もちろん，代金は１文も払わない。
78-70　徴発　(89)6-41
去年ヒツジを10数頭，ただで供出した。旗の供出は，むかしから強制的で，ただ取られる。会議などがあるときに徴発される。しかし，去年でその制度はやめになった。
78-71　衙門の取り立て　(39)2-60
ことしは，衙門の取りたてがない。去年は１円とられた。ウシを１頭もっているからである。当歳子ウシにはかからない。

軍馬購買

78-73　軍馬購買　(341)18-31
ない。

78-74　軍馬購買　(346)18-53
(346)（348）の２軒，おのおの１頭ずつを出した。
78-75　軍馬購買　(21)21-40
日本軍の軍馬４頭，360～380円。これは決済がすんだ。モンゴル軍２頭。これはまだ払ってもらっていない。
78-76　軍馬購買　(33)21-48
ことしあわせて９頭。日本軍５頭，モンゴル軍２頭，日本軍２頭。
78-77　軍馬購買　(267)41-87
ことし，軍馬を２頭出した。代金はドルジがもらったはずだ。
78-78　軍馬購買　(260)41-45
馬群のなかのウマは手入れがゆきとどいていないので，鼻疽反応を呈するものが多いから，軍馬購買ではあまり採用しない。それで，大馬群の所有者より，２～３頭の持ち主のウマのほうが，多く適格馬になる。だから，その持ち主はこまる。400円くらいの代金では代わりのウマが買えないからである。
78-79　軍馬購買　(260)41-45
１頭3,000円くらいのを400円くらいで買ってゆく。
78-80　軍馬購買　(89)6-49
軍馬購買は，売りたくて売るのではない。みな強制的な供出である。
78-81　軍馬購買の影響　(S)7-66
ちかごろは，軍馬購買やモンゴル軍のためにオスウマをとられてしまうので，メスウマに乗っている人が多くなった。
78-82　軍馬購買　(103)39-8
軍の軍馬購買の価格は大蒙公司あたりの購買価格の半値である。
78-83　軍馬購買　(137)8-49
ことし，ウマを20頭出した。旗公署へ軍馬に出した。お金はくれない。
78-84　軍馬購買　(192)9-66
去年の春，４頭，350円ずつ。
78-85　軍馬購買　(192)9-66
ことし，３頭。350円ずつ。
89-227　軍馬購買　(194)21-60
去年，おぼえなし。ことし，６頭。１頭350円。
78-86　軍馬購買の払い　(189)40-10
軍馬購買のお金は，まだもらっていない。
78-87　供出のお金　(99)7-35
供出にウマ，ウシ，ヒツジを出している。去年のこと，お金をくれるという話だが，ま

だ何もくれない。
78-88　供出のお金　(99)7-35
ことしの供出，ヒツジ７頭。お金はまだくれない。
78-89　衙門の払い　(39)2-57
去年，衙門にカシャーをつくってやった。50円ほどくれた。ことし，学校女子部にカシャーをつくってやる。お金はくれるか，くれないか，わからない。多分くれるだろう。
78-90　衙門の払い　(36)2-65
昨日，旗公署にヤギを１頭もっていった。お金はくれるのか，どうか，わからない。

供出

78-92　供出　(341)18-31
いま，ヒツジの肉を旗公署にもってゆく。19斤。これは，お金をくれるのか，どうするのか，知らない。
78-93　供出　(33)21-48
旗公署に，年にヒツジ70頭をおさめる。（１年の生産量の大部分をおさめることになる。）
78-94　供出　(33)21-48
旗公署へウシ２頭。
78-95　供出　(272)15-16
軍馬購買にきた人へヒツジ２頭。衙門へヒツジ２頭。（これは最近である。）お金はくれない。
78-96　供出　(275)15-46
ことしの春，ウマ１頭。この代金はくれた。330円。きょう，メスウシ１頭。いま，第８佐のジャンギの家へ第６佐のジャンギが来ている。この供出を取りたてにきた。
78-97　供出　(297)17-25
ウシのシュドレンが３頭，ヒャザーランが４頭，あとはわからない２頭。
78-98　供出　(295)17-33
ヒツジ２頭。衙門。お金はくれない。くれるのか，くれないのか，わからない。
78-99　供出　(335)17-86
去勢ウシ１頭出した。まだお金はくれない。
78-100　供出　(267)41-87
ウシ２頭，旗公署へ出した。代金はもらうか，どうか，わからない。
78-101　供出　(266)14-68
ウマは供出に出していない。いま，いるのは10何歳の年寄りのウマだから。
78-102　供出　(266)14-68
ウシのシュドレン１頭。ヒツジ，ヤギから若干10頭くらい。正確にはわからない。

78-103　供出　(266)14-67
ヒツジ７頭，ヤギ１頭，全部オス。別にシュドレンのオスを１頭。どこへ供出したのかわからない。お金はまだもらっていない。
78-104　供出　(189)40-9
ウマことし４，去年３。ウシ３，４。ヒツジ33，０。ヤギ３，０。ソムを通じて旗のほうへ出した。代金はくれない。
78-105　供出　(190)40-21
バズルサトの母親は，供出のラクダを追って行った。
78-106　供出　(190)40-23
このあいだ，役人があつまりをひらくというので，ウシを出せと言ってきた。きょうまたウシを１頭出せと言ってきた。出さなければ，つぎにまた出せと言ってくる数がふえる。
78-107　供出　(190)40-23
役人があつまりをひらくために，家畜を供出せよなどという供出の命令は，最近ふえてきた。
78-108　供出　(189)9-40
ことし，６月，軍馬購買に１頭。
78-109　旗の供出（ヒツジ）　(89)6-41
去年，旗の衙門にヒツジを10数頭出した。これは，お金はくれない。ただ取られた。
78-110　ヒツジの供出　(89)6-41
ホリシャへ出した。ヒツジを10数頭出した。お金はまだもらっていない。
78-111　ウシの供出　(89)6-40
去年３頭，ことし２頭，いずれも４歳以上の去勢オス。旗の衙門に供出した。去年は１頭だいたい50～60円もらった。ことしは２カ月以上になるが，まだお金はもらっていない。
78-112　軍馬供出　(89)6-40
去年３頭，ことし，春３頭，秋２頭。いずれも５歳以上のもの。値段は，去年は240円。ことしは300～400円で，あわせて2,000円ほどもらった。現金。
78-113　供出　(99)7-34
秋，ウマ，去勢馬１頭。
78-114　供出　(99)7-34
秋，ウシ３歳オス１頭，３歳メス１頭，４歳オス１頭。
78-115　供出　(99)7-34
ヒツジ，夏から秋にかけて５回くらい取りにきた。（５，２，４，１頭）
78-116　供出　(99)7-35

ことしの供出は，ヒツジ７頭，*ホリシャ*に６月。
78-117　供出　(136)8-21
供出家畜はあった。数はわからない。主人がわかる。
78-118　供出　(137)8-48
ことし，ウシを10頭供出した。旗公署へ出した。学校設立のため。お金はくれない。
78-119　供出　(137)8-49
*ホリシャ*へヒツジを30頭。お金はくれない。ものもくれない。
78-120　供出　(137)8-49
去年，ヒツジ５頭。120円くれた。
78-121　供出　(51)3-85
供出は衙門からくるのではない。ソムからくるのである。去年，ヒツジ１頭を取っていった。代わりに何もくれない。ことしなし。
78-122　供出　(42)2-88
去年の10月に，メスウシを１頭，旗に供出した。100円であった。
78-123　供出　(44)3-10
去年，*ヒャザーラン・ヤマー*［３歳ヤギ］を２頭，*ホリシャ*に供出した。値段は100円とした。現金の代わりに，茶３枚（１枚６円），白麺10斤（１斤３円）をうけとった。のこりは，まえに食料を買って借金になっていたのの払いにした。
78-124　供出　(47)3-31
去年の夏，ウシ（去勢した*シュドレン*）。お金は冬にもらった。現金で250円。ことしの春，ウマ１頭。お金はまだ。
78-125　供出　(48)3-37
旗公署へ。ごく最近のはなし。ウマ１頭２歳。お金はくれるか，くれないか，わからない。まだ何ももらっていない。
78-126　供出　(50)3-49
去年の11月，ウシ，去勢した*シュドレン*。衙門から取りにきた。このウシは借りものであったが，かまわずにもっていった。その代わりに，何もくれなかった。ヒツジ，ヤギは取りにこない。

羊毛の供出

78-128　羊毛の供出　(387)24-25
夏はモンゴル・ゲルのほうがすずしくてよいが，このごろは，羊毛の供出がやかましくなったので，あたらしいフェルトがつくれない。
78-129　供出と羊毛　(103)39-5
東スニトの旗では，強制的な供出はやっていない。大蒙公司との契約によって，大蒙は

軍の配給の値段で見返り物資を出している。
89-243　供出の家畜を買う　(341)18-33
旗公署へヤギの肉をもって行く。これはよそのアイルから買って，それをもってゆくのである。その代金として，来年シュドレン・ヤギを１頭やる約束をした。

経済機構

食料の配給

77-3　食料の配給　(335)17-91
食料の買い出しを５～６軒分たのまれた。どこのがいくらということは，自分はわからない。ホリシャでくれるだけもって帰る。伝票はない。ホリシャにある。口でどこそこのアイルの分といえば，それをくれる。

食料が買いにくい

77-5　食料が買いにくい　(189)9-48および（189)40-14
ちかごろは，粟はぜんぜん手に入らない。（と言いながら，この家で勧めた茶のなかには粟が入っている。）

伝票

77-7　伝票　(138)8-63
伝票のことを「票子（ピャオズ)」という。チャハルでは，これをテムデグといい，ピャオズといえばお札のことになる。

石炭はこび

77-9　石炭はこび　14-2
西スニトの特務機関の石炭はこびのディヤンチ・ラミン・スムのラクダが出ている。われわれはその帰りをつかまえたのであった。

毛をはこぶ

77-11　毛をはこぶ　(85)6-2
ヒツジの毛を刈るのは，ホリシャの漢人が来て刈ってくれたが，その毛をホリシャにおさめるのは，家のものが自分ではこぶ。

取り引きの仲だち

77-13　取り引きの仲だち　(77)7-3
去年，２歳子ウシを１頭売った。ベール王がその家畜をもって行って，ホリシャで綿布

を買って来てくれた。60尺もらったが，それは2歳子ウシがそれだけの値段であったのか，それ以上，王がお金を出してくれているのか，知らない。

羊毛の積み出し

77-15　羊毛の積み出し　(103)39-4

羊毛の検収はいままで，貝子廟でやっていたが，この10月からどこでも便のあるところへ積み出せということになった。

羊毛の輸送

77-17　羊毛の輸送　(138)8-56

羊毛はいったんオラン・ホトク・スムにあつまってくる。それをラクダに積んで，グフ・トロガイにもってゆく。このあたりのアイルはみなオラン・ホトク・スムにもってゆくのである。

茶の仕いれ

77-19　茶の仕いれ　(138)8-62

茶は貝子廟で仕いれる。ホリシャの茶。10箱買った。貝子廟の大蒙公司で仕いれる。

77-20　茶の値段　(137)8-52

ことし，茶を20枚買った。1枚5円。ホリシャ。

見返り物資

77-22　見返り物資　(387)24-26

乳を出す見返り物資として，去年は綿布がくるはずであったが，こなかった。タバコ，糸，タオルがきた。

77-23　見返り物資　(103)39-5

羊毛の見返り物資は，軍の配給の値段で与えている。これは，家畜の大所有者にものがたくさんいって，貧乏人にはあたらないこととなり，矛盾するが，軍のいまの方針は，羊毛の供出の量に比例して与えようというのである。

77-24　羊毛の見返り　(70)4-82

大蒙公司から羊毛の見返りとして綿布を多くもらった。家族の分と，手つだいにくる民衆の分とである。

皮毛公司

77-26　皮毛公司　(103)39-4

皮毛公司は資本金1,000万円でできた。大蒙公司が200万円，ホリシャが400万円を出した。

羊毛は皮毛公司を経て，軍に納める。
77-27　皮毛公司　(103)39-7
皮毛公司という中間機関ができたことは，それがさやをとることになって，結局，モンゴル人がそれだけの額を負担しなければならないことになるのだ。

取り引き

77-29　取り引き（トゥムルタイ［商都］）(267)41-88
家畜を秋に先に出してから，あとで食料を取りにゆく。ヒツジ４～５頭で，白麺100斤，粟（茶用）100斤，粟（粥用）100斤。
77-30　トゥムルタイとの取り引き　(267)41-87
秋に先に家畜をやっておいて，あとで，粟，麺類などを取りにゆく。
77-31　トゥムルタイの取り引き　(143)8-86
グフ・トロガイのラマたち。トゥムルタイへ買い出しに行った。現金およびホリシャの伝票をもっていった。
77-32　トゥムルタイの取り引き　(138)8-62
トゥムルタイへ買い出しに行くについては，お金をもってゆかなかった。ホリシャに羊毛を出しているから，ホリシャからの票子をもっていった。
77-33　取り引き　(109)8-30
倉庫を買った。子ヒツジ１，子ヤギ１で買った。ラマから買った。そのラマは死んだ。死んだのちにラマの姉に支はらった。
77-34　取り引き　(99)7-34
大蒙公司にて。春の羊毛をやった。その代わりに綿布をもらった。

漢人との取り引き

77-36　取り引き（漢人と）　(341)18-30
ホリシャのほかに康保で取り引きをする。
77-37　漢人との取り引き　(310)17-65
漢人からは何も買わない。伝票があれば，そしてお金さえあれば，ホリシャでいくらでも売ってくれる。ホリシャは安い。
77-38　漢人との取り引き　(310)17-65
ホリシャができるまえは，直接に山を越えて漢人のところへ物資を買いに行ったものである。ホリシャができてからは漢人のところでは何も買わない。

大蒙公司との取り引き

77-40　大蒙公司との取り引き　(266)14-67

西スニトの大蒙公司で茶を買う。
77-41　大蒙公司との取り引き　(189)9-47
春の羊毛を500斤おさめた。ラクダの毛を100斤おさめた。綿布２反。麺類４袋（１袋は30斤）。お金200円をもらった。
77-42　取り引き　(89)6-47
大蒙公司からは茶をいちばんたくさん買う。タバコも買う。綿布はあまり買わない。ことしの春，羊毛800斤の代金として，磚茶２包（１包は27枚），タバコ10包くらい。お茶はそのほかには買っていない。
77-43　取り引き　(70)4-81
羊毛は全部，大蒙公司にやった。現金，現物はもう受け取った。大蒙公司は先にお金や物をくれて，あとから羊毛を取りにくる。ホリシャへはぜんぜんやらなかった。
77-44 取り引き　(70)4-82
大蒙公司との関係。羊毛はすべて大蒙公司へ。また，買いものはすべて大蒙公司で。ホリシャの厄介にはまったくなっていない。大蒙公司からは羊毛を出してくれと言ってきたわけではない。向こうの品物が安くて多いから，そこへもってゆくだけのことである。
77-45　取り引き　(93)6-75
羊毛とラクダの毛を大蒙公司にやって，その代償として，茶を27枚受け取った。ラクダに積んで帰った。
77-46　買いもの　(70)4-82
大蒙公司。麺類，粟など，すべて大蒙公司から買う。ホリシャの厄介にはいっさいなっていない。
77-47　取り引き　(51)3-69
大蒙公司。大蒙公司へは行かない。大蒙公司からは何も取りにこない。

大蒙公司

77-49 大蒙公司　(103)39-5
羊毛を出すのは強制的な供出でない。大蒙公司との契約で，大蒙は軍の配給の値段で見返り物資を与えている。
77-50　大蒙公司　(103)39-6
大蒙公司は，白麺は配給を受けているが，粟，ユウ麺は配給をうけていない。もとは満州と協定があったが，向こうのほうから約束だけ入らない。それに満州のほうから入ってくる物はウジムチンやアバガに取られるのである。
77-51　大蒙公司とマイマイ　(103)39-7
大蒙公司の物資の集荷には，漢人のマイマイ［商人］をつかっている。
77-52　大蒙公司　(136)8-11

食料の買い出しは，貝子廟の大蒙公司へ行く。ジャラー・スムの大蒙公司には物がないから。
77-53大蒙公司（70)4-83
大蒙公司がジャラー・スムにくるようになったのは，ずいぶんまえである。昭和13年。それまではマイマイ［商人］が車をひいて行商にきた。
89-224 茶を買う （108)21-58
茶は大蒙公司で買う。
89-225 大蒙公司との取り引き （108)21-58
大蒙公司には羊毛は出さない。茶は大蒙公司で買う。
89-222 トゥムルタイの取り引き （108)21-58
羊毛はホリシャ，大蒙公司に出さずに，自分の包をつくる。半分は，トゥムルタイへ持っていって食料を買う。

ホリシャとトゥムルタイ

77-55 ホリシャとトゥムルタイ （138)8-62
トゥムルタイで買い出しに行くについては，お金はもって行かなかった。ホリシャへ羊毛を納めているから。ホリシャからの票子をもっていった。
77-56 ホリシャとトゥムルタイ （143)8-86
グフ・トロガイのラマたち。トゥムルタイへ買い出しに行った。現金および伝票をもっていった。伝票は，ここのホリシャへ家畜を売ったという伝票である。

マイマイのマイハン

77-58 マイマイ［商人］のマイハン［テント］ (20)21-38
アイルのそばに漢人マイマイのテントがある。羊毛の刈り取りにきている。ホリシャから派遣されたもの。

マイマイをやめる

77-60 マイマイをやめる (21)21-41
粛親王北牧場のマイマイは，共同出資であるから，マイマイをやめるとすれば，利益の配分をしなければならない。しかし，マイマイをやめるつもりはない。

マイマイに対する態度

77-62 マイマイに対する態度 (276)15-56
マイマイがないので，何も買うものがない。ホリシャからは茶のほか何も買っていない。
77-63 マイマイに対する意見 (89)6-49

このごろは，マイマイはまわってこない。何も物がないので，まわって来てくれないと困る。まわって来てくれたほうがよい。

マイマイの経歴

77-65　マイマイの経歴　(21)21-39

住所は張家口。山西の出身。蒙古マイマイ［モンゴル人牧畜地帯との交易］をしていた。民国15年ころ，ここに家をたてた。

77-66　マイマイの経歴　(178)9-5

もと，多倫の宏義魁という店があって，そこの店にいた。そこからこのあたりにマイマイにまわってきた。

77-67　マイマイの経歴　(178)9-9

この付近にマイマイに入りだしてから，はっきりはわからないが，30～40年になっている。

マイマイの編成

77-69　マイマイの編成　(178)9-5

１年に１回，品物をもってまわってくる。１回に牛車を10数台。人は５～６人ついてきた。

77-70　マイマイの行商のしかた　(178)9-6

ドロン（多倫）を出発してから，目的地に着くまでの途中では，マイマイをしない。フルムまでマイマイをしない。フルムに着くとそこに品物を残して（テントを張って），人がのこり，２～３人が２～３台の車をもってマイマイにまわる。

77-71　マイマイのルート　(178)9-6

正藍旗からハラガンテ・オボ，ヌクセン・ゴルを通ってくる。それから東スニトの旗公署に出て，ベーリン・スムの東側を通り，ジャラン・スムに出る。（マー王府に寄らない）（多倫よりグフ・トロガイに至るルート）。

77-72 マイマイの季節　(178)9-6

多倫を出発するのは旧暦の３月。１カ月でフルムにくる。７月までいて，それから帰る。８月に多倫に帰った。

マイマイの品物

77-74 マイマイの品物　(189)10-3

10年まえに張家口からマイマイがストーブを売りにきたのを買った。

77-75　マイマイの品物　(178)40-3

持ち込む品物は，綿布，磚茶，タバコ（刻み），麺類，粟。

持ち出す品物は，羊毛，皮類，家畜。
77-76　マイマイと食料　(89)6-49
食料はむかしからマイマイから買ったのではない。食料はむかしから，トゥムルタイなどへ買いに行った。

マイマイの範囲

77-78　マイマイの範囲　(178)9-5
多倫の宏義魁の店から出る隊商は，この一つだけであった。毎年，この方面にきた。東スニト旗にきた。ウジムチンやアバガには行かなかった。
77-79　マイマイの範囲　(178)9-6
フルム・スムを中心にして，グフ・トロガイ，ダライ付近をまわる。オラン・ホトクやノロ・ハシャートの方へは行かなかった。
77-80　マイマイの範囲　(178)9-10
毎年，40～50軒を回った。それ以上は物資がつづかない。

マイマイのお得意

77-82　マイマイとお得意　(178)9-10
商売をするアイルは，毎年一定はしていない。借金のある家は翌年かならず行く。借金がなければ，行くか行かないか決まっていない。
77-83　マイマイの得意先　(178)9-7
得意先は他のマイマイのとだぶっている。

マイマイに借り

77-85　マイマイに借り　(178)9-10
宏義魁の店が商売をやめるとき，借金のあるアイルが７～８軒あった。もっとも多いところで700～800円。いまではもうすっかり回収した。

マイマイと商い

77-87　マイマイと商い　(178)9-8
ダルハン・オーラの中でマイマイをはじめると１週間以上かかる。近いところは牛車でまわりあるくが，遠いところはマイハンを移す。
77-88　マイマイと商い　(178)9-7
まず，アイルからやや離れた井戸のところにマイハンを張り，それから車をもってアイルに行く。アイルから人が出てきて，品物を買う。
77-89　マイマイの行商　(70)4-83

昭和13年に大蒙公司がジャラー・スムに店を出すまえは，マイマイが車を曳いて行商にきた。

マイマイ同士の関係

77-91　マイマイ同士の関係　(178)9-8
おなじ地域に来ているマイマイ同士の間には，商売上の協定はない。
77-92　マイマイ同士の関係　(178)9-7
フルムには他のマイマイは来ておらなかった。ダライ，グフ・トロガイには他のマイマイが来ていた。3～4軒あった。みんな張家口から。
77-93　マイマイ同士の関係　(178)9-9
ダルハン・オーラには張家口から別のマイマイも来ていた。両方がぶつかったこともある。別に何ともない。メイカンシー（没関係）だ。

マイマイと許可

77-95　マイマイと許可　(178)9-9
固定家屋の店を出すのでなかったら，別にジャンギの許可を必要としない。
77-96　マイマイと税金　(178)9-9
多倫からここへくるまでに税金は取られない。
77-97　ベーリン・スムとマイマイ　(70)4-83
ベーリン・スムにはマイマイの店はむかしからない。むかしからマイマイがとどまることを許さなかった。

マイマイの根拠地

77-99　マイマイの根拠地　(178)9-7
宏義魁は多倫から。
ダライ，グフ・トロガイに来ていた3～4軒のマイマイはみんな張家口から。

マイマイ

77-101　マイマイ　(20)21-39
ホリシャから派遣されたアイルの羊毛を刈りにまわっている漢人。ホリシャに漢人をいれなければ，みんなが苦しむという。マイマイはもうすでに物資が不足しているのだから，成り立たない。
77-102　マイマイ　(297)17-26
家財道具が多いが，最近に買ったものはない。むかしからあった。むかしはマイマイが売りにきた。

77-103　マイマイ　(295)17-32
ダライは，もとは漢人のマイマイ。ここに住み着いてからは，何もマイマイをしていない。
77-104　マイマイ　(310)17-65
むかしはマイマイがきたが，いまは来なくなった。
77-105　マイマイ　(255)13-19
マイマイは，いまはぜんぜんこない。近所にマイマイはまえから店がない。

マイマイとの取り引き

77-123　マイマイとの取り引き　(266)14-67
マイマイで茶を買う。買いに行くのである。
77-124　マイマイとの取り引き　(98)7-23
むかしは野生の獣の毛皮をマイマイにやって，その代わりに食料をもらった。布ももらった。現金はもらわない。
77-125　マイマイとの取り引き　(98)7-23
いまは野生の獣の毛皮は貝子廟にもってゆく。そこにはマイマイがいて，白麺や粟をくれる。
77-126　マイマイとの取り引き　(50)3-51
マイマイでは何も買わない。
77-127　マイマイとの取り引き　(48)3-38
ことし，３歳ウシ１頭，２歳子ウシ１頭を近所のマイマイに売った。食料と交換した。磚茶８枚110円，麺類150斤（１斤４円）。
77-128　ホロートと粟の交換　(45)3-24
去年，ホロートを少しもって行って貝子廟で粟と交換した。ホロート５枚で粟１斗と換えた。
77-129　マイマイとの取り引き　(48)3-38
去年，４歳ウシを１頭売った。食料と交換した。粟３斗。麺類の分量はわからない。
89-199　マイマイとの取り引き　(341)18-30
ホリシャのほかに康保で取り引きする。羊毛があれば，大蒙公司で取り引きする。なければ，ほかのマイマイで取り引きする。

ホリシャの通い帳

77-107　ホリシャの通い帳　(297)17-23
ホリシャの通い帳はない。主人がいま寺へもって行っている。
77-108　ホリシャの通い帳　(295)17-29

通い帳は，まだ配給を受けていない。
77-109　ホリシャの通い帳　(295)17-34
ここのホリシャは，通い帳がない。
77-110　通い帳　(335)17-86
ホリシャで通い帳なしに買える物はボダー［キビ］，ゴリル［小麦粉］だけである。
77-111　ホリシャの通い帳　(336)17-94
ホリシャの伝票はいま，うちにない。人にたのんでホリシャへもって行ってもらった。第13佐の人に渡した。

ホリシャの所属
77-113　ホリシャの所属　(256)13-40
滂江のホリシャへ行く。(ハルハの人)
77-114　ホリシャの所属　(189)9-49
どういうわけだか，ホリシャができたときに，フルムのホリシャ管轄に入れられてしまった。生まれたのはフルムである。もとはフルムにいた。
77-115　ホリシャの所属　(182)9-23
ホリシャの帳面に載っていない。ことしの春，グフ・トロガイからフルムのホリシャに変わったのである。
77-116　ホリシャの分割　(143)39-88
ホリシャの分割はだれが決めたか？旗公署とホリシャの本部で決めた。
77-117　ホリシャとソム　(143)39-88
ホリシャの分割は，ソムとは関係がない。
77-118　ホリシャと地域性　(143)39-88
ホリシャの近くにいて，よそのホリシャに属している者があるか？ ない。
77-119　ホリシャの加入料　(58)4-30
去年還俗した。ことし，ホリシャに入った。ホリシャの加入料に20円だした。
77-120　ホリシャの資本金　(56)4-22
ホリシャを設立するときに20円だした。
77-121　ホリシャと物資の分配　(143)9-2
ホリシャの物資は，全部，１度，このグフ・トロガイのホリシャの本部に到着する。それから，あとでホリシャの各支店へ分配する。

ホリシャの所属（つづき）
77-132　ホリシャの所属　(248)12-88
グフ・ノールのホリシャ。

77-133　ホリシャの所属　(255)13-10
まえはグフ・ノールのホリシャだったが，ごく最近ガシャータンに変わった。

ホリシャの払い

77-135　ホリシャの払い　(341)18-31
５月にオスウシ２頭，１頭700円。７月にヒツジ15頭，１頭200円。これはお金はくれた。
77-136　ホリシャの払い　(20)21-38
昨年秋のホリシャの決済は，本年５月にした。お金だけくれた。見返り品は去年１年間に磚茶２枚だけしかくれなかった。ことしの春の羊毛の決済はまだ。
77-137　ホリシャの払い　(255)13-17
オスヒツジ７頭，お金はまだ，綿布をくれるということである。
オスヤギ５頭，お金を500円くれた。春のこと。
77-138　ホリシャの払い　(137)8-50
春の羊毛を200斤くらいホリシャに出した。お金はまだくれない。物もくれない。
77-139　ホリシャとお金　(70)4-80
ホリシャはお金をくれるかくれないのか，まだ話もない。ことしヒツジを200頭ばかり売ったが，まだ１銭もくれない。

ホリシャの批判

77-141　ホリシャの批判　(20)21-38
やもめ。45歳。ホリシャをはなはだしく嫌っている。マイマイのほうがよい。
77-142　ホリシャに対する批判　(310)17-65
伝票があれば，そしてお金があれば，ホリシャでいくらでも売ってくれる。漢人からは何も買わない。ホリシャができてからは，遠くへゆく必要もなし，物資も安いし，結構なことである。
77-143　ホリシャの批判　(103)39-4
ホリシャは旗の命令で羊毛の集荷ができるのが強みである。貝子廟などではこれをやっている。
77-144　ホリシャの批判　(103)39-4
羊毛の見返り物資は，羊毛集荷の実績であるから，ホリシャもがんばれば日系の商事会社と競えるわけであるが，日系とちがって熱心さがたりない。
77-145　ホリシャの批判　(136)8-12
ホリシャには行かない。ホリシャには何もない。
77-146　ホリシャの批判　(51)3-69
ヒツジの毛をもって行って，ホリシャで茶と布をもらった。もらった品物は少ないけれ

ど，しかたがない。ホリシャは金もちの家にはたくさん物をやる。貧乏な人には物をやらない。こういうことのよいかわるいかは，わたしにはわからない。
77-147　ホリシャに対する批判　(70)4-80
ホリシャでフェルトをつくってくれるというが，他の人の例を見ていると，羊毛をホリシャにやっても，いっこうにフェルトをくれないので，自分のうちでは，ホリシャに羊毛を出すことを控えている。秋の毛はここにまだもっている。
77-148　ホリシャとの交渉・批判　(89)6-46
ホリシャはグフ・トロガイのホリシャ。ホリシャには何もないから，買いに行かない。

ホリシャとの交渉

77-150　ホリシャとの交渉　(276)15-56
スドゥルラブジーも，ラシーデリゲルも，２軒ともホリシャで茶を買う。月に１枚ずつ。ことしはホリシャからほかに何も買っていない。
77-151　ホリシャとの交渉　(297)17-23
食料はホリシャから買う。漢人の農民からは買わない。漢人からは何も買わない。近くにホリシャがあるから。
77-152　ホリシャとの交渉　(299)17-50
ダルゴエ集落。食料は買い出しに行かない。全部，ホリシャで買う。
77-153　ホリシャとの交渉　(267)41-87
ホリシャでは茶を買う。西スニトの衙門のホリシャ。現金で買う。年に10数枚。
77-154　ホリシャとの交渉　(266)14-67
ホリシャには物を買いに行く。ことし，綿布を２尺半買った。茶は買わない。羊毛はやらなかった。
77-155　ホリシャとの交渉　(261)14-7
ホリシャ？ 何のことか知らない。
77-156　ホリシャとの交渉　(255)13-19
食べものを買うのはトゥムル・シュンティー。ホリシャから若干の粟，ゴリルをもらった。
77-157　ホリシャとの交渉　(250)12-93
ことしはホリシャへ行っていない。
77-158　ホリシャとの交渉　(251)13-9
物資はホリシャでは買っていない。滂江の特務機関から配給を受けている。
77-159　ホリシャとの交渉　(89)6-49
ホリシャは，まえにできた当時は物を買ったが，このごろは買うにも物がないので，何も買わない。

77-160　ホリシャとの交渉　(98)7-20
ホリシャへは行かない。
77-161　ホリシャとの交渉　(71)5-1
ベール王から茶，粟をもらう。なくなれば，必要なだけもらってくる。だから，ホリシャへ行く必要がない。
77-162　ホリシャへ行く　(84)5-85
婆さんの姉の子どものノルジマーがいま，グフ・ノールのホリシャへ行っている。ヒツジの毛をもっていった。
77-163　ホリシャへ行く　(85)6-1
主人はホリシャへ行った。ヒツジの毛をもっていった。ノルジマーと一緒に。牛車で行った。２～３日まえに行った。

ホリシャとの取り引き

77-165　ホリシャとの取り引き　(295)17-34
食料はホリシャから買っている。
77-166　ホリシャとの取り引き　(192)9-69
春の羊毛を200斤以上，グフ・トロガイのホリシャに出している。その代金として，綿布10尺，磚茶２枚，色綿布16尺（服１着分），色綿布16尺，靴，これだけをもらった。まだ決算が済んでいない。
77-167　ホリシャとの取り引き　(255)13-17
ホリシャへ，オスヒツジ７頭，オスヤギ５頭を出した。
77-168　ホリシャとの取り引き　(137)8-52
ことしはホリシャで茶を20枚買った。１回にこんなにたくさんはくれない。１回に１枚か２枚ずつである。
77-169 ホリシャとの交渉　(137)8-52
毛皮をやって，茶を20枚もらった。そのほかにホリシャから買った物はない。
77-170　ホリシャとの交渉　(136)8-12
ホリシャには行かない。ホリシャには何もない。
77-171　ホリシャの交渉　(56)4-22
ホリシャへは年に１～２度行く。
77-172　取り引き　(41)2-80
茶は，ホリシャからの配給が５枚。足りなければよそから１～２枚買う。１枚15円である。ホリシャからの配給は１枚６円である。
77-173　取り引き　(44)3-11
去年，３歳ウシをホリシャへやった。値段は300円。代金は現金ではもらわない。品物の

代わりにやったのである。ホリシャと言っているけれども，これは生計会のことらしい。
77-175　ホリシャとの取り引き　(48)3-38
ことし，グフ・ノールのホリシャへ1回行った。磚茶を2枚買った。現金をもっていった。
77-176　ホリシャとの取り引き　(35)2-25
羊毛は刈ってホリシャにおさめた。ホリシャは毛を納めても何もくれない。物が欲しいときに行くと食べものをくれる。
77-177　ホリシャ　(66)4-66
粟，ユウ麺は，ホリシャで買う。
77-178　ホリシャ　(36)2-71
ホリシャから漢人が来て羊毛（秋毛）を刈った。すっかり毛をもっていた。ホリシャへ行ったら，品物をくれるかどうかわからない。
77-179　ホリシャ　(42)2-90
ホリシャには買いものに行かない。
77-180　ホリシャでの買いもの　(76)5-31
ことしの夏，ホリシャへ行って茶を買った。3枚買った。現金で買った。
77-181　ホリシャでの買いもの　(99)7-33
ことしの夏，ホリシャで茶に入れる粟を数斗買った。これはまだ少しのこっている。
89-218　ホリシャとの交渉　(108)21-57
ホリシャはぜんぜん利用していない。

ホリシャの創立

77-183　ホリシャの創立　(295)17-34
ここのホリシャができてから，3～4年になる。

取り引き

77-185　取り引き　(341)18-33
ヤギの肉19斤を旗公署にもってゆく。それはよそのアイルから買ってきた物である。その代金として，来年1頭のシュドレン［歯のはえたという原義。ヤギなら2歳］ヤギをやる約束をした。
77-186　取り引き　(272)15-15
食料の買い出し。ヘレート・シンディー。買うには，現金のときもあり，家畜をもってゆくときもある。去年は，皮と家畜をもっていった。
77-187　取り引き　(272)15-15
去年は皮，生畜をもっていき，食料を買った。ウシの皮1枚，ヒツジ（生畜）2～3頭

に対して，ホーライ・ボダー10斗もらった。粟，ユウ麺，白麺の分は借金になっている。
77-188　取り引き　(273)15-35
塩のブローカーをした。塩は，去年は買うとき１斗11円，売るとき１斗20円であったが，それで１台（７～８斗）売った。しかし，別にそれだけの現金を受け取ったのではなくて，それに相当する品物をもらった。粟３～４斗，ゴリル若干をもらった。
77-189　取り引き　(275)15-47
食料はシンディーにて買う。アイン［隊商］には行かないが，少しずつもってきた。現金または皮をもってゆく。
77-190　取り引き　(275)15-49
シンディーの漢人のとこで草を２台買った。現金で買った。１台は30円。車をもって取りに行った。
77-191　取り引き　(275)15-50
ことしフェルトを３枚買った。１枚100円であった。現金で買った。
77-192　取り引き　(276)15-56
ことし，ヘレート・シンディーで取り引き。粟４斗，麺類100斤。その代わりにヒツジの皮２枚をもって行った。ほかに何ももってゆかなかった。これで別に貸し借りなしに取り引きができた。
77-193　取り引き　(287)16-57
漢人のところで，粟，麺類を少しずつ買ってきた。布袋に半分ずつある。皮２枚で買ってきた。（ヒツジ１頭，ヤギ１頭）
77-194　取り引き　(335)17-86
ホリシャで食料を買ったお金はまだ払っていない。前借りである。ウシの拠出のお金がまだ払ってもらえないので，待ってもらっている。
77-195　取り引き　(270)14-98
むかしから，もっている着ものの皮なんかを売って，その代わりに食料を買ってくるのである。
77-196　取り引き　(42)2-89
ウシが大きくなって車をひくようになったので，車を買った。去年，ヨンドン（おなじアングルト・スムの住人，われわれの牛車夫）から買った。30円。現金。それでヨンドンは，いまは車をもっていない。
77-197　取り引き　(43)3-2
牛車を２台もっていった。１台は寺へ売った。ヒツジ１頭で売った。一昨年のこと。ウシはそのとき一緒に売った。代わりに２歳子ウシと麺と粟をもらった。もらった家畜はみな食ってしまった。もう１台の牛車はポンスクに売っている！
77-198 取り引き　(41)2-80

去年，アングルト・スムからヤギを２頭買った。２歳のヤギ。１頭30円。お金は払っていない。代わりにバターをやった。１斤６円のわりで払った。ヤギは食ってしまった。

交通機関

車を買う

72-3　車を買う　(387)24-23

賦役の車をソムの共同出資で買った。３台。１台1,300～1,500円。

車とウシ

72-5　車とウシ　(271)15-6

あたらしい*シュドレン*のオスウシが１頭いる。去年死んだメスウシの子どもである。別に，車をひかすために買ったのではない。

72-6　車をひくウシ　(275)15-50

車を１台もっているが，去勢ウシがない。種オスウシにひかす。

72-7　車をひかすウシ　(B)15-50

車をひかすのに種オスウシでもだいじょうぶ。去勢ウシの代わりになる。ときどき，種オスウシに車をひかせている例がある。10頭のうち，１～２頭はある。(Bの話)

72-8　車とウシ　(266)14-62

車はもっていないけれども，車用のウシを１頭もっている。車は人にたのんで借りる。

72-9　車とウシ　(48)3-36

牛車を１台もっているけれども，去勢ウシをもっていない。ウシはよそから借りてくる。

72-10　車をひくウシ　(42)2-88

去年の８月から，ウシが大きくなって車をひくようになった。４歳。ウシは，ふつうは４歳で車をひかす。

ラクダ型，牛車型

72-12　ラクダ型，牛車型　14-23

ラクダ型と牛車型のちがいは，おそらく包の移動の回数の多さによるものであろうが，それとともに，トゥムル・シュンティーまでの距離，もっと一般的にいえば，ハビルガ，宝源あたりなどの物資補給地までの距離と物資の補給の分量が，相当意味をもっているのではないだろうか？ ラクダのほうが能率的である。寺の場合，ラクダが多いのは，これで説明できる。

72-13　ラクダ型，牛車型　14-22

チャガン・チョローからハル・オボにかけて，両者の中間型とかんがえたほうがよい。たとえば，*アイル*のほうはラクダから牛車にうつっていても，寺のほうは依然としてラ

クダが多いのである。しかし，それでもウシが相当に多いらしい。
72-14　ラクダ型，牛車型　14-22
チャガン・チョローからハル・オボまでのあいだの実態調査が欠けているので，ラクダ型と牛車型との限界線をはっきりさせることはたしかにはできないが，滂江，西スニトおよび西スニトより南において，なおラクダがはなはだ多いことからみて，チャガン・チョローはたしかに牛車はもっていても，そのあいだは両者の中間型とみたほうがよい。
72-15　ラクダ型，牛車型　14-21
ハル・オボのチョルンビルは，もうラクダをもっていない。主要な交通力は，牛車にたよっている。とぼしい家畜のなかにも，去勢ウシを１頭もっていて，牛車も１台ある。トゥムル・シュンティーにゆくにも，ラクダではなくて牛車で行っている。ラクダ型が牛車型にうつっているのを観察することができる。

牛車

72-17　牛車　(270)14-97
牛車はもっていない。もっていたのだが，こわれてしまった。修繕のできる人は近所にはいない。
72-18　牛車　(89)6-35
６台ある。しかし，つかえるのと，つかえないのとある。

車の型

72-20　車の型　(262)14-18
ザトムがディヤンチ・ラミン・スムのアルガリをはこぶために牛車を３台もってきていたが，いずれもチャハル型の車であった。※［車軸と車輪が固定されているタイプ。図譜72］
72-21　車の型　(261)14-18
チョルンビルの車は，チャハル型の車であった。※
72-22　車の型　(258)13-48
ここで西スニトではじめてチャハル型の車を見た。※

ウマの乗りつぎ

72-24　ウマの乗りつぎ　(70)5-16
ウマに乗って役人がきたら，ここでウマを交代する。

運搬機関――ラクダ

72-26　運搬機関―ラクダ　(93)6-75

グフ・トロガイの大蒙公司から，羊毛とラクダの毛の代償として，茶27枚をもらう。それをラクダにつんで帰った。

家畜の一時あずけ

72-28　家畜の一時あずけ　(270)14-97

ウシはどこへもあずけていない。

72-29　家畜の一時あずけ　(269)14-92

ウシはアイルにあずけてある。夏は自分で飼っている。10月からあずけた。あずけ料を出すか出さないのか，わからない。あずけた理由は，ここはもう草がなくなったからである。

物資輸送のルート

72-31　物資輸送のルート　(143)9-2

ホリシャの物資は，みんな１度このグフ・トロガイのホリシャ本部に到着する。マンダルトをとおってくる。

塩はこび

72-33　塩はこび　(273)15-34

バルジョールは，夏は塩をはこぶ商売をしている。スニトの人から塩を買って，シンディーの漢人に売る。

72-34　塩をはこぶ　(S)7-70

牛車に1,000斤ほどもつんであるく。ウシの自由意志にしたがってゆっくりあるく。

車の積み荷

72-36　車の積み荷　(32)21-47

乾草35台刈った。１台に250斤。

72-37　牛車の積載量　(273)15-35

牛車１台に塩が７～８斗載る。

72-38　車の積み荷と速度　(S)7-70

チャハルの車は900～1,000斤くらい積むことができる。しかし，われわれの隊ではそれほど積まなかった。それは，行進速度の問題である。塩，ソーダの輸送をするときには，ウシの自由意志によってあるかせるが，われわれの隊では，ウシを追いたててあるかせていたから。

72-39　車の積み荷　(S)7-70

車の上に敷物をしいて，袋を乗せて，それに塩やソーダを入れると，900～1,000斤くら

い載る。（チャハルの車の話）Sの話。

72-40　車の積み荷　(S)7-70

スニトの車はあまり積めない。車自体が小さいし，そのうえ車軸が細いので，たくさん積むと，すぐこわれてしまう。Sの話。

72-41　チャハル型の車　7-71

われわれの隊の牛車のなかに，ゴーリン・ハシャートからいるのに，チャハル型の車輪と鞍，尻紐つきの車があったが，これはやっぱり漢人の所有にかかわる車である。

72-42　チャハル型の車　7-71

観察：ジャラー・スムから，ゴーリン・ハシャートにくる途中，チャハル型の車の道具（鞍，尻紐つきの）をもった牛車を3台見た。これはジャラー・スムの東にいるフェルト屋（漢人）の車である。

72-43　車　(S)7-70

チャハルの車は，車自体が，ずっと大きいし，また車軸が太い。それでたくさんの荷物が積める。Sの話。

72-44　牛車　(136)8-18

牛車はない。移動のときには，ラクダでうごく。

72-45　牛車の行進距離　(S)7-71

塩，ソーダなどを1,000斤ばかりも積んで，ゆっくりあるく。それで一日の行進距離は約30〜40ガザルくらい。Sの話。

72-46　牛車の行進　(S)7-71

昼間はウシに草を食わせて，太陽が地平線に沈むころよりあるきだして，翌朝まで行進することが多い。あるいは朝早く出て日没後まであるく。（塩，ソーダなどを運搬）。Sの話。

4. 社会

政治組織

ソムの組みかえ

76-2　ソムの組みかえ　(387)24-2

北ワーヨ［瓦窯］も，まえは２佐だった。５年まえにソムの平均化がおこなわれて，北ワーヨは１佐に属することとなり，２佐はちいさくなった。もとは，一緒にしてただワーヨと言っていたが，この組みかえのために，南と北とを区別して言うようになった。

76-3　ソムの役　(387)24-11

ソムのビチクチ［書記］は本当はいるべきものだが，いま人がたりないので，ジャンギが一切をやっている。ビチクチは置いていない。仕事があるときに，フンド，ジョンダがこない。たいへんこまる。

76-4　ジョンダ　(387)24-10

ダンザンドルジ。モンゴル軍。第１佐の人。

76-5　フンド　(387)24-10

ソドノムドルジ。畜産股長。第４佐の人。

76-6　十戸長　(387)24-10

ジャンギに仕事があれば，十戸長を呼びにやる。十戸長たちがここ（ジャンギの家）に来て，仕事をする。

76-7　十戸長　(387)24-10

１つのソムにタビン・ダルガ（五十戸長）２人。アルバン・ダルガ（十戸長）10人がいる。これはどこのソムもおなじである。

76-8　十戸長　(387)24-10

十戸長はバイン・ボラグに住んでいる。

76-9　ゴチク　(390)24-8

ノルブサムボ　18歳。ゴチク（民政科長のボーイ）。

76-10　十戸長　(387)24-10

(399)（400）はいずれも，あたらしくこの十戸長のなかに編入された者である。

牧場制度

76-12　牧場制度　(373)20-19

おかみのウシ，ヒツジは，民国になってからもそのまま各アイルでもっていた。

76-13　牧場制度　(373)20-19

おかみからあずかっていたウシは，民国になってから，そのまま自分のものになった。

10〜20頭くらいあずかっていた。
76-14　牧場制度　(373)20-20
ヒツジは殺して，毛を抜いて，肉だけ皇帝に差しだした。
76-15　牧場制度　(373)20-20
ウシは天災地災のときに供出した。また乳製品を献上した。
76-16　牧場制度　(373)20-20
あずかっていた家畜は，すべて国のものではなくて，皇帝の私有財産であった。
76-17　牧場制度　(373)20-21
はじめにあずかっていた家畜の数は，つねに一定不変であった。この事情はウマの場合もまったくおなじ。民国になってから，その数だけ取りあげられた。しかし，みんなもっと数を増やしておったから，みんなもうけた。
76-18　牧場制度　(373)20-22
牧場の家畜を取りあげてゆくときには，ウシ，ヒツジを取りあげずに，みんなウマに換算して取りあげた。
76-19　牧場制度　(373)20-22
おかみからあずかっていた家畜は，ここへうつって来てから，すべてウマに換算して差しだした。それを群長の下の小役人がウマであずかっていた。やっと去年，それを政府に差しだした。(官馬献納)
76-20　牧場制度　(373)20-23
おかみの家畜はすべてウマに換算して差しだした。それを群長［畜群の責任者，牧場長の下］のしたの小役人があずかっていた。去年の官馬献納で政府に差しだした。３分の１は，その役人がもらった。３分の１は，旗の所有になった。３分の１は，政府のものになった。

明安旗の成り立ち

76-22　明安旗の成り立ち　(373)20-18
５佐と６佐は，正黄ウシ群。１佐と２佐は，廂黄ウシ群。７，８，９，10佐は正黄ヒツジ群，そのほか，正白ウシ群，正白ヒツジ群，廂黄ヒツジ群，ダリガンガ。
76-23　明安旗の成り立ち　(373)20-19
Ｓの家はもともと正黄ウシ群に属していた。先祖は，正黄旗の出身である。
76-24　明安旗の成り立ち　(373)20-20
現在のソムの成り立ちができたのは，昭和12年のことである。そのときに，いまの明安旗ができた。それまではただ，ホニチン［ヒツジ飼い］，ウフルチン［ウシ飼い］などの群だけがあった。
76-25　明安旗の成り立ち　(373)20-23

チャガン・ホローにいたころ，近所に一緒にいた家はこちらへ一緒に移ってきているのが多いけれども，アトーチンへ行ったものもある。もともとアトーチンの者と混じって住んでいたのである。

属人行政

76-27　属人行政　(360)18-70

オンゴン集落が入ったところも，むかしから人が住んでいた。いまでも住んでいる。オンゴンの集落民とは，ソムがちがうだけで，一緒に雑居しているのだ。

76-28　属人行政　(360)19-17

正白旗の北遷のとき，あとから移ってきたソムは土地がなくて，よそのソムの土地に居候のようなかたちになっている。こんなソムが５つほどある。

76-29　属人行政　(32)21-46

粛親王府の中に住んでいるが，ホボーシャル［廂黄旗］の人間である。

オトク

76-31　*オトク*　41-27

ハルハは３佐にわかれている。佐はさらに*オトク*にわかれ，それぞれに長がいる。その下に*アイル*が所属する。（*オトク*という単位がみとめられていることは，興味をひいた。）

県旗画分

76-33　県旗画分　(268)14-85

馬群は，冬はオラン・ノールに行っている。オラン・ノールは，もとはアトーチンの旗のなかであったが，いまでは徳化県のなかに入ってしまった。

特務機関

76-35　特務機関　(270)15-1

４～５年まえ，（10年くらいまえだったかもしれない，忘れてしまった。）日本人４人とモンゴル人15人で，エチン・ゴルへ行った。ラクダ200頭くらいで。行ったら，日本の特務機関があった。

76-36　特務機関　14-2

西スニトの特務機関の石炭はこびにディヤンチ・ラミン・スムのラクダが出ている。

76-37　特務機関　(251)13-9

物資は*ホリシャ*［購買販売組合］では買っていない。滂江の特務機関から配給をうけている。

ホイグ

76-39　*ホイグ*　(255)13-25

監視役だから，使役には出ない。

76-40　*ホイグ*　(255)13-10

ガルサンは*ホイグ*である。*ホイグ*はすなわち，ハロール・ジャンギの家来の監視の兵隊。

76-41　監視役　(45)3-22

監視佐領について，旗の境界線の見はり役をつとめていた。この勤務は夜になると家に帰って寝るのであるが，朝また早く出て行くので，まるで働けない。この期間中働きなし。これはソムからの割り当ての名指しで，報酬はない。

89-184　*ホユグ* (398)24-6

シャグドゥルスルンとグンガノルブはそれぞれ10歳で，*ホユグ*である。

ハロール・ジャンギ

76-43　*ハロール・ジャンギ* (251)41-13

ジャミン・ウブルジュー［冬営地］，ここがハルハ人の最前線である。ここまで東スニトのハロール・ジャンギ［監視佐領］が送ってきた。

76-44　監視佐領　(255)13-24

ハルハはことし雪が降ったので，東スニトの監視佐領にたのんで，こちらの領分に入れてもらっている。

76-45　*ハロール・ジャンギ*　(248)12-85

ゴンチクはハロール・ジャンギである。

76-46　*ハロール・ジャンギ*　(255)13-10

兄は２年まえに死んだ。長いあいだ病気であった。その兄はハロール・ジャンギであった。

76-47　監視佐領　(34)2-44

ハロール・ジャンギあるいはジェング。ハロール・ジェングは各旗の境にいる。ソムのジェンギとは別である。

ベイル

76-49　*ベイル*　(387)24-18

ベイルは伝達係。

76-50　*ベイル*　(387)24-18

佐公署にはベイルが１人いる。

76-51　*ベイル*　(387)24-18

ベイルは，規定では33人いることになっている。実際は，現在は26人いる。

76-52　*ホイグ*　(387)24-18
男の子どもが生まれたら，*ホイグ*になることになっている。
76-53　ベイル　(387)24-18
*ホイグ*が成長すると，そのなかからベイルを旗公署から任命する。任命には，佐から推薦する。
76-54　*フンド*，*ジョンダ*　(387)24-19
十戸長のなかから，*フンド*と*ジョンダ*が選ばれる。
76-55　*ボシュグ*　18-24
ゲンドゥン，アヨルゾナの2人は，*ボシュグ*である。このソムには*ボシュグ*が6人いる。
76-56　*ジョンダ*　(311)17-51
ダムバは*ジョンダ*である。
76-57　*ボシュグ*　(313)17-61
ダンジン，ドゴルはソムの*ボシュグ*である。

十戸長

76-59　十戸長　(387)24-18
十戸長は*ボシュグ*におなじ。
76-60　十戸長　(387)24-18
ベイルのなかから十戸長が選ばれる。
76-61　十戸長　(387)24-32
佐公署月報として家畜の数を旗に報告する。その数字は，各十戸長からの報告にもとづいている。
76-62　十戸長　(387)24-33
家畜の数をジャンギにまで報告してくる十戸長のなかには，文字のわからないものもあり，それは口で報告してくる。旗公署は，陽暦をつかっているが，それがわからないものもあり，陰暦で決算してくる。

ソムの役

76-64　ソムの役　(346)18-49
フンド。旗公署につとめていた。この3月にやめた。
76-65　ソムの役　(349)18-49
*ボシュグ*である。
76-66　ソムの役　(345)18-49
本人は第10佐に属しているが，第11佐の*ジョンダ*をしている。
76-67　ソムの役　(310)17-59

ソムのなかの役つきは，つぎのようなものである。
*ジャンギ*1，*フンド*1，*ジョンダ*1，*ビチクチ*2，*ボシュグ*6。
76-68　ソムの役　(315)17-62
リンチンドルジは，*ダンスタ*（帳簿係）である。
76-69　ソムの役　(316)17-62
ラシチルンは，*ビチクチ*［書記］である。

ジャンギの交代

76-71　ジャンギの交代　(387)24-19
ジャンギの前任者は，いまの実業課長であった。ハシャートの人。
76-72　ジャンギの交代　(74)5-24
シャグダルはことしジャンギになった。エドゥルと交代したのである。エドゥルは年寄りになったので，ジャンギができないと言って辞任した。
76-73　ジャンギの交代　(51)3-60
10年まえは，ジャンギはロブスンという人。いまはナランソノムという人。
76-74　ジャンギの交代　(58)4-31
まえはフルがジャンギであった。フルは去年ディンドゥーと代わった。
76-75　役の交代　(47)3-29
ダムディンはまえにメーリンの役をしていた。いまはやめている。
76-76　役の交代　(34)2-44
ハロール・ジャンギである。去年までは種屋のデリグルが*ハロール*・ジャンギであった。去年，からだがわるいという理由で辞職して，いまの人と代わった。

タハル

76-78　*タハル*　(100)7-39
バルジルは，特務機関の手つだいをしている。*タハル*（*ダハル*）である。家畜の供出のときなどに活躍する。
76-79　*タハル*　(97)6-85
メーリンにいたときには，バルジルという人と一緒にうごいていた。バルジルは旗公署の*タハル*である。

ジャンギの居所

76-81　ジャンギの居所　(261)14-7
エリンチン・ジャンギ［佐領］は，いまボルトトの少し北のほうにいる。

ソムの会計

76-83　ソムの会計　(310)17-62

ソムの費用は，各ソムのもっている田地よりの収入が，旗を通じてジャンギの手にまわってくる。このソムは6,000円くらいくる。

76-84　ソムの会計　(310)17-64

収入6,000円のうち，支出のうちわけは，3,000円が公の費用。3,000円が人件費。

76-85　ソムの会計　(310)17-64

ソムの支出6,000円のうち，公の費用3,000円というのは，旗公署からの命令で軍馬供出のときにソムで買いあげる。また，公用の牛車そのほかの徴発の支払い。また，会議のときにもつかう。

76-86　ソムの会計　(310)17-64

支出3,000円の人件費というのは，ソムのなかの役付きのものの月給である。

ソムに入る

76-88　ソムに入る　(295)17-33

ダライは帰化した漢人。3年まえに第9佐に編入された。旗公署から命令が来て，入れと言ってきた。

76-89　ソムに入る　(88)6-24

いま別にどこのソムにも属していない。ことしソムに編入すると言ってきたが，故郷のチャハルへ帰るからと言ってことわった。

76-90　ソムに入る　(58)4-30

去年，還俗した。どうせ，どこかのソムにはいらなければならない。ディンドゥーが近いから，それに入った。自分でディンドゥーのところへ行って，ソムに入れてくれとたのんだ。そしたら，証明書をくれた。

ソムの名まえ

76-92　ソムの名まえ　(266)14-66

デリワート・ソム。これはむかしのジャンギの名まえである。西スニトには，5ソムがあるが，これはたぶん第4佐か5佐だろう。いまのジャンギの名まえはチョエジャムスである。(すると，ほかから得たわたしの知識では，このソムは第2ソムになるのだが……。)

76-93　ソムの名まえ　(261)14-7

ゴル・ソム。エリンチン・ジャンギ。

76-94　ソムの名まえ　(224)10-32

バトドルジ・ソムは小さな佐で，ナランソノム・ソムはネルンサー・ソム。ダシー・ソ

ムは大きな佐である。

ジャンギとソム

76-96　ジャンギとソム　(268)14-84
自分のアイルは，第6佐に属しているが，自分は第8佐のジャンギである。父親もそうだった。
76-97　ソムとジャンギ　(93)6-65
シャグダル・ジャンギは，エドゥル・ソムという。

ジャンギ

76-100　ジャンギ　(387)24-19
ホイグ，ベイル，十戸長，フンド，ジョンダは，ずっと系統的に次々選び出されるが，ジャンギを選ぶのは，これとは別系統である。
76-101　ジャンギ　(387)24-19
ジャンギの父は第2佐のジョンダであった。

引っ越しとソム

76-103　引っ越しとソム　(360)19-16
正白旗が北遷するとき，別にソムが分解して再編成されたのではない。ほぼソムの秩序をたててうつってきた。あとからうつってきたソムは，土地がなくて，よそのソムに居候のようなかたちでいる。(こんなソムが5つほどある。)

ソムの所属

76-105　ソムの所属　(341)18-2
妻の実家は第4佐の人間だが，家は第12佐へ行っている。
76-106　ソムの所属　(256)13-40
第1佐に所属している。西スニトにはソムが3つしかない。(ハルハのこと)

ソムの命令

76-108　ソムの命令　(189)9-51
丑年にリン王に呼ばれて旗公署に行った。馬群の放牧に行った。ソムの命令で行った。
76-109　ジャンギの命令　(190)40-23
やつぎばやに言ってくる供出の命令，これはジャンギから言ってくるのである。ハジョー・スムにいるバルボル。
76-110　ジャンギの命令　(51)3-77

２～３日まえに山田顧問がここにきたときに，ヒツジを１頭ころしてごちそうした。ヒツジを屠殺したのは，ジャンギがここのヒツジをころせと言ったからである。

旗公署の世話

76-112　旗公署の世話　(260)41-46

２～３頭のウマしかもたない人のウマが軍馬購買にかかったときには，400円くらいの代金では代わりのウマが買えないからこまる。それで旗公署の世話で，その値段で大所有者のウマをゆずらせるのである。

76-113　旗公署の世話　(255)13-22

旗公署の口利きで，供出のとき，家畜をたくさん出した家に，少ししか出さなかった家から，家畜をまわす。

旗公署の許可

76-115　旗公署の許可　(387)24-24

家畜の売り買いは，旗のそとに出すときには，旗公署の許可がいるけれども，旗のなかでは闇値で売り買いしてもよい。

76-116　旗公署の許可　(360)18-68

*オトル*は，よその旗からくる人は，みんなこの旗公署で許可をうけている。

旗公署の命令

76-118　旗公署の命令　(297)17-26

子どもが学校に行っているのは，旗公署の命令によるものである。いやだとは思わない。

76-119　旗公署の命令　(295)17-33

３年まえに第９佐に編入された。旗公署から佐にはいれと命令してきた。

76-120　旗公署の命令　(310)17-63

この集落の大部分は，旗公署の命令によってここへ引っ越してきたものである。あつまって住んでいると，供出のときに便利である。

76-121　旗公署の命令　(98)7-28

バトモンフは，われわれの隊の徴発係として来ている。旗公署からの命令できた。ソムからではない。旗公署から名ざしで命令してきた。しかし，つねは，別に旗公署の役人でもない。旗公署とは何の関係もない。

公の仕事とウマ

76-123　公の仕事とウマ　(70)5-16

王の仕事をするときには，王のウマをつかう。自分のウマはつかわない。

76-124　公の仕事，私の仕事　(45)3-22
実は，ジャムバつくりがいちばんよいもうけになるのだが，しかし公の仕事がいそがしくて，それをしているひまがない。
76-125　公の仕事　(56)4-22
現在は，公の仕事でそとを出あるいていることが多い。役目は別にない。監視佐領の部下である。国境の監視員。

役人の数

76-127　役人の数　(54)4-17
*トスラクチ*２人，*ジャヒラクチ*２人（*メーリン*），*ジャラン*４人，*ジャンギ*16人，*ハロール・ジャンギ*44人。
76-128　役人の偉さ　(54)4-17
旗公署の役人でいちばん偉いのは，ヌルン・*トスラクチ*である。彼は顧問のつぎに偉い。そのつぎがチョンナイ・*トスラクチ*。
76-129　役人の任命　(54)4-17
トスラクチ，*ジャヒラクチ*は政府，盟から決める。*ジャラン*，*ジャンギ*は，王が決める。世襲ではない。
76-130　役人の給料　(50)3-52
ヌルンは役人であるが，衙門で何ももらわない。

役人と家庭

76-132　役人と家庭　(266)14-64
ダメルンは学校のボーイかなにかで，つとめに出ている。２年まえに行った。ダメルンのところへは家庭から乳製品などをもってゆかない。向こうで食べものをもらって食っている。
76-133　役人とその家　(316)17-51
ラシチルンは役人。チャガン・ハダの家と旗公署のなかにも家がある。
76-134　役人とその妻　(86)6-10
ゲンドゥブはジャミヤンドルジの妻。ジャミヤンドルジは役人である。ゲンドゥブはしかし，ジャミヤンドルジがどこの役人かわからない。
76-135　役人とその家族　(50)3-51
主人のヌルンは役人である。衙門に行ったきりである。ときどき帰ってくることはない。いつ帰ってくるのかわからない。なにの役人かわからない。

役人

76-137　役人　(31)21-44

ホボーシャルの小学校の先生。父はソム公署の役人。

76-138　役人　(315)17-51

リンチンドルジは，旗公署につとめている。いま病気で家に帰っている。

76-139　役人　(316)17-51

ラシチルンは役人。旗公署に家がある。

76-140　役人　(78)5-27

父は西スニトの役人である。西スニトの衙門にいる。西スニトのトスラクチである。(家は東スニトのドントホブルにある。)

使役

76-142　使役　14-2

西スニトの特務機関の石炭はこびにディヤンチ・ラミン・スムのラクダが出ている。われわれはその帰りのラクダをつかまえて，それをつかったのである。

76-143　使役　(255)13-25

ホイグ，監視役だから，使役にはでない。

76-144　使役　(189)9-50

丑年にリン王に呼ばれて旗公署に行った。リン王のところでは，馬群放牧をしていた。

76-145　使役　(190)40-21

バズルサトの母親は供出のラクダを追って行った。

76-146　使役　(184)9-26

ワンチクの母，72歳。旗公署へ*アルガリ*ひろいに行った。

76-147　使役　(95)6-77

母のダシドルム（60歳）は，旗公署へ行った。旗公署のウシを放牧しに行ったのである。10日まえに行った。

76-148　使役　(143)8-84

グフ・トロガイのラマ。公用でそとへ出ている。部隊，旗，学校の*アルガリ*はこびに行った。

76-149　使役　8-85

グフ・トロガイのラマ。ダムビー。われわれの隊のためにラクダをあつめに行った。

76-150　使役　(181)9-16

サムドンの家の婆さん，いま旗公署へ*アルガリ*をひろいに行った。フルムへ行った。

76-151　使役　(44)3-12

ドルジは王府へ行ってウシ飼いをしている。８月１日に行った。９月１日におわる予定

である。働いても何もくれない。使役である。自分のウマに乗って行った。
76-152　使役　(45)3-22
王府で夜番をしたり，*アルガリ*ひろいをさせられた。6月の末からひと月つとめた。
76-153　使役　(46)3-28
ソメヤーはウシと車をひいて，われわれの隊の牛車夫として来ているが，彼はこのウシも車もだれのものか知らないのである！ われわれから与えたお礼は彼のものとならずに，ウシと車の持ち主にやる，と彼はいう。
76-154　使役の割り当て　(56)4-22
王の使役の割り当ては，だれが出るか別に順番は決まっていない。旗公署あるいは佐領から任命する。

ウマをとらえる役
76-156　ウマをとらえる役　(89)4-36
ウマをとらえてくるのは，自分でする。ウマに水をのますのも，自分でする。

階級

家柄
75-3　家柄　(268)14-83
父親もジャンギであった。自分はことしの5月にジャンギになった。

ヨーライ・タイジ
75-5　ヨーライ・タイジ　(85)6-3
ラクダの毛とヒツジの毛とまぜて縄をつくるのだが，自分の家には，ラクダがいない。ラクダの毛はラクダのある家からもらってくる。ヨーライ・タイジからもらってきた。ヨーライ・タイジはいま，ベーリン・スムの西のほうにいる。

シャビ
75-7　シャビ　(70)5-14
ホララは，郭王のシャビである。郭王が字をおしえている。

おくりもの
75-9　おくりもの　(255)13-25
ガルサン。*ホイグ*。ジャンギ，*ハロール*・ジャンギ，王のところへはおくりものをしない。
75-10　おくりもの　(S)4-52

寺で廟会のために寄付をつのってあるく。そのとき，寺から，おみやげをもってゆく。五台山などは絹の布，絨毯など，高価なものをおくりものにする。そのほかの寺では，菓子箱など。Sの話。

恵み

75-12　恵み　(63)4-46

肉，粟，茶，着もの（ふるい着もの）など，近所のものがただでくれる。足がわるくて働けないから，近所からものをくれる。

手つだい

75-14　手つだい　(277)15-58

12歳，男の子，ジャンギのところへ手つだいに行っている。家事の手つだい。別に，給料はもらわない。何ももらわない。

75-15　手つだいのもの　(70)4-78

別に，使用人ではないが，自分のうちの仕事の手つだいをするためにくるものがある。食べものはこちらから出してやる。貧乏人である。

家来

75-17　家来　(77)7-1

まえからベール王の家来である。しかし，父の代にはそうではなかった。自分の代になってから家来になった。

75-18　家来になるまで　(77)7-1

はじめベール王のヒツジ飼いをしていた。それから家来になって，王から手つだいに来てくれとたのまれた。それ以来，食べものは全部王からもらう。

75-19　家来　(26)5-68

ダフチン牧長は，むかしからの肅親王の家来で，ずっと牧長の役をつとめてきた。しかし，自分は年もとっているし，賢いというので，最近あたらしく副牧長になった。

75-20　家来　(26)5-68

むかしから肅親王を自分の主人とみてつかえている。肅親王の家が北京にあったときには，バターや毛布などを送っていた。

王との関係

75-22　王との関係　(255)13-25

正月にも王のところへはゆかない。王のところへゆくのは，なにか公の仕事があったときだけ。そのついでに，あいさつしてくる。

75-23　王と正月　(255)13-25
正月にも王のところへあいさつにはゆかない。
75-24　王のあいさつ　(189)9-51
正月にはリン王のところへあいさつにゆく。
75-25　王との関係　(89)6-53
ここはベール王の管轄である。ときどき，ベール王のところへゆく。ただ，あいさつにだけゆくのである。何もみやげはもってゆかない。何もくれない。お正月にゆく。ごちそうしてくれる。
75-26　王と正月　(70)4-87
正月には，近所のものがあいさつにくる。しかし，リン王とちがって，あまりたくさんはあつまってこない。近所の者だけである。あつまってきたものに対して酒肴を出す。
75-27　王との関係　(41)2-83
タイジはお正月に王のところへあいさつにゆく。ものをもってゆかない。また，何ももらわない。そのほかのときには，自分からゆくことはない。王に呼ばれたときにゆく。王のウシの放牧の番などをする。
89-214　王との関係　(61)21-55
王府に働きに行くことがある。呼ばれたときに行く。物を少しくれる。

王の世話

75-29　王の世話　(77)7-3
去年，２歳子ウシを１頭売った。ベール王がそれをホリシャへもっていって，綿布60尺を買ってくれた。それは２歳子ウシがそれだけの値段であったのか，それともほかに王がお金をたしてくれたのか知らない。
75-30　雪害と王　(70)4-85
大雪害のとき，１頭ものこらず家畜をなくしてしまった家も，10数軒あった。それで，郭王の家でメスウシを買って１頭ずつわけて与えた。そののち，増えて５～６頭になったものもあるし，またすっかりなくしてしまったものもある。

王と税金

75-32　王と税金　(70)4-87
税金はおさめている。そのことは王の家といえども，一般の家とおなじことである。
75-33　王とソム　(70)4-80
郭王に属しているソムは，１ソムだけ。シャグダル・ソム（まえのエドゥル・ソム）。しかし，税金や役の任命は，旗公署からおこなう。

王の格

75-35　王の格　(70)4-80

いま，3人の王がいる。そのうち，いちばん格が高いのはリン王，しかし，まえはマー王だった。

75-36　王とまつり　(70)4-87

仏のまつりは，王が主催でする。オボまつりも王が主催でする。近所のものがあつまる。

ベール王

75-38　ベール王　(102)39-13

ベール王はむかし，兄の子どもに位（旗長の位）をゆずった弟の子孫である。ずっとむかしの話。

75-39　王　(102)39-13

マー王とリン王とは，きょうだいの子ども，すなわちいとこ同士である。マー王が兄の子，リン王が弟の子である。

75-40　郭王　(83)5-54

ベール王は世襲である。いまの郭王は12代。

山田顧問

75-42　山田顧問　(104)39-10

現在，散らばっているものをあつめて，ソムをだいたいひとまとまりの地域性のあるものにしようとしたのは，山田顧問である。

75-43　顧問　(103)39-3

山田顧問は中央学院に転勤になった。

徳王

75-45　徳主席　(26)5-68

粛親王を徳主席以上に尊敬している。その理由は，徳主席は自分とは直接の関係がないから。

めしつかい

90-30　めしつかい　(372)20-5

19歳。中学校へ行っていたが，卒業せずに去年の10月に帰ってきた。民政科長のボーイになった。

徒弟

90-32　徒弟　(21)21-41

やとい人17名のうち，５人には給料をやる。牧夫など。12人は徒弟。

職業

勤め人

74-2　勤め人　(393)24-7

ゴムスルンは，ホリシャの工場につとめている。

74-3　勤め人　(61)21-55

兄は女子学校に働きに行っている。

74-4　役人　(395)24-4

ダメルンスルン，45歳。まえは衙門のビチクチ［書記］をしていた。いまは，ホリシャにつとめている。

74-5　医者　(389)24-6

セーリンボの弟。左翼旗，保健所の医者。

オペレーター

74-7　オペレーター　(90)6-56

主人は東ウジムチンのオペレーターである。

兵隊から帰る

74-9　兵隊から帰る　(269)14-92

シャルブは婿養子である。妻の父が働いて一家をささえ，シャルブは兵隊にとられていた。２年まえ，妻の父が死んだので，シャルブは兵隊から返してもらった。

兵隊の期間

74-11　兵隊のやすみ　(335)17-82

主人は厚和のモンゴル軍。いまは，１カ月まえに帰って来ている。

74-12　兵隊と期間　(135)39-57

国境警備兵になってから，７年になる。

74-13　屯田兵　(135)39-56

国境警備の兵隊。家もこの近所にうつした。妻と家畜をもって。

74-14　兵隊と期間　(135)39-55

別に，いつまで兵隊でおれという取り決めはない。

74-15　兵隊とやすみ　(135)39-56

休暇はない。
74-16　兵隊の給与　(135)39-55
国境警備の兵隊。給料はない。食料，被服，全部自分もちである。公にくれるものは，ウマ２頭と鉄砲だけ。
74-17　兵隊　(135)39-55
兵隊は徴兵である。わかくて，精神がはりきっている者を兵隊にとる。
74-19　兵隊　(135)39-55
国境警備の兵隊。志願したのではない。徴兵である。モンゴル軍と特機［特務機関］の両方に属している。
74-20　兵隊　(105)39-19
バートル。兵隊。９年まえから兵隊である。階級はない。月給は10円。
74-21　兵隊　　(105)39-18
バートルの母の妹の子ども，いま，兵隊に行っている。妻はある。
74-22　兵隊と休暇　(48)3-36
ジモトドルジ，８年まえから東ジャラン・スムの兵隊に行っている。休暇で一昨日帰ってきた。

兵隊
74-24　兵隊　(387)24-41
10年ほどまえから兵隊になっている。厚和へ行っている。去年は１度帰ってきた。
74-25　兵隊　(277)15-59
妻の実家はもうなくなった。弟が１人いるが，兵隊に行っている。
74-26　兵隊　(311)17-51
ボルグト。ホンドゥルンの人。兵隊帰りである。いま，チャガン・ハダの３つのアイルのヒツジ群の，共同の雇い人になって，ヒツジの番をしている。
74-27　兵隊　(334)17-80
主人のエルデニオチルは，旗公署のモンゴル軍に出ている。
74-28　兵隊　(335)17-82
主人は厚和のモンゴル軍に行っている。５年まえに兵隊になった。そのときから厚和にいた。いまは，ハトン・ゴル（黄河）にいる。上等兵。
74-29　兵隊　(271)15-4
まえはスヴェートにいた。モンゴル軍の兵隊であった。商都県の兵隊であった。５～６年兵隊をしていた。
74-30　兵隊　(267)41-85
ドルジの息子。張北へ兵隊に行って死んだ。

74-31　兵隊　(269)14-90
亥年に兵隊になった。旗公署の命令であった。モンゴル軍に入って五原県に行っていた。２年まえに帰ってきた。
74-32　兵隊　(88)6-23
19歳のとき，兵隊に行った。27歳のとき，兵隊から帰った。
74-33　兵隊　(27)5-70
ドンロプは，正藍旗の人間である。兵隊に行っていた。張家口，包頭，五原をまわった。６年間兵隊にいた。
74-34　兵隊　(72)5-2
主人のワンジルは，ことし，モンゴル軍に徴発された。８月。いまダルヒン・スムにいる。
74-35　兵隊　(27)5-72
弟はモンゴル軍に行っている。３年まえから。
74-36　つとめと兵隊　(89)6-34
善隣調査所に入っているので，兵隊にゆかなくてもよい。
74-37　戦死　(26)5-63
チェードンの父は，綏東事件で戦死した。
74-38　戦死　(76)5-28
主人の姉の婿は兵隊に行って死んだ。２年まえに死んだ。３歳の子どもがいる。
74-39　兵隊　(63)4-46
６年間，兵隊に行っていた。足をいためた。いま，足が不自由である。
89-216　兵隊　(108)21-56
主人は兵隊。10年まえからボットロ・ハシャートにいる。

医者のお礼

74-41　医者のお礼　(297)17-23
ラマの医者。病気をなおしてやっても，お礼は別に何ももらわない。ハダク［儀礼用の絹の布］だけである。
74-42　医者のお礼　(297)17-26
病気をなおしてやって，そのお礼にもらった家畜はない。

医者の学校

74-44　医者の学校　(143)8-84
バルトンドルジ。グフ・トロガイの僧。マンダルトの医者の学校へ行っている。

大工のお礼

74-46　大工のお礼　(81)5-44

大工仕事をしてやったお礼として，お金や食べものをもらう。どれだけという一定の決まりはない。こちらから，これだけの仕事に対して，いくら払えと請求するのである。

大工と注文

74-48　大工と注文　(81)5-44

大工仕事をしてもらいに，*アイル*からたくさんたのみにくる。

大工の弟子

74-50　大工の弟子　(81)5-43

弟子はとっていない。だれにも大工の技術をおしえてない。おしえておこうとは思わない。もう年寄りでまもなく死ぬ。もう死ぬのだから。

大工になる

74-52　大工になる　(81)5-43

むかしは，大工があちこちにたくさんいた。兄がラマで大工であった。その兄が死んでからその道具をもらって大工になった。(20歳くらいのとき，戊年)［図譜50-53は（81）の大工道具］

大工と家畜

74-54　大工と家畜　(81)5-43

俗人のとき，大工であったが，家畜はもっていなかった。いまは，３歳ウシを１頭もっている。去勢ウシである。

大工

74-56　大工　(189)10-1

ヌクセン・ゴルに柳条で*オニ*，*ハナ*をつくっている人がいる。こんな人をやっぱり*ムージャン*という。

74-57　大工　(76)5-31

婆さんのつれあいは，ラムスルと言う人で，大工であった。桶をつくった。*アブダル*［ながもち］はつくらない。１人でつくっていた。しかし，製品を売ったのではない。自分のものだけをつくった。人にたのまれてつくってやったこともない。

74-58　大工　(81)5-43

牛車に積む水桶をつくる。牛車の修繕をする。しかし，牛車をあたらしくつくることは

できない。まえは，ソーロク［桶］もつくった。アブダルはまえからできない。

仕事

74-60　仕事　(313)17-60
ダンジンは，何も仕事をしていない。

運転手

74-62　運転手　(278)15-65
息子はいま張家口へ行って，自動車の運転手をしている。汽車公司の宝源線の運転手である。
74-63　運転手　(278)15-66
息子は張家口，汽車公司の運転手。張家口で運転をならった。17～18歳のとき，張家口にでて，漢人の運転手からならった。別に，学校でならったわけではない。

つとめ人

74-65　つとめ人　(313)17-60
ダンジンの兄は，ゴルブン・ホトクのホリシャの雑穀収入係をしている。
74-66　つとめ人　(266)14-60
ダメルン，48歳。いま，学校に行っている。ボーイかなにかをしているらしいが，家族のものにもなにをしているかよくわからない。
74-67　つとめ　(77)7-3
ひと月のうち，たいていは王のうちにいる。
74-68　つとめ人　(105)39-18
バートルの兄は，グフ・トロガイのホリシャにつとめている。
74-69　善隣調査所　(89)6-34
去年の５月から，善隣調査所に入った。それで兵隊にゆかなくてもよい。調査所では，別にたいして仕事はない。ときどき，あちこちへ行く。月給，30円。（日本語少しわかる。）
74-70　月給とり　(89)6-34
善隣調査所に勤務している。月給は30円。

ウマ泥棒

74-74　ウマ泥棒　(S)18-4
738年12月31日，Ｓの家。家の者は，その夜は，酒に酔っぱらって寝ていた。夜寝るときにウマに乗った人が２～３人家のまわりに来ている。兄が「用心しろ」という。Ｓと父

は，着ものを着る。Sがまだ着ものを着終わらないうちに，父と兄はそとに出てみる。ウマに乗った人がすでに［つづく］

74-73　ウマ泥棒（つづき）　(S)18-4

*ホロー*のそとから，なかにいるウマをのぞいている。すでに*ホロー*のなかに2人入っている。鉄砲をもっているかもしれないので，こちらは手に棒をもっていたが，おそろしくて近寄れない。おりしも，まっくらで天気がわるく，何にも見えない。まごまごしているうちに，まんまと3頭のウマを盗まれた。この夜，近所の*アイル*であわせて9頭のウマを盗まれてしまった。

74-75　ウマ泥棒　(S)18-5

Sのウマを盗んだやつは，やはりモンゴル人にちがいないという。漢人ではないという。なぜならば，Sのウマは癖がわるくて，モンゴル人，それもかなりウマの取りあつかいに慣れた人間でなければ，あんなにうまうまとあんなウマを連れ出せるわけがない。漢人でできるしわざじゃない，という。

74-76　ウマ泥棒　(B)18-5

732年［成紀（成吉思暦），1937年］，736［1941］年，737［1942］年の3回にわたって，バトーのウマはあわせて7頭を盗まれていた。犯人はおそらく，東スニトの人間か，しからずんばオンゴンのハルハ族であろう。そちらのほうへ連れて逃げてしまえば，もうわからなくなってしまうのだ。

74-77　泥棒　(373)20-27

*アイル*が分散して，また少ししか一緒にいないときには，家畜泥棒がはいりやすい。

74-78　家畜泥棒　(33)21-50

去年ウマ1頭を盗まれた。泥棒はつかまって，旗公署で処分した。

74-79　家畜泥棒　(89)6-39

家畜は人に取られることはない。

運搬業

74-81　運搬業　(7)5-61

牛車を10台もっている。運搬業をする。*アルガリ*を売りにゆく。塩，ソーダを運搬する。

74-82　運搬業　(27)5-70

牛車1台もっている。運搬業もする。正白旗の旗公署のものをはこぶことが多い。

家族と親族

71-2　親戚　(194)21-58

ホンタイ集落のゴンチク。妹はジュルトゥムの姉。

71-3　*オムグ*［姓］と*イム*［耳印］　(387)23-77

別のアイルで耳印の一致したものがあったとしても，それは偶然の一致である。姓と耳印は関係がない。

71-4　アイマク　(387)24-15

姓がおなじであれば，オムグネイ・アイマクという！

例えば，チュヌグドルジ（388）とダメルンスルン（395）とはおなじジャムチン・ソクで，「オムグネイ・アイマクだ」という。

71-5　親戚　(387)24-15

ララルワンドンとグンガノルブの関係。※

71-6　ゼー［甥もしくは姪］　(387)24-15

ラシースルン（396）は，ララルワンドン（387）のゼーにあたる。すなわち，父方おばの息子。

71-7　親戚　(387)24-15

ララルワンドン（387）の妹は，チュヌグドルジ（388）のベル［嫁］。

71-8　妻の実家　(387)24-15

ジャンギ，ララルワンドンの妻はハシャートから来ている。

71-9　オムグ［姓］　(387)24-14

(387)（394）の姓はハンギン。(388)（395）の姓はジャムチン。

71-10　トロル［親戚］　(387)24-15

ゴト［集落］が違っていて，おなじ姓に属している者は，トロルという。互いにトロルだという。

71-11　親戚　(387)24-16

チュヌグドルジ（388）の妻は，ジャンギ（387）の姪で，すなわち父方おばの娘。

71-12　親戚　(387)24-16

ラシースルン（396）の妻は，チュヌグドルジ（388）の娘。

71-13　妻の実家　(387)24-16

(395）の妻の実家は第1佐。(389）はデリスン・アイル，(393）はボータイインズ［包台営子］，(390）はデリスン・アイル，(400）はモドン・スム。

71-14　妻の実家　(387)24-16

ジルンタイ（397）の妻はボータイインズの出身。

泊まる家

71-16　泊まる家　(192)9-73

ジュルトゥムの妻は，自分の家とジョンダエジャムソの家と両方に住んでいる。夜はどちらででも寝る。

オムギン・アハド

71-18 *オムギン・アハド*［姓の兄］ (310)17-55

リンチンとジョンダとは，*オムギン・アハド*である。直接の血縁関係はない。姓がおなじであるだけ。これも「関係あり」という。

71-19 *オムギン・アハド* (310)17-58

トゥムルボルト，ダンジン，ラシチルンは関係ないが，姓がおなじであるから，「姓の兄」になる。

71-20 *オムギン・アハド* (310)17-58

ジョンダとリンチンはこれもただ姓がおなじだけの関係。姓の関係にすぎない。

71-21 *オムギン・アハド* (336)17-92

*アハド*はあるか？と聞くと，「姓の兄」はあるが，実の兄はいない。

71-22 *オムギン・アハド* (336)17-92

第4佐のジャンギは，エルデニにとってはアチ［孫］にあたる。だから，エルデニの娘にとって，このジャンギはオムギン・アハである。

姓のあつまり

71-24 姓のあつまり (310)17-59

おなじ姓の者があつまることはない。

姓と嫁入り

71-26 姓と嫁入り (360)18-70

娘は嫁入りしても，姓は変わらない。

71-27 姓と結婚 (360)18-72

おなじ姓の家から嫁入りしてはいけない。養子はかまわない。

姓と親戚

71-29 姓と親戚 (344)18-42

ここでは姓がおなじでも，親戚とは言わないという。

姓

71-31 姓 (341)18-26

姓は，アトーチン，ミンガン，右翼，左翼にはない。ほかの旗にはみなある。

71-32 姓 (345)18-42

スンジーとムトンガがおなじ姓。ドルベトという姓。

71-33 姓 (344)18-42

嫁さんは，「姓を知らない人がいるよ！」と言って，舌打ちをする。
71-34 姓 (360)18-70
きょうだいはおなじ姓をもっている。父の姓を継ぐのである。
71-35 姓 (360)18-72
おなじ姓の家は親戚にあたる。(関係ある，になる。)
71-36 姓 (310)17-55
リンチン，ジョンダはおなじ姓。すなわち，「姓の兄」である。もう1軒，おなじ姓の人がバガ・チャガンとホンドルンの間に住んでいる。ジョーレンという人。
71-37 姓 (310)17-56
おなじ姓の家から嫁をもらってはいけない。
71-39 姓 (310)17-58
チャガン・ハダの各アイルの姓は次のごとし。
ヒョート姓はトゥムルボルト，ダンジン，ラシチルン，チブチン姓はジョンダ，リンチン。
71-38 姓 (310)17-58
チャガン・ハダの各アイルの姓は次のごとし。(つづき)
フリョート姓はドゴル，トフチン姓はゴンチクジャブ，？［不明の意］姓はゴンブジャブ。
71-40 姓 (310)17-59
おなじ姓の家からは嫁がもらえないというだけのことで，姓については，ほかに何もない。
71-41 姓 (310)17-59
おなじ姓の家から嫁をもらった例はない。
71-42 姓の関係 (335)17-83
なし。
71-43 姓 (335)17-83
グンという姓。

親戚

71-45 親戚 (360)18-72
ハマータン・サトン［親戚］というのは，姓がおなじだということなのである。
71-46 親戚 (376)20-66
ガルブ（377)49歳は，ブラシン（376）の弟である。
71-47 親戚 (379)20-67
ヤンジマー（379）と，ガロー（381）とは，親戚。ガローはヤンジマーの息子である。ガローの父は，廂白旗の人間であった。

71-48　親戚　(378)20-67
ジョクスンジャブ（378）は，ヤンジマー（379）の甥である。
71-49　親戚　(383)20-67
アチア（383）は，ジョクスンジャブ（378）の妹である。
71-50　親戚　(272)15-9
D ジャンギとは親戚である。ジャンギの父は，モンフの母の主人の弟であった。
71-51　親戚　(273)15-32
ジャンギの家とは別に関係がない。
71-52　親類　(274)15-38
娘の嫁入り先（イントのアイル）のほかに親戚なし。
71-53　親戚　(276)15-51
イントにある。自分の娘の嫁入り先。
71-54　親戚　(277)15-62
主人の母は，ここはアルガリがなくて寒いから，ダライというアイルへ行って住んでいる。ダライは母の娘の家。
71-55　親戚　(278)15-67
ジャンギと関係がある。ダメルンワンジル・ジャンギの父の父は，この主人（ムントゥロタ）の兄である。ほかに親戚なし。
71-56　親戚　(286)16-53
このゴトン［集落］の中には親戚はない。
71-57　親戚　(287)16-58
妻の語り「この家に嫁入りしてから，ほかに親戚があるなどということは別に聞いていない」
71-59　親戚　(287)16-58
妻の実家は別に親戚（ハマータン・サトン）ではない。
71-60　親戚　(289)16-63
ロブスンはこのゴトの人とは別に関係がない。
71-61　親戚　(299)17-49
(299）と（307）は，主人がきょうだいである。
71-62　親戚　(305)17-49
ルンボン（300）は，ワンチン（305）のアチ［孫］である。ワンチンの母の弟の子ども。
71-63　姻戚　(299)17-49
ダルゴエ集落の中で，おたがいに嫁入り，嫁取りの関係はぜんぜんない。
71-64　親類　(310)17-55
チャガン・ハダにおける親類関係。リンチンとジョンダとはただ「姓の兄」の関係だけ。

※

71-65　親戚　(335)17-83

姉が廂黄旗に嫁に行っている。

71-66　親戚　(336)17-92

血縁の親戚としては，父方の兄がいる。(娘がこう言った。これは娘の父のエルデニの兄のことである)。エンゲル・ボラグに住んでいる。

71-67　親戚　(336)17-93

そのゴトの中には関係のあるアイルなし。

71-68　親戚　(266)14-70

親類なし。

71-69　親戚　(223)40-59

マンダルト・スムのシャブルンの実家であるが，親戚として，姉の家があるという。

71-70　親戚　(99)7-37

親戚は，弟の家がある。弟はラマである。ボロン・スムにいる。弟には別の家がある。姉が1人と母と子どもが2人いる。妻がある。(ダリマーの弟。ダリマーはこの家に養女にきたのである。)

71-71　親戚　(138)8-59

姉の子どもの家も親戚である。ドゴルスルンという。ガンジョール・ホトクにいる。チョエンジルが馬群をあずけている家。(これはチョエンジルが述べたところと，まったく一致する。)

71-72　親戚　(138)8-59

近所のチョエンジルは，実の兄である。

71-73　親戚　(137)8-54

親戚はある。姉の子どもの家。そこに自分の馬群をあずけているのである。

71-74　親戚　(136)8-18

養女の実家，これも親戚の中に入る。

71-75　親戚　(136)8-18

近所にある。婆さんの妹（嫁入りした）の子どもの家。ワンジル・ジャランの家。アムン・オスに住んでいる。

71-76　親戚　(105)39-18

バートルのいうところでは，このイフ・バインの4つのアイルはみな親戚だというが，小僧さんのいうところでは，ほかの3軒は親戚でないという。

71-77　親戚　(189)9-35

兄の家，いま，セイスにいる。兄と弟の夫婦と妹2人。ことしの4月に分家した。

71-78　親戚　(95)6-80

近所に親戚はない。
71-79　親戚と手つだい　(93)6-76
オヨンの娘婿のジョクスムと，ジョクスムの実家（姉の家）とは，仕事のうえでは何の交渉もない。互いに手つだいに行ききする。
71-80 *アイル*と親戚　(93)6-72
オヨンとその娘婿のジョクスムはおなじ*アイル*だという。家畜はウシだけは別々にもっている。ほかの家畜は共有だと言った。乳しぼりは別々，*ウルム*をつくるのも別々。食べものを買うときには，一緒に買う。しかし，食べるのは別々に食べる。
71-81　*アイル*と親戚　(93)6-65
包２つで１つの*アイル*である。その１つには，娘の嫁入り先の婿どのが入っている。（これは分家したのだというが，それにもかかわらず，１つの*アイル*だという！）
71-82　親戚　(89)6-34
となりに母の実家がいる。そのほかに親戚はない。
71-83　親戚のとなり　(89)6-34
となりの家は母の実家である。
71-84　親戚　(88)6-25
妹が養女に行っている家も親戚のうちに入る。
71-85　親戚　(88)6-25
ドゴルが自分の親戚として，訪ねて行ける家はチャハルには，母の実家だけしかない。
71-86　姻戚　(72)5-2
ワンジルの妻はベール王の兄の子どもだという。
71-87　妻の実家　(77)7-5
妻の実家は，いまはなくなった。年寄りがいたけれども死んだ。きょうだいはない。家畜もなかった。
71-88　母の実家　(77)7-6
母の実家は知らない。

息子の帰り

71-90　息子の帰り　(278)15-65
息子は張家口で汽車公司の運転手。ときどき帰ってくる。１年に１～２回，帰ってくる。そのとき，お土産をもって帰ってくる。ことしの６月に帰ってきた。お金を700～800円もって帰ってきた。

嫁の薮入り

71-92　嫁の薮入り　(335)17-83

姉が廂黄旗に嫁に行っている。いま実家へ遊びに帰っている。10月にこちらへ帰ってきた。そのうちにまた向こうへ帰るつもりである。

妻の実家

71-94　妻の実家　(341)18-2

第４佐の人間だが，家は第12佐へ行っている。

71-95　妻の実家　(344)18-43

イント集落の各アイルの妻の実家は以下のごとし。

(344）の妻はトモンすなわち（352)，(345）の妻はバルジルスルンで第10佐出身，(346）の妻は明安旗出身，ホニチン，(347）の妻は第10佐出身，(348）は妻なし，(349）の妻は第10佐，サンボーは実家なし。

71-96 妻の実家　(344)18-43

(350）の妻は第７佐，(351）は妻なし，(352）の妻は明安旗。

71-97 妻の実家　20-67

粛親王府の各アイルの妻の実家は次のごとし。

ガルブの妻はアチャーサンから。ガルブの子の妻は明安旗。ジョクスンジャブの妻は明安旗。ガローの妻は明安旗。ダンスルンの妻はホーチン・ワン旗から。

71-98　妻の実家　(275)15-41

妻の実家は，となりのアイルである。妻はスドゥルラブジーの娘である。

71-99　妻の実家　(276)15-52

ラシーデリゲルの嫁さんは，となりのスドゥルラブジーの娘。しかし，いままでこの２軒の家は一緒になったことはなかったのが，ことし，スドゥルラブジーが引っ越してきた。

71-100　妻の実家　(277)15-59

妻の実家はもうなくなった。弟が１人あるが兵隊に行っている。

71-101 妻の実家　(278)15-66

息子の嫁はハル・オングチ（南）というところから嫁入りしてきた。南のほう。

71-102 嫁の実家　(278)15-70

ことしは，ここは草がわるいので，ウシ２頭は嫁の実家にあずけた。そこは乾草が刈ってあるから大丈夫である。

71-103　妻の実家　(286)16-54

妻の実家はドート・オスにある。

71-104　妻の実家　(287)16-58

妻の実家はバルト・オスにある。

71-105　妻の実家　(287)16-58

妻の実家は別に親戚ではない！という。
71-106　妻の実家　(288)16-59
コショーン・オスにある。
71-107　妻の実家　(310)17-56
チャガン・ハダの各アイルの主人の妻の出身地は次のごとし。
ジョンダの妻はボグディン・ゴル出身。ジャンギ（トゥムルボルト）の妻もボグディン・ゴル出身。ゴージョのはアトーチン，ダンジュンのはホニチン，ドゴルのは第5佐，リンチンのは第13佐，ラシチルンのは第6佐。
71-108　妻の実家　(310)17-56
チャガン・ハダの各アイルの主人の妻の出身地は次のごとし。(つづき)
ゴンチクの妻は第6佐，プルブの妻は第7佐。
71-109　実家　(269)14-91
シャルブは婿養子である。その実家はもうなくなった。
71-110　妻の実家　(181)9-16
妻は13～14歳。いま，実家へ帰っている。
71-111　妻と実家　(181)9-16
ワンジルの長男。妻あり，子どもなし。妻はいま実家へ帰っている。
71-112　姻戚との交際　(41)2-82
妻の家。本人はタイジであるが，妻の家は家柄も何もない。お正月にはその家に行く。

ドルフム

71-114　ドルフム　(288)16-59
ドルフムというのは，妻，婿養子などの実家ということ。すなわち，もう籍がない家のこと。

初産

71-116　初産　(74)5-24
シャグダルの妻ダリマー。34歳。子どもなし。16歳のとき，子どもが1人生まれたのだが，生まれて9日めに死んでしまった。

2号

71-118　2号　(373)20-18
32年まえの戦争でのモンゴル軍の司令官は，中国軍の軟禁から脱走したが，西スニトの兵隊に捕まって殺された。第1夫人が西スニトの出身で，彼が第2夫人をもらったので，第1夫人がおさまらない。それが原因で殺された。

71-119　2号　(8)5-75
ダライはハラチン・モンゴルである。本妻は満州にいる。こちらには2号の現地妻がいる。(漢人の女)。本妻の子ども21歳の男子。和親王の管理所に勤めていたが，満州へ帰った。現地妻とのあいだに女の子がある。

妻の死

71-121　妻の死　(376)20-64
肅親王府の南牧場の牧長。妻は1昨年死んだ。
71-122　妻の死　(274)15-39
グシグドクトグの妻は死んだ。3～4年まえに死んだ。
71-123　妻の死　(276)15-51
妻は6年まえに死んだ。
71-124　妻の死　(295)17-28
妻は死んだ。10年以上になる。

夫の死

71-126 夫の死　(297)17-26
婆さんの主人はむかしいたが，死んだ。
71-127 夫の死　(295)17-31
ダライの娘，31歳。夫は去年の正月，病気で死んだ。
71-128　主人は死んだ　(96)6-81
ウルジマーの主人は死んだ。いつ死んだかわからない。
91-2　夫の死　(399)24-9
ギリグジャムソの母のノホル［夫］は，4～5年まえに死んだ。

父の死

71-129　父の死　(89)6-34
父は5歳のときに亡くなった。
71-247　父の死　(32)21-45
父は10年まえに死んだ。

家族の死

71-172　兄の死　(255)13-10
いちばん上の兄，2年まえに死んだ。41歳で死んだ。
89-186　弟の死　(393)24-7

ラマの弟。25歳。３月８日に死んだ。
89-187　母の死　(392)24-7
ガジトソー36歳の母は，65歳で，１月８日に死んだ。
89-215　赤ん坊の死　(108)21-56
赤ん坊が１人死んだ。
91-3　赤ん坊の死　(399)24-9
ギリグジャムソの妹，２月18日に生まれ，４月13日に死んだ。

出もどり
71-131　出もどり　(295)17-31
ダライの娘，31歳。去年の正月，夫が死んだので実家へ帰ってきた。
89-182　出もどり　(387)24-3
ララルワンドンの姉，39歳。出もどりである。

後妻
71-133　後妻　(277)15-58
まえの妻は死んだ。いまの妻は後妻。10年まえに嫁入りしてきた。
71-134　後妻　(26)5-63
先妻が先に死んだ。後妻をもらった。後妻も死んだ。38歳で死んだ。いま生きていたら42歳である。

年のちがい
71-136　年のちがい　(8)5-78
人種，民族のちがいは，結婚していてあまり困らない。しかし，それよりも年の開きが大きいことはいやに思う。(主人はカラチン，妻は漢人，これは妻の言ったこと。)

名義上の養子
71-138 名義上の養子　(61)21-51
シェルブの兄。名義上の養子となっている。
71-139　名義上の婿　(99)7-31
22歳の娘，名義上の婿養子がある。いま，モンゴル軍に行っている。事実上は夫婦でない。

婿養子
71-141　婿養子　(349)18-43

サンボーは婿養子，実家はなくなってしまった。
71-142　婿養子　(269)14-91
シャルブは婿養子である。
71-143　養子　(267)41-84
ドルジの家の婆さん，57歳。家つきの娘で養子をもらったが，死んだ。死んでからもう７年になる。

結婚年齢

71-145　結婚年齢　(181)9-16
息子，14歳。学校に行っている。妻あり。妻は13〜14歳。
71-146　結婚の年齢　(93)6-72
ジョクスム37歳，ルハム27歳。ことしの６月に結婚した。
71-147　結婚年齢　(72)5-3
ワンジルの妻，現在23歳。結婚してから６年になる。
71-148　結婚の年齢　(51)3-58
オチルの妻ドルゴル，49歳。20歳のときに結婚した。（オチルは養子である。）
71-149　結婚年齢　(36)2-69
20歳で結婚した。（女性）

嫁入りと家畜

71-151　嫁入りと家畜　(295)17-31
ダライ，漢人の帰化人。家畜は，妻が嫁入りしてくるとき，もってきた。ヒツジ２〜３頭，ウシなし，ウマなし。
71-152　嫁入りと家畜　(26)5-63
娘が嫁入りをするときには，ウシ２頭，ウマ１頭だけもたせてやる。ただし，結婚してから３年ほどして，完全に家風にはまりこんでからやる。
71-153　嫁入りと家畜　(93)6-72
娘がジョクスムに嫁入りした。ジョクスムはもともと家畜も包ももっていない。それで，結婚してから，家畜（ウシ）を半分わけてやった。
71-154　嫁入り支度　(82)5-49
妹が嫁に行くときには，ウマ２，メスウシ２，ヒツジとヤギ30くらいはもたせてやるつもりである。

嫁入り先

71-156　嫁入り先　(341)18-3

妹２人の嫁入り先は，どちらも第３佐。
71-157　嫁入り先　(295)17-32
ダライの娘31歳。出もどり。夫は死んだ。夫は第７佐のオチバートルという人であった。
71-151　嫁入り先　(310)17-56
ジョンダの娘はボグディン・ゴルに嫁にやったのだが，死んだ。
71-159　結婚の範囲　(77)7-5
オスルの妻は西スニトの人である。
71-160　婚姻の範囲　(41)2-82
妻は正藍旗（チャハル）ジャークスタイ・スムの付近の人。

嫁入り

71-162　嫁入り　(276)15-52
ラシーデリゲルの嫁さんは，スドゥルラブジーの娘だが，もう20年もまえに嫁入りしたのである。
71-163　嫁入り　(85)6-5
ジャラー・スムで生まれた。18歳のときまで，そこにいた。18歳のとき，いまの主人アルフテンのところに嫁入りした。

結婚まで

71-165　結婚まで　(93)6-72
ことしの４月にここに引っ越してきた。そして，ことしの６月に娘がここのネルンパラムの母の弟に嫁に行った。

独身

71-167 独身　(107)7-58
むかしから妻はない。いま70歳。パラサイト。
71-168　独身　(86)6-10
ダムディンスルン。女48歳。結婚しなかった。兄のチムドドルジの家に同居している。

留守番

71-170　留守番　(335)17-83
主人は兵隊。主人が留守のあいだは，妹１人である。１人で草刈りやら何やら，みんなするのだという。

孫の引き取り

71-174　孫の引き取り　(272)15-8

モンフの娘の子ども４歳。娘はよそへ嫁入りしていた。娘は死んだ。それでその子どもがおじいさんのところへ引き取られている。

71-175　孫の引き取り　(274)15-38

３歳の男の子。グシグドクトグの娘の子である。娘はイントのアイルに嫁入りしている。グシグドクトグが１人で寂しいから，子どもだけ，こちらへ引き取っているのである。

71-176　孫の引き取り　(276)15-51

５歳の男の子。養子。自分の娘の子どもである。イントに嫁いでいる。ラシーデリゲルの妻の姉の子である。

71-177　孫の引き取り　(310)17-56

ジョンダの娘の子ども，２歳。ジョンダが育てている。娘はボグディン・ゴルに嫁にやったのだが，死んだ。

子どもの教育

71-179　子どもの教育　(70)4-87

子どもは学校に行かしたいと思う。学校を出たのちは，その子どもになにか目的があれば，その通りにしてやる。いま１人，子どもを学校にやっている。

71-180　学校　5-34

ベーリン・スムのラマ小学校。先生はデムチ。生徒の数22人。

71-181　学校　(89)6-33

12歳の弟，来年学校に行く予定である。その規定になっている。(旗公署の小学校へ)

71-182　退学　(89)6-35

厚和の蒙古中学校。１年でやめた。家に人がいなくて家畜の世話ができないので，学校をやめた。

子どもの世話

71-184　子どもの世話　(192)9-74

バズルサトの小さい子どもは，母の留守のあいだには，ジョンダエジャムソ［ジョンダのジャムソ］の家で世話をする。

父なし子

71-186　父なし子　(136)8-10

26歳の娘。彼女自身がすでに父なし子である。そのうえ，彼女には主人がないにもかかわらず，５歳の子ども（女）がある。

71-187　父なし子　(136)8-10
シャグドゥルの姉，養女。主人がない。ところが娘がある。娘26歳。
71-188　父なし子　(93)6-76
オヨンは主人がない。むかしからないのだ。彼女は結婚しなかった。しかも娘が２人もある。
71-189　父なし子　(87)6-15
ボントーサンゼイの姉。マー。68歳。娘，実子がいる。エリンチンドルマ，29歳。しかし，マーにはむかしから，主人がいない。
71-190　父なし子　(86)6-10
トゥムル，女，盲目，42歳。夫はない。子どもがある。子どもは父なし子。
89-169　父なし子　(399)24-9
ギリグジャムソの妹はことしの２月18日に生まれ，４月13日に死んだ。ところが，ギリグジャムソの父というのはすでに５～６年まえに死んで，いない。母はまだ31歳である。

継子

71-192　継子　(277)15-58
いまの妻は10年まえに嫁入りしてきた。後妻である。前妻は死んだ。その子どもが３人いる。いまの妻の子どもが２人。

養子

71-194　養子　(276)15-51
５歳，男の子，イントの親戚からもらった。自分の娘の子どもである。こちらへ養子にもらった。
71-195　養子　(257)13-46
男の子，19，９，７，３歳の４人ある。そのほかに１人，養子にやった。８歳。
71-196　やしない子　(98)7-18
１～２歳のときに，両親に死に別れたので，８～９歳のときまでよそのアイルに養われていた。どこのアイルか，いまは忘れてしまった。
71-197　引き取り　(26)5-63
いとこが綏東事件で戦死した。それで，その妻と３人の子どもを引き取って世話している。その長男を跡継ぎにする。
71-198　あずかった子ども　(87)6-15
ヤンソン・タイジの子ども２歳をあずかっている。去年あずかった。また返すのである。いつ返すかわからない。取りにきたら返す。

養女

71-200　養女　(33)21-47

養女15歳。人手不足で困ったので，養女にもらったが，学校に取られてしまったので，損をした。

71-201　養女　(136)8-18

養女53歳。すぐ側の家からきた。その家も親戚のなかに入る。

71-202　養女　(S)6-27

チャハルとスニト。ここでは養女が非常に多い。チャハルでは，ここほど多くはない。Sの話。

71-203　養女の待遇　(S)6-27

養女をもらった家では，まったくの娘とおなじように待遇する。その娘を嫁にやる場合もあるし，養子をとる場合もある。決して雇い人の待遇ではない。Sの話。

71-204　妹をもらう　(S)6-27

ラマは公式には妻をめとれないので，娘（それもかなり大きい娘）を妹という名義にして，養女にもらう。そして，事実上の妻にする。Sの話。

71-205　養女にやる　(S)6-27

養女をもらうには，もらうほうから里に対して，おみやげとして若干の品物を送る。Sの話。

71-206　養女　(66)4-63

いま養女と２人暮らし。養女はまだ年のない時分にもらった。（そのくせ，自分の娘はディンドゥーに養女にやっている。）

子どもの数

71-208　子どもの数　41-15

70の婆さん，７人の子どもがあったが，２人は死んだという。

孤児

71-210　孤児　(70)5-13

男の子。オーナ，10歳。４～５歳のとき，両親とも亡くなった。それで，そののち，郭王が引き取って育てている。

名まえがない

71-212　名まえがない　(373)20-34

父が子どもに対して呼ぶときには，名まえで呼ぶ。１～２歳のときは，名まえがない。そのときは，あだ名で呼ぶ。

71-213 名まえがない (86)6-10
チムドドルジの妹のトゥムル。夫はないが，子ども（女）がある。子ども２歳。まだ名まえがない。
71-215 名まえを付ける (76)5-28
ドルマー，３歳。２歳のとき，名まえを付けた。
71-216 名まえを付ける (39)2-49
２歳の子ども。髪の毛くしゃくしゃ。まだ名まえがない。５歳で髪の毛を刈って，名まえをつける。その姉のナンスルン（４歳，女）は，３歳で髪の毛を刈った。

子ども

71-218 子ども (276)15-51
娘はあるが，息子ははじめからない。妻は６年まえに死んだ。
71-219 子ども (98)7-18
子どもは，４～５人生まれたが，みな死んでしまった。人にやった子どももない。
71-220 子ども (77)7-6
子どもは生まれなかった。
71-221 子ども (81)5-44
妻は昔あったが死んでしまった。子どもは生まれなかった。
71-222 子ども (67)4-71
子どもはない。生まれなかった。主人は２～３年まえに死んだ。

きょうだいの名まえ

71-224 の名まえ (84)5-85
娘２人どちらもラムソーという名まえである。大ラムソー，小ラムソーと呼んで，区別している。

きょうだいと財産

71-226 きょうだいと財産 (189)9-51
親父がまだ生きているとき，シャグドゥルの小さいときから，兄の家畜とは別になっていた。ヒツジの耳印，ウマの焼き印もちがっていた。兄が分家するときには，それに従って分けた。
71-227 きょうだいと財産 (189)9-51
兄と自分とは小さいときから，家畜は別々になっていた。しかし，兄が分家したときに，兄について行った弟のほうには家畜がない。
71-228 きょうだいと財産 (189)9-51

弟が分家をするから，家畜を分けてやってもよい。なぜならば，きょうだいだから。
71-229 きょうだいと財産 (82)5-49
父親の遺産として貰い受けた家畜は，みんなきょうだい３人の共有財産である。（ドルジ，弟，妹）
71-230 きょうだいと財産 (43)3-5
弟２人で暮らしている。２人ともラマである。ウマ１，去勢ウシ１をもっている。このウマとウシはきょうだいの共有である。弟もまた，このウシを連れて，働きに行く。

きょうだい

71-232 きょうだい (278)15-67
主人ムントゥロタは，きょうだいなし。
71-233 きょうだい (98)7-18
兄が１人あった。ラマであった。30何歳のときに死んだ。いま生きておれば62歳である。ベーリン・スムのラマであった。
71-234 きょうだい (77)7-6
きょうだいはラマの兄が１人あるだけ。ほかにはない。

ゼー

71-236 *ゼー* (310)17-55
トゥムルボルトは，*ジョンダ*の甥である。*ジョンダ*の妹の子ども。
71-237 *ゼー* (311)17-56
*ジョンダ*の娘の子ども，娘が死んだので，*ジョンダ*が引き取って育てている。これも*ジョンダ*の*ゼー*にあたる，という。

家族の呼びかた

71-239 家族の呼びかた (373)20-33
S。父のことをバーバと呼ぶ。バーバは満州語。一般には，アチという人が多い。バーバと呼ぶ家は少ない。
71-240 家族の呼びかた (373)20-33
S。母のことをエメーと呼ぶ。エメーは満州語。70％くらいの*アイル*はこの呼びかたをしている。ほかには，人によっていろいろの呼びかたがありうる。一定していない。
71-241 家族の呼びかた (373)20-33
兄のことをマーマという。マームはラマの兄に限る。俗人の兄は，ゴーゲという。
71-242 家族の呼びかた (373)20-34
ゴーゲというのは，俗人の兄のこと。アトーチンあたりでは，父のことをゴーゲと呼ん

でいる。Sの話。
71-243 家族の呼びかた (373)20-34
S。妻を呼ぶときには，名まえは呼ばないことが多い。ことに人のまえでは名まえは呼ばない。このごろ，妻に対して，チー（おまえ）とよびかける風潮が増えてきた。
これはなんたることぞ！
71-244 家族の呼びかた (373)20-34
Sの家。父が子どもに対しては名まえを呼ぶ。1～2歳は名まえがない。そのときは，あだ名で呼ぶ。
71-245 家族の呼びかた (373)20-35
父が母を呼ぶときには，子どもに対しては，「お母さん」という。たとえば，「əxəigan dôdat ire!（おかあさんを呼んどいで！）［exiigeen duudaad ir!］」というぐあいに。

家族の呼びかた（つづき）
71-299 家族の呼びかた (387)24-20
子どもが父に対しては，アージと呼ぶ。
71-300 家族の呼びかた (387)24-20
父が子どもに対しては名まえを呼ぶ。
71-301 家族の呼びかた (387)24-20
兄に対してはゴーゴと呼ぶ。
71-302 家族の呼びかた (387)24-20
マームというのは別に兄に限らない。単に，年寄りに対していう。ただし，ラマに限る。ところによっては，ラマならすべてマームと呼ぶところもある。
71-303 家族の呼びかた (387)24-20
姉に対しては，アガ，アンジャーなどと呼ぶ。
71-304 家族の呼びかた (387)24-21
母はエージ，エメーと呼ぶ。
71-305 家族の呼びかた (387)24-21
父方のおばに対しては，モームと呼ぶ。
71-306 家族の呼びかた (387)24-21
そのほか，いろいろたくさんあって，決まりはない。
71-307 家族の呼びかた (261)14-10
26歳の娘，買い出しの旅に「マナイ・ダーダが行った」と言った。
［マナイはわたしたちのという意味，娘のことをダーダと呼んでいることがわかる。］

おじいさん

71-249 おじいさん (135)39-56

おじいさん，おばあさんはおぼえていない。

71-250 おばあさん (255)41-22

おばあさんはおぼえていない。

71-251 おじいさん (105)39-18

おじいさん，おばあさんは知らない。

71-252 おじいさん (189)9-36

おじいさん，おばあさんはおぼえていない。小さいときに，もういなかった。

71-253 おじいさん (77)7-6

おじいさん，おばあさんは知らない。

両親

71-255 両親 (275)15-40

両親はいない。しかし知っている。

71-256 両親 (267)41-85

父も母もおぼえている。

71-257 両親 (265)41-82

おぼえていない。

71-258 母 (257)13-47

母はおぼえていない。（父はまだ生きている。）

71-259 両親 (248)12-85

ゴンチクの妻のほうは，父も母もおぼえていない。

71-260 両親 (248)12-85

両親は両方ともおぼえている。

71-261 両親 (135)39-56

母はいる。父の顔はおぼえていない。

71-262 両親 (107)39-20

両親は小さいとき（7～8歳のとき）に死んだので，おぼえていない。

71-263 両親 (137)8-54

父母の顔はわからない。

71-264 父母 (136)8-18

婆さんは，父母をおぼえていない。

71-265 両親 (189)9-36

両親は死んだ。顔はおぼえている。

71-266　両親　(98)7-18
両親は小さいときに死んでしまった。１～２歳のときに死んでしまったので，両親はおぼえていない。

家畜の所有権

71-268　家畜の所有権　(26)5-64
いま，メスウシ５，当歳子ウシ５，ウマ２頭をもっているが，自分のものはそのうち，ウシ２，ウマ１だけ。あとはいまから跡継ぎのチェードンのものとなっている。

債権の相続

71-270　債権の相続　8-30
ジェールをあるラマから買った。子ヒツジ１，子ヤギ１で買った。ところが，そのラマは死んでしまった。それで，そのラマが死んでから，そのラマの姉に支払いをした。

別居

71-272　別居　(8)5-76
７年まえにダライと結婚したが，５年ほどわかれていた。昨年，この土地に呼びよせられた。
71-273　夫の通い　(86)6-10
ゲンドブの主人は，ジャミヤンドルジという。役人である。ベーリン・スムの南に住んでいる。ゲンドブは，そこの家に行かないで，ジャミヤンドルジのほうがこっちへ通ってくる。

絶家

71-275　絶家　(373)20-27
Sの母の母の姉が嫁入りした家。スージ・オボまで，Sの家と行動をともにしてきた。１人だけであった。去年の４月，宝源の近所で匪賊（土匪）にやられて死んだので，家はなくなった。
71-276　絶家　(335)17-89
母の実家，いまはもうアイルはなくなった。

分家と財産

71-278　分家と財産　(189)9-36
シャグドゥルの財産は，ウマ20，メスウシ17，当歳子ウシ17，２歳子ウシ７，オスウシ２，種オスウシ１，ヒツジ600，ヤギ70，ラクダ７，家２，車２。

兄の財産は，ウマ７～８，メスウシ８，当歳子ウシ８，２歳子ウシ４，３歳ウシ１，ヒツジ200，ヤギ20，ラクダ７，家１。
71-279 分家とゲル (189)9-36
兄が分家した。それまではきょうだいがみんな一緒にすんでいた。ゲルは３つあった。分家した兄がゲル１つをもっていった。

分家

71-281 分家 (387)24-19
分家するということば。ger xobanə［家を配分する，ger xubaana］。または，urux salna［世帯を分離する öröx salna］。
71-282 分家 (360)18-71
むかしから兄が家を相続するのがふつうである。兄が俗人で分家するような家は少ない。そうしてはいけないという決まりはないけれども。
71-283 分家 (287)16-55
主人の弟は，妻とともに分家している。オングチン・ゴルに住んでいる。
71-284 分家 (189)9-36
ことしの４月に兄が分家した。兄が分家して，弟のシャグドゥルが家に残った。兄と一緒に，弟の夫婦と妹２人が出て行った。
71-285 分家 (93)6-72
ジョクスムは，ネルンパラムの母の弟である。ことしの６月，結婚した。結婚して，分家した。（そして，妻の母のアイルと一緒にいる。包は別で，私有の家畜も別であるが，一緒のアイルだという）

相続

71-287 相続 (387)24-19
相続するということば。ザルガムジルナ。相続人は，ザルガムジラハ・フン。文語，口語ともおなじ。
71-288 相続 (341)18-3
弟が家を継いだ。兄はその家に同居している。兄はラマではない。
71-289 相続 (360)18-70
むかしからきょうだいのうちで，兄が家を継ぐことになっている。むかしから兄が病気であったり，そのほかの故障があれば，兄はラマになって，弟が家を継いだ。兄が俗人で分家するような家は少ない。そうしてはいけないという決まりはないけれども。
71-290 相続と財産 (189)9-51
兄と自分とは小さいときから別々に家畜をもっていた。父の家畜は自分が継いだ。

71-291 遺産相続 (26)5-64
家畜は娘の嫁入りにもたせてやる分をのぞいでは，いまからすでに跡継ぎのチェードンのもの。家は，包もいまは自分のものだが，そのほかのいっさいとともにチェードンのものになる。
71-292 跡継ぎ (26)5-63
いま，世話をしているいとこの長男を自分の跡継ぎにする。自分の実の娘がいるが，これはよそへ嫁に出す。
71-293 相続 (82)5-47
父も母も死んだ。父ののこした家は（ゲル），自分が継いだ。いま，その家に弟と妹がいる。ビリグ・ゲゲチというところ。弟は目がわるくて働けない。

不在戸主
71-295 不在戸主 (76)5-28
主人は？ バトノインタイ。学校の生徒である。学校へ行っていて，家にいない。（去年の6月から）

主人
71-297 主人 (297)17-24
ホリシャの通い帳は，いま主人が寺へもって行っている。（主人はラマ）

家族
71-309 家族 (290)16-65
家族は何人か？と聞けば，在不在にかかわらず，当然その家に在籍すると認められる者，兵隊，学校の生徒，ラマもみんな含めてをいう。ただし，嫁にやった娘や，養子にやった子どもなどは，もちろん含まれない。
71-310 家族 (336)17-92
ラマ，兵隊なし。

先祖
71-312 先祖 (373)20-19
Sの家はもと正黄ウシ群に属していた。先祖はもともと正黄旗の出身であった。

血縁
71-314 血縁 (270)14-94
ジャンギと関係ない。

生まれたところ

71-316　生まれたところ　(373)20-17

張北の近所。エンゲル・チャガン・ノールのところで生まれた。

71-317　生まれたところ　(24)21-43

チベットのシャーシュン［シャンシュン？］の生まれ。

71-318　生まれたところ　(291)16-68

ソンデーは，サールトの人。東のほう。第3佐。

71-319　生まれたところ　(295)17-28

ダライ，漢人の帰化した者。北京の南，直隷省の保定府の出身。

71-320　生まれたところ　(265)41-83

西スニトの第2佐。

71-321　生まれたところ　(257)13-43

外モンゴルの西盟，バルトン・ザサク旗で生まれた。

71-322　生まれたところ　(189)9-49

フルムで生まれた。

71-323　生まれたところ　(192)9-71

生まれたのはタブン・ホトクである。

71-324　生まれたところ　(248)12-85

ゴンチクは，ここ［ジャミン・ウブルジューという冬営地］で生まれた。

71-325　生まれたところ　(253)13-6

ソドノムの婆さん。外モンゴルのトシェート・ワン［盟］の生まれ。

71-326　生まれたところ　7-76

生まれ故郷のことは，*トゥルスン・ノトク*という。

71-327　生まれたところ　(86)6-10

ダムディンスルン，女48歳。自分の生まれたところは忘れたけれど，多分この近所だろう。

71-328　生まれたところ　(95)6-81

どこで生まれたのかわからない。

ジャサ

71-330　ジャサ　(104)39-9

ジャサを1年に1日だけ，各々の家でおこなう。近所を招いてごちそうする。

労働

水はこび

70-3　水はこび　(66)4-68

ここは草がよいので，井戸からは遠いけれどもここへきた。水は牛車ではこぶ。

仕事

70-5　仕事　(84)5-88

乳しぼりはラムソーがする。ノルジマーも乳しぼり，*アルガリ*あつめ，およびヒツジの番をする。

70-6　仕事　(85)6-3

婆さんの仕事は，家を掃除する。火をたく。縄をつくる。

70-7　女の仕事　(89)6-37

女３人いる。乳しぼりは，女３人でする。乳製品つくり。お茶をわかすなど。

70-8　仕事　(95)6-84

ナンスルマー（20歳代）の仕事は，*アルガリ*をあつめること，水をくむことなど。羊群がとなりと共同管理であるから，交代でヒツジの番にゆく。

70-9　お茶わかし　(70)5-16

朝おきたらお茶をわかす。お茶わかしは，郭王の妃のほかなら，女たちのうち，だれでもよい。

70-10　乳しぼり　(84)5-88

ラムソーがしぼる。ノルジマーも乳しぼりをする。

裁縫

70-12　裁縫　(S)39-68

このあたりの女は裁縫ができる者が少ないという。Sの話。

70-13　縫いもの　(143)9-4

ラマたち。簡単な修繕は寺のそばにいるパラサイトの婆さんにたのむ。よい着ものは実家で縫う。実家のないラマは自分で縫うか，または*アイル*にたのむ。

70-14　靴の修理　(74)5-25

シャグドゥルの細君，靴の修繕をしている。

70-15　裁縫　(51)3-68

３時30分ごろから，チェートンは布切れで裁縫する。４時，チェートンはそとへ出て行く。そとへ出てズボンを縫う。オチルのズボン。

70-16　ヤギの革　(45)3-25

ジャムバをつくってやった代金として，お金のほかにヤギの皮を１枚もらった。自分で

なめして自分でもっている。これでふるい着ものを修繕するつもりである。
70-17　裁縫など　(51)3-68
ドレゲル，靴の修繕にかかる。3時30分までつづけて，半端でやめて，横になる。
70-18　綿布のつかいみち　(47)3-31
春のヒツジの毛をホリシャにおさめた代わりに，綿布を5尺ばかりもらった。ズボンとシャツのつぎをあてるのにつかった。
70-19　靴と着もの　(36)2-75
自分でつくる。

水桶と季節
70-21　水桶と季節　(137)8-43
いま，ジェールに水桶をしまってある。いまはソーロク［桶］に水を入れても，すぐ凍ってしまうから，いまは水桶は要らないのである。

地域共同体
親戚と集落
92-6　親戚と集落　(341)18-26
この集落には，おたがいに関係のある家は1軒もない。
92-7　親戚と集落　(344)18-42
姉はドルチム。弟はマクスル。
92-8　親戚と集落　(344)18-42
ハトバトルとガルスンはきょうだいである。
92-9　親戚と集落　(373)20-26
南からきたとき，6軒のアイルが一緒にきた。スージ・オボでも一緒にいた。それは，3軒ずつ親戚であった。1つはSの家。2つめは母の実家。3つめは。母の母の姉が嫁入りした家。
92-10　親戚と集落　(373)20-25
張北の近所から北へ引っ越してくるとき，6軒が一緒にきた。6軒は3軒ずつ親戚であった。
92-11　親類と近所　(273)15-37
バルジョールの兄嫁は，グシグドクトグの妹である。グシグドクトグはことしになってからここ（東スニト。妹の嫁入り先のとなり）へ引っ越してきた。
92-12　親戚ととなり　(275)15-41
妻の実家は，となりのアイルである。妻は，となりのスドゥルラブジーの娘である。
92-13　親戚ととなり　(276)15-51

となりのラシーデリゲルはスドゥルラブジーの娘の嫁入り先である。
92-14　親戚と集落　(373)20-26
スージ・オボまで一緒であった6軒は，3軒ずつ親戚であった。Sの家の系統と，もう1つは，1．兄，2．弟，3．養子の実家（婿養子）。
92-15　親戚ととなり　(277)15-59
となりのアイルとは関係がない。
92-16　親戚ととなり　(297)17-21
となりのアイルとは別に関係はない。
92-17　親戚ととなり　(310)17-64
トゥムルボルト・ジャンギが旗公へ引っ越してきたのは，家に人手がなく，こちらには親戚があるので，こちらへ引っ越してきたのだ。
92-18　親戚と集落　(190)40-18
ここの集落の3軒は親戚である。バトルホの婆さんはジョンダエジェ［ジョンダのジャムソ］の婆さんと，いとこ。バズルサト，バトルホの母親はジョンダエジェの婆さんの妹である。
92-19　親戚と集落　(248)12-86
となりのゲルには，ゴンチクの妻の姉が住んでいる。
92-20　親戚と集落　(249)12-90
ゴンチクの妻はここの妻の妹。ゴンチクのとなりの女はこの女の姉。となりの女は主人の姉。
92-21　親戚のとなり　(181)9-15
バガ・オボーネイ・ウブルジュー［冬営地］の5つのアイルのうち，4つは血縁団体である。1つはワンジル。2つめはワンジルの母の生まれた家。3つめは孫の夫婦。4つめは長男の夫婦。5つめは関係のない，ラマの家。

肅親王府牧場
69-2　集落の配置図　0-15
肅親王府の牧場の見取り図。［フィールドノートに図解あり。］

集団概念
69-3　アイマク　(387)24-16
「1つの水のアイマク」ということは，シリンゴルでは言うが，ここでは言わない。（ということをララルワンドンは知っていた！）
69-4　アイマク　(387)24-16
アイマクというのはかなり大きい概念である。

69-5　*ゴト*　(387)24-15
集落のことを*ゴト*という。

家がない

69-7　家がない　(56)4-21
ダメルン，親の代から家がない。いま，他人の家に住んでいる。住む家はだれの家ということは一定していない。現在では，公の仕事で出あるいていることが多い。

ソムをあつめる

69-9　ソムをあつめる　(104)39-10
現在ちらばっている者を，だいたいソムによってひとまとまりにしようと決めたのは山田顧問である。
69-10　*アイル*の集結　(310)17-63
旗公署の命令によって，(312)(313)(314)(317)(318)の各*アイル*は，このチャガン・ハダにあつまってきた。一緒にあつまっていると，供出のときに便利である。そのほかにあつまっていることによる利点はない。
69-11　*アイル*の集結　(310)17-63
この集落は，その大部分が旗公署の命令によってあつめられた者であるが，一緒に集結していると，供出のときに便利なだけ，ほかに利点はない。あつまっていても草は大丈夫，家畜がたくさんないから大丈夫である。

集落とソム

69-13　集落とソム　(63)4-45
おなじ集落のとなり同士でも，ソムがちがう。ソドノムツォクはノルブ・ソム。ダムディンはノルブ・ソム。ガルサンはトゥムルオチル・ソム。

放牧の権利

69-16　放牧の権利　(360)18-66
*オトル*に来るのはアトーチン。明安もむかしはきた。アトーチン，明安は，むかしはチャハル8旗から分かれて出たので，ここへも*オトル*に来たのである。
69-17　放牧の権利　(255)13-28
西スニトの*ノトグ*［ふるさと，領地の意］で家畜を飼っても，それは別にかまわない。だれにもことわる必要がない。しかし，実際はそんな人はいない。自分は監視役だから，こんなところに住んでいるけれど，一般の人は，民衆は，こんな旗の境に住んでいない。
69-18　放牧の権利　(255)13-24

ハルハはもともと西スニトの管轄であるが，ことしは雪がふったので，東スニトの監視佐領のところにたのんで，こちらに入れてもらっている。また，すぐ出てゆくという約束である。しばらく雪のあいだだけ。これは，ことしだけ。去年は来ていない。

69-19　放牧の権利　(70)4-87

大雪害のときなどに草がなければ草のよいところへ逃げてゆけばよい。東スニトのなかならどこへ行ってもよい。東スニトがだめなら，西スニトでも，チャハルでも，どこでもかまわない。ただ，北のほうは外モンゴルだからだめである。

土地の所有権

69-21　土地の所有権　(93)6-68

ここに居をかまえるについて，別にまえからいる近所の人に相談をもちかけなかった。ここはモンゴルの土地である。何も近所のアイルの土地ではない。

69-22　井戸の所有権　(93)6-70

もし，サイン・ホーブルの水を，よその人がやってきてどんどんつかっても，それはちっともかまわない。井戸の水は土地から出てくる水であるから。

居住の自由

69-24　居住の自由　(26)5-67

ここに来て住みたいと思う人があれば，だれもいくらでも，このアイル群に入ってきて住んでもよい。それは，この肅親王府の人でなくても，正白旗の人でもよい。

あずかりもの

69-26　あずかりもの　8-29

よそのアイルから冬の着ものを1着あずかっている。ジェールに入れてある。

人のホロー［円形の家畜囲い］

69-28　人のホロー　(276)15-56

ここへ，ラシーデリゲルが引っ越してきたときには，ホローだけがのこっていて，アイルはなかった。それで，彼はそのあとのホローをつかっているのである。

車を借りる

69-30　車を借りる　(346)18-50

草刈りは，各アイル別々におこなう。車のないアイルはよそのアイルから，車をまわしてもらう。

69-31　車を借りる　(373)20-24

モンゴル人は北へ移れという命令が出たとき，移れないアイルは，牛車を近所のよそのアイルが出してやって，その旅費を国費から支はらった。
69-32　車を借りる　(266)14-64
シンディーへ買い出しに行くときに，アイルの牛車を借りていった。ウニロートという人の牛車を借りていった。
69-33　牛車を借りる　(273)15-35
バルジョールは塩のブローカーをする。
去勢ウシだけしかもっていない。車がない。車はアイルにたのんで借りる。
69-34　食べものを貸す　(263)41-78
食べものを寺からアイルに貸すことはない。
69-35　車を借りる　(266)14-62
牛車をもっていない。乾草を刈るときには，人のをたのんで借りた。ボヨンビリクという人のを借りた。借りても，何もお礼をしなかった。
69-36　ネコを借りる　(255)13-27
人のネコをちょっと借りてきている。ネコは別に何の役にもたたない。
69-37　食料を借りる　(189)9-48
ことしはまだ麺類も粟も買いにゆかない。人から借りている。
69-38　ウシを借りる　(248)12-88
牛車を1台もっているが，去勢ウシがない。移動のときには，アイルから去勢ウシをたのんでくる。
69-39　ラクダを借りる　(87)6-16
近所からラクダを2頭借りてきた。主人のラマが旅行にでるのである。
69-40　ウマを借りる　(76)5-30
ことしの夏，ホリシャ［購買販売組合］へ買いものに行った。ウマに乗って行った。ウマはサンジのうちから借りた。ダムディンツォーが行った。
69-41　引っ越しの車を借りる　(67)4-73
ダルヒン・スムからバイン・エルテ・スムへ引っ越してくるとき，牛車で引っ越した。車はアイルにたのんで借りた。
69-42　ウマを借りる　(67)4-72
女。ウマはもっていない。鞍だけもっている。アイルのウマを借りて，自分が乗ってゆく。ディンドゥーのウマを借りる。
69-43　車を借りる　(66)4-69
牛車はディンドゥーから借りる。
89-190　車を借りる　(387)23-81
草刈りは各家別々であるが，車のない家は車を借りる。

90-14　ウシを貸す　(387)24-23
去勢ウシを漢人に貸しているなどという家は，ここのゴトにはない。そんなにウシの数がない。

借りもの

69-44　借りもの　(36)2-74
モノ［杵］が２つある。１つは自分のもの。底の具合がわるくなった。１つは借りてきた。となりのゴンチクのを借りてきた。［図譜23-2］

一緒に買い出し

69-46　一緒に買い出し　(276)15-55
食料の買い出しは，となりの（娘の嫁入り先の）ラシーデリゲルと一緒に買うときもあるし，別々に買うときもある。
69-47　買い出しの道づれ　(335)17-88
ことしは，ここのゴトの３軒が一緒にホリシャへ食料を買いに行った。エルデニ，エルデニオチル，スルンドルジ。エルデニの牛車で行った。
69-48　買い出しの道づれ　(335)17-90
第13佐の人が２人来ている。ジャムソとダハワイという。別にハマータイ［親戚］ではない。１つのゴトの人間。一緒にホリシャへ買い出しに行く。
69-49　食料買い出しの道づれ　(270)14-97
ヘレートというところへ行く。ことしは，となりのアイルの者と一緒に行った。２人で１台の牛車で行った。
69-50　買い出しの道づれ　(130)39-52
麺類はグフ・トロガイのホリシャとトゥムルタイ［商都］へ買い出しにゆく。近所の家とは別々にゆく。寺は寺，アイルはアイルで別々に麺類を買いにゆく。
69-51　食料買い出しの道づれ　(89)6-46
母の実家（となりの家）からも一緒に行っている。母の弟が行った。
69-52　買い出しの道づれ　(89)6-47
食料買い出しには近所の人も一緒にゆく。

買い出しをたのむ

69-54　買い出しをたのむ　(346)18-55
食料を買い出しにゆくときには，だれからもたのまれなかった。
69-55　買い出しをたのむ　(335)17-90
第13佐の人２人，牛車６台をもってホリシャへ食料の買い出しにゆく。５～６軒分の食

料の買い出しをたのまれた。アイルの人が自分でこないでたのんだ。女ばかりの家など。
69-56　買い出しをたのむ　(336)17-94
ホリシャの伝票を第13佐の人にわたして，買い出しをたのんだ。なにがもらえるかわからない。
69-57　買い出しをたのむ　(263)41-78
アイルから買い出しをたのまれて，寺の買い出し隊が買い出して来てやることはあるが，いまはそんなのはない。
69-58　買い出しをたのむ　(255)13-19
去年の買い出しの粟は，ことしの春になくなったので，ことしの春にトゥムルタイへゆく人にたのんで，また買って来てもらった。
69-59　買い出しをたのむ　(189)9-48
ちかごろ，トゥムルタイにゆく人にたのんで麺類を100斤買って来てもらった。100斤で300円であった。
69-60　買い出しをたのむ　(192)9-70
貝子廟に人が買い出しにゆくときに，ラクダをあずけて買いものをたのんだ。粟，白麺など。これはいっぺんにたのんだのではない。幾回かに分けて買って来てもらったのである。
69-61　買い出しのたのまれ　(138)8-62
トゥムルタイへ行くについて，近所から粟の買い出しをたのまれた。兄のチョエンジルの家からたのまれた。ほかにはない。
69-62　買い出しをたのむ　(137)8-44
粟や麺類は，トゥムルタイで買う。近所の人がゆくときにたのんで買って来てもらう。ことしは９月に，ダンディンシャワーという人にたのんだ。２日まえに帰ってきた。まだ受けとっていない。ダンディンシャワーの家においたまま。お金は，100円くらいわたした。いくら買って来てくれたか知らない。
69-63　買いものをたのむ　(93)6-74
粟，チャガン・ゴリル［白い粉の意味。小麦粉のこと］を買うのは，人にたのんで買って来てもらった。どこで買ったのか，いくら買ったのか知らない。
69-64　近所の人にたのむ　(86)6-11
春の羊毛をホリシャへもっていった。人にたのんでもっていってもらった。チェドゥンボルという人。ベーリン・スムの近所の人。
69-65　買いものをたのむ　(50)3-51
５月にホリシャへ行った。自分で行ったのではない。近所の人，ダルチという人にたのんだ。茶を買って来てもらった。
69-66　買いものをたのむ　(43)3-5

ホリシャでユウ麺と茶を買った。人にたのんで買いに行ってもらった。
89-223 買い出しをたのむ (108)21-58
羊毛の半分はトゥムルタイへもって行って，食料を買う。寺に買い出しをたのむ。

フェルトをもらう

69-68 フェルトをもらう (288)16-62
フェルトなどもやはり，働いて，もらう。
69-69 ラクダの毛をもらう (137)8-51
ラクダの毛（*ジョグドル*）から糸と縄をつくる。自分の家でつかう分だけ。近所の人にはわけてやらない。もらいにこない。

乾草をもらう

69-71 乾草をもらう (276)15-54
乾草は刈らない。当歳子ウシに食わす草は，となりのラシーデリゲル（娘の嫁ぎ先）でもらってくる。
69-72 食料をもらう (276)15-55
食料はシンディーで買うほか，3斤，4斤ずつくらい，人にたのんでもらってくる。

一緒に引っ越し

69-74 一緒に引っ越し (373)20-25
張北の近所から北へ引っ越してくるとき，6軒が一緒にやってきた。6軒は3軒ずつ親類であった。
69-75 一緒に引っ越し (273)15-32
20年まえに，南のゴトというところから引っ越してきた。ジャンギやモンフエルデニの家など，みな一緒にきた。
69-76 一緒に引っ越し (273)15-36
ここは草がわるいとしきりに言う。草がわるければ，うつったらよいではないか？という問いに対して，子どもがジャンギに雇われているから，そういうわけにはいかぬと言う。ジャンギのところがうつったら，一緒についてうつるのだ，と言った。
69-77 一緒に引っ越し (286)16-53
10数年まえまでは，南のアトン・チョローにいた。付近に一緒にいた家，ガルサン，民政科長も，一緒にここにうつってきた。民政科長の家について引っ越してきたのである。
69-78 一緒に引越し (335)17-89
ゴルブン・オボから4軒の*アイル*が一緒にここへ引っ越してきた。そのうち，母の実家は，いまはもう絶えてなくなった。いま3軒がのこっている。

69-79　一緒に引っ越し　(270)14-96
10数年まえに，タブン・オーラから匪賊の危険を避けてイントに引っ越してきた。そのとき，３軒一緒に引っ越した。そのうち２軒は，まだそのままイントにいる。
69-80　一緒に引っ越し　(266)14-61
５～６年まえにウラン・ノールから引っ越してきた。そのとき，となりのアイルも一緒に引っ越した。

一緒に移動

69-82　一緒に移動　(272)15-9
むかし（10年まえ）は，南のゴトというところにいた。そこから，ジャンギの家と一緒にここへ引っ越してきた。
69-83　一緒に移動　(267)41-89
となりにいる家は，５年まえにここにうつってくるときに，オラン・ノールから一緒にうつってきた者である。
69-84　一緒に移動　(192)9-68
去年の冬はショールフトにジュルトゥム，ジョンダエジャムソ，バトルホ，バズルサト，みな一緒にいた。タブン・ホトクからドートに行ったときには，ジュルトゥム，バトルホが一緒に行った。ジョンダエジャムソとバズルサトは，タブン・ホトクにのこった。
69-85　一緒に移動　(246)10-74
オイルクには，アイルが２つある。ニグベリとソドノムジャムス。一緒に移動している。オイルクのなかの小さい範囲で。
69-86　一緒に移動　(248)12-85
となりの家，一緒に移動している。ゴンチクの妻の姉の家。
69-87　一緒に移動　(249)12-90
バトムドルジ，ゴンチク・ジャンギと一緒にうつってきた。むかしから一緒に移動している。
69-88　一緒に移動　(252)13-6
ドホトグの家は，スンディーの家と一緒に移動している。いつも，この２軒は一緒にうごく。
69-89　一緒に移動する　(89)6-54
母の実家がとなりにいる。この家はむかしから一緒にうごいている。
69-90　一緒に移動　(98)7-25
イムジルの家の移動についてゆく。イムジルの家は，女ばかりである。家畜が多い。バトモンフが手つだう。
69-91　一緒に移動する　(85)6-4

冬営地へ行くときには，シュフルタイの家も一緒にゆく。
69-92　一緒に移動　(96)6-81
ここの3軒のアイルはむかしから，一緒にうごいている。
69-93　一緒に移動　(97)6-84
ことしの春，ここにきた。これからとなりの2軒と一緒にうごく。おなじ冬営地へゆく。
69-94　一緒に移動　(97)6-84
まえにはメーリンにいた。そのときは，バルジルという人と一緒にうごいていた。ダリマーという女のアイルも一緒にうごいていた。
69-95　一緒に移動　(183)9-25
ことしの春，ジュン・バインでニマと一緒になった。それ以来，一緒に移動している。
69-96　一緒に移動　(187)9-33
チャガンデリ（185）と去年から一緒にうごいている。
69-97　一緒に移動　(100)7-40
バルジルの家はジョクスンスルンの家と一緒にここへ引っ越してきた。雪害の年，（亥年）の秋から，オホトナイ冬営地で一緒になった。それから一緒に移動している。冬営地も一緒であった。
69-98　一緒に移動　(105)7-51
ここのアイルは4軒が一緒にうごいている。夏営地も冬営地も，みな一緒。バートルが兵隊に行くまえから，一緒にいた。（かれが兵隊に行ったのは，いまから9年まえ。）4つのアイルはみな親類である，という。
69-99　一緒に移動　(180)9-14
ラムスルン（179）と一緒に移動している。去年の冬，西スニトで一緒になった。
69-100　一緒に移動　(181)9-19
バガ・オボーネイ・ウブルジュー［冬営地］にいる5つのアイルは，いつも一緒にうごいている。そのうち4つは親戚である。のこる1つは，いつもは，婆さん1人であるから，いつも一緒にうごく。

集落の形成

69-102　集落の形成　(272)15-9
10年まえに，ジャンギの家と一緒にゴトからここに引っ越してきた。そのころ，ここ（セルブン）には，アイルは1軒もなかった。
69-103　集落の形成　(278)15-66
20年ほどまえにゴトからここへうつってきた。ここへきたときには，ラシーデリゲルのアイルはまだなかった。ムンチジャルガルのアイルはすでにあった。
69-104　集落の形成　(297)17-20

ここへ来てから60年以上になる。このゴトはアイル２つ。となりのアイルは４～５年まえにきた。この家とは別に関係はない。

69-105　集落の形成　(299など) 17-49

ダルゴエの集落，全部むかしからここに住んでいる。最近にきたアイルはない。

69-106　集落の形成　(310)17-54

チャガン・ハダの集落では，ダムバの家がいちばんふるい。ダムバが生まれるまえから，そこにいた。リンチンドルジ，ラシチルンも，むかしからそこにいる。そのほかは，あたらしくうつってきた者である。

69-107　集落の形成　(310)17-54

ダムバ，リンチンドルジ，ラシチルンはむかしから。ゴンチクジャブ，ドルガルは２年まえ。ダンジンは去年。トゥムルボルトはことし６月。ゴージョはことし。

69-108　集落の形成　(261)14-6

ここへきたとき（５～６年まえ）には，ここにはアイルは１つもなかった。いまあるもう１軒のアイルは去年，チャガン・ハダ（西）からきた。

69-109　集落の形成　(256)13-39

となりの家は，ここで一緒になった。

69-110　集落の形成　(190)9-62

バトルホ，ジョンダエジャムソ，バズルサトの３軒は，相談のうえでここへうつってきた。ジュルトゥムとは，相談してきたわけではない。おなじ日にうつってきて，偶然にぶつかったのである。

69-111　集落の形成　(248)12-88

ここにあるもう２つのアイルも，冬営地はドゥスグネである。２～３年まえにそこで一緒になった。それまでは，これらのアイルはボルハン・ラミン・スムの近所にいたものである。

69-112　集落の形成　(252)13-6

ドホトグのスンディーの家がここに引っ越してきたときに，すでにソドノムとナスンデリゲルはここに来ていた。

69-113　集落の形成　(137)8-43

自分がここにきたときには，すでにここにアイルがあった。シャグドゥルの家はそれからのちに，ここにうつってきた。

69-114　集落の形成　(66)4-67

ことしの夏営地ではチョエンビル，チョエジトは一緒にいなかった。チョエンビルは，ことしの夏にはじめてここに来て一緒の集落をつくるようになった。

69-115　一緒に移動する　(66)4-66

ことしの冬はどこに移動するかわからない。ディンドゥーの行くところへ一緒について

ゆく。となりのアイル，チョエンビルも，チョエジトも，一緒にゆく。
69-116　落ちあい　(100)7-40
バルジルの家は亥年の秋からジョクスンスルンの家と一緒になった。北のほうどこか知らないところからきた。まえからの知り合いではない。別にこっちへ来いと呼んだわけではない。向こうからやってきたのだ。

アイルの集結

69-118　アイルの集結　(373)20-27
アイルが少ししかかたまっていないと，家畜泥棒がはいりやすく，また，病気の人がいても，ちょっと薬をもらいにゆくというわけにもゆかないので，なるべくアイルがたくさんかたまる傾向にある。
69-119　集落の集結　(344)18-48
イントに引っ越してきた順序は，(345) が20年まえ，(344) (346) (347) が７～８年まえに一緒に，(348) が８年まえ，(349) が６～７年まえ，(350) (351) (352) が10年まえに一緒に，(353) が10年まえ。
69-120　アイルの集結　(373)20-27
スージ・オボまでＳの家と一緒に行動してきた３軒の家は，おなじスージン・ボラグだが，２支里［１km］ばかりはなれたところのアイルの多いところへ引っ越した。
69-121　アイルの集結　(189)9-53
アイルが数軒よると，困ることばかり。一緒にいてろくなことはない。アイルが１つ１つ別になるのが，放牧のためにはいちばんよい。
69-122　アイルの集結　(189)9-53
まもなくホロートにゆく。ホロートには，ことしじゅう，おそらくだれもこないだろう。
69-123　アイルの集結　(189)9-44
９月にここへ引っ越してきたときには，ほかのアイルは１つもなかった。バトルホがつぎにきた。ジョンダエジェ［ジョンダのジャムス］，ジュルトゥム，バズルサトは一緒にきた。
69-124　アイルの集結　(89)7-7
アタカには，７月から８月の20日くらいまでいた。そのあいだに，７つのアイルが集結してきたので，たちまち草がなくなった。
69-125　アイルの集結　(373)20-28
チャガン・ホローにいた時分から，いまのようにアイルはいくつもたくさんかたまって暮らしていた。（というけれども，ここは，いままで見たところに比べて，アイルが密集していない。かなりはなれて，それぞれがばらばらに，ひろい面積にわたって，散在しているのである。）

集落の集散

69-127　集落の集散　(336)18-25

ここにいて，よそへうつって行ったアイルはない。

69-128　集落の集散　(373)20-27

スージ・オボまで一緒にいた6軒のアイルのゆくえは，1）Sの家。2）ここに一緒にいる。3）絶家。匪賊にやられて死んだ。4）5）6）は，2ガザルばかりはなれたところに，おなじスージン・ボラグだが，アイルの多いところへ引っ越した。

69-129　集落の集散　(310)17-54

ゴンチクジャブ，トゥムルボルトなどは，バグ・チャガンから，チャガン・ハダに引っ越してきたものである。いまはバグ・チャガンにはアイルはない。

69-130　アイルの集散　(314)17-66

ドゴルの家はもと，シャル・ハダにいた。いまはチャガン・ハダのアイルのうちで，もとシャル・ハダにいたのは，ドゴルと，ジャンギの先代との2軒だけ。それがそれぞれ別の集落へ行って，ふたたびここでおちあった。

69-131　集落の集散　(270)14-95

10数年まえに，南のタブン・オーラから，イントに引っ越したときには，イントにはアイルは1軒もなかった。そのとき，3軒一緒に引っ越してきた。そのうち，自分だけここに引っ越した。あとの2軒はまだイントにいる。いま，イントにあるのはこの2軒だけである。

69-132　アイルの集散　(266)14-61

5～6年まえに，ウラン・ノールからここへ引っ越した。となりの家も一緒に引っ越した。まえにウラン・ノールにいたときは，この2軒だけであった。いまウラン・ノールにあるアイルは，そのあとからやってきたのである。いま，ウラン・ノールには，1ゴト［集落］，5～6軒ある。

69-133　アイルの分散　(261)14-6

5～6年まえまで，ボロトトにいたが，草がなくなったので，ここへ引っ越してきた。ボロトトにはそのとき2軒のアイルが別にあった。1つは，いまホジリン・ゴル（東）に行った。もう1軒は，バロクスン・ゴル（南）に行った。ホログ・スムの南。

69-134　アイルの集散　(255)13-29

まえはここに2軒のアイルがあった。1つはガシャートン・ホロルへ行った。もう1つは南のほう，マンハのなかへ行った。夏営地，秋営地，冬営地，いずれもあった。

69-135　アイルの集散　(255)13-24

このあたりには，もともとアイルは少なかった。ハルハが来てから，よそへうつって行った者もあり，死んでなくなってしまったアイルもあり，もとのままここにのこっているアイルもある。

69-136　アイルの集散　(248)12-88
善隣協会のヒツジをあずかっているアイルが，ドゥスグネで一緒であった。いま，ガショーン・ゴルに行っている。このアイルも毎年ドゥスグネにくる。
69-137　アイルの集散　(189)9-46
ホレー・ノールでは，ほかのアイルが１つあった。イシーというラマの家。イシーは，いまはセイスに行った。

イムと近所
69-139　イムと近所　(138)8-58
イムがしてある。近所のヒツジ，みな別々のしるしをしている。
69-140　耳印と近所　(89)6-50
耳印は，別に近所と相談してとりきめるということはない。たいてい，近所のヒツジを見ていれば，どれがよいかわかるではないか。

オボまつりとあつまり
69-142　オボまつりとあつまり　(255)13-23
セーリン・バイン・オボのオボまつり。30～40人から50～60人の人があつまってくる。

近所のあつまり
69-144　近所のあつまり　(255)13-22
近所の人が一緒にあつまることはない。
69-145　相談　(26)5-69
牧場のための草や柳のことについては，牧場のみんなが相談にあつまる。
69-146　ソムのあつまり　(89)7-8
ソムの人間が一緒にあつまることはない。
69-147　引っ越しの相談　(190)9-62
ジョンダエジャムソ，バトルホ，バズルサトは，もともとタブン・ホトクで一緒にいた。ここへうつってくるのも相談のうえでうつってきた。

共同作業
69-149　共同作業　(341)18-26
草刈り，食料の買い出し，アルガリ，すべて各人各様である。勝手にする。一緒にすることはない。
69-150　共同作業　(335)17-87
どんな仕事でも，このゴトのなかでの仕事なら，みんなアイルが一緒にする。旅行に行

く。ホリシャへも一緒に行く。
69-151　共同作業　(387)24-23
賦役のウシ，車，建築がおわるまで数カ月間帰ってくる見こみがないので，みんな出すのをいやがったから，一緒に共同出資で，車，ウシを買った。車１台1,300～1,500円。ウシ１頭10,000～15,000円。この金額をソムのなかから共同出資した。
69-152　共同作業　(387)24-23
共同出資で買って差し出したウシと車が，もし帰ってくれば，それを売って金額を償却するか，それとも共用の牛車としてつかうだろう。

近所の手つだい

69-154　近所の手つだい　(299)17-50
フェルトをつくるときには，近所がおたがいに手つだう。
69-155　近所の手つだい　(255)13-20
秋の草刈りをするときには，近所の人に手つだってもらうこともある。
69-156　近所の手つだい　(255)13-19
フェルトをつくるときには，近所の人が手つだってくれるが，近所の人に手つだってもらうことは，そのほかには別にない。
69-157　近所の手つだい　(255)13-19
フェルトをつくるときには，近所のアイルの人が手つだってくれる。
69-158　近所の手つだい　(S)10-63
ヒツジの毛を刈るときに，自分の家のヒツジの数がたくさんあれば，近所の人が手つだって，たくさんの人間で刈る。Sの話。

旅人の宿

69-160　旅人の宿　(335)17-90
第13佐の人が２人来て泊まっている。ホリシャへ行く途中，きょう，ここへついた。きょうはここに泊まる。

知り合い

69-162　知り合い　(309)17-47
ダルゴエ。アトーチンの第７佐から，チョローンボルという男，家畜を連れてオトルに来ている。この家とは，別に関係はない。知り合いだから来ている。
69-163　顔見知り　(255)13-24
この近所にうつってきたハルハ族の者は，たいてい知っている。かれらは寅年に家畜をもってやってきた。

69-164　顔見知り　(89)6-55
オラン・シャント，バローン・ホーブル，ヌクセン・ゴルなどの者どもをみな知っている。それは，善隣調査所のチベット人調査について行ったからである。

正月のあいさつ

69-166　正月のあいさつ　(255)13-22
お正月にはたくさんの人があいさつにくる。あいさつにくる人の家には，こちらからもあいさつにゆく。そんな家が７～８軒ある。そのほかの家にはゆかない。

一緒に放牧

69-168　一緒に放牧　18-22
チェールテ・ゴルの羊群はつぎのように分かれている。
１：エルデニ，エルデニオチル，ショーシンガ，ラシ。
２：オヨンビリグ，アヨルゾナ。
３：ゲンドゥンのヒツジは寺のオトルの家のヒツジと一緒。
69-169　一緒に放牧　(344)18-46
イントの集落のヒツジの群れは，つぎのような組みあわせでまとめられている。
１：(344)（345）(346)（347）
２：(348)（349）
３：(350)（351）
69-170　一緒に放牧　(344)18-47
イントの集落のウシの群れ。
１：(344)（345）(346)（347）
２：(348)（349）(350)（351）(352)（353）
69-171　一緒に放牧　(373)20-26
南から一緒にきた６軒のアイルは，その家畜をみんな一緒にしていた。ヒツジはだいぶ増えてきたので，そろそろ２つの群れに分けねばならないと話し合っていたところへ，亥年の大雪害がきた。
69-172　一緒に放牧　(373)20-32
ウシはここのアイルみな一緒にしている。ヒツジは他人の羊群に入れている。
69-173　一緒に放牧　(271)15-5
ヒツジ２，ヤギ10。本人はジャンギのヒツジ飼いをしているので，自分のヒツジ，ヤギもジャンギの羊群の中に一緒に入れている。
69-174　一緒に放牧　(272)15-17
羊群は，自分の羊群のなかに，このゴトのほかのアイルのヒツジが一緒に入っている。

69-175　一緒に放牧　(273)15-33
ウシは家で飼っている。ヒツジ，ヤギはモンフエルデニの家の羊群と一緒にしている。

共同放牧

69-177　共同放牧　(286)16-54
ヒツジは民政科長の家の羊群と一緒にしている。本人は民政科長のヒツジ飼いをしている。
69-178　共同放牧　(288)16-61
民政科長の雇い人のゴムスルン，ラシガワーは，ウシをいずれも科長のウシの群れのなかに入れて一緒にオトルに出している。
69-179　共同放牧　(295)17-32
ヒツジはよそのアイルの羊群と一緒にしている。ダライの娘が番にゆく。
69-180　共同放牧　(300など)17-50
(300）と（305）とは，羊群を一緒にしている。ヒツジの番は，交代でゆく。
69-181　共同放牧　(311)17-51
(311）(315）(316）には，共同のヒツジ飼いが１人いる。
69-182　共同放牧　(335)17-87
エルデニ，エルデニオチル，スルンドルジの３軒は，羊群を一緒にしている。ヒツジの番は３軒が交代でする。
69-183　共同放牧　(267)41-84
２軒で１人の漢人のヒツジ飼いをやとっている。
69-184　共同放牧　(266)14-65
羊群はとなりの家と一緒にしている。そして，共同で漢人のヒツジ飼いをやとっている。
69-185　共同放牧　(190)9-50
このアイル群の家畜はつぎのような組み合わせで共同の管理になっている。
１）バズルサトとジョンダエジャムソ，２）バトルホとジュルトゥム，３）シャグドゥル
69-186　共同放牧　(193)9-60
まえはバトルホの羊群もジョンダエジャムソ，バズルサトの羊群と一緒であったが，いまはジュルトゥムのと一緒になっている。
69-187　共同放牧　(192)9-73
馬群はおなじ集落のシャグドゥルのとは別にいる。人はついていない。共同放牧ではない。
69-188　共同放牧　(192)9-74
ここの５つのアイルのウシは全部，１つの群れになっている。

69-189　共同放牧　(250)12-93
家畜の放牧は，ゴンチクと一緒にしている。この家は，去年の冬から病人がいるから，ヒツジの番人の役はあたらない。
69-190　共同放牧　(180)9-13
ヒツジ，若干いる。となりのラムスルンの家のヒツジと一緒に放牧している。
69-191　共同放牧　(136)8-17
このジュン・エリグンの３軒のアイルの馬群は，一緒の馬群になっている。(チェードク，アルタ，シャグドゥル)
69-192　共同管理　(105)7-52
ここの４つのアイルは，みな家畜を一緒にして管理している。
69-193　共同放牧　(184)9-28
ウシもヒツジもみんなここ（ヤルガイト）の３軒のアイルが一緒にしている。
69-194　共同放牧　(95)6-81
ここの羊群はとなりの羊群と一緒に群れにしている。それで，その番は交代でする。
69-195　共同放牧　(73)5-5
バローン・ホーブルのアイルの当歳子ウシ，ヒツジは，みんな一緒の群れにして，だれか１人がそれについてゆく。ウシもみんな一緒に放してある。
69-196　群れに入れる　(73)5-5
ラクダを１頭もっている。ベール王のラクダの群れのなかに入れて一緒に放牧してある。
69-197　群れに入れる　(73)5-5
バローン・ホーブルのアイルのウマは，みんなベール王の馬群のなかに入れて，一緒に放牧してある。
69-198　共同放牧　(86)6-9
ウシの群れは，このアイル群３つがみな一緒にして放牧する。当歳子ウシの放牧についてもおなじ。
69-199　羊群の共同管理　(87)6-18
ヒツジは，ごく少ししかいない。ヒツジ，ヤギはみんなアイルにあずけている。チムドドルジの羊群と一緒にしている。
69-200　当歳子ウシの共同管理　(62)4-43
朝３軒のアイルの当歳子ウシを一緒にして，草を食わしに連れてゆく。しかし，人はついてゆかない。
69-201　共同放牧　(74)5-24
ウシ，羊群ともにとなりのサンジ・デムチの家畜と一緒の群れにして放牧する。
69-202　ウシの群れ，共同管理　(66)4-64
ウシの群れ，４軒のものをみな一緒に放牧する。ただし，当歳子ウシは別々に放す。乳

は別々にしぼる。
69-203　羊群の共同管理　(66)4-64
ここのアイル4軒のうち，ヒツジをもっているのは3軒。そのヒツジはみんな一緒にして管理している。羊群の世話は，ディンドゥーのヒツジ飼いがする。

ジョーホ
69-206　ジョーホ［かまど］　(87)6-16
煙突のついたジョーホがある。
69-207　ジョーホ　(51)3-76
このあたりの家では，まんなかにジョーホのある家が多い。チャハルにもこれがあるが，数は少ない。シリンゴルにこれが非常に多いのは，ウルムをつねにつくることと関係しているにちがいない。

近所づきあい
69-209　近所づきあい　(251)41-14
となりのナスンデリゲルの家は，家族何人かと聞いたら，知らないという。知らないはずはないだろうが……。
69-210　近所とのつきあい　(95)6-80
サイン・ホーブルのほうのアイルには，あまりゆかない。
69-211　近所との関係　(51)3-62
ちがったソムの人びとが住んでいる土地へ行って住むと，近所の人も知らないから，都合がわるい。(近所の人が意地悪をするか？という質問に対して，たしかな答えをしなかった。)

引っ越しの道づれ
69-213　引っ越しの道づれ　(51)3-61
10年まえの大雪害のとき，チャガン・トロガイ・スムのほうから，バーモン・ゴルに引っ越した。2～3のアイルと一緒に引っ越した。それらの人たちは1年ばかり，フル・チャガン・ノールにすんでいたが，また西のほうへ，ジャラン・スムのほうへ帰って行った。
69-214　近所への遠慮　(58)4-30
柳条はどこのを刈ってもよい。ただ，よそのアイルのすぐそばのを刈っては，そのアイルが寒くなって，家畜もこまるから，そんなところは刈らない。
69-215　集落　(25)1-40
ボルガスタイの平原の住人。粛親王府に，ダフチン，バンズ，サトーブ，ゴビ。廂白旗

にチェードン12佐，ドクトグ５佐，アルタンゲレル１佐，サンジ１佐，トゴントゥムル５佐。かれらは，粛親王府となんの関係もない。

井戸の共同体

69-217　井戸の共同体　(341)18-26

チェールテ・ゴルの井戸のつかい分け

１：(334)（335）(336)（340）(342)

２：(337)（338）(339)

３：(341)

69-218　井戸共同体　(346)18-49

イントの井戸とアイルの関係

１：(344)（345）(346)（347）

２：(348)

３：(349)（350）(351)（352）(353)

69-219　井戸共同体　(278)15-71

セルブンの井戸は，このあたりのアイル全部がそこの井戸をつかっているのである。

69-220　井戸共同体　(335)17-89

チェールテ・ゴルのアイルのうち，西のほうの井戸をつかっているのは，スルンドルジ，エルデニ，エルデニオチルの３軒だけ。

69-221　井戸共同体　(335)17-89

井戸は修繕したことがないが，もし修繕の必要がおこれば，この井戸をつかっている３軒のアイルが働いて修繕する。

69-222　井戸共同体　(261)14-17

ハル・オボーン・オスという名まえの井戸。２ゴト。２アイルずつ。

69-223　井戸共同体　(89)7-8

サイン・ホーブルの利用者が一緒にあつまって話をするということはない。

69-224　井戸共同体　(99)7-30

このメーリン・ホトクにうつってから10数年になる。ここへきたとき，すでに３～４軒がここにいた。

69-225　井戸共同体　(99)7-29

このメーリン・ホトクの水をつかっているのは，いまこの１軒だけである。

一緒に食事

69-227　一緒に食事　(252)13-6

ドホトグの家の者，婆さんと娘，２人とも，スンディーの家で食事をしている。親戚で

はない。一緒に移動している。

おなじアイル

69-229　おなじアイル　(316)17-51

プルブ（318）はのダムバ（311）の息子。別の包に住んでいるが，これはおなじアイルだという。

69-230　共同の所帯　(85)6-3

シュフルタイのアイルとアルフテンのアイルとは，一軒のアイルである。むかしから一緒に住んでいる。（と，言いながら，私有の家畜などは別々にいう。あずかり家畜については，この2軒のうちは，おなじものをのべている。）

69-232　共同の所帯　(85)6-5

アルフテンの妻が嫁入りしてきたときには，すでにシュフルタイは一緒に行った。そのときにもゲルは2つあり，シュフルタイは別のゲルに住んでいた。そのころは，シュフルタイはそのきょうだいと一緒にいた。

外国との接触

善隣協会

68-5　善隣協会　40-56

マンダルトにも，細見伍長と善隣協会の小泉氏がはいりこんできている。

日本人

68-7　日本人　(278)15-69

この家に日本人が泊まったことはない。となりのムンチジャルガルでは，泊まったことがある。

68-8　日本語　(89)6-34

日本語少しわかる。旗の小学校，厚和［フフホト］の蒙古中学校に1年行った。善隣調査所に勤務。

国民服

68-10　国民服　(14)5-63

ロブスン。国民服を着ている。この集落でのインテリ，モンゴル軍帰り。牧場の助理員［アシスタント］。

包をやめる

68-12　包をやめる　(7)5-61

包をつかわなくなってから15年になる。

中国語

68-14　中国語　(8)5-78

家のなかでは中国語で話をしている。(主人はハラチン，妻は漢人。)

68-15　中華料理　(8)5-78

食事はふつう，中華料理を食べる。しかし，主人がモンゴル料理を要求すれば，妻はそれを買いにでかける。(主人はハラチン，妻は漢人。)

金歯

68-17　金歯　(189)9-53

６年まえに五台山に行った。帰りに張家口にたちよった。そこで２人とも金歯をはめた。

68-18　金歯　(105)39-19

バートル，兵隊。金歯は，貝子廟ではめた。

68-19　金歯　(8)5-76

金歯をはめている。張家口でいれた。

農業

68-21　農業　(387)24-44

農業をしてみようという気のある人間もあるらしいが，事実上できない。理由は人手不足である。みんな衙門その他に人手をとられている。

野菜

68-23　野菜　(19)21-37

野菜を買って食べる。

ブタ

68-25　ブタ　(387)24-43

ブタを飼う家は，このゴトにはない。ドント・オス，ガシャートにはある。金もちの家である。ブタはずいぶん飼料がいるので，金もちの家でないと飼えない。とくに近年はそうである。

68-26　ブタ　(7)5-62

ブタを飼っている。

ニワトリ

68-28　ニワトリ　(387)24-44

ニワトリを飼っている家は，ブタを飼っている家よりは多いけれども，やはりたいして多くはない。

68-29　ニワトリ　(83)5-54

ベーリン・スムのとなりのベール王の家の中庭には，ニワトリがいる。

68-30　ニワトリ　(7)5-62

ニワトリを飼っている。

匪賊

68-32　匪賊　(344)18-48

イントの村。だいたいは正白旗の漢人地帯のなかから引っ越してきた。畑が多くなり，家畜が放牧できない。また匪賊もでる。

68-33　匪賊　(373)20-27

Sの母の母の姉の嫁入り先の家。1人だけだった。去年の4月に，宝源の近所で匪賊にやられて死んだ。家は絶家になった。

68-34　匪賊　(272)15-9

むかしは，南のゴトというところにいた。漢人が来て，匪賊の危険がましてきたので，ここに引っ越してきた。10年まえのこと。

68-35　匪賊　(272)15-9

ゴトにいたころ，6回匪賊におそわれた。ここにうつってきてからも1回やられた。

68-36　匪賊　(275)15-44

735年，匪賊のためにヒツジをすっかりとられた。ヒツジはちょうど南のチョールトのアイルにあずけてあったのである。旗公署のも総監のも，すっかりもっていってしまった。ウシやウマは，自分の家においていたので，たすかった。

68-37　匪賊　(278)15-71

匪賊がきたとき，みんなものをとられた。家畜はもってゆかなかった。ウマがあるアイルは，ウマをとられた。このアイルは，ウマがはじめからなかった。

68-38　匪賊　(286)16-54

10数年まえまでは，南のアトン・チョローにいた。そこで匪賊におそわれたことはない。漢人が多くなってきたので，ここに引っ越してきた。

68-39　匪賊　(314)17-67

シャル・ハダにいたころ，1度匪賊におそわれた。

68-40　匪賊　(270)14-95

南のほうタブン・オーラにいたが，農民がだんだん攻めよせてきて，匪賊の危険が増え

たので，イントに引っ越した。
68-41　匪賊　(268)14-85
匪賊が要求するのは，ウマだけである。ラクダ，ウシには手をつけない。必要としない。
68-42　匪賊　(268)14-85
去年，おととし，先おととしの冬は，八路軍があぶなかったので，馬群は正白旗に行っていた。ことしは安全である。
68-43　匪賊　(268)14-83
ちかごろは，匪賊はこない。
68-44　匪賊　(268)14-82
まえにこのあたりをスミルン（漢人）という匪賊があらしまわっていた。いまでも，南のほうにいる。セルブンの障壁は，そのスミルンにそなえて，先代のジャンギがつくったものである。
68-2　匪賊　(387)24-17
(390)（391）は，去年，デリスン・アイルからここに引っ越してきた。デリスン・アイルのゴト［集落］から，かなりはなれていたので，匪賊があぶないのでここに引っ越してきたのだ。
68-3　接壌地帯　0-50
家畜泥棒は，たいていは漢人である。だから，草原の家畜は，漢人接壌地帯のものは牧夫がついている。それ以外の地域では，牧夫がついていないのが多い。

移住

68-46　migration［移住］　(373)20-24
モンゴル人は北へうつれという命令がでたので，２年間に全部こちらへうつっていた。うつれない家は，牛車をよそのアイルから出してやって，その旅費は国庫から支はらわれた。民国８年，32歳のとき。Sの兄が１歳のときであった。
68-47　移住　(373)20-23
民国のとき，モンゴルの土地は漢人に与えて，モンゴル人は北へうつるという命令がでた。

漢人の労働者

68-49　漢人の労働者　(387)24-21
南ワーヨのゴト全体で，１人の漢人のヤンゴルを雇っている。16歳。宝源県の出身。
68-50　漢人の労働者　(387)24-21
南ワーヨのフェルト屋の雇い人。職人である。常雇いではない。仕事があれば，ここにくる。

68-51　漢人の雇い人　(341)18-28
漢人の雇い人，子ども。康保県の出身。家が貧乏だからきた。
68-52　漢人の労働者　(369)20-47
チャハルの人間は，むかしのくせで，労働を軽蔑して，働かない。最近は，漢人の労働者をたくさん入れて，働かせている。
68-53　漢人の労働者　(369)20-45
漢人の労働者は，むかしは，ごく数が少なかった。ちかごろになってから，増えたものである。
68-54　ヒツジ飼いの漢人　(267)41-84
こちらへ来て１年以上になる。家は北京にある。

漢人の入植

68-56　漢人の入植　(341)18-25
ウフル・チョロー（羊台山の南，正白旗と廂黄旗の境），漢人がせまってきたので，ここにうつってきた。耕地になっている。いまは，廂黄のほうは漢人が住んでいる。正白の側には，人は住んでいない。
68-57　漢人の入植　(286)16-53
10数年まえまでは，南のアトン・チョローにいた。漢人が多くなってきたので，ここへ引っ越してきた。いまでは，すっかり漢人地帯になってしまっている。
68-58　漢人の入植　(270)14-95
10数年まえまでは，南のほうのタブン・オーラにいた。農民がだんだんおしよせてきて，匪賊の危険が増えたので，イントに引っ越した。タブン・オーラは，いま，*アイル*は１つもない。そこは，すっかり漢人地帯になってしまっている。

漢人の帰化

68-60　漢人の帰化　(21)21-41
北牧場の南。マイマイをやめて，牧業に変わる意志はない。
68-61　漢人の帰化　(295)17-28
ダライは，もともとは漢人であるが，モンゴルに帰化して，ダライという名まえを名のっている。
68-62　漢人の帰化　(295)17-28
直隷の保定府で生まれた。両親とともにマイマイにきた。弟も一緒であった。みんな死んだ。一緒にマイマイをしていたときは，家がなかった。みんな死んだので，家がなくなったので，ここに固定家屋をたてた。妻はモンゴル人であった。
68-63　漢人の帰化　(295)17-30

ダライは漢人の帰化人。近所（第９佐）には，こんな漢人がモンゴルにはいりこんでしまったのはいない。第７佐には，ほかにもこんな人がいる。

漢人とモンゴル人

68-65　漢人とモンゴル人　(20)21-38

羊毛刈り取りにアイルをまわっている漢人。旗公署の近所に住んで，旗公署をはなはだしくのろっている。ホリシャに漢人をいれなければ，漢人もモンゴル人も両方ともこまる，くるしむ，と語る。分配，経理のことについては，漢人はモンゴル人よりすぐれているからである。

漢人との結婚

68-67　漢人との結婚　(8)5-76

ダライは，ハラチンのモンゴル人。妻は漢人。張北の西北700支里［350km］のところで生まれた。現在，両親，親族は九連城の近くのアルトホ（二都河）にいる。ダライが軍隊にいるころ，７年まえに結婚した。

接壌地帯

68-69　接壌地帯　(101)7-44

キシクトン旗。シラムレンの南は，漢人の農耕地帯，シラムレンの北はモンゴル人の放牧地帯。南のほうではモンゴル人でも農業をしている。金もちは，農業と牧畜とふたまたをかけている。

ハラチン

68-71　ハラチン　(107)39-21

ゴーリン・ハシャート・スムの小僧さん（11歳）は，われわれの通訳を指して，「カラチンだろう」と言った。

ハルハの移動

68-73　ハルハの移動　41-27

ハルハは，夏は低い平地にいたが，いまは雪がふったので，マンハのほう，すなわち丘陵地帯のほうへ移動した，という。

68-74　ハルハの集落　41-27

ハルハは，総監のもとに３佐ある。それぞれジャンギが任命されている。１佐の人口は，300人くらい。

68-75　ハルハについて　(255)13-26

ハルハはシリンゴルのものとちがって，まことによく移動する。
68-76　ハルハの影響　(255)13-24
ハルハが来てから，よそへうつって行ったアイルもあり，死んでなくなったアイルもあり，そのままここにのこっているアイルもある。ハルハが来てから，このあたりは，人が多くなった。それで，少し家畜を飼う場所が狭くなった。
68-77　ハルハの引っ越し　(255)13-24
寅年に，家畜をもってやってきた。
68-78　ハルハの寺　41-26
本堂を囲んで，約60～70の包がある。ラマの包のほかに，ラマのジェールにつかっている包，廟のジェスの包などもふくまれている。

家畜と外モンゴル

68-80　家畜と外モンゴル　(136)8-14
外モンゴルのほうへ家畜が行ってしまうことはない。毎日見にゆく。

外モンゴルから越境

68-82　外モンゴルから越境　(257)13-47
４年まえ，外モンゴルから逃げてきた。10数軒，一緒にきた。途中で国境の監視兵を２～３人とっつかまえて，こちらに連れてきた。かれらも，そのままこちらにのこっている。
68-83　外モンゴルより　(257)13-44
４年まえに外モンゴルからうつってきた。

国境警備

68-85　国境警備　(135)39-56
国境警備のために，ノロ・ハシャートに兵隊が駐屯している。徳旗の兵隊が，班長１，兵５。このほかに，モンゴル軍が５人いる。モンゴル軍とは別個の存在である。仕事はモンゴル軍とおなじ。

チベットから

68-87　チベットから　(24)21-43
チベットのシャーシュンの生まれ。五台山にゆくつもりできた。シャーシュン，ゴンボン，アラシャン［盟］，包頭，百霊廟，シラムレン，東スニト，とやってきた。
68-88　チベットから　(24)21-43
チベットからきた。東スニトにきた。五台山にゆくつもりできた。５年まえ，昨年の５

月に妻の兄がオラン・ノールでゲゲンであるため，これをたよって現在の土地に住んだ。
68-89　チベット　(24)21-43
チベットのシャーシュンの生まれ。故郷ではユウマイの農作をしていた。サルリク［ヤク］がいる。白い毛がある。
68-90　チベットからの道　(279)15-75
ゲンドゥン，チベットのラマ。3年まえにモンゴルへきた。船に乗ってきた。上海，天津，北京をとおってきた。
68-91　チベットのラマ　(279)15-75
ゲンドゥン。チベット，青海省の生まれ。3年まえにモンゴルへきた。

チベットの活仏

68-93　チベットのゲゲン　(279)15-75
ゲンドゥン，チベットのラマ。ヤンズ・ゲゲンのシャビであった。ヤンズ・ゲゲンと一緒にモンゴルへきた。ヤンズ・ゲゲンは，いまはチベットへ帰ってしまっている。
68-94　チベットのゲゲン　(57)4-26
エンゲル・スムには，ゲゲンが1人いる。チベットのゲゲンで，ここに来ている。客分として，ここに住みついている。
68-95　トルグートとモンゴル人　(57)4-24
チグメト。トルグートはここのモンゴル人と仕事も，ことばも，ちっともかわらない。自分はモンゴル人である。

満州との関係

68-97　満州との関係　(103)39-7
満州向け，華北向けの生畜も，大蒙公司でとりあつかっているが，いまは，羊毛で手いっぱいである。
68-98　満州との関係　(103)39-7
満州と協定があって，粟などが入ってくるはずであったが，向こうから約束だけ。送ってこない。それに，満州から入るものは，ウジムチンやアバガにとられてしまう。

チャハルとスニト

68-100　チャハルとスニト　(360)18-67
シリンゴルにホローがないのは，1つには，シリンゴルにはホローをつくる技術がないのによるのだろう。
68-101　チャハルとスニト　(369)20-44
「あなたがたは，シリンゴルとチャハルと両方を見てきて，チャハルのモンゴル人は，シ

リンゴルの人間にくらべて，なまけものだとはお思いにならないだろうか？」
68-102　チャハルとスニト　(S)40-23
スニトでは，役人が勝手に家畜を取りあげて１文もお金を払わない。チャハルでは，絶対にこんな習慣はない，という。少なくとも，お金を払うのである。Sの話。
68-103　チャハルとスニト　(S)10-63
このあたりの人は，ヒツジの毛をあまり刈らないとみえて，刈りのこしてある羊の数がずいぶん多い。Sの話。ザリン・スムにて。
68-104　チャハルとスニト　7-71
スニトの車は小さいし，車軸が細いので，あんまり荷物が積めない。チャハルのは車自体が大きいうえに，車軸が太いので，荷物がたくさん積める。
68-105　チャハルとスニト　(S)7-67
スニトには，野繋勒がついていないウマがたくさんいる。チャハルでは，つねにつけるのが本当である。Sの話。
68-106　チャハルとスニト　(S)6-60
チャハルでは，秋の羊毛を自分で刈る。春の羊毛は自分で刈れない。スニトでは，春は勝手に毛がぬけてくるので，それをあつめる。それで春のほうが毛を刈りやすい，という。Sの話。
68-107　チャハルとスニト　(S)6-60
水を飲まして，すぐには乳の量はふえない。だからチャハルでは決して夕がたには水をのまさない。しかし，シリンゴルでは，川や湖の水を勝手に飲むから，でたらめである。Sの話。
68-108　*アルヒ*のつくりかた―チャハルとスニト (S)6-60
スニトでは，*アルヒ*のつくりかたも知らない家がある！ Sの話。

越境放牧

68-110　越境放牧　(255)13-24
もともとハルハは，西スニトの管轄であるが，ことしは雪が降ったので，東スニトの監視佐領にたのんで，しばらく雪のあいだ，こちらに入れてもらっているのである。またすぐ出てゆくという約束である。ことしだけ，去年は来ていない。

よその旗との関係

68-112　よその旗との関係　(255)13-28
西スニトの故郷で，家畜を飼っても，別にかまわない。だれにもことわる必要はない。しかし，じっさいには，そんな人はない。自分は監視役だから，こんな旗のさかいに住んでいるが，一般の民衆は，こんなところに住んでいる人はない。

68-113　よその旗との関係　(41)2-82
いまから10年ほどまえは，チャハルとシリンゴルとは，冬営地と夏営地とが入り乱れていた。いまよりももっと両方の交通がはげしかった。
68-114　よその旗との関係　(36)2-69
じつの母親は，チャハルへ，人のウシの乳をしぼりに行っている。

ジンギスカン出征の歌
89-249　ジンギスカン出征の歌　0-16
［歌詞］

個人の運命
人工栄養
73-3　人工栄養　(376)20-75
ノガンダラは牧場の乳しぼりで働いていた。しぼった乳のうちから，とくに１日３～４ポンドをもらった。生後５～６カ月の赤ん坊を連れていて，母乳がないからである。

歴史
73-5　歴史　(373)20-17
32年まえの戦争のころは，いまの張北付近は何もなかった。張北県城はなかった。張北という名まえも最近のものである。しかし，農民は住んでいた。
73-6　歴史　(373)20-19
右旗，左旗の２つのタイブスの旗は，もと，皇后のウマをあずかっていた。
73-7　歴史　(373)20-29
明安旗のアイルが命令によって旗公へ引っ越してきたころ，まだ若干の廂白旗のアイルがこのあたりにいた。
73-8　歴史　(369)20-44
むかしはチャハルのモンゴル人は全部兵隊であった。兵隊として清朝から月給をもらっていた。別に何もせずに給料をもらって，それで生活していたから，労働を軽蔑する風潮があった。働かずにぶらぶらして，あそんで暮らしていた。それで，いまでもなまけものである。
73-9　歴史　(21)21-42
北牧場のマイマイ［商人］。20年間，モンゴル人の買う品物の種類にあまり変化ない。絹織物の購買は最近へった。麺類（穀物）の消費量は変化ない。
73-10　歴史　(275)15-40
14年まえまでは徳化にいた。そのまえは，徳化はモンゴルの地でモンゴル人のアイルが

あった。漢人はいなかった。漢人がやってきて農業をはじめたので，草がなくなり，家畜がこまったのでここへ引っ越してきた。

病気

73-12　病気　(277)15-59

嫁は，腰がいたくて，また足がいたくて，働けない。

盲人

73-14　盲人　(137)8-39

チョエンジル，58歳。両眼とも見えない。

疲れた女

73-16　疲れた女　(250)12-92

バトムドルジのとなりの女。ドラムツォー。バトーの姉。58歳。１人で住んでいる。「yadarsan xun」［原義は疲れた人の意。yadarsan xün］だと言った。

ノスタルジア

73-18　ノスタルジア　(67)4-74

バイン・ウルジーの出身。転々としていた。バイン・ウルジーへ帰りたい。きょうだいがいる。

嘘

73-20　嘘　(105)39-19

バートルのいうところによれば，母と妹２人であるというが，ダライ・スムの小僧さんのいうところでは，この小僧さんはバートルの弟で，家には母さん，兄さん，姉さん，自分，妹（２歳）がいるという。また，バートルの言では，ラクダが30頭ぐらいあるというが，小僧さんのいうところでは１頭もないという。

73-21　偽盲人　(81)5-45

ムージャン［大工］だが，目がみえなくなって仕事ができない。目がみえなくなったのはこの２～３日のことである。（しかし，Ｂは，この男はわれわれの仕事をさせられるのを恐れて，偽盲人になっているのだという。）

知識

73-23　知識　(137)8-54

モンゴル文字，チベット文字，少しできる。

学校

73-25　学校　(372)20-5

この家の息子，19歳。中学校へ行っていた。去年の10月に帰ってきた。卒業はしなかった。民政科長のボーイになった。

73-26　学校　(31)21-44

イトシワンジル18歳。興蒙中学を出た。興蒙学院を出た。小学校（旗の）の先生をしている。

73-27　学校に対する態度　(33)21-47

15歳の娘。人手不足でこまったので，養女にもらったが，小学校にとられてしまったので，損をした。

73-28　学校　(297)17-26

子どもが学校に行っているのは，旗公署の命令によるものである。いやだとは思わない。

73-29　学校　(251)13-3

19歳の息子。オクト・ゴルの学校に行っている。

89-185　学校　(393)24-7

ゴムスルンの弟は18歳。興蒙学院に行っている。

インテリ

73-31　インテリ　(14)5-62

村でのインテリである。モンゴル軍がえりである。適当な位置があればつかってくれと言った。いまは親王牧場の経理員（助理員）。

73-32　学歴　(89)6-34

旗の小学校に行った。それから，厚和の蒙古中学校に行った。736年に入学。１年でやめた。

人生観

73-34　人生観　(33)21-50

家畜がへるのは運命もあるが，働きがたりないためである。

運命

73-36　運命　(189)40-11

大雪害で家畜を死なせなかった家もある。どうしてそんなことになったのかわからない。金もちになる運があったのであろう。

73-37　人生観　(135)39-57

国境警備兵。警備兵をしていて，これがいちばんよい仕事かどうかはわからない。しか

し，家にいるよりはよい。ラマよりは警備兵のほうがよい。なぜ？ ラマになったら，お経がよめないから。
73-38　人生観　(107)39-21
いつもうれしい。
73-39　人生観　(98)7-23
若いときはアンチン（狩人）がいちばんよい仕事だと思っていた。いまは，からだがだめになった。
73-40　のぞみ　(56)4-23
嫁をとる気はない。子どもも欲しくない。独り者で飛びあるいているほうがよい。家畜もいらない。家畜の仕事をするだけのひまがない。

のぞみ

73-42　のぞみ　(295)17-32
ダライは，もとは漢人のマイマイ。商売をしているよりは，いまの生活のほうがよい。商売はできない。
73-43　買いたいもの　(265)41-83
いま，お金をためて買いたいと思うものはない。
73-44　のぞみ　(336)17-94
ホリシャの伝票を第13佐の人にわたして，買い出しをたのんだ。なにがもらえるかわからないが，茶がほしいと思っている。
73-45　ほしいもの　(50)3-51
ホリシャへ行っても買えるものは茶だけ。布がないし，まったくこまる。
73-46　ほしいもの　(48)3-41
いちばんなくて困っているものは，綿布である。そのつぎには食料である。しかし，食料がすっかりなくなって，しかも買えないということは，いままでになかった。

経歴

73-48　経歴　(22)21-42
バストのフェルト屋，漢人。全部で17人がいる。雇い人14人。かれらはモンゴルにくるまえは，みな農民であった。河北省の出身。
73-49　経歴　(273)15-36
むかしはヒツジ飼いをしていた。ジャンギの家でではない。よそのアイルのヒツジ飼いであった。
73-50　経歴　(273)15-36
ゴンチクは，ジャンギのウシ飼いになってから，７～８年になる。

73-51　経歴　(312)17-60
ゴージョは，まえはホリシャのボーイをしていた。それからヒツジ飼い，ウシ飼いなどもしていた。ことしは衙門のホリシャへ出ている。
73-52　経歴　(271)15-5
まえは兵隊であった。商都県のモンゴル軍にいた。５～６年兵隊であった。家に帰ってから，家の仕事をしていたが，やがて，ここのジャンギのヒツジ飼いになった。４年まえ。
73-53　経歴　(270)15-1
若いときはラクダ飼いをしていた。日本人と一緒にエチン・ゴルへ行ったことがある。
73-54　経歴　(137)8-54
西エリゲンで生まれた。小さいときからこの近所にいる。
73-55　経歴　(81)5-45
東スニトのブグルで生まれた。(東のほう)。いま，ブグルにはだれもいない。すっかり死んでしまった。妻はあったが死んだ。子どもはない。20歳くらいのとき，兄のラマのムージャン［大工］の道具をもらって，ムージャンになった。50歳くらいのとき，ラマになった。ベーリン・スムには俗人のときからいる。
73-56　経歴　(64)4-48
デンクル。チベット人。チベットのジョナン・ヒード［チベット自治区ンガバ郡ザムタンにある寺院］の生まれ。25年くらいまえに，こちらにきた。五台山におまいりに来て，住みついた。来るときは３人で来た。２人は帰って行った。この寺に来てから，７～８年になる。
73-57　経歴　(44)3-12
ガルサンドンドル。ノイン・モド・オボの南ジョルムテイの住人。ジョルムテイで生まれた。先祖からここに住んでいる。
73-58　歴史　(36)2-69
夫の家は，チョロータイにあった。いまは，何もない。家も家畜ももって帰ってきた。

旅行

73-60　旅行　(97)6-84
婆さん75歳。いまは，ハトトのアイルに行っている。(なにをしに行ったのか，わからない。)
73-61　外出　(100)7-39
バルジルの妹はいま，ジャムスルンのところへ行っている。ジャムスルンのアイルからフェルトをもってくる。バルジルの家のあたらしいフェルトは，ジャムスルンのところへ行っている。それを取りに行った。

73-62　外出　(100)7-39
バルジルの家はいま２人とも不在である。バルジルはフェルト屋へ行っている。なにをしに行っているのかわからない。

行ったところ

73-64　行ったところ　(270)15-1
４～５年まえ，日本人と一緒にエチン・ゴルまで行った。
73-65　行ったところ　(265)41-82
張家口と徳化に行ったことがある。
73-66　行ったところ　(255)41-22
いちばん遠いところは？　どこへも行っていない。
73-67　行ったところ　(189)9-53
五台山に行った。６年まえ。妻と一緒に行った。帰りに張家口に立ちよった。
73-68　行ったところ　(192)9-71
張家口，貝子廟，トゥムルタイまで行ったことがある。
73-69　行ったところ　(137)39-64
張家口へ行ったことがある。
73-70　行ったところ　(107)39-21
貝子廟まで行ったことがない。
73-71　行ったところ　(98)7-27
１度，シリン・チャガン・オボへ行ったことがある。
73-72　行ったところ　(8)5-76
綏遠まで行ったことがある。張家口には約１カ月生活した。張家口には親類がある。（彼女は漢人である。）
73-73　行くところ　(7)5-61
運搬業をしているので，ハビルガ，宝源，張北あたりまでも，しばしば出てゆく。
73-74　行ったところ　(26)5-69
五台山に参ったことがある。北京には何回も行った。
73-75　遠いところ　(70)4-87
ナムジルは北京へ２度行った。郭王が北京にいたから行った。それより遠いところへは行ったことがない。張家口へは少なくとも年に２回は出てゆく。郭王は最近，張家口に家を買った。朝陽洞の近所に買った。
73-76　行ったところ　(56)4-23
貝子廟，多倫へ行ったことがある。旗公署の用事で行った。牛車で行った。西スニトへは行ったことがない。

5. 生活

乳と乳製品

乳しぼりの時間

59-313 乳しぼりの時間 (S)6-63

乳は，朝はしぼらない。夕がたしぼる。夏は，朝と夕がたの２回しぼる。９月のはじめから１回になった。冬はしぼらない。

59-314 乳しぼりの時間 (97)6-87

ここのアイルは，３軒とも夜しぼる。朝はしぼらない。

59-315 乳しぼりの時間 (99)7-41

乳は，夕がたにしぼる。

59-316 乳しぼりの時間 (136)8-19

乳しぼりは，このごろは夕がた，日がしずむころにしぼる。

59-317 乳しぼりの時間 (136)8-21

夏は，毎日，朝と夕がたと２回しぼる。９月から１回しぼりになった。

59-318 乳しぼりの時間 (251)13-8

乳は夜しぼる。夏は２回しぼる。

59-319 乳しぼりの時間 (266)14-70

乳は朝しぼる。夏は２回しぼる。

59-320 乳しぼりの時間 (387)24-35

乳しぼりは，朝と夕がたの２回。

59-322 ラクダの乳しぼりの季節 (245)10-68

３月～10月にしぼる。牛乳のない家は，冬，春のあいだにもしぼる。夏は，ウシの乳のある家でも，しぼる家もあり，しぼらない家もある。

59-323 乳しぼり (48)3-39

いま，朝だけしぼっている。夏は，朝と夕がたの２回しぼる。この冬は，冬じゅうしぼれたウシはない。

59-324 乳しぼりの時間 (50)3-47

朝しぼる。夜はしぼらない。

59-325 乳しぼり (84)5-88

乳は，朝だけしぼる。夜はしぼらない。夏は，朝と夜と２回しぼる。

59-326 乳しぼり (86)6-8

ウシは，朝だけしぼる。夏は，夜もしぼる。

59-327 乳しぼり (25)1-42

観察：９月28日 夕がた
当歳子ウシを吸い出しにかける。約１分。（当歳子ウシは，杭につながれている。）当歳子ウシを親からはなす。乳しぼりにかかる。乳首をこすりおろす回数，295回。それでもうしぼっても，すっかり乳は出なくなった。乳首の数４。
59-328 乳しぼりとウシの行動 (50)3-47
朝，しぼる。夜，しぼらない。夜もかならず帰ってくるが，しぼらない。当歳子ウシが飲む。当歳子ウシが乳を飲んでからメスウシはまた出てゆく。朝また帰ってくる。夜は近所のそとで寝る。
59-329 乳しぼりとウシの行動 (51)3-63
ウシは，夜は帰ってこない。朝は帰ってくる。こないときもある。夏には，夜も帰ってくる。夏は子どもが小さい。乳がはる。それで帰ってくる。
59-330 乳しぼりとウシの行動 (35)2-29
朝，夕がたの２回しぼる。ウシが帰ってこなかったら，しぼらない。昨日の朝，帰ってきた。夕がた，帰ってこない。きょうの朝，帰ってきた。朝は，いつも帰ってくるが，夕がたは，しばしば帰ってこない。
59-331 乳しぼりとウシの行動 (36)2-68
朝，夕がたともしぼる。ウシは毎日夜，かならず帰ってくる。
59-332 乳しぼり (36)2-68
毎日，朝と夜としぼる。朝，直径17×高さ19およそ1,010cc。夜は直径17×高さ15およそ800cc。
メスウシは自分の２頭，あずかり２頭，あわせて４頭。当歳子ウシ３頭。
59-333 乳しぼりとウシの行動 (39)2-51
朝だけしぼる。ウシは自分で帰ってくる。夜はしぼらない。ウシが帰ってこないから。もし，帰ってきたらしぼる。夏は，夜もしぼる。ウシが自分で勝手に帰ってくるから。
59-334 乳しぼり (42)2-91
朝と夜，両方しぼる。両方をあわせて，ガソリン缶に１杯でる。夏は，１杯以上出る。しぼるときは，桶にしぼって，あとでそれをガソリン缶に入れる。小型桶に３杯。
59-335 乳しぼりとウシの行動 (47)3-32
朝しぼる。夜はしぼらない。夜はウシが帰ってこない。夏は夜もしぼる。

ヒツジの乳のしぼりかた

59-337 ヒツジの乳のしぼりかた 7-85
ダライ・スム付近でもチャハルとおなじように，ヒツジをたがいちがいにしばってしぼる。
59-338 ヒツジの乳のしぼりかた (S)7-85

当歳子ウシをつないでおくようにして，しぼるのもある。Sの話。
59-339　ヒツジの乳しぼり　(S)7-86
ヒツジの乳をしぼるときは，当歳子ウシのように吸い出しをかけない。子ヒツジの吸い出しをかけたら，子どもがすっかり吸ってしまう。ヒツジやヤギは吸い出しをかけないでも乳がでる。ウシは出ない。ヒツジやヤギは吸い出しをかけると，乳の量が少ないから，子ヒツジがみな飲んでしまうのだ。Sの話。
59-340　ヒツジ，ヤギの乳しぼり　(255)13-18
しぼる。子ヤギ，子ヒツジはみんな縄でくくっておく。
59-341　ヒツジの乳のしぼりかた　(S)7-85
ヒツジをたがいちがいにひもにしばりつける。それを長くならべる。順番に端からしぼってゆく。ひとまわりしたら，さらにもとにもどって，まわりはじめる。ヤギもそのなかにまじえてしぼる。ヤギは端のほうにならべる。Sの話。［フィールドノートに図解あり。］

乳房

59-343　乳房　15-73
人間のはグフ，ラクダのもグフ，ウシのはデレンという。

乳の量

59-345　乳の量　(136)8-25
直径25×高さ15，容積7,300cc。この桶に1杯。メスウシ6頭。夏は1日に2回。1回に2杯。ゆえに29,200cc。9月から1回しぼりになった。
59-346　乳の量　(47)3-32
朝しぼる。直径18×高さ18，容積5,380ccの桶に2杯。ゆえに10,760cc。（メスウシは6頭，当歳子ウシつき。）
59-347　乳の分量　(48)3-39
桶は，直径20×高さ20で容積6,300cc。いま，朝だけしぼる。桶に2杯で，12,600cc。夏は，朝3杯，夜4杯，それぞれ18,900cc，25,200cc。（ただし，メスウシの数11頭）
59-348　乳の分量　(50)3-47
直径19×高さ17の桶は4,840cc。この桶に2杯である。9,680cc。朝だけ。（メスウシの数は，5頭。）
59-349　乳の分量　(51)3-65
ウシの乳の出方の季節による変化。朝は，5月から8月まで各3杯（直径19×深さ5で1,410cc）。夜は，4月は2杯，5月から7月まで各3杯。いま，メスウシ3頭。つい20日まえまでは5頭。

59-350 乳の量 (86)6-8
ウシは朝だけしぼる。きょうは，５～６頭しぼった。桶に２杯。桶は，直径20×高さ20で，容積3,140cc，２杯で6,280cc。
59-351 乳の分量 (51)3-93
直径19×高さ13で3,700cc。メスウシ２頭分。
59-352 乳の分量 6-63
メスウシ10頭。直径19×高さ16＝4,600cc の２杯で9,200cc。
59-353 ヤギの乳の量 (25)1-52
いま，20～30頭のヤギからしぼっている。それで大きいワールに半分くらい。（すなわち，2,000～3,000cc）大きいワールの容積は，5,500cc。
59-354 乳しぼり (35)2-30
３月から10月。けさは，直径25×高さ21の桶に１杯，すなわち1,650cc。メスウシの数は３頭。
いつもこれにいっぱい出る。８月から乳が少なくなる。９～10月は，この半分。
59-355 ラクダの乳の分量 (51)3-73
直径18×高さ７＝容積1,780cc。毎日，これくらい出る，という。５頭。夏でもこれくらいだ，という。

乳しぼり

59-357 乳しぼり (143)8-86
寺にはウシが71頭，あずけずにのこしてある。メスウシも30頭くらいいる。男がしぼる。ラマがしぼる。放牧について行っているラマが，それをしぼるのである。
59-358 乳しぼり (290)16-67
ゲンドゥンの妻は，民政科長の家畜の乳しぼりなどをする。その代わりに，乳をもらうのである。

乳をしぼるウシ

59-360 乳をしぼるウシ (376)20-75
牧場のウシで乳をしぼったのは，毎日平均60頭であった。

乳しぼりの季節

59-362 乳しぼりの季節 (50)3-49
３月からしぼる。10月，11月までしぼる。
59-363 乳しぼりの季節 (44)3-15
10月あるいは11月のなかばまで，しぼる。冬は，天気のよい日には，少ししぼるウシも

ある。
59-364 乳のしぼりはじめ (51)3-64
ウシの乳は，当歳子ウシが生まれたときから，しぼりはじめる。毎年，３月に生まれる。３月の乳は，おもに子ウシに飲ませて，人間は少しだけしぼって飲む。
59-365 乳しぼりの季節 (261)14-9
いまは乳がない。
59-366 乳しぼりの季節 (266)14-70
最近は乳をしぼっていない。
59-367 乳しぼりの季節 (297)17-22
メスウシ10頭のうち，２頭はまだしぼっている。ウルムをつくっている。

乳がとまるころ

59-369 乳がとまるころ 6-63
妊娠しておれば，乳がでなくなる。来年，早く子どもを産むものは，早く乳がとまる。妊娠４～５カ月で乳がとまる。毎年，５月の末になると，生まれるべき子どもはみな生まれてしまうので，そのころから，だいたい乳の全体の量が一定してくる。
59-370 乳がとまる (136)8-21
冬のあいだは，乳がまったく出ない。11月のころから。
59-371 乳がとまること (48)3-39
早く子どもを産んだウシは，早く乳がとまる。
59-372 乳がとまること (51)3-66
いま，当歳子ウシが３頭いる。ゆえに，メスウシも３頭をしぼる。つい20日まえまでは，当歳子ウシが５頭いた。それで，メスウシも５頭しぼった。当歳子ウシが２頭死んだので，メスウシの乳がとまってしまった。
59-373 当歳子ウシのいないメスウシ (25)1-42
当歳子ウシ19，その母ウシ19，子のないメスウシ３。合計メスウシ22頭。
いま，この22頭の乳をしぼる。当歳子ウシのいない３頭のうち，１頭は，子ウシが１月に生まれて，３月に死んだ。２頭は，子ウシが生まれず，２歳子ウシ（昨春生まれ）がいる。

乳しぼりとお産

89-260 乳しぼりとお産 (255)13-18
乳をしぼるメスウシは，３～５月に子ウシを産んだメスウシをしぼるのである。冬に子を産んだメスウシはしぼらない。

冬の乳しぼり

59-375 冬の乳しぼり (334)17-80

乾草の準備のある家で，当歳子ウシの世話ができる家なら，いまごろに当歳子ウシが生まれることはわるいことではない。冬でも乳がしぼれるから。

乳と雨

59-377 乳と雨 (387)24-35

いま，雨が少ないので，乳の出かたがわるい。雨がふれば，多く出る。多くても4斤まで。

59-378 雨と乳の量 (S)6-59

雨がふらないと，乳が少なくなる。雨がふると，乳がたくさん出る。Sの話。

59-379 水と乳の量 (S)6-60

ウシに水を飲ませて乳の量が多くなるのは，たしかである。しかし，すぐには効果がない。だから，チャハルでは，夕がたには決して水を飲ませない。Sの話。

乳あつめ

59-382 乳あつめ (387)24-26

毎日，集乳所から馬車で乳をあつめにくる。

59-383 乳あつめ (387)24-26

毎日，集乳人が来て，乳の分量をはかって伝票を切ってわたす。1月分をためておいて，それを1カ月に1度ホリシャ［購買販売組合］へ行ってお金をもらってくる。

59-384 乳あつめ (387)24-26

集乳所の買い上げ値段は，1斤1円50銭である。

59-385 乳あつめ (387)24-27

集乳所のできたのは，736年である。

59-386 乳あつめ (387)24-26

集乳所の人間は，旗公署からくる。この集落でそれに働いている人はない。

59-387 乳あつめ (387)24-26

集乳所のセパレーターは，ダメルンスルンの家においてある。

59-388 乳あつめ (387)24-34

一昨年は，セパレーターはラシースルンの家にあった。去年は，乳あつめをやらなかった。

59-389 乳あつめ (387)24-35

集乳所であつめるのは，朝の乳だけである。

59-390 乳あつめ (387)24-35

集乳所の仕事は，４人でする。いまは，２人でしている。

乳しぼりの季節

59-392　乳しぼりの季節　0-50

乳しぼりの季節などは，草原も砂丘地帯もおなじ。

59-393　放牧の番人　0-49

砂丘地帯では，ウシにはふつう人がついていない。しかし，冬は当歳子ウシが一緒について放牧地へゆくので，そのときは，危険であるから，原則として，人がついてゆく。（砂丘地帯）

59-394　乳しぼりと季節　0-49

冬はメスウシをあまりしぼると，からだがよわって，翌年の当歳子ウシのためによくない。（砂丘地帯）

59-395　乳しぼりの季節　0-49

夏のあいだは，当歳子ウシにあまり乳を飲まさなかったので，冬は当歳子ウシに乳を飲ます。それで冬は乳をしぼらない。（砂丘地帯）

チャガン・トス

59-396　*チャガン・トス*［白い油］　(387)23-84

これは，スニトの*チャガン・トス*とはまったく別ものである。*ジョーヘイ*から*チャガン・トス*をとり，チャーニングして*シャル・トス*になる。

59-397　*チャガン・トス*のつくりかた　(51)3-76

ラクダの乳を*モドン・ガン*にいっぱい入れてかきまわす。すると，上の方に*チャガン・トス*が浮いてくる。それを*オンコ*［*ホンコ*と呼ばれている布袋］に入れておくと，水分がおちて*チャガン・トス*になる。［図譜の補14は（51）で描かれたもの］

59-398　*チャガン・トス*　(341)18-34

*チャガン・トス*はつくらない。スニトでは*チャガン・トス*をつくるということをきいているが，こちらではつくらない。

59-399　*チャガン・トス*，*シャル・トス*　(106)7-54

*ウルム*を*モドン・ガン*にたくわえておく。それを鍋に入れて火にかけると，あぶらがとける。やがて２層に分離する。上の層は，*シャル・トス*。下の層は，*チャガン・トス*。

ラクダの乳しぼり

59-401　ラクダの乳しぼり　(255)13-18

しぼるのは３月から７月。

59-402　ラクダの乳しぼり　(S)(B)8-75

チャハルでは，ラクダの乳はしぼらない。しぼっているのを見たことがない。ＳとＢの話。

59-403　ラクダの乳しぼり　(251)13-8

ラクダの乳もしぼる。

59-404　ラクダの乳しぼり　(246)10-74

しぼる。

59-405　ラクダの乳しぼり　(245)10-68

ラクダの乳はしぼる。しぼる家もあり，しぼらないアイルもある。

59-406　ラクダの乳しぼり　(189)9-53

ラクダの乳はしぼらない。しぼるアイルもあるだろう。

59-407　ラクダの乳　(189)9-53

ラクダの乳は，上等でとてもうまい。

59-408　ラクダの乳しぼり　(189)9-53

ラクダの乳をしぼろうとすると，あばれてむつかしい。しぼるときには，あとあしをしばって，１人があとからひっぱっている。しぼることに慣らすとあばれないが，慣らすまでがなかなかたいへんである。

ヒツジ，ヤギの乳しぼり

59-410　ヒツジ，ヤギの乳しぼり　(261)14-8

ヒツジの乳は２～３月から７～８月までしぼる。ヤギの乳は10月までしぼる。

59-411　ヒツジ，ヤギの乳しぼり　(255)13-18

しぼる。４月から６月まで。

59-412　ヒツジ，ヤギの乳しぼり　(251)13-8

ヒツジもヤギも乳をしぼる。

59-413　ヤギの乳しぼり　(246)10-74

ヒツジ，ヤギどちらもしぼる。

59-414　ヒツジとヤギの乳の分量　(51)3-66

朝だけしぼる。桶の容積は，直径20×高さ16＝5,000cc。４月から６月まで各２桶分，７月はしぼらない。

59-415　ヒツジ，ヤギの乳　(51)3-64

ヒツジおよびヤギの乳をしぼる。朝にしぼる。いまはしぼっていない。７月からしぼらない。

59-416　ヒツジ，ヤギの乳しぼり　(35)2-33

いまはしぼっていない。夏（４月から８月）しぼる。朝と昼と２回しぼる。１回で，直径18×高さ５＝280cc である。メスヤギ３頭。メスヒツジ２頭。

メスウシの乳と一緒にして，*ホロート*，*ウルム*をつくる。
59-417　ヒツジ，ヤギの乳しぼり　(25)1-52
ヒツジは4～6月，ヤギは4～9月，おのおの朝，昼の2回しぼる。
子ヤギのあるヤギからのみしぼる。子ヤギの小さいヤギからは，子ヤギが栄養不良にならないように，少ししかしぼらない。ヒツジについてもおなじ。

乳製品

***タラグ*［ヨーグルト］**
63-7　*タラグ*　(387)23-84
ここではウシの乳から*タラグ*をつくらない。
63-8　*タラグ*　(S)(B)14-93
チャハルでは*タラグ*があまりない。SとBの話。
*タラグ*と*ゲチテイ*［強力の意味。発酵乳］はおなじもの。SとBの話。
63-9　*タラグ*　(269)14-93
*タラグ*は知らない。つくらない。
63-10　*タラグ*　(266)14-63
*タラグ*はただ乳だけを壺に入れてかきまわして，*アエラグ*とおなじようにしてつくる。
63-11　*タラグ*　(S)8-8
*アエラグ*を細口の壺に入れて，冬までのこしておく。すると，*タラグ*になる。味は*チャガン・トス*［白油の意味。発酵バターのようなもの］のような味。少し辛みがある。*タラグ*のなかに牛乳をたくさん入れて飲む。Sの話。
63-12　*ゲチテイ*　14-77
*タラグ*とおなじ。乳製品の1種。

***アルチン・ホロート*［高発酵チーズ］**
63-14　*アルチン・ホロート*　(266)14-63
つくる。*タラグ*を鍋に入れてわかす。そして，袋に入れてしぼると，*アルチン・ホロート*になる。
63-15　*アルチン・ホロート*　(93)6-69
*チャガー*を袋に入れてそとに出し，重しをかける。すると，下の水がしみだす。そのなかみを型のなかに入れると，*アルチン・ホロート*になる。

***トス*［油］のつかいみち**
63-17　*シャル・トス*のつかいみち　(106)7-54
ここでは，*シャル・トス*はお燈明にするだけ。食べるのではない。

63-18　*チャガン・トス*のつかいみち　(106)7-54
*チャガン・トス*は食べものにする。そのままで食べるか，あるいは*スーテイ・チャイ*［乳茶］に入れて食べる。
63-19　*シャル・トス*のつかいみち　(35)2-31
冬も食べない。夏も食べない。1年じゅう食べない。いま，*シャル・トス*はつくらない。夏つくった。それは仏壇のランプ用である。
89-248　*グジェー*　0-20
*グジェー*の図。［たくわえる容器。図譜の補3］

ホロート［チーズの1種］
63-21　*ホロート*　(261)14-9
メスウシがないので，*スン・ホロート*はつくらない。（ヒツジ，ヤギの乳からは*スン・ホロート*はつくらない。）
63-22　*シャートゥンタイ・ホロート*　(S)8-7
*ホロート*のなかに砂糖を入れてつくったもの。Sの話。
63-23　*ホロート*つくり　(42)3-1
*ホロート*をつくるのは，1日に1枚のときもあり，2～3日に1枚のときもある。
63-24　*ホロート*つくり　(41)2-83
*ホロート*は1年に40個ぐらいつくる。
63-25　*ホロート*つくり　(36)2-69
夏3日に1つくらいつくった。（そのころ，本人が病気―できもの―で乳をあまりしぼっていない。）
63-26　*ホロート*つくり　(39)2-52
直径20㎝，高さ18㎝すなわち，1,130ccの桶。これに3杯で型1つの*ホロート*ができる。型の大きさは16×16×3.5㎝。
63-27　*ホロート*つくり　(35)2-31
桶（1,650cc）2杯で*ホロート*1つ。枠なしでつくる。
63-28　*ホロート*つくり　(25)1-48
4月1枚，5月1枚，6月2枚，7月1枚，8月1枚，9月1枚，10月小8枚。毎日これだけずつつくる。小型は，10月以外にも，あまった乳でいつもつくる。
63-29　*ホロート*の測定　(25)1-49
体積　16×16×5　　重さ　1.4kg
体積　16×16×5　　重さ　1.35kg
体積　18×18×5　　重さ　1.85kg
63-30　*ホロート*をつくる　(25)1-48

大型のホロートを１枚つくるのに，大きい壺なら４杯，小さい壺なら５杯の牛乳が要る。
（壺の容積は，大きいほうが5,500cc，小さいほうが3,500cc）
ゆえに，１枚のホロートをつくるのに18〜22ℓ要る。
63-31　ホロートつくり　(45)3-24
１年に100枚くらいつくる。

乳製品

63-2　乳製品　(47)3-32
夏は，ホロート，バター。いまはウルムをつくる。ビシラクはつくらない。ウルムをつくったあとにのこったものから，酒の原料のようなものをつくって飲む。酒は夏につくった。いまはつくっていない。冬営地にたくわえてある。ホロートを若干たくわえてある。
63-3　乳製品　(66)4-68
ウルム，ホロート，ビシラクはつくらない。アルヒもつくらない。アルチン・ホロートはつくる。
63-4　乳製品　(48)3-41
いまはウルムばかり。ビシラクなし。酒もなし。夏はホロートをときどきつくる。しかし，一般にウルムがおもである。アルチン・ホロートをつくる。
63-5　乳製品　(50)3-50
いまはウルムをつくっている。ビシラクはつくらない。ウルムのかすは飲む。夏は，ビシラクはつくらない。酒をつくった。アルチン・ホロートをつくった。ホロートをつくった。
63-32　乳製品　(341) 18-34
ホロート，ジョッヘ，ビシラグ，シャル・トス，アルヒ，アルチン・ホロート，秋はウルムをつくる。チャガン・トスはつくらない。スニトではつくるということを聞いているが，こちらではつくらない。
63-33　乳製品　(266)14-77
シャル・トス，チャガン・トス，ウルムいずれも夏にはつくる。アルチン・ホロートもつくる。ビシラクというものは知らない。
63-34　乳製品　(256)13-37
夏はウルムをつくる。ホロートをつくる。アルヒをつくる。チャガン・トスをつくる。ビシラクはつくらない。
63-35　乳製品　(89)6-37
ホロート，アルヒはつくらない。アルチン・ホロートとビシラクをつくる。夏でもそのとおりである。ウルムは夏つくらないが，ちかごろになってからつくる。

乳製品（つづき）

63-89　乳製品　(387)23-84

ジョッヘ→チャガン・トス→これはスニトのチャガン・トスとはまったく別ものである。チャガン・トスをcharning［撹拌］してシャル・トスになる。

63-90　乳製品　(42)2-90

いまホロートをつくっている。ウルムは10月からつくる。いまつくっていない。酒はつくらない。道具がない。シャル・オス［黄色い水の意味。ホエー］は酒をつくらずに，アルチン・ホロートをつくる。

63-91　乳製品　(29)1-54

牛乳，乳製品は全部自分の家でつかう。売らない。

63-92　乳製品　(39)2-61

ウルムはつくる。冬のあいだは乳がでない（9～10月から）。ホロートもない。（しかし，この家には酒つくりの道具がおいてある。）

63-93　乳製品　(62)4-44

ウルム，アルチン・ホロート。冬食べる。

63-94　乳製品　(73)5-7

ウルムつくる。チャガーを食う。

63-95　乳製品　(99)7-32

チャガーだけをつくる。ほかの乳製品はつくらない。

63-96　乳製品　(255)13-13

タラグ，アルチン・ホロート，ウルム，チャガン・トス，シャル・トス，アルヒ，スン・ホロートなどはつくらない。

63-97　乳製品　(250)12-93

乳製品はウルム，チャガン・トスのほかはつくらない。

63-98　乳製品　(266)14-63

ウルム，シャル・トスなどは何もつくらない。

63-99　乳製品　(269)14-93

シャル・トス，ホロート，アルヒを少しつくる。タラグは知らない。つくらない。

59-277　乳製品　(136)8-24

アルチン・ホロート，ウルムをつくる。このごろはウルムばかり。ホロートとはボシラクのこと。

59-278　乳製品の歴史　(373)20-31

乳製品なんかは，むかしと質，量ともに少しも変わっていない。

ヒツジ，ヤギの乳

63-37　ヤギの乳　(S)7-88

ヤギの乳はウシの乳にまぜてアルヒの原料になる。ヒツジの乳はアルヒにはつかわない。なぜだか知らない。Sの話。

63-38　ヤギの乳　(S)7-88

乳としてはヤギの乳のほうがよい（ヒツジよりも）。しかし，そのつかいみちは両方ともまったくおなじだ。両方の乳を別々にしておくこともあるし，また一緒にまぜてしまうこともある。Sの話。

63-39　ヒツジの乳　(261)14-8

メスウシの乳がなかったらどうするのか？ ヒツジの乳がある。

63-40　ヒツジの乳　(S)7-88

ヒツジの乳はアルヒの原料には決してつかわない。なぜだかは知らない。ヤギの乳はウシの乳にまぜてアルヒの原料につかう。この点をのぞけば，ヒツジの乳のつかいみちは，ヤギおよびウシの乳とまったくおなじである。Sの話。

63-41　ヒツジの乳　(35)2-33

ヒツジ，ヤギの乳は，メスウシの乳と一緒にして，ホロート，ウルムをつくる。

63-42　ヒツジ，ヤギの乳の利用　(261)14-9

ヤギ，ヒツジの乳からはアルチン・ホロート，エージゲ，シャル・トス，ウルムをつくる。スン・ホロートはつくらない。

チャガー［酸乳］

63-44　チャガー　(93)6-70

チャガーというのは，白い色をした，どろどろの液体である。ここの家ではそれを木桶のなかに入れてたくわえている。

63-45　チャガー　(93)6-69

アエラグを鍋に入れてわかす。1～2時間わかすと，チャガーになる。

63-46　ヘブ［型］(36)2-71

型をもっていない。（ホロートをつくると言っているが，じつはビシラクをつくるらしい。）［図譜の補5～8］

アーロル

63-48　アーロル　(44)3-14

ホロートはつくるしりからみな食べてしまうが，その代わりに，アーロルをたくわえている。アーロルというのは，アルチン・ホロートとおなじで，固いが不定形である。

エージゲ

63-50　エージゲ　(93)6-69

ボルスン・スーのなかにチャガーを入れてわかす。30分間わかす。つぎにそれをジョーラ［ざる］で濾す。その濾したかすがエージゲになる。

バジマル

63-52　バジマル　(S)8-8

型に入れずに，アールチを手でにぎってつくったアルチン・ホロートのこと。Sの話。

アールチ［酸乳の1種］

63-54　アールチ　(136)8-24

木桶にアールチを7分目たくわえている。このままで冬に飲む。

63-55　アールチ　(S)8-7

アルチン・ホロートのまだかたまらない状態にあるものをいう。Sの話。

乳茶の乳の分量

63-57　乳茶の乳の分量　(51)3-93

ウルムをつくるために鍋に乳をいれた。そののこり，直径19㎝で高さ5㎝ゆえに容積1,400cc，これだけは，明日の朝までのこし，乳茶のためにつかう。

ウルム［生クリームの1種］

63-59　ウルム　(297)17-22

メスウシ10頭のうち，2頭はまだ乳をしぼっている。ウルムをつくっていた。

63-60　ウルム　(256)13-37

夏にもウルムをつくる。

63-61　ガタスン・ウルム　(S)8-6

ウルムのみごとにかわいてウェファースのようになったものをいう。シリンゴルのことば。チャハルにはこんなものはない。いや，チャハルでは，ウルムといえば，みなこれである。シリンゴルではべとべとウルムができるから，これと区別してこういうのだろう。Sの話。

63-62　ウルム　(93)6-68

牛乳を鍋に入れてわかす。上の部分はウルムになる。下の部分は，ボルスン・スーになる。

63-63　ウルム　(45)3-24

ウルムは少しつくる。

63-64　ウルムのかす　(51)3-86
ウルムをとってしまった，のこりの乳は，また飲むのである。鍋の底にこげつきがのこっている。それをていねいにはがしとる。これはイヌにやる。
63-65　ウルムつくり　(51)3-93
11時30分，お茶がわいた。お茶を大きな桶にうつして，その代わりに鍋のなかへは，牛乳をいれた。ラクダの乳も少しいれた。11時35分，きょうしぼってきた分を半分以上，そのなかへつぎたす。(これはウルムになる。)
63-66　ウルム　(35)2-32
つくる。
63-67　ウルム　(36)2-67
10月８日現在，ウルムだけをつくる。
63-68　ウルム　(44)3-14
ここでは５月から10月までウルムをつくる。しかし，ウルムは夏の季節はうまくできない。ウルムはたくわえがきくので，冬はホロート，バターを食わないで，ウルムを食べる。いま，ウルムが40斤くらいたくわえてある。
63-69　シリンゴルのウルム　3-17
乳をわかしてさますところまではチャハルの場合とおなじ。それをチャハルでは，２つに折って板の上にのせて干す。だから，からからに乾いてくさらない。シリンゴルでは，上にかたまったものをそのまますくいだしておく。だから，べちゃべちゃの部分と一緒になって出てくるから，くさったりする。

ホロートの消費量

63-71　ホロートの消費量　(25)1-49
普通１個を全家族で１日ないし２日で消費する。冬は３日に１枚あるいはそれ以下。(そのほか，雇い人にやる分もある。総長，大爺［当時の蒙古自治邦政府や軍の幹部たち］がきたとき差し出す。１回４枚。息子が学校へゆくときもってゆく。)ホロートは売らない。
63-72　ホロートの消費量　(45)3-24
１日に１枚で足りる日もあるし，たりない日もある。
63-73　ホロートの食べかた　(42)3-1
ホロートは２～３日で１枚くらい食べる。
63-74　アルチン・ホロートの食べかた　(62)4-44
アルチン・ホロートは臼に入れて，茶をくだくようにして，くだいて，お茶のなかに入れて食べる。

乳製品と季節

63-76　乳製品と季節　(255)13-14

夏にウルムをつくる。冬営地でチャガン・トスをつくる。

63-77　乳製品の季節　(136)8-24

このごろはウルムばかり。冬はアルチン・ホロートをつくらない。

***アルヒ*［蒸留酒］**

63-79　*アルヒ*　(S)7-88

*アルヒ*の原料としては，ウシの乳。ヤギの乳はウシの乳にまぜて*アルヒ*をつくることがある。しかし，ヒツジの乳は決してつかわない。なぜだか知らない。Sの話。

63-80　*アルヒ*　(35)2-32

つくらない。

63-81　*アルヒ*　(266)14-63

*アルヒ*はつくらない。3頭くらいのメスウシで，どうして*アルヒ*がつくれるものか！

63-82　*アルヒ*　(261)14-17

この近所に酒をつくる家はない。

63-83　*アルヒ*　(189)9-53

*アルヒ*はつくらない。

バター

63-85　バター　(45)3-24

バターはつくるけれども，どれだけつくるのか，どうしてつかうのか，自分にはわからない。それは，妻と妻の母の仕事である。

63-86　バター　(66)4-68

バターは夏につくる。

63-87　バター　(44)3-14

バターはいま20斤ぐらいたくわえてある。これは食べない。寺へ売るつもりである。

チゲー

63-101　*チゲー*　(S)8-7

馬奶酒の原料のことだろう。しかし，馬奶酒のことについてはよく知らない。Sの話。

63-103　*チゲー*　(387)23-83

これは，ここではつくらない。

メスウマの乳

63-105　*グーネイ・スー*［メスウマの乳］（387)23-83

馬乳から*グーネイ・アルヒ*［メスウマの乳からつくる蒸留酒］をつくる。そののこりが，*チャガー*（*アールチ*），*アルチン・ホロート*をつくる。

63-106　*グーネイ・スー*　(387)23-83

馬乳からは，*バター*や*ホロート*をつくらない。

乳

63-108　*スー*［乳］　(S)(B)8-75

*スー*というのは，ウシ，ヒツジ，ヤギ，ラクダ，ウマ，人なんでもよい。とにかく乳のことをいうのに適用することばで，牛乳という意味ではない。SとBの話。

乳製品のたくわえ

59-257　食べもののたくわえ　(93)6-72

乳製品。*ウルム*は，70×35×20の*ガプチク・ソーロク*にいっぱい。*チャガー*は70×35×20の*モドン・ガン*に7分め。

59-258　乳製品のたくわえ　(261)14-9

冬のための乳製品のたくわえは，ぜんぜんなく，すっかり食ってしまった。

59-259 乳製品のたくわえ　(136)8-24

30×30の袋に*アルチン・ホロート*をいっぱい。*モドン・ガン*に*アールチ*を7分め。

59-260　乳製品のたくわえ　(106)7-54

ウルム（べとべとの*ウルム*）を*モドン・ガン*に入れてたくわえておく。

59-261　乳製品のたくわえ　(99)7-32

夏は乳があまる。*チャガー*だけをつくる。ほかの乳製品はつくらない。*チャガー*にしてのこしておく。大きい*ガプチク・ソーロク*に入れてのこしておく。

59-262　乳製品のたくわえ　(66)4-70

観察：*アルチン・ホロート*は*アブダル*［ながもち］のなか。*チャガー*は，30×40，30×55。

59-263　乳製品のたくわえ　(48)3-41

*ウルム*が若干たくわえてあるが，たいしたことはない。*アルチン・ホロート*がいちばんたくさんたくわえてある。

59-264　*ホロート*のたくわえ　(45)3-24

いま，10数枚たくわえてある。

59-265　*ホロート*のたくわえ　(44)3-14

*ホロート*はつくっているけれども，つくるあとから，つぎつぎ食べてしまうので，たく

わえはない。
59-267 *ホロート*のたくわえ (42)3-1
*ホロート*はいま，30枚くらいたまっている。
59-268 *ホロート*の貯蔵 (41)2-83
*ホロート*は20個ぐらいのこる。それを冬に食べる分としてのこす。
59-269 *ホロート*の貯蔵 (36)2-69
*ホロート*はできたしりからみな食べた。たくわえていない。いま，たくわえはない。
59-270 *ホロート*の貯蔵 (35)2-31
いま，*ホロート*の貯蔵はない。*ホロート*はできたらすぐ食べる。ふつうは*ホロート*がないから食べない。*シャル・トス*も食べない。
59-271 *ホロート*の貯蔵量 (25)1-48
現在，貯蔵してある量は，大型４，中型52，小型５，極小型なし。
59-272 乳製品のたくわえ (50)3-50
ふつうの*ホロート*は，食べてしまった。*アルチン・ホロート*をたくわえている。白麺用の布袋にいっぱいたくわえている。
59-273 *ウルム*のたくわえ (51)3-86
10時30分，ドラゴルは，鍋のなかの*ウルム*を桶（*ガプチク・ソーロク*）のなかにうつす。これは，きのうの乳でつくった分である。
59-274 乳製品のたくわえ (266)14-64
*アルチン・ホロート*は，もうすっかり食ってしまった。
59-275 乳製品のたくわえ (266)14-77
シャル・トス，*チャガン・トス*，*ウルム*，いずれも夏はつくるが，もうみんな食ってしまって，いまは*ゲチテイ*だけがのこっている。

乳しぼりの女

59-280 乳しぼりの女 (376)20-71
粛親王府の乳しぼりに女の労働者がきた。モルドマ23歳，ダンジンの姉。デルマ18歳，明安旗の人。ソルマ21歳，明安。ナムスライ51歳，明安。ノガンダラ30歳，明安。アルタンチチク50歳，和親王府の人。
59-281 乳しぼりの女 (376)20-71
粛親王府の乳しぼりの女たちは，みなダンジンの家に泊まっていた。
59-282 乳しぼりの女 (376)20-75
乳しぼりの女たちは，原則として，しぼった乳はすべて牧場に差し出すことになっていた。そのうえで，給料をもらうのである。
59-283 乳しぼりの女 (376)20-75

牧場の乳しぼりの女は，原則として，しぼった乳はすべて牧場に差し出すことになっていたが，ノガンダラだけは，１日に３～４ポンドをもらった。これは，彼女が生後５～６カ月の母乳のない赤ん坊を連れているからである。

59-284 乳しぼりの役 (276)15-54

年寄りの男と子どもだけの家族。メスウシを２頭もっている。乳をしぼるのは，となりのラシーデリゲルに嫁入りしている娘がしぼってくれる。ここへ引っ越してくるまえ，チョールトにいたころは，*アイル*にたのんで，しぼってもらっていた。

59-285 乳しぼりの役 (297)17-24

人手がないので，乳しぼりの女をやとった。となりの*アイル*の女がそれである。

59-286 乳しぼりの役 (246)10-74

乳は弟（18歳）がしぼる。(男がしぼるのだ！)

59-287 乳しぼり役 (70)5-17

乳しぼりの役は，３人の若い女である。オレルジマー，ナランウロル，マチクソー。

59-288 ヒツジ飼いの役 (70)5-17

ヒツジの番にゆくのは，マチクソーの役である。ウマに乗ってゆく。

59-289 乳しぼりの順序 (48)3-37

モンゴルでは，もっとも若い女から順番に乳しぼりをする。

59-290 水汲み (51)3-78

水汲みは，チェートンの役。水をくんだり，*ピンクォー*［中国語の瓶口。水筒］に入れる。そして，そとにおいておく。［図譜93は（51）で描かれたもの。］

59-291 ヒツジとヤギの乳しぼり役 (51)3-66

チェートンとドルガルの２人でしぼる。

59-292 乳しぼりの役目 (51)3-64

婆さんが２人いる。ドルガルとチェートン。ウシの乳はチェートンがしぼる。ドルガルは足が痛いので，ラクダの乳をしぼる。［ラクダの乳は座らずにしぼることができる。］

59-293 乳製品は女の仕事 (45)3-24

乳をしぼったり，乳製品をつくったりするのは，妻がする。妻の母も手つだう。バターをどれだけつくるのか，またどうしてつかうのか，自分にはわからない。それは女の仕事である。

59-294 仕事の分担 (25)1-37

ダフチンは，毎日，粛親王府の管理所へ出勤する。家畜の仕事はしない。

妻は，そうじ，乳しぼり，バターつくり，家畜に水を飲ます，茶をつくる，ヤギ，ヒツジの乳をしぼる，バターをつくる，酒をつくる，*ホロート*そのほかの乳製品をつくる。

娘は，母におなじ。

乳あつめと食べもの

59-296 乳あつめと食べもの (387)24-35

集乳所に乳を出すと，自分の家で，*シャル・トス*，*ホロート*をつくる余裕はない。しかし，麺類の配給があれば，それでよい。

乳製品の価値

59-298 乳製品の価値 (48)3-41

乳製品ばかりで，ほかの食べものなしでは，とても暮らせない。ウシの数がたりない。それでは，冬がどうにもならないのである。(しかも，彼は，メスウシを11頭もっている。大人４，子ども３人の家族。)

乳製品を売るか？

59-300 乳製品を売るか？ (3##) 24-83

漢人が*ウルム*を売る。マラガイ・スムにて。漢人が*ウルム*をつくって売っている。そのなかに，白麺を入れて目方をおもくして売っている。モンゴル人は売らない。

59-301 乳製品を売るか？ (341)18-34

乳製品は売らない。

59-302 乳製品を売るか？ (61)21-53

去年，バター26斤を寺へ売った。１斤３円で売った。現金でもらった。

59-303 乳製品を売るか？ (267)41-89

売らない。

59-304 乳製品を売るか？ (27)5-70

バター，*ホロート*などを売る。バターは１年に20斤。１斤15円。*ホロート*は，１年に30個，１個５円。

59-305 乳製品は売るか？ (89)6-48

売らない。

59-306 乳製品の売りもの (64)4-49

乳製品は，夏は*アイル*にたのんでもらってくる。冬は，売っているところがあれば，１斤，２斤と買ってくる。(どこか売っている*アイル*があるのだ！)

59-307 乳製品を売るか？ (44)3-11

去年，*シャル・トス*を寺に売った。５斤売った。１斤７～８円で。ことしは売っていない。20斤ぐらいたくわえてあるだろう。これも，食べずに寺へ売るつもりである。

59-308 乳製品を売るか？ (42)2-90

乳製品は何も売らない。

59-309 乳製品を売るか？ (41)2-83

*ホロート*は売らない。バターは出す。
59-310 乳製品を売るか？ (39)2-62
乳製品は売らない。自分で食べるのがやっとのことである。
59-311 売りもの (36)2-67
乳製品，柳条製品，*アルガリ*，いずれも売らない。

食べもの

冬の食べもの

59-595 冬の食べもの (287)16-57
秋に人のために草を刈ってやった。そのお礼として，ヒツジ，ヤギを１頭ずつもらった。それをころして，冬の食料としてたくわえてある。
59-596 冬の食べもの (287)16-58
まえからヒツジがない。毎年，冬の食べものは，肉は人のところに働くか，なにか仕事をして，ヒツジをもらって食べていた。
59-597 冬の食料 (261)14-9
冬のための乳製品のたくわえは，すっかり食ってしまって，ぜんぜんない。いまは穀類，肉を食っている。
59-598 冬の食料 (99)7-32
冬は乳が出ないから，暮らしがこまる。食べものにこまる。*チャガー*を食べる。
59-599 冬の食料 (42)3-1
冬のあいだ，*ホロート*をおもに食べる。粟も食べる。
59-600 食べものと季節 (73)5-23
この冬は１つの*アイル*に30斤の白麺の配給があった。秋は食料にはこまらない。むかしは冬と春とで１軒に200斤くらいつかった。７～８年まえから，こんなに少なくなった。
59-601 食べものと季節 (73)5-23
この冬は郭王の家から
［カード59-600の裏面］
59-602 冬の食料 (39)2-61
冬は，９～10月から乳がない。*ホロート*もない。*アイル*で働いてその代金として，ユウ麺や粟をもらう。
59-603 冬の食べもの (50)3-52
むかしから，*アルチン・ホロート*だけで冬をこすことがあった。

食料の歴史

59-605 食料の歴史 (373)20-32

食料品については，むかしから，むしろ麺類が減ってきている。いまは買いにくくなったのだ。

59-606　食料の歴史　(373)20-32

むかしから，麺類は近所の漢人のところから買ってくる。このあたりならば，宝源県から買うのだ。

59-607　食べものの歴史　(21)21-42

穀物，麺類の消費量は，この20年間あまり変化がない。モンゴル人。(北牧場のマイマイの話)

食べもの

59-609　食べもの　(387)24-35

集乳所に乳を出すと，自分の家でシャル・トス，ホロートなどをつくる余裕はあまりない。しかし，麺類などの配給があれば，それでよい。

59-610　食べもの　(136)8-24

日常は粟，ホーライ・ボダーなどを食べている。

59-611　食料の値段　(189)9-48

最近，トゥムルタイへゆく人にたのんで，麺類を買ってきてもらった。100斤で300円であった。現金で払った。

59-612　ユウ麺　(192)9-70

粟，白麺をつかうけれども，ユウ麺はつかわない。

59-613　食べもの　(99)7-32

麺類はなかなか手に入らない。粟は少し買う。しかし，高いし，またなかなか手に入らない。夏は手に入れば，乳製品のほかに粟も食べる。

59-614　食べもの　(73)5-23

むかしは，冬と春とで一つの家で，麺類200斤くらいつかったものである。７～８年まえからずっと少なくなった。

59-615　食べもの　(66)4-66

粟，ユウ麺は，いまはない。あれば食べる。ホリシャで買う。

59-616　食べもの　(62)4-44

白麺はない。ユウ麺もない。あったら少し食べる。粟は冬はホリシャにあれば，もらって食べる。なければしかたがない。夏は乳を飲む。冬はウルム，アルチン・ホロート。

59-617　食べもの　(60)5-74

粟，ユウ麺，白麺を食べるが，自分らには，分量はわからない。

59-618　食べもの　(27)5-70

去年は，ユウ麺，白麺あわせて300斤，粟200斤，磚茶11枚。

59-619 食べもの (26)5-66
白麺100斤，１斤60銭。ユウ麺100斤，１斤50銭。煮る粟200斤，１斤35銭。乳茶用粟200斤，１斤35銭。磚茶12枚，１枚５円。以上，粛親王府の管理所で買う。去年の例。
59-620 食べもの (7)5-61
観察：この家の食べものはわれわれに出したかぎりでは，純粋の漢人ふうの料理である。卵焼き，卵のスープ。シャルビン［焼き餅］。中国酢。食器は，お手塩［取り皿］，陶器の皿，箸。中国菓子。
59-621 食べもの (81)5-45
ほどこし。ムージャン［大工］だが，目が見えなくなった。仕事ができない。いまは，人に食べものをたのんで，それをもらって食っている。
59-622 食べもの (73)5-7
毎年，白麺とユウ麺を200斤，粟を10斗食べる。ことしはどちらも手に入らない。こんなときには肉を食べる。茶は１年に１人１枚くらい。
59-623 食べもの (71)5-1
粟，茶はベール王からもらう。麺類は食べない。
59-624 食べもの (76)5-31
いま，乳製品を食べている。粟，ユウ麺などはない。
59-625 食べもの (76)5-28
メスウシ１頭，メスの２歳子ウシ１頭。これでは，食べものが少ない。毎日，アイルにたのんで，ものをもらって食べる。
59-626 食べもの (95)6-83
穀粉，粟いずれも買わない。働いてアイルから食べものをもらう。
59-627 食べもの (93)6-73
チャガン・ゴリル，ボダーを食べる。ことしは買わなかった。いまある粟は去年に買ったもの。
59-628 食べもの (89)6-45
おもに，白麺を食べる。毎日，食うときもあるし，しばらく食べないときもある。白麺は，夏に多く食べる。冬は粟と肉を食べることが多い。ユウ麺は食べない。
59-629 食べもの (50)3-51
ことし，麺類，粟など何も買っていない。乳で暮らしている。去年の冬，粟を１斗，ホリシャで買った。冬のうちに食ってしまった。ことしも粟があったら買う。なければ，乳とアルチン・ホロートを食べる。
59-630 食べもの (45)3-23
ユウ麺は，毎日は食べない。あまり麺類は食べない。乳製品をおもに食べる。ことしは粟を食べていない。去年は，ホロートと粟を交換した。ユウ麺はよそのアイルでもらう

ものもある。
59-631　食べもの　(45)3-21
１年に，ユウ麺20～25斤。ふつうは，働いてもらう。ことしはホリシャで10斤を買った。去年は買わなかった。ことし，白麺，粟，タバコを買っていない。茶を３枚，ホリシャで買った。茶は人のうちで働いて，半分ずつくらい少しずつもらうので，１年の消費量はわからない。
59-632　食料　(44)3-11
ことし，何にも買わない。去年は，白麺10斤，粟４斗（１斗25円），ユウ麺20斤買った。タバコは買わない。
59-633　食べもの　(42)2-89
食べものは買っていない。必要量は，白麺30斤（多くて），ユウ麺30斤，粟３斗，茶７～８枚。全部働いた代償としてもらう。
59-634　食べもの　(36)2-72
現在，粟は，まったく食べていない。毎日，ウルムとビシラクを食べる。冬は粟が手に入れば食べる。
59-635　食べもの　(39)2-55
粟は，毎日は食べない。あれば食べる，なければ食べない。ホリシャで買う。１年に粟20斤，ユウ麺20斤，白麺なし。ことしは買っていない。いま，毎日，乳とホロートを食べている。茶を４枚買った。お金なくて，まだ払っていない。あとで払う。
89-2　食べもの　(61)21-54
毎日麺類を食べる。夏は乳製品を食べる。
89-3　食べものが足らない　(341)18-35
穀物はホリシャだけでは足らない。
89-4　穀物のつかいみち　(341)18-37
穀物は買っただけ，みんな自分で食ってしまった。イヌに粟をやっただけで，別のアイルにはやらなかった。

揚げ菓子

63-110　ボーボ［揚げ菓子］のつくりかた　(S)8-9
白麺を練って，それにソーダを入れる。マントーとおなじように，発酵させてくさくなったところで，板の上にたいらに伸ばして，ちいさく切って，シャル・トスをとかした油のなかに入れて揚げる。Sの話。

タバコ

89-6　タバコ　(26)5-67

タバコは吸わない。

魚と鶏

89-8　魚と鶏　(56)4-23

魚は食べた。うまい。多倫で食べた。鶏は食べたことがない。

89-10　砂糖（7)5-62

１年に１戸あたり，１～２斤の砂糖の配給がある。

シュー

89-12　シュー　(101)7-43

塩でもない，*ホジル*でもない，シュー［硝］というものがある。北のほうにはある。ダライ・スム付近にある。またコショー・スム［旗の寺］のほう（ダブス・ノール）のほうにもある。

89-13 塩　(51)3-78

南のほうにダブスタイ・ノールがあるが，遠いので，塩は*ホリシャ*からもらう。

89-14　*ホジル*　(50)3-52

お茶に*ホジル*を入れる。［図譜25は（50）で描かれたもの］

漬けもの

89-16　漬けもの　15-73

*テメーネイ・グフ*という木の実。学名は忘れた。中尾に聞くこと。それを塩漬けにしてたくわえてある。モンゴルの漬けもの。

茶の消費量

89-208　茶の消費量　(61)21-54

去年は20枚。

89-18　茶の消費量　(341)18-37

茶は年に15枚。

89-19　茶の消費量　(32)21-46

年に18枚。

89-20　茶の消費量　(33)21-49

年に12枚。

89-21　茶の消費量　(336)17-95

年に５～６枚はつかう。ことしは夏に２枚買っただけ。去年ののこりが４枚あったので，なんとか続いてきたのである。

89-22　茶の消費量　(267)41-87
茶は年に10数枚要る。
89-23　茶が足らぬ　(270)14-98
茶は，ホリシャで２～３カ月に１枚しか売ってくれないので，それではとてもたりない。それで，茶かすの沈殿したのをもう１度わかして飲んでいる。よそからはどこからも買えない。
89-24　茶の消費量　(189)9-49
茶は年に10枚くらい消費する。
89-25　茶の消費量　(192)9-71
１年に２包み。去年は２包みを買った。ホリシャで買った。
89-26　茶の消費量　(137)8-52
ことし，茶を20枚買った。

茶の値段

89-28　茶の値段　(341)18-37
ホリシャで買うと，春は１枚３～４円。いまは50円。
89-29　茶の値段　(341)18-37
漢人から買うと，いま１枚120円。
89-30　茶の値段　(32)21-47
ホリシャで５円，マイマイで20～25円。
89-31　茶の値段　(33)21-49
15円。北牧場の管理所で売ってもらった。現金で買う。
89-32　茶の値段　(276)15-56
茶はホリシャで月に１枚ずつの割合で買う。値段は月によって一定していない。

茶を買う

89-34　茶を買う　(32)21-47
茶の消費量，年に18枚のうち，ホリシャから７枚買った。
89-35　茶を買う　(33)21-49
茶は12枚。北牧場の管理所で15円で売ってもらった。現金で買った。
89-36　茶を買う　(276)15-56
茶はホリシャで買う。月に１枚ずつの割合で。代金は月によって一定していない。
89-37　茶を買う　(336)17-95
ことしはホリシャで夏に茶を２枚買った。ほかに茶を買ったことはない。去年の買いだめののこりが４枚あったから，何とか続いたのだ。

89-38 茶を買う (336)17-95
去年は茶をたくさん買った。そののこりが4枚あったので，ことしは何とか続いた。
89-39 茶を買う (270)14-98
茶は旗公署（ホリシャのこと）で買う。しかし，2～3カ月に1枚しか売ってくれない。よそからはどこからも買えない。
89-40 茶を買う (266)14-67
茶はあちこちで買う。ホリシャでは買わなかった。マイマイから買う。西スニトの大蒙公司から買う。
89-41 茶を買う (189)9-49
茶はホリシャまたは大蒙公司から買う。年に10枚くらい消費する。
89-42 茶を買う (189)9-49
茶は，ことしは買っていない。
89-43 茶を買う (192)9-71
茶はホリシャで買う。ことしは買っていない。去年は2包み買った。
89-44 茶を買う (189)9-50
去年2包み買った。ホリシャで。
89-45 茶を買う (93)6-74
茶はホリシャで買う。（大蒙公司のことらしい。）ことし27枚買った。

酒

89-47 酒 (255)13-22
むかしは正月に酒を飲んだ。白酒（パイチュウ）を飲んだ。いまは酒が手に入らないので，飲まない。
89-48 正月と酒 (255)13-22
むかしは正月には酒を飲んだ。白酒を飲んだ。いまは酒が手に入らないので，飲まない。

食事の例

89-50 食事の例 (251)13-6
スーテイ・チャイ［乳茶］のなかに腸子（チョウズ）と肉を少々入れる。粟を入れる。娘，食事をはじめる。
89-51 食事の実例 (51)3-78
18時過ぎ，女2人，しきりに茶を飲む。お椀の中にホロート（チーズ）のかけらが入っている。

ごちそう

89-53　ごちそう　(51)3-76

ドルガルが食事の準備にかかる。肉をもってくる。われわれの与えた白麺でうどんをつくるつもりらしいが，彼女にはできない。バトーがうどんをつくる。女は肉を切る。女は白麺の料理ができないのだ。

89-54　屠殺とごちそう　(51)3-77

２～３日まえに，東スニト旗の山田顧問がここに来た時にヒツジを１頭殺してごちそうした。顧問はここには泊まらずに，貝子廟の方へ行った。ヒツジを屠殺したのは，ジャンギがここのヒツジを殺せと言ったからである。

肉をもらう

89-56　肉をもらう　(270)15-2

ことし，ヒツジ１，ヤギ１，ゴンチクの家からもらって食った。お金は払わない。

肉の味

89-58　肉の味　(255)13-21

ことし子どもを産んでいないウシは脂がのっていてうまいので，それを他人から買ってきた。４歳のメスウシ。

89-59　ヒツジの肉　(255)41-21

東スニトと西スニトは，あまりかわらない。西スニトのヒツジの肉がうまいということはない。

肉のたくわえ

89-61　肉のたくわえ　(341)18-34

夏は屠殺をしない。冬に殺した肉が，翌年の夏まで残っているのである。

89-62　干し肉　(263)41-77

冬殺した家畜，ヒツジの肉で乾燥肉をつくる。夏のたくわえ。

ラクダの肉

89-64　ラクダの肉　(245)10-72

ラクダの肉は食べる人がいない。それはなぜだか知らない。

肉を買う

89-66　肉を買う　(278)15-68

ことしは屠殺しないで，人から肉を100円ほど買った。

89-67　肉を買う　(76)5-30
サンジ・デムチのヒツジ飼いをした給料としてもらった40円で，肉を買った。肉はチョエキムスという人から買った。どこにいる人かわからない。

死んだ家畜の始末

89-69　死んだ家畜の始末　(273)15-34
10月15日の吹雪でメスウシが死んだ。この近所で死んだ。いまその死んだウシの肉を食っている。
89-70　死んだ家畜の始末　(277)15-61
10月15日の吹雪でヒツジが全滅した。10頭。ことしは屠殺をしないで，その肉を食っている。
89-71　死んだ家畜の始末　(270)15-2
去年ウシがハモで４～５頭死んだ。これは痩せて死ぬので肉がない。イヌが食ってしまった。
89-72　死んだ家畜　(267)41-87
吹雪で20頭死んだ。人手があれば皆もってくるのだが，人手がないので，捨ててしまった。
89-73　死んだ家畜の始末　(189)40-9
去年は20数頭が病気で死んだ。もちろん，皮は取り，肉も食う場合もある。
89-74　死んだ家畜　(267)41-86
ことし20頭のヒツジが虫と病気で死んだが，夏死んだので，肉がわるくて食べなかった。
89-75　死んだ家畜の始末　(189)9-39
去年ヒツジが20頭ほど病気で死んだ。皮は取った。肉も食った。
89-76　死んだウシの始末　(89)6-39
オオカミにかじられた家畜は食わない。捨ててしまう。
89-77　死んだ家畜　(76)5-28
５日まえに，当歳子ウシがオオカミにやられて死んだ。昨日もきょうも，その肉を食べている。
89-78　死んだ家畜の始末　(73)5-6
３日まえにウシが１頭オオカミにやられた。いま，その肉を食っている。
89-79　死んだウシの始末　(29)1-54
去年11月に当歳子ウシ１頭，ことし２月にメスウシ１頭が死んだ。肉を食べたか？食べなかった。冬は（ウシの身体の）肉が少ないからである。
89-217　死んだ家畜の始末　(108)21-56
ことし，オオカミに10頭以上（ヒツジ）やられた。いま，食っているのは，そのオオカ

ミにやられたヒツジである。

ユウ麺を食べるとき

89-81 ユウ麺を食べるとき (45)3-23
ユウ麺は，毎日は食べない。だいたい，麺類はあまり食べない。食べるときは夜食べる。
89-82 *ゴリル*を食べるとき
［無記入。カード89-81の裏面］

食料買い出しの分量

89-84 食料買い出しの分量 (89)6-47
去年11月にキシクトンへ行った。白麺200斤くらい，粟10数斗。
89-85 食料買い出しの分量 (89)6-46
４月トゥムルタイで，白麺200斤，粟10数斗。分量はあまり多くない。いまだ少しのこっている。もうあと１カ月分くらいある。
89-86 食料買い出しの分量 (89)6-46
ことし，いま買い出しに行っている。トゥムルタイ。白麺500～600斤，粟40数斗を買うつもりで行っている。

食料買い出しの代金

89-88 食料買い出しの代金 (89)6-46
まえにはトゥムルタイまでヒツジを追って行ったこともある。また現金をもっていったこともある。ことしは，西スニトのホリシャにヒツジを30頭売った。その代償としてトゥムルタイで食料を受けとる。それをもらいに，いま行っている。

食料の買い出し

89-90 食料の買い出し (341)18-35
ことしは，白麺100斤，ホリシャ，11月。
89-91 食料の買い出し (341)18-35
去年は，ユウ麺100斤，白麺100斤，乾燥粟100斤，粟100斤，ホリシャで，２回に分けて買いに行った。
89-92 食料の買い出し (341)18-35
ことし，ホリシャに11月に行った。きょうまた牛車をもって買ってくる。
89-93 食料の買い出し (373)20-33
このあたりでは，宝源県のなかへ買いに行く。
89-94 食料の買い出し (272)15-14

いつもシンディーの漢人のところで買う。ことしはまだ買っていない。ことしはウシがないから。

89-95　食料の買い出し　(272)15-14

ことしは1回も行っていない（シンディー）。去年は冬に1回行った。*チャガン・ゴリル*［小麦粉］200斤，ユウ麺30斤，乾燥粟10斗，普通の粟7斗。

89-96　買い出しの旅　(272)15-15

ヘレート・シンディー。夏の間はウマで少しずつ運んできた。

89-97　食料の買い出し　(275)15-47

食料はシンディーから買う。

89-98　食料の買い出し　(275)15-47

ことし，粟10斗，麺類（白，ユウ麺，粟など）200斤，シンディーで。

89-99　買い出しの旅　(275)15-47

買い出しの旅には行かなかったが，少しずつもってきた。シンディーで買う。2～3回に分けて行った。主人が行った。

89-100　食料の買い出し　(276)15-54

食料はシンディー（ヘレート・シンディー）で買う。

89-101　食料の買い出し　(276)15-55

ことし，ヘレート・シンディーでも買った。粟4斗と麺類100斤。

89-102　食料の買い出し　(277)15-62

食料はあちこちからもってくる。例えば，シンディーなどから買ってくる。主人が行く。ことし何回も行った。何回行ったかわからない。

89-103　食料の買い出し　(278)15-70

食料はシンディーから買う。主人が行く。ことしは1回行った。10月に行った。*ボダー*［キビ］3斗，*ゴリル*［小麦粉］50～60斤。息子がもって帰ってきた。現金で買った。

89-104　食料の買い出し　(287)16-57

漢人のところへ食べものを買い出しに行く。ことし1回行った。11月中旬。麺，粟を少し買ってきた。（いま，布袋に半分ずつある。）

89-106　食料の買い出し　(288)16-61

食料は漢人のところへは買い出しに行かない。民政科長の家でもらう。

89-107　食料の買い出し　(297)17-23

食料は*ホリシャ*から買う。漢人の農民からは買わない。

89-108　食料の買い出し　(295)17-34

食料は全部*ホリシャ*で買う。漢人から買ってくるのではない。

89-109　食料の買い出し　(299)17-50

ダルゴエ集落。食料は買い出しに行かない。全部*ホリシャ*で買う。

89-110　食料の買い出し　(310)17-62
ダンジン，ゴージョ，ドゴルの家の妻は，アイルの乳をしぼるけれども，食べものは各自の家においてホリシャから買ってくる。
89-111　食料の買い出し　(335)17-85
食料はホリシャ（ハナ・ハダ・スム）で買う。それ以外にホリシャに物がなければ，直接漢人から買う。
89-112　食料を買う　(335)17-86
ホリシャで，白麺，ユウ麺，粟すべてで300斤ぐらい，ことし買った。お金は借金している。
89-113　買い出しの旅　(335)17-90
第13佐の人が２人，ホリシャへ買い出しに行く途中。牛車６台をもって来ている。５～６軒分の食料の買い出しをたのまれた。
89-114　食料を買う　(267)41-88
白麺は高いからあまり買っていない。100斤ほど。粟（茶の）は１袋（100斤）。粟（粥の）は１袋。
89-115　買い出し　(267)41-87
トゥムルタイへ行く。ドルジが行く。
89-116　食料の買い出し　(270)14-98
ヘレートで10月，ことし１回。乾燥粟３斗，茶に入れる粟１斗，ユウ麺粉20斤を買ってきた。
89-117　買い出しの旅　(270)14-97
20里（10km）ばかり離れたヘレートというところへ買い出しに行く。牛車で行く。ことしは，となりの者と２人が１台の牛車で行った。
89-118　食料の買い出しの季節　(270)14-97
20里ばかり離れたヘレートというところに行く。いつとは決まっていない。食料がなくなった時に買いに行く。10月に１回行った。最近は行っていない。ことしはこの１回行っただけである。
89-119　食料の買い出し　(270)14-97
食料はボダー，ゴリルはすぐ近所のアラシャントの近くのヘレートというところへ買いに行く。ここから20里ばかりである。
89-120　食料の買い出し　(266)14-64
粟，白麺は（トゥムル）シュンティーで買った。９月に主人のダメルンが行った。アイルの牛車を借りて行った。
89-121　食料の買い出し　(262)14-16
粟も何も買わない。お金がないから。

89-122　食料の買い出し　(261)14-10
食べものはトゥムル・シュンティーから買う。父親が行った。粟を２種類おのおの30斤ばかり買ってきた。*ゴリル*なし。牛車１台で行った。最近買ってきた。
89-123　食料の買い出し　(255)13-18
去年，トゥムル・シュンティーにて，粟を買った。２種類の粟を合わせて12〜13桶を買った。*ゴリル*は買えなかった。
89-124　食料の買い出し　(255)13-18
食料の買い出しにはトゥムル・シュンティーへ行く。ことしはまだ行っていない。去年は行った。ラクダで行った。
89-125　食料の買い出し　(192)9-70
ことしは食料の買い出しに行かなかった。
89-126　食料の買い出し　(192)9-70
去年は食料の買い出しに貝子廟に行った。粟５〜６斗。白麺300斤。
89-127　買い出しの旅　(192)9-70
ことしまだ買い出しに行っていない。ことしは*ホリシャ*が貝子廟に行くときに一緒に行きたいと思っている。去年は*ホリシャ*が貝子廟に行った。
89-128　*ホリシャ*の買い出し　(192)9-70
ことしは*ホリシャ*が貝子廟に行くときに一緒に買い出しに行きたいと思っている。
89-129　食料買い出し　(221)10-27
マンダルト・スムのラマ，ゴンチク26歳。ガング54歳。トゥムルタイへ食料の買い出しに行った。寺の食料をである。ラクダを20頭くらい連れて行った。
89-130　買い出し　(250)12-93
ことしは，トゥムルタイで粟を買ってきた。ゴンチクが行った。
89-131　食料の買い出し　(189)9-48
麺類は買いに行かない。行けない。ことしはまだ麺類も粟をも買いに行かない。人から借りている。トゥムルタイへ買いに行きたいとかんがえているが，できるかどうか？
89-132　食料買い出し　(89)6-47
去年11月にキシクトンへ行った。安いという評判で行ったのだけれど，実際は高くて失敗した。
89-133　食料買い出しの旅　(89)6-46
トゥムルタイへ食料買い出しに行った。６頭のラクダを連れて行った。車なし。人はウマに乗って行った。
89-134　食料買い出しの季節　(89)6-45
食料買い出しは，去年は11月ごろにキシクトンへ。ことしは４月にトゥムルタイへ。ことしはいま行っている，トゥムルタイへ。まだ帰ってこない。

89-135　食料買い出しの場所　(89)6-45
食料はトゥムルタイへ買いに行く。
89-136　買い出し　(136)8-11
去年は貝子廟に行った。貝子廟の大蒙公司で買う。ジャラー・スムの大蒙公司には物がないから。茶，白麺などを買って帰った。
89-137　買い出し　(136)8-11
食料はトゥムルタイ，貝子廟で買ってくる。ことしはまだ行っていない。トゥムルタイへ行きたいと思っている。オンゴ（シャグドゥルの姉の子ども，ラマ31歳）が行く。
89-138　買い出し　(136)8-11
買い出しはウシを連れてゆく。そのウシをやって食料をもらってくる。食料はラクダに積んでもって帰ってくる。
89-139　買い出し　(137)8-44
粟や麺類はトゥムルタイから買う。
89-140　買い出しの旅　(137)8-45
トゥムルタイで粟を買って来てくれるようにダンディンシャワーにたのんだ。買い出しはラクダで行った。ラクダに積んで帰ってきた。
89-141　買い出し　(138)8-61
３日まえにトゥムルタイから帰ってきた。ホリシャの仕事で行った。帰りに粟，乾燥ボダーを買ってきた。麺類はなし。茶もなし。
89-142　旅行　8-84
グフ・トロガイのラマ。８人旅行に出ている。
89-143　寺の買い出し　8-86
８人のラマが旅行に出ている。みなトゥムルタイへ食料を買い出しに出かけたのである。
89-144　買い出しの旅　8-86
グフ・トロガイのラマ，８人で行った。トゥムルタイへ。食料を買い出しに。ラクダを30頭くらい連れて行った。
89-207　食料を買う　(61)21-54
去年，白麺100斤，ユウ麺100斤，ホーライ・ボダー８斗，粟４斗。ホリシャより，または寺より。
89-220　食料の買い出し　(108)21-57
この冬は，トゥムルタイへ買い出しに行くつもりである。

食料の消費量

89-146　食料の消費量　(297)17-25
となりの女は乳しぼりに雇った女。小ものと食べものを与える。１人１日につき，半斤

ずつの麺と粟をやる。
89-147　食料の消費量　(189)9-49
６月に大蒙公司から買った麺類は，もうほとんどなくなってしまっている。６月には120斤を買ったのである。
89-148　食料の消費量　(192)9-70
去年は，粟５～６斗，白麺300斤を買った。それがもう足りなくなりかけている。
89-149　食料の消費量　(255)13-18
去年の買い出しは，粟を12～13桶。ことしの春まであったが，もうなくなった。
89-219　食料が買えない　(108)21-57
食料が買えないので，穀類，粟は食べられない。

穀物の値段

89-151　穀物の値段　(341)18-36
ことし，*ホリシャ*で，白麺は１斤110銭。ユウ麺は１斤110銭。*ホーライ・ボダー*［煎ったキビ］は１斤80銭。粟は１斤80銭。
89-152　穀物の値段　(341)18-36
去年，漢人から買った穀物の値段は，白麺１斤70銭，ユウ麺１斤70銭，粟（乾燥，生）１斤50銭。
89-153　穀物の値段　(341)18-37
去年の*ホリシャ*での値段は，白麺およびユウ麺１斤50銭。粟（乾燥，生）１斤40銭。
89-154　穀物の値段　(346)18-52
*ホリシャ*でことし，ユウ麺110円，白麺110円。
89-155　穀物の値段　(346)18-53
ことし，漢人から，粟100斤，80円，*ホーライ*［乾燥の意。煎ったキビを指す。］100斤，80円。
89-156　食料の値段　(32)21-46
白麺１斤３円。粟１斤70銭。宝源の漢人から買う。

食べものを買う

89-158　食べものを買う　(341)18-35
食べものは*ホリシャ*だけでは足らない。漢人からも買う。
89-159　食料を買う　(341)18-36
*ホリシャ*だけでは足らないので，漢人から買った。去年。白麺400斤，ユウ麺200斤，*ホーライ・ボダー*［煎った粟］300斤，*ホノグ・ボダー*［生の粟］100斤。
89-160　食料を買う　(346)18-53

ことし，*ホリシャ*から，白麺500斤，ユウ麺200斤。漢人から，粟（小米）［中国語で小米はキビ。粟とあるのはすべてキビのこと］200斤，*ホーライ*200斤。これで１年分。

89-161　食料を買う　(32)21-46

白麺300斤，粟600斤。宝源の漢人から買う。

89-162　食べものを買う　(99)7-34

去年，大蒙公司で白麺を１袋買った。粟を３斗買った。

89-163　食べものを買う　(269)14-93

食べものはシャルブが買ってくる。どこで買ってくるのか知らない。

89-164　食べものを買う　(93)6-74

去年は粟を２回買った。*チャガン・ゴリル*も買った。どちらも人にたのんで買って来てもらった。ことしは１回も買っていない。どちらもまだ少し残っている。

89-165 食べものを買う　(47)3-32

去年，麺類を少し，*ホリシャ*で買った。少しずつ何べんも買った。いくら買ったかわからない。ことしは，食べものは何も買っていない。

食料のたくわえ

59-255　食べもののたくわえ　(93)6-73

ことしは食べものを買わなかった。いまある粟は，去年に買ったもの。いま２シンある。（10シンで１斗＝30斤）

59-256　食べもののたくわえ　(51)3-75

観察：粟は，25×25×３。*ウルム*，直径30，高さ20の桶にいっぱい。ラクダの乳，*モドン・ガン*［木桶］にいっぱい。*アルチン・ホロート*は，麻袋に４分の１。*ウルム*は80×45×23の*ガプチク・モドン・ガン*［木桶］にいっぱい。干し肉は，お盆にいっぱい。直径30。

89-167　食料のたくわえ　(271)15-7

観察：家のなかに，粟４袋，麺類３分の２袋ある。

89-168　食料のたくわえ　(277)15-63

観察：室内に布袋２袋。麺［小麦粉などの粉のこと］と粟が入っている。

88-37　シン（升）　(93)6-73

このマスに１杯を１シンという。（*ニグ・シン*）

10シンで１斗＝30斤。１シンは３斤。（粟）※

着もの

晴れ着

60-3　晴れ着　(255)41-19

晴れ着をきるのは正月だけ。年始まわりは晴れ着でゆく。子どもも何日間かこれを着ている。
60-4　晴れ着　(255)13-23
晴れ着をきるのは正月だけである。

綿布

60-6　綿布　(387)24-26
去年，乳あつめの見返り物資として綿布がくるはずであったが，こなかった。タバコ，糸，タオルがきた。
60-7　綿布　(276)15-56
ことしは，綿布はぜんぜん買っていない。
60-8　綿布　(270)14-98
綿布（ワラー）を買っていない。
60-9　綿布　(266)14-67
ことし，綿布を２尺半買った。ホリシャ［購買販売組合］で。
60-10　綿布　(99)7-34
ことし，綿布を少し買った。大蒙公司から買った。
60-11　布　(136)8-12
布も食料とおなじく，貝子廟へ行って買う。ジャラー・スムのは高い。

服のそで

60-13　服のそで　7-60
伸ばすと，おそろしく長い。にぎりこぶしがすっぽりとかくれ，その先にまで30㎝以上あまっている。

着ものの変遷

60-15　着ものの変遷　(373)20-28
服装などは，むかしからあまりかわっていない。ただ，まえは革の上着では横の切れ目がいれてなかった。革に横の切れ目がはいりだしたのは，この10年くらいの傾向である。
60-16　着ものの歴史　(21)21-42
北牧場のマイマイ［商人］。絹織物の売れゆきが最近へった。

着もの

60-18　着もの　(265)41-83
着ものは兄貴のお古。５～６年まえに，そで口の毛皮の部分を自分でこしらえた。

60-19　着もの　(265)41-83
いま着ている着ものは兄貴のお古である。帽子も兄貴のお古。
60-20　着ものの数　(109)8-29
冬の服は２着ある。靴は１足。

住まい

貸家

61-3　貸家　(387)24-34
集乳所の建物はダメルンスルンの持ちもの。ホリシャから［フィールドノートに「ホリシャの方で」］家賃を出して借りている。家賃はいくらだか，まだわからない。だいたい，月に300～500円くらいだろう。
61-4　貸家　(387)24-34
この建物はことしたてた。はじめからセパレーター［乳脂肪分離器］をすえつけるつもりであったわけではない。セパレーターは，一昨年はラシースルンの家にあった。この家がたって，空いていたので，ホリシャから借りたいと言ってきたので，家賃を取って貸す。

城壁

61-6　城壁　(272)15-9
ジャンギの父はここ（セルブン）にうつってきてから，ここに城壁をつくった。
61-7　城壁　(272)15-10
ここへ来てからも１回，匪賊に襲撃された。そのときはまだ，この城壁はできていなかった。城壁はそののちにつくったのである。城壁ができてからは，１回もやられていない。
61-8　城壁　(268)14-82
城壁はずっとふるくにつくったものである。ジャンギが子どものころからあった。先代のジャンギが匪賊の来襲にそなえてつくったものである。いつできたのか知らない。匪賊，八路軍がくる。

柳条

61-10　柳条　(255)13-28
マンハ［砂丘］のなかには，柳条はない。

柳条製品

61-12　柳条製品　(189)10-1

オニ［屋根棒］，ハナ［壁］は，ヌクセン・ゴルにこれを柳条でつくっている人がある。チャルンジャムチャという人。

61-13　柳条つくり　(58)4-31

ことし，ディンドゥー・ソムのまえのジャンギのフルという家から注文をうけて，ジャムバ［垣根］を２つつくってやった。ズボンをつくる綿布をくれた。

61-14　柳条の所有権　(58)4-30

柳条はどこのを刈ってもかまわない。ただ，アイルのすぐ近所のを刈ってしまっては，その家が寒くなって家畜もこまるから，そんなところは刈らない。どこのを刈っても罰せられることはない（旗公署から）。

61-15　柳条製品の注文　(58)4-31

柳条製品をつくっている。だれかが注文してくるのである。暇なときにつくってやると，着ものや食べものをくれる。

61-16　燃料としての柳条　(58)4-31

燃料としての柳条を刈って売る。去年エンゲル・スムのために柳条を刈ってやった。お礼に粟をくれた。

61-17　柳条の内職　(58)4-30

柳条の仕事をする。柳条でジャムバ，包などをつくる。燃料のための柳条を刈る。いずれも売る。

61-18　柳条製品を買う　(48)3-40

アルグ［かご］，ホロー，ジャムバなどは買ってくる。売りにくるのではない。こちらから買いにゆくのである。そんな品物をつかっている家をさがしてゆくのである。

61-19　ジャムバつくりの季節　(45)3-23

３月。５～８月までにつくる。４月は新芽がでる。そのときは枝がおれやすくて駄目である。ジャムバは，冬はつくらない。

61-20　ジャムバを売る　(45)3-23

注文によってジャムバを５つつくった。メーリン４つ。30円とヤギの革１枚とをもらった。メーリンがそれでよいと言った。ダメルンが１つ。10円と古ズボン（木綿）と麺を少しくれた。

61-21　ジャムバつくり　(45)3-22

ジャムバつくりがいちばんもうかる。長いので15尺。高さ４尺。１枚20円から25円で売る。１枚つくるのに，柳条を刈るのに１日。ジャムバを編むのに１日かかる。ことしは５枚つくった。去年はつくらなかった。

61-22　柳条製品　(44)3-16

かごと熊手は買う。どこでもよい。そんなものをつくっている家から買う。かごの大きいのを１つ，小さいのを近所のジョルから買った。ジャムバは自分でつくる。

61-23　ジャムバ　(41)2-81
去年，２つ売った。１つ15円。ことし，２つ売った。グフ・ノールの人へ。
61-24　アルグ　(41)2-81
去年，かごを５つ売った。旗公署へ売った。１つ10円。
61-25　カシャーつくり　(39)2-56
カシャー，ホローをつくる。１つつくると40〜50円になる。去年は旗にカシャー［囲い］，ホローをつくってやった。50円くらいくれた。ことしは６月から旗の学校の女子部（ダルヒン・スムの西）にカシャーをつくってやる。４人でつくっている。自分のほかはスニトのエンゲル・ゴルの人。
61-26　カシャーつくり　(39)2-59
近所のアイルでなにか仕事があれば，この男を連れてきて仕事をさせる。バトーと家でカシャーをつくった。当歳子ウシを入れる小さいカシャーで，10日ほどでできた。そのお礼として粟若干（何斤かわからない。２〜３斤）をくれた。ヒツジの肉をくれた。
61-27　アルグつくり　(39)2-56
現金収入の道としては，かごをつくる。しかし，ことしは，かごは１つもつくっていない。カシャーばかりをつくっている。
61-28　アルグつくり　(35)2-26
ことし，100くらいつくった。売る。値段は大きいもので10円。ふつう７〜８円。１個つくるのに２〜３日かかる。妻と２人でつくる。

ジャムバを買う

61-30　ジャムバを買う　(345)18-54
(345）の家のジャムバは廂黄旗で買ってきた。

柳条製品を買う

61-31　柳条製品を買う　(255)13-21
柳条製品を南のほう，ヌクセン・ゴルのほうから買ってくる。売りにくる人もあるし，買いにゆくときもある。

倉庫に入れるもの

61-33　倉庫に入れるもの　(109)8-29
夏には革の着もの，くつした，靴，帽子などを入れてある。冬には夏の服，羊を食べたら，そのヒツジの皮などを入れる。そのほか，食料も入れてある。アンペラ，お椀，やかん，鍋。よそのアイルから冬服を１着あずかった。
61-34　ジェールのなかみ　(137)8-43

いま，夏服，古靴，水桶（オスン・ソーロク）を入れている。いまは食料がない。冬は肉を入れる。粟があったら，倉庫に入れる。
61-35　ジェールに入れるもの　(137)8-44
食料の買い出しをダンディンシャワーにたのんだ。まだ彼の家においてある。2日まえに帰ってきた。いくら買ってきてくれたか知らない。受け取ったら，たくさんだったらジェールに入れておく。少しだったら家においておく。
61-36　ジェールに入れるもの　(137)8-50
秋の羊毛は，ことしは少し刈った。ジェールに入れてある。フェルトをつくるつもり。

ジェールをたてるについて

61-38　ジェールをたてるについて　(109)8-30
寺の境内にジェールをたてるについて，アイルからその寺のデムチとダーラマにたのみにくる。そのとき，お金も，家畜も別にもってこない。

ジェールにあずけ

61-40　ジェールにあずけ　(189)9-47
自分のジェールはない。マンダルト・スムの人にたのんで，よその人のジェールにあずけてある（秋刈った羊毛が）。
61-41　ジェールにあずける理由　(136)8-15
品物を寺にあずける理由は，あちこちうごきまわるためである。

ジェールの鍵

61-43　ジェールの鍵　8-28
ジェールの鍵はそのジェールの持ち主の家の人がもっている。
61-44　ジェールの鍵　(136)8-15
ジェールの鍵はオラン・ホトク・スムのラマがもっている。自分ではもっていない。

ジェールの所有権

61-46　ジェールの所有権　(109)8-30
ラマ以外の者のアイルのジェールのなかには，なにが入っているのか知らない。それは他人のものである。ときどき，アイルからやってきて，勝手に品物をとりだしてゆく。
61-47　ジェールを共同所有　(137)8-43
オラン・ホトク・スムのジェールは，グスキから買った。1つのバイシン［固定家屋］の半分だけ買った。もう半分はグスキがつかっている。1つのバイシンに入り口が2つある。

61-48　ジェールの持ち主　(136)8-15
バイシン（ジェールの）は，この家で建てた。他人にはつかわせない。他人の品物はいれないのである。

ジェールを買う
61-50　ジェールを買う　(137)8-43
オラン・ホトク・スムにあるジェールは，グスキから買った。その値段はチョエンジルが知っている。

ジェール
61-52　ジェール　(263)41-79
この寺にはアイルのジェールはない。
61-53　ジェール　(255)13-27
寺にジェールをもっていない。そんなものをもっている人は知らない。
61-54　ジェール　(189)10-2
ナムチャは，シリン・チャガン・オボとフルムとの兼任のラマである。ジェールはハジョー・スムにある。まえに，ハジョー・スムのラマであった。
61-55　ジェール　(248)12-88
なし。
61-56　ジェール　(189)9-47
自分でジェールはもっていない。人のジェールにあずける。
61-57　ジェール　(182)9-24
ジェールはもっていない。
61-58　ジェール　(184)9-28
グフ・トロガイ・スムにジェールをもっているという。ほかの人と一緒ではない。ラマのジェールでもない，という。（グフ・トロガイ・スムでは，アイルの個人のジェールは１つもないという話であったが……。）
61-59　ジェール　(185)9-30
なし。
61-60　ジェール　(186)9-32
なし。
61-61　ジェール　(109)39-50
ダライ・スムにおいてもアイルのジェールがある。
61-62　ジェール　(130)39-52
寺の家畜は近所の３軒のアイルにあずけてある。これらのアイルのジェールはない。

61-63　ジェール　(136)8-16
オラン・ホトク・スムのほかの寺には，こんな倉庫はない。グフ・トロガイにはあるかもしれない。ダライ・スムにもあるだろう。
61-64　ジェール　(136)8-15
ジェールのなかに入れて，寺にあずけるものは，食料として粟，着もの（毛皮の）。いまは寒くなってきたので，もって帰ってきた。夏はあずける。
61-65　ジェール　(109)8-28
ダライ・スムにもアイルが建てた固定家屋の倉庫がたくさんある。ジェールという。10ほどある。チャハルではジョール，スニトではゾエリという。モンゴル・ゲルのジェールはない。
61-66　ジェール　(109)8-30
ダライ・スムの自分の倉庫は人から買ったものである。まえにいたラマから買った。
61-67　ジェール　(S)8-36
ジェールといえば，チャハルでは土をほってジャガイモなどを入れておくところのことをいう。包のなかにほる。上に板をおいておく。冬のあいだイモをたくわえるのである。Sの話。
61-68　ジェール　(137)8-43
オラン・ホトク・スムにジェールを1つもっている。
61-69　ジェール　(143)9-2
グフ・トロガイ・スムには俗人のジェールは1つもない。みんなラマのジェールである。

ドゥン，ペン

61-71　ドゥン，ペン　14-21
チョルンビルの家はすでに移動をして，いない。そこであらわれたドゥン，ペンは，やはり固定化にともなうものではなかろうか？
61-72　ペン　(261)14-18
チョルンビルの家，家のそとにペンがある。ペンというのは，倉庫につかう羊糞の小屋。［図譜66参照］
61-73　ドゥン　(261)14-18
チョルンビルのアイル。家のそとにドゥンがある。ドゥンというのは，肉入れの羊糞の囲い。
61-74　ペン・ゲル　(58)4-29
柳条製の包を1つもっている。去年つくった。それまでは寺のなかにいた。
61-75　プンゲース　(45)3-24
泥のプンゲースをもっている。ホロートをほす。

ストーブ

61-77　ストーブ　(189)10-3

10年まえに張家口からマイマイが売りに来たのを買った。［図譜６は（189）で描かれたもの］

雪かき器

61-79　雪かき器　(261)14-18

チョルンビルの家，*ドゥン*の上に例の雪かき器がおいてある。

道具

61-81　道具　(400)24-41

戸棚３，*アブダル*（ながもち）２，食器棚１，茶碗５，茶飲み茶碗８。

61-82　道具　(297)17-26

家財道具で最近に買ったものはない。みんなむかしからあった。

61-83　道具　(261)14-17

チョルンビルの家。*ワール*［壺］４，*ソーロク*［桶］４，大きい水甕１*ガン*，大きい木製桶１*トン*。

61-84　道具　(86)6-10

パオ［包］２，*トログ*［五徳］２，*アブダル*［ながもち］２，*トゴー*［鍋］２，*ワール*［壺］１，*ソーロク*［桶］４。

61-85　家具　(84)5-84

*アブダル*２，箱１，木桶１，桶３，壺２，大鍋１，小鍋１，扁平型桶（大）１，おなじく（小）１，木桶（小）１。

包のなか

61-87　包のなか　(136)8-34

いまの包。*ハナ*［壁］６枚。枠なしの炉。*ジョーホ*［かまど］。*トログ*［五徳］。

包を売る

61-89　包を売る　(278)15-68

ここへきてから数年間は包だけですんでいた。17～18年まえに*バイシン*［固定家屋］をたてた。包は人に売ってしまった。ヒツジがなくてフェルトがないので売ってしまった。

包のつかい分け

61-91　包のつかい分け　(136)8-34

包が２つ。１つは居間。１つは仏間。しろいあたらしい包。
61-92　包のつかい分け　(86)6-10
包を２つもっている。１つは家族の居間。もう１つは仏壇用。
61-93　住み分け　(25)1-39
左から，炊事場，居間，客間。左から，ダワー，タルバン，ヤンジマーの３人。ダフチン，妻，娘の３人。ダンジンジャムスとダンジンの２人。※

ゲルをつくる

61-95　ゲルをつくる　(189)10-1
シャグドゥルがリン王のところにいたころ，ヌクセン・ゴルのムージャン［大工］をよんで，オニ［屋根棒］とハナ［壁］をつくらせた。トーノ［天窓］はネルン・ノイン（トスラクチ）から買った。

固定家屋と引っ越し

61-97　固定家屋と引っ越し　(369)20-43
固定家屋に住むようになってからも，やはりなにか事情があると引っ越しをする。そのときは，家の土壁の部分のみをのこして，木材その他の材料をたずさえてうつる。そして，それをつかってあたらしい家をつくった。

固定家屋をたてる

61-99　固定家屋をたてる　(387)24-35
家の新築に70,000円かかった。ことしのこと。家畜を売ってお金をつくった。材木は宝源から買った。
61-100　固定家屋をたてる　(373)20-26
Ｓの家が固定家屋をたてたのはスージ・オボにいたときからである。ここへ来てから４年になる。
61-101　固定家屋をたてる　(369)20-43
むかしは，固定家屋は漢人をつかって建てさせたものだが，いまではモンゴル人自身の手で建てた固定家屋の数も多くなってきた。
61-102　固定家屋をたてる　(275)15-48
ラマ，寺のなかに自分の固定家屋をもっている。736年に自分で建てた。その年に寺がクンホイからいまの位置に引っ越したのである。クンホイに寺があるときにも固定家屋をもっていた。
61-103　固定家屋をたてる　(278)15-68
この固定家屋をたてたのは17～18年まえ。それまでは，ここへうつってきてからは，固

定家屋なしで包に住んでいた。
61-104　固定家屋をたてる　(295)17-29
約10年まえに，この固定家屋をたてた。それまでは包にすんでいた。（ダライは漢人の帰化人。）
61-105　固定家屋をたてる　(109)8-30
むかしは，小さい固定家屋を１つ建てるのに，10円くらいでできた。
61-106　固定家屋をたてる　(136)8-16
寺の固定家屋（ジェール）は，この家で建てた。ずっとむかしに建てた。漢人をよんで建てさせた。

包と固定家屋

61-108　包と固定家屋　(387)24-25
冬は固定家屋のほうがよい。夏はモンゴル・ゲルのほうがすずしくてよい。しかし，いまは羊毛の供出がやかましくてあたらしいフェルトがつくれてないために，冬は寒いし，夏は雨がふったら漏るのでだめ。あまりモンゴル・ゲルに住まなくなった。
61-109　固定家屋と包　(360)18-64
移動したほうが家畜のためにはよいのだが，固定家屋に住むようになったので，うごけなくなってしまった。それなら，固定家屋をやめたらよさそうなものだが，固定家屋に住んでみると，包は寒くて，老人などはどうもいけないということになってしまったのだ。
61-110　包と固定家屋　(275)15-48
包と固定家屋とどちらがよいか？寺に住むときには，包より固定家屋のほうがよい。暖かい。家にいるときには，やはり五徳に火がある包のほうがよい。
61-111　包と固定家屋　(278)15-69
包と固定家屋とをくらべると，固定家屋のほうがよい。ヒツジがないから。包ならヒツジがないとこまるが，これ（固定家屋）なら羊がなくてもこまらないから。

固定家屋の歴史

61-113　固定家屋の歴史　(360)18-65
明安旗は張北，康保にいた時分は，50年くらいまえから固定家屋をもっていた。
61-114　固定家屋の歴史　(360)18-64
正白旗に固定家屋が普遍的になったのは，だいたい20年くらいまえのこと。
61-115　固定家屋の歴史　(373)20-21
エンゲル・チャガンにおったころは，すべてモンゴル・ゲルばかりで，固定家屋はなかった。それからチャガン・ホローにいたときも固定家屋をもっていたものはごく少ない。

固定家屋が増えたのは，ここへうつってきたあとからである。
61-116　固定家屋の歴史　(369)20-41
廂白旗を中心とするモンゴル人たちが固定家屋に住むようになったのは，民国になってからのことである。しかし，民国になってからも，その数は少なかった。この10年間ほどに固定家屋の数は急激にふえつつある。
61-117　固定家屋の歴史　(369)20-41
固定家屋ができはじめたころ，はじめのうちは，固定家屋はあるにはあったが，数は少なかった。
61-118　固定家屋の歴史　(369)20-41
固定家屋が建ちはじめたころ，はじめのうちは，固定家屋は冬あたたかであったから，年寄りが冬に住んだ。若いものは，固定家屋はあたたかすぎてからだによくない，というので，冬でも包に住んでいた。また，固定家屋は倉庫としてつかっていたものも多かった。

固定家屋
61-120　固定家屋　(360)18-65
30年まえから，モンゴル人は固定家屋に住むようになった。
61-121　固定家屋　(360)18-65
最初に固定家屋をもつようになったのは，タイブスの左翼，および右翼旗，廂黄旗，アトーチン旗，正白旗の順番である。
61-122　固定家屋　(378)20-69
ジョクスンジャブは，夏はブドゥン・オボに住んでいる。ここにもブドゥン・オボにも，固定家屋がある。両方とも牧場が建ててやったものである。包だけ個人のもの。
61-123　固定家屋　(275)15-41
14年まえまでは徳化にいた。徳化にいたとき，むかしからぜんぜん季節移動をしていなかった。固定家屋を１つもっていた。ここへ引っ越してきてからは，固定家屋はない。
61-124　固定家屋　(278)15-70
家のまえにある固定家屋は，汽車公司の井戸のある固定家屋である。３～４年まえに建てた。
61-125　固定家屋　(268)14-83
いまの建物は，全部むかしからの固定家屋である。ジャンギの小さいときから，みなあった。

建築
61-127　建築　(290)16-67

いままで家をたてたり，*ホロー*をつくったりする仕事をあちこちでひきうけてやった。家をたてるのは，１人でたてるのではない。手つだいをたくさんつかう。家をたてるのは，むつかしいので，少し経験をつんだ特定の人間がところどころにいる。
61-128　建築　(290)16-67
いままで家をたてたり，*ホロー*をつくったり，そんな仕事をあちこちでひきうけてやった。*ホロー*をつくるのなら，モンゴル人ならたいていできる。

燃料

アルガリ

62-3　*アルガリ*［畜糞とくに牛糞］と人口　(260)41-44
西スニトは人間があつまりすぎている。それで*アルガリ*がたりない。皮毛公司も旗公署もそれでこまっている。顧問夫人がみずから*アルガリ*ひろいをしている。

避寒

62-5　避寒　(277)15-62
主人の母は，ここは*アルガリ*がなくて寒いから，ダライという人の*アイル*へ行って住んでいる。ダライは母の娘の家である。

*アルガリ*の値段

62-7　*アルガリ*の値段　(260)41-45
西スニトで*アルガリ*を買おうとすれば，いま200円くらいする。それを軍は４円で買う。だから，いやがって，もってき手がないということも聞いた。
62-8　*アルガリ*の値段　(260)41-45
徳化では*アルガリ*は牛車１台400円ということである。
62-9　*アルガリ*を売る　(S) 39-67
左翼あたりから宝源へ，冬は毎日，30台ぐらい*アルガリ*売りの車がゆく。Sの話。
62-10　*アルガリ*の値段　(S)39-67
左翼あたりから宝源へ売りにでる*アルガリ*は，去年の冬の相場で，１台80円（ウシの糞）。100円（ヒツジの糞）。まるで大もうけである。Sの話。

*アルガリ*を売る

62-12　*アルガリ*を売る　(387)24-37
南ワーヨ［瓦窯］の集落で（387）（392）（395）（399）をのぞくほかの*アイル*はみな，この冬，*アルガリ*を売りに行った。人手があって*アルガリ*が多ければ，みなだれでもゆく。（392）のガジトソーなどは貧乏だが，人手がないのでゆかなかった。

62-13　*アルガリ*を売る　(387)24-37
みんな*アルガリ*を売りに行った。1車200円まであがった。
62-14　*アルガリ*を売る　(387)24-37
1車350円から400円まであがった（顧問の話）。
62-15　*アルガリ*を売る　(386)24-45
1年間に*アルガリ*を買いあげた役所とその分量。
藤田部隊の出張所で300車。（1車3円80銭。ときにものをくれる。）衙門で2,000車以上。*ホリシャ*で500車。（衙門だけで金額にして30,000円以上はらった。）
62-16　*アルガリ*を売る　(386)24-45
宝源へ売りにきた*アルガリ*の量は，去年は，明安旗からのほうが左翼旗よりも多かった。値段は左翼旗のほうが高いという。50円くらいちがう。
62-17　*アルガリ*を売る　24-45
考察：*アルガリ*商売は，宝源県の必需物資としての*アルガリ*の要求と切りはなしてかんがえられない。同時に左翼旗民の宝源県への物資依存を見のがすことができない。
62-18　*アルガリ*を売る　(7)5-61
*アルガリ*を売りにゆく。
89-210　*アルガリ*を売る　(61)21-55
*アルガリ*その他で収入がある。

アルガリのたくわえ

62-20　*アルガリ*のたくわえ　39-68
ジュン・エリグン。このあたりは移動がはげしいので，*アルガリ*をまるでたくわえていない。われわれの隊が3日滞在しただけで，近所の*アイル*の*アルガリ*がすっかりなくなった，ということである。

ヒツジの糞

62-22　ヒツジの糞　(51)3-91
ラクダの糞のつぎに燃料としてよいのはヒツジの糞である。ヒツジの糞は，いまはない。冬営地においてある。
62-23　ラクダの糞　(51)3-91
ラクダの糞も燃料にする。よく燃える。燃料としては，ラクダの糞がもっともよい。冬のときに暖かい。
62-24　ヒツジの糞のできかた　(51)3-91
燃料としてのヒツジの糞は冬できる。だから，夏営地にはない。冬営地に置いてある。冬は子ヤギ，子ヒツジのほかの大きいヒツジ，ヤギもみんな*ホロー*［円形の家畜囲い］

のなかに入る。それで冬のホローの下には羊糞の厚い層ができる。

燃料――薪

62-26　燃料―薪　(257)13-43

燃料として近所でアルガリをひろうか，あるいはボットルガンの根っこなどをほって燃やしている。

畜糞の山

62-29　ショヴォータン　(B)15-74

ダルンに対して，アルグ［かご］1杯分くらいのごく小さいアルガリの山をショヴォータンという。（ショヴォータン・アルガリとはいわない。）

62-30　ダルン　(B)15-73

ダルンタイ・アルガリというぐあいにつかわれる。すなわち，チャハルふうに大きく積みかさねたアルガリの山のこと。これはイフ・アルガリなどとはいわない。

アルガリの積み場

62-32　アルガリの積み場　14-20

チャハル型の大きいアルガリ積み場。これの出現は，たしかにかなりの固定化にともなうものであろう。※

62-33　アルガリの積み場　14-19

ディヤンチ・ラミン・スムにいたるまでの谷間にあった，なんとかタイジ［台吉］の家では，もうすっかりチャハル型のアルガリの積み場をつくっている。このタイプはもうながらく見ていないが，多分，北牧場がその最後であったろう。初出したときは別に気がつかなかったが，あらわれてみると，あるなつかしさを感じる。S はまるでチャハルとおなじだと大いによろこぶ。※

アルガリと季節

62-35　アルガリと季節　(S)8-70

夏のあいだの糞には糞虫がついて，ばらばらになってしまうのだが，よく注意して，手早く処置をすれば，大丈夫である。シャベルで大きいアルガリをいくつかに切断して，それをひっくりかえして，天日に干す。すると虫がつかない。S の話。

62-36　糞と季節　(S)8-68

冬のあいだにした糞はすぐ凍ってしまうから，燃料としてはだめである。春，秋にした分，または去年の冬にした分をあつめてくる。S の話。

62-37　アルガリひろいの季節　(S)8-68

チャハルでは左翼旗など，冬のあいだもアルガリをひろう。自家用としてはちゃんと春のあいだにたくわえておくのだが，そのほかに宝源あたりへもってゆくためにひろう。宝源のマイマイが買う。Sの話。

アルガリあつめ

62-39　アルガリあつめ　(260)41-45

西スニトには人間があつまりすぎている。アルガリがたりない。この付近には家が少なく，近くのアイルに命じても，牛車のこわれたのをなおす木材が手に入らないとか，ラクダではこぶには箱や袋がないとか言ってあつまらない。

62-40　アルガリひろい　(252)13-5

婆さん36歳。アルガリをとりに行った。

62-41　アルガリあつめ　(93)6-65

いま，毎日アルガリをあつめている。これはここでつかう分。冬営地でつかう分はまた別に冬営地においてあつめる。

62-42　アルガリひろい　(51)3-88

ドルガル，かごと熊手をもってアルガリをひろいにゆく。かごのひもは首にかけて，左手に通すのである。

62-43　アルガリあつめ　(51)3-81

19時50分。ドルガルがアルガリを着もののまえにいっぱいつつんでもってくる。

62-44　アルガリひろい　(51)3-91

アルガリは毎日とりにゆく。たくわえはない。冬営地にもアルガリのたくわえはない。(羊糞だけある。) 冬も毎日，そとへアルガリをひろいにゆく。

馬糞の燃料

62-46　馬糞の燃料　8-33

馬糞もまた燃料としてもちいる。(現にわれわれのストーブでたいているもののなかには，たくさん馬糞がまじっている。)

糞の名まえ

62-48　糞の名まえ　(S)(B)8-32

一般にまるいかたちの糞をホルゴルという。ヒツジ，ヤギ，黄羊の糞もまるい。1つぶ1つぶは，みなホルゴルである。板状になったヒツジ，ヤギの糞はフルチンと呼ばれる。SとBの話。

62-49　糞の名まえ　(S)(B)8-32

ウシの糞はアルガリ。ヒツジの糞はフルチン。ウマの糞はホモール。ラクダの糞はテメ

ーネイ・ホルゴル。ＳとＢの話。
62-50　糞の名まえ　(S)(B)8-32
糞をしたてのゆげのあがっているようなのはバースという。バースは人間にでも，なににでも適用できる。ＳとＢの話。
62-51　糞の名まえ　(S)(B)8-33
普通，一般に，単に家畜の糞の燃料のことをいう場合には，*アルガリ*でよい。ＳとＢの話。
62-52　糞の名まえ　(S)(B)8-33
チャハルではしばしば，長方形に*アルガリ*を積みあげているのが見られるが，それに対しては特別な名称はない。ＳとＢの話。

狩猟

狩猟

53-2　アンチン［狩人］　(341)18-32
近所にアンチンはいない。
53-4　狩猟　(189)9-48
けもの（アラータン）はとらない。
53-5　狩猟　(85)6-2
鉄砲。筒込めの火縄銃。いまはつかっていない。むかしは，これでオオカミやキツネや*ゴロース*［ガゼル属一般のモンゴル語］をとった。いまは目がみえなくなったのでだめである。
53-6　狩猟　(89)6-44
去年は鉄砲をもっていた。去年ガゼルを20数頭とった。オオカミを１頭とった。キツネ，*ゲリス*，*マングス*はとっていない。
53-7　狩猟　(98)7-20
鉄砲，わなでキツネ，*ゲリス*，オオカミ，ガゼルなどをたくさんとった。多いときには１年に100くらいとった。いちばん多いのはガゼル。オオカミは多いときでも１年に１～２頭。キツネは年に７～８頭。*ゲリス*は年に７～８頭。
53-8　狩猟　(26)5-67
オオカミやキツネをわなでとる。去年はキツネ４頭，オオカミ１頭。また去年は，オオカミとその子どもをあわせて16頭，穴のなかでとらえた。
53-9　アンチン　(98)7-20
バトモンフの妻がヒツジ飼いなどをして働いている。本人はヒツジ飼いなどしたことがない。むかしは鉄砲，わなをもってもっぱらアンチンであった。
53-10　アンチン　(98)7-22

チムドドルジはわなも鉄砲もない。穴をくすべてゲリスをとる。それだけでもアンチンという。

鉄砲

53-12　鉄砲　(98)7-21

もとは鉄砲をもっていた。弾が手にはいらなくなったので，売った。火縄銃である。3～4年まえ買った人は，いまは死んで，いない。

53-13　鉄砲　(89)6-44

鉄砲をもっていたが，去年，衙門で徴発された。

53-14　鉄砲　(85)6-1

おそろしく旧式の鉄砲がある。筒込めの火縄銃。ガリン・ポーという。[図譜105]

53-15　鉄砲　(70)4-84

鉄砲はない。鉄砲は勝手に買うと旗から文句がでる。旗の許可をうけると買ってもよいのかどうかはわからない。

わなを買う

53-17　わなを買う　(45)3-24

ことしの正月に150円のわなを2つ買った。まだつかっていない。これでオオカミかキツネをとるつもりである。[図譜106]

わな

53-19　わな　(70)4-84

わなはもっている。ふるいものはだめになった。近所の家にあずけてある。あたらしいのは買えない。

53-20　わな　(98)7-21

わなは自分でもっている。

53-21　わなとけもの　(98)7-21

ガホワ（わな）はヒツジ，ウシなどが死んだところに，死骸のところに仕かける。キツネ，オオカミはこれでとれる。しかし，ゲリスはそんなところまで出てこないので，わなではとれない。

野生動物

動物の観察

49-2　動物の観察　0-6

張家口から粛親王府まで。[フィールドノートに「ハタリス数多し。チドリのようなトリ

２種」］
49-3　ガゼル［ウシ科のレイヨウの１属］の名まえ　0-14
［フィールドノートに「総称はゴロース（黄羊）。オスはオーノ，メスはゼールあるいはシャラクチン。子はオスメスともヤンザク」］
49-4　ガゼルの観察　0-9～12
粛親王府の南。［フィールドノートに「黒山子下の草原に入り，まもなく左方100メートルに黄羊１匹あらわる……」］
49-5　ハタリス　0-7
張家口から粛親王府まで。［フィールドノートに図解あり。］
49-6　ハタリスの巣　0-29～33
粛親王府にて。［フィールドノートに図解あり。］

オオカミ
49-8　オオカミ　(341)18-32
オオカミは近所にたくさんいる。みんなあつまったら20～30以上になるだろう。
49-9　ガゼル　(341)18-33
ゴロースは近所には少ない。
49-10　ネズミ　(373)20-29
ネズミはむかし（Sの家がここへうつってきたころ）から，いまとおなじようにたくさんいた。
49-11　ガゼル　41-16
ガゼルは最大で４～５頭，１頭で行動しているものもある。国境付近で見かけたような大群をなしていない。
49-12　ガゼル　41-15
ジャミン・ウブルジュー［冬営地］からの途中，ガゼルをたくさん見る。
49-13　オオカミ　(268)14-87
夏はオオカミが全部いなくなる。どこへ行ってしまうのか知らない。冬もいることはいるが，ごく少ない。１～２頭くらい。旗の兵隊が全部鉄砲をもってオオカミ狩りをするからだろうか？
49-14　ガゼル　(255)13-28
マンハ［砂丘を意味するモンゴル語］のなかにもゴロースは，数は少ないが，いることはいる。
49-15　ガゼル　(255)13-27
ゼール［ガゼル属の１種をさすモンゴル語］とゴロースとはおなじである。オスはオナ。メスはシャルフチン。子どもはヤンザグ（ことし生まれた子ども）。去年の子どもはもう

*ゴロース*になっている。
49-16　ガゼル　10-61
オルン・ホトク・スムからザリン・スムにいたる途中，タムチン・タラにあがる少しまえのところで，ガゼル約100頭（以下）を見る。
49-17　ガゼル　(104)39-10
ボットロから2,000～3,000メートルのところにガゼルの大群がいる。
49-18　オオカミ　(137)8-48
このあたりはオオカミが少ない。
49-19　オオカミ　39-69
エルグン・タラ。オオカミ１頭逃げた。
49-20　ガゼル　39-69
エルグン・タラ。ガゼル，丘一面のガゼルである。2,000以上だろう。加藤さん撃ったがあたらず。
49-21　ガゼル　8-74
フルムよりグフ・トロガイにいたる道。ガゼル40～50の群れ。まだ向こうの山の向こうにつづいて群れがいるらしい。
49-22　ガゼル　6-21
10月31日。タムチン・タラ。ガゼル６頭。そのあとから大群があらわれた。加藤さんの勘定によれば，80頭と150頭との２つの群れに分かれたという。数とり機によれば，あわせて163であった。
49-23　スズメ　5-79
ベーリン・スムはスズメがたくさんいる。
49-24　カラス　5-79
ベーリン・スムにはカラスがいる。ベニハシガラス，ワタリガラス（いちばん大型のカラス）。
49-25　ガゼル　(89)6-45
ガゼルは，このごろは東北，西北のほうに多い。しかし，だいたいどこにでも多い。
49-26　*ゲリス*［キツネに似た野生動物。モンゴル語］とり　(98)7-16
むかしは*ゲリス*をよくとった。若いときは１年に６～７頭もとった。いつもタムチン・タラへゆく。丘のところへはゆかない。
49-27　*マングス*　(98)7-16
*マングス*はマンハのほうにいる。
49-28　*タルバガン*　(98)7-16
*タルバガン*はアバガ［東スニトの東に隣接する旗］にいる。
49-29　*ブル・ゴロース*　(98)7-16

*ブル・ゴロース*は南のほう，マンハのなかにいるということだが，見たことがない。チャハルにいる。
49-30　*ゲリス*（98)7-22
*ゲリス*はタムチン・タラのまんなかにいて，出てこない。
49-31　ガゼル　4-58
ガゼルの群れ３頭。右前方400メートル。
49-32　ガゼル　4-58
ガゼルの群れ。11頭。はじめは草にかくれていて，４頭しかみえない。加藤さん，鉄砲をはなつ。草のなかから，にょきにょきあらわれ，11頭になり，集結してとまる。もう一発。あたらない。尾根をこえて，西へはしる。
49-33　キツネ　4-58
キツネがでた。イヌのカクとトクが追いかける。キツネはしだいにスピードを出して，ついに引きはなす。
49-34　ガゼル　4-57
ガゼル２頭。東200メートルを南へ走ってゆく。走っては止まり，止まっては走る。こちらを見ている。加藤さん鉄砲をもっておいかけたが，ものにならず。

ネズミの害
49-36　ネズミの害　(99)7-33
粟などを家においておくと，*ジョルマイ*［ネズミ］が来て食う。それでボロン・スムにあずけてある。

イヌとネコ
イヌの呼びかた
86-2　イヌの呼びかた　0-40
ゴルグ，ゲチェー，オルグチン，エル・ノホイ。

イヌ
86-4　ゲチ　(255)13-27
オスが２頭，メスが１頭いる。ゲチについて行って，何日も帰らないことがある。

イヌの名まえ
86-6　イヌの名まえ　(272)15-17
イヌ１頭いる。バルトという名まえ。
86-7　イヌの名まえ　(255)13-27

３頭ともトゥムルというおなじ名まえがつけてある。
86-8　イヌの由来　(255)13-27
イヌもともと２頭いた。去年メスイヌが１頭どこからかやってきた。いま３頭いる。

イヌのえさ
86-10　イヌのえさ　(341)18-37
イヌに粟をやった。
86-11　イヌのえさ　(270)15-2
去年，ウシが４～５頭ハモで死んだ。これは痩せて死ぬので，肉がない。イヌがみんな食ってしまった。
86-12　イヌのえさ　(89)6-37
イヌには粟を食わす。
86-13　イヌのえさ　4-76
６時45分。イヌ２頭，えさ（乳）をもらっている。
86-14　イヌのえさ　(51)3-86
ウルムをとったのこり，あとに鍋の底にこげつきがのこる。それを丁寧にはがしとる。これはイヌにやる。
86-15　イヌのえさ　(51)3-81
オチルとチェートンは，イヌのえさ箱をもってくる。そのなかに，ミルクを入れてやる。(19時45分)
86-16　イヌの寝どこ　(63)4-46
ソドノムツォクの家のまえに，小さい２つの穴がほってある。１つはイヌの寝どこ。もう１つはジョーホ［かまど］の土をほったあと。

イヌ
86-18　イヌ　(270)15-2
イヌは飼っていない。

ネコの役わり
86-20　ネコの役わり　(255)13-27
人のネコをちょっと借りて来ている。ネコは，別に何の役にもたたない。

ネコ
86-22　ネコ　(51)3-81
３～４年まえから飼っている。２匹いる。よその家からもらった。

86-23　ネコ　(261)14-7
ネコのことは，ここではモールでもミーでも通用する。しかし，ミーが基本的なかたちである。
86-24　ネコ　(261)14-7
去年，ホジリン・ゴルのアイルからもらった。それまではネコはいなかった。
86-25　ネコ　(270)15-2
これはよそのネコだ。どこからきたのか知らない。とにかく自分のネコではない。毎日あちこちのアイルにあそんでいる。どこへ行ってもよい。
86-26　ネコ　(272)15-17
ことしの夏からネコを飼っている。それまでは，別にネコはいなかった。
86-27　ネコ　(44)3-16
５年まえからネコを飼っている。
86-28　ネコ　(39)2-50
４～５年まえから飼っている。そのまえにはネコなし。ネコは家の内外のネズミをとる。ネコを飼うまえにはネズミが多かった。

ネコの名まえ

86-30　ネコの名まえ　(255)13-26
よそのネコを借りて来ている。名まえはない。ミーと呼ぶ。

6. 宗教

宗教生活

巡礼

65-3　巡礼　(136)8-10

26歳の娘，あちこちの寺をおがみに行った。1人で行った。ウマに乗って行った。

89-183　オタイ　(388)24-5

チュヌグドルジの子ども2人。および兄1人。みなラマ。オタイ［五台山］に行っている。いま，上の子ども1人帰っている。

葬式の費用

65-5　葬式の費用　(67)4-72

主人は2～3年まえに死んだ。ダツン・スムで葬式をした。ウシ1頭，ヒツジ，ヤギ3頭を寺にやった。

65-6　葬式の費用　(62)4-38

ことしの春，妻が死んだ。ヨンドンというラマにお経をよんでもらった。そのお礼に40円やった。（そのお金は，去年，ウシを売ったときに受けとったお金）（ヨンドンは旗寺の僧。）

廟会

65-8　廟会　(263)41-77

ホログ・スムでは，いま，廟会をやっている。寺にはシャブルンがいないので，ディヤンチ・ラミン・スムのシャブルンが行っている。

65-9　廟会　(255)41-19

近所の人が一緒にあつまるのは廟会である。

65-10　廟会　(255)13-23

廟会はガシャート・スム，ダライ・チョルジン・スムのチャム［仮面舞踊祭］などにゆく。女や子どもがゆく。男はいそがしくてゆけない。

檀家

65-12　檀家　(189)9-52

ボルハン［仏］をおがんでもらう僧は，どこの寺の僧でもよい。寺の寄付その他についても，まったくどこの寺も差別なし。

65-13　檀家　(192)9-72

仏をおがんでもらう僧は一定していない。
65-14　寺の関係　(189)9-52
寺との関係まったくなし。

寺へ寄付

65-16　寺へ寄付　(143)9-3
寺への寄付金の大小は，そのアイルの富の程度とは相応じていない。それは信仰の程度による。
65-17　寺へ寄付　(143)9-2
一昨年，3,450円の修繕をした。そのうち2,000円は寄付によった。
65-18　寺へ寄付　(143)9-2
寺の維持費は，寺の家畜を売ったお金と旗内をまわってつのった寄付金による。寄進帳はない。
65-19　廟への寄付　(109)7-84
家畜の寄付は，どのお経をよむときにつかってくれと言ってもってくる。それで，そのお経の名まえのついたジェス［寺所有の畜群］の所有物になる。何もいわずにもってきたときには，寺のなかで相談して，適当に分配する。
65-20　寺への寄付　(192)9-72
寺への寄付は，金もちでもなんでもかわりがない。こっちの自由意志で出すのだから。400～500円ばかり，寺へ寄付した。グフ・トロガイ・スム，シリン・チャガン・オボ，マンダルトの各寺に寄付した。
65-21　寺へ寄付　(90)6-56
去年は，ウマが300頭いた。いまは，150頭。30頭はシリン・チャガン・オボの寺にやった。あとはあちこちの寺（この近所の）にやった。こんなにして100頭くらいつかってしまった。あっても，どうせみんなオオカミに食われたりしてなくなってしまうので，それよりは寺にでもやったほうがよいとかんがえて，やってしまった。
65-22　寺への寄付　(S)4-53
寺で廟会のために寄付をつのってあるく。一般に，金もちの家では，たくさん寄付する。［寺からのみやげに］五台山のじゅうたんなどをもらったうちでは，ウシ１頭くらい。しかし，一般にはろくなものを寄付しない。痩せたヤギ，ヒツジなど。Sの話。
65-23　寺の寄付あつめ　(S)4-52
僧は廟会のために，寄付をあつめてまわる。お金，バター，家畜などをつのってあるく。そのときにも，檀家などはない。ただ，あちこちまわって，「どこの寺でどんな廟会をするから，寄付をたのむ」と言って，まわってあるく。Sの話。
65-24　寺への寄付　(64)4-52

寄進帳はあるが，その係の者が旗寺にいるのでわからない。
65-25　寺への寄付　(36)2-66
去年，夫が死んだ。去年は，ヒツジ100頭，ヤギ30頭くらいいた。夫が死んだとき，つかってしまった。寺（チョルタイ・スム）へもっていって葬式をした。そのとき，ちょうど自分も病気であった。ソムが勝手に家畜を寺へもっていって，葬式をしてしまったのだ。

ラマに相談

65-27　ラマに相談　(192)9-72
移動のことについては，ラマに相談しない。
65-28　ラマに相談　(137)8-43
移動の方向については，別に偉いラマに相談することはない。
65-29　ラマに相談　(86)6-7
営地の決定はラマに相談する。ベーリン・スムのシャブルンに相談する。マーワン［スニト左旗のマクサルジャブ公］には相談しない。
65-30　ラマに相談　(93)6-68
オヨンがここに居すわることを決定したのは，オヨンみずからの決心である。ラマには相談しなかった。
65-31　ラマに相談　(84)5-89
引っ越し先（移動先）の場所決めは，ラマに相談する。ベーリン・スムのシャブルンか，マーワンに相談する。移動のときは，いつでもラマに相談する。秋営地の位置もシャブルンに相談した。

ラマのお礼

65-33　ラマのお礼　(82)5-51
１回お経を読みにゆくと，ハダク［儀礼用の絹布］を１枚くれる。家畜，食べもの，お金などはくれない。金もちの家では，ハダク１枚のほかに，２～３円くれる。
65-35　ラマのお礼　(57)4-27
お経をよんでお金をもらうこともある。一定してはいないが，１年間に100～400円くらい入る。
65-36　ラマのお礼　(57)4-26
ヒツジは自分でころして食うこと，なし。人の家でお経をよんだり，働いたりしたときに，ヒツジの脚１本くれたりする。そのときには食べる。家によっては，何日間もお経をあげたり，働いたりすると，１頭まるごとくれることもある。

ラマと病気の祈祷

65-38　ラマと病気の祈祷　(192)9-72

人が病気になれば，ラマを呼んでお経をよんでもらう。家畜の病気についても，ラマを呼んでお経をよんでもらう。

65-39　ラマと家畜の病気　(192)9-72

人が病気になれば，ラマを呼んでお経をよんでもらう。家畜が病気になったときでもおなじである。

65-40　ラマと祈祷　(64)4-52

病気の祈祷をするラマはいない。

65-41　ラマの医者　(64)4-52

医者のラマはいない。

お経をたのむ

65-43　お経をたのむ　(64)4-52

お経をよんでくれとたのみにくる。

土をほる

65-45　土をほる　(63)4-46

ソドノムツォクの家のまえに小さい穴がある。ジョーホ［かまど］の土をほりとった。ダムディンの家のまえにも小さい穴がある。革をそのなかに入れてなめす。

65-46　ジョーホの土　(63)4-46

ソドノムツォクの家のまえに穴がほってある。1つはイヌの寝床。1つはジョーホの土をほりとったあと。

死人の名まえ

65-48　死人の名まえ　(62)4-43

屠殺はよその人にたのんだ。その人はもう死んだ。なんという人か？ 死んだ人の名まえは，モンゴル人はいえない。

物忌み

65-50　物忌み　(136)8-19

きょうは，アディヤと言って，他人にものをやってはいけない日である。だから，われわれの隊に牛乳をやるのは明日の朝にしてくれという。アディヤは1週間にいっぺんある。その日は，家によって「yanzu, yanzu, baina」［いろいろまちまちである］。ものをもらうほうはかまわない。

65-51　物忌み　(104)39-9
自分の先祖の命日には，人にものをやらない。おやじ，おふくろの命日，おじいさん，おばあさんでも，もし命日を知っておれば，やはりものをやらない。

オボまつりと女

65-53　オボまつりと女　(89)7-8
オボまつりには，女はゆけない。

オボまつりのヒツジ

65-55　オボまつりのヒツジ　(89)7-8
チャガン・ホショー・オボのオボまつりには，ボロンギン・スムのヒツジを4～5頭ころす。

オボまつりとラマ

65-57　オボまつりとラマ　(255)13-23
セーリン・バイン・オボのオボまつり。そのときにくるラマはガシャートン・スムのラマである。

オボまつり

65-59　オボまつり　(255)13-23
セーリン・バイン・オボのオボまつりにゆく。
65-60　オボまつり　(104)7-47
オボにはオボまつりをするオボと，オボまつりをしないオボとがある。オボのうえに棒（先にガンジョール［大蔵経の律と経］がついている）がたっているオボは，かならずオボまつりをするオボである。
65-61　オボまつり　(26)5-68
タリャーラン・オボのオボまつりには，この北牧場のなかの人間，およびトグロクからあつまってくる。
65-62　オボまつり　(26)5-68
南牧場のオボまつりには，この北牧場の者も，牧場の関係者は全部こちらから出かけてゆく。
65-63　オボまつりの主催　(89)7-8
チャガン・ホショー・オボのオボまつりは，ボロンギン・スムのラマが主催する。

お正月におがむもの

65-65　お正月におがむもの　(255)13-23

正月には，*ボルハン*，*テングリ*をおがむ。*ガリン・ボルハン*［火の神］はおがまない。

火のまつり

65-67　*ガリン・タヒルガ*［火のまつり］　(255)13-23

ボーズ［蒸し肉まん］，*ボーブ*［揚げパン］などをつくって食べる。

65-68　*ガリン・タヒルガ*　(255)13-23

*ガリン・タヒルガ*は，日取りは決まっていない。ラマがないので，ラマがきたときにとりおこなう。

オボ

65-70　*オボ*　(104)7-47

*トログ*のなかに*ボムボー*（陶器製のいれもの）をいれ，そのボムボーのなかに，いろいろの薬を入れて，*オボ*のなかにうずめる。そのうえに*ソロクシン*という木の棒をたてる。その棒の長さが創立者の資格によってそれぞれちがう。

65-71　*オボ*　(26)5-69

*オボ*はその土地を守護するものである。

シャーマン

65-73　シャーマン　(57)4-25

トルグートには，シャーマンがいる。ここのモンゴル人にもおなじ者がある。*ガルトゥム*という。トルグートでもおなじ。

ラマの生活

ラマと兵隊

66-2　ラマと兵隊　41-27

ハルハのスム［寺］，おそらく300人近いラマがここに住んでいる。ここは，ハルハは特務機関の管轄であるから，ここでは兵隊の徴集がおこなわれないからである。

ラマの学校

66-4　ラマの学校　(263)41-80

織物の学校がある。若いラマが全部交代で，１カ月に２人ずつならいにゆく。

ラマの医者

66-6　ラマの医者　(297)17-21

ヨンドンジャムスは医者である。寺に住んだり，家に帰ったりしている。シャビ［弟子］が1人いる。

66-7　ラマの医者　(297)17-21

ヨンドンジャムスは医者である。患者はモンゴル人ばかり，漢人は診察しない。

66-8　ラマの医者　(297)17-22

ヨンドンジャムスは医者である。病気はこちらから診察にゆくのもあるし，診てもらいにくるのもある。

66-9　ラマの医者　(160)8-84

バルトンドルジ。グフ・トロガイのラマ。マンダルトのラマの医者の学校に行っている。

還俗の理由

66-11　還俗の理由　(255)13-10

むかし，ラマだった。5年まえに還俗した。旗公署からハラ［俗人］になれと言ってきた。兄が長いあいだ病気であったから。その兄はハロール・ジャンギであった。自分はそれでホイグになった。

ラマとソム

66-13　ラマとソム　(143)39-90

寺はソムに属している。すると，ラマはソムからの命令がこないか？　それはラマの実家の家があれば，そちらのほうへ言ってくる。しかし，アイルがなければ，寺までは言ってこない。

還俗ラマのゆくえ

66-15　還俗ラマのゆくえ　(143)9-3

若いラマが10数人還俗した。たいてい兵隊に行った。また，ソムの勤務（タハルなど）についているものもある。ただ家に帰っている，という者はない。

66-16　ラマ還俗の命令　(143)9-3

ラマ還俗については，ソムから命令してきた。

ラマ還俗

66-18　ラマ還俗　(143)9-3

去年と一昨年と，あわせてラマが10数人還俗した。若いもの。

66-19　還俗　(106)39-43

もとは，ゴーリン・ハシャート・スムには40人くらいのラマがいた。一昨年，７～８人ラマからハラ・フン［俗人］になった。
66-20　還俗　(79)5-39
チェージャムス。まえからベーリン・スムにいたが，いまはここをさった。あるいはもう還俗したかもしれない。
66-21　ラマ還俗　(221)40-56
去年と一昨年の還俗で，このマンダルト・スムにおいても30数人が還俗した。
66-22　還俗　(255)13-10
むかしラマだった。還俗してから５年になる。
66-23　ラマ還俗　(44)3-9
ドルジ。30歳。独身。もとラマだった。去年還俗した。アングルト・スムにいて，寺に住んでいたが，還俗して家にかえった。還俗したのは，ソムからラマをやめさせたのである。
66-24　還俗　(58)4-29
去年，還俗した。それまでは，エンゲル・スムにいた。還俗して，柳条の包を１つつくって住んでいる。
66-25　ラマとソム　(58)4-30
去年，還俗した。どうせ，どこかのソムにはいらなければならない。ディンドゥーが近いから，それに入った。
66-26　ラマとソム　(58)4-30
ラマもその出身の家としてはソムに属しているが，ラマ自身はソムがない。

お経をよむ

66-28　お経をよむ　(265)41-82
少しお経をよむ。アイルにたのまれてお経をよみにゆくことなし。
66-29　お経のよみはじめ　(82)5-52
アイルをまわってお経をよみにゆきはじめたのは，18歳のときからである。どこのアイルへゆけということは先生が決めてくれた。
66-30　お経をよむ季節　(82)5-52
１年に４回，春，夏，秋，冬にお経をよんでくれとたのんでくる。アイルからたのんでくる。
66-31　ラマの命令　(82)5-53
アイルからお経をよんでくれとたのんでくるのは，まず，先生のデムチにたのんでくる。すると，デムチがだれだれにゆけと命令する。
66-32　ラマの読経　(82)5-50

いま，サンジとドルジは共同出資で建てた家のなかに住んでいるが，もともと２人は別に「xamaa uguei［関係ない］」。ただ，おなじバクシ［先生］の相弟子というだけである。
66-33　ラマの読経　(82)5-51
いま，サンジとドルジと一緒に住んでいる。そのほかに，ガルサンジャムスというのが一緒に住んでいる。彼は，２人と何の関係もない。先生も別であった。ハダト・スムのシャビ［弟子］だが，だれのシャビだか知らない。彼は，寺のなかに包をもっていないので，読経している。
66-34　ラマと先祖のまつり　(82)5-51
ラマが自分の父母のまつりをするときには，自分でしないで，ほかのラマがゆく。

ラマの出世

66-36　ラマの出世　(80)5-41
14歳のときにラマになった。25歳のときにゲレンになった。２年まえにデムチになった。
66-37　ラマの出世　(57)4-28
シャブルンは，転生であるから，なれない。ダーラマ以下は適当に下からあがってゆく。
66-38　偉いラマ　(57)4-28
東スニトのなかでは，シリン・チャガン・オボのヤンズ・ゲゲン［活仏］がいちばん偉い。
66-39　ラマと転任　(57)4-28
ラマには転任がない。寺をかわろうとおもえば，１度こちらを辞職して，よそで採用すればよいが，そうでなければだめである。
66-40　シャブルンの転生　(57)4-28
シャブルンが死んだら，そののち２年ほどたってから，偉いゲゲンのところへ行って，生まれ代わりの人をきく。

シャビ

66-42　シャビ［弟子］　(279)15-75
まえはヤンズ・ゲゲンのシャビであった。ヤンズ・ゲゲンと一緒にチベットからモンゴルにきた。
66-43　シャビ　(279)15-75
もとはタングート［チベット］のヤンズ・ゲゲンのシャビであった。ヤンズ・ゲゲンは，いまはタングートに帰ってしまっている。
66-44　シャビになる　(279)15-75
もとはタングートのヤンズ・ゲゲンのシャビであった。ヤンズ・ゲゲンはタングートに帰ってしまっている。いまはノイン・ゲゲンのシャビになった。西スニトで徳王のとこ

ろのノイン・ゲゲン・スムでシャビになった。いま，そのゲゲンのおともをして，ここへきている。
66-45　シャビ　(279)15-77
チュトゥム。シリン・チャガン・オボのゲゲンのシャビ。いまゲンドゥンと同居している。
66-46　シャビ　(297)17-21
ヨンドンジャムスは医者である。シャビが１人いる。ヨンドンと一緒に寺へ行ったり，この家に帰ったりしている。16歳。
66-47　ラマの学生　(82)5-50
ベーリン・スムのラマで，10歳から40歳の者は，すべて学生である。ひと月に２～３日の休暇がある。
66-48　シャビ (82)5-47
この寺の若いラマは，大部分，ダーラマのチャンガルブのシャビである。

バクシ
66-50　バクシ［先生］　(82)5-51
まえのバクシは死んだ。バクシが死んでからは，イシジャムソがお経をおしえている。しかし，これはバクシとはいわない。バクシは，唯一のもの。代わりのバクシをとることはない。お経をならうだけなら，だれでもよい。お経の先生はたくさんある。
66-52　バクシの供養　(82)5-49
去年，２歳子ウシを１頭，バクシの供養のために出した。それはジェスにあげるのである。

きょうだいとラマ
66-54　きょうだいとラマ　(265)41-82
男のきょうだい２人。ともにラマ，死んだ。自分もラマ。俗人の弟１人。妹１人，死んだ。
66-55　ラマときょうだいの数　(143)9-3
きょうだいの数が少なければ，旗公署はラマになることをゆるさない。３人おれば１人，５人おれば２人［はよい］。こんな制度になったのは，一昨年からである。

ラマになる
66-57　ラマになる　(265)41-82
12歳のときにラマになった。
66-58　ラマになる　(190)40-29

ラマになる子どもは，10歳くらいからラマになることもあるし，生まれるまえから決めておくこともある。
66-59　ラマになる　(143)9-3
ラマになるには，ちかごろはいちいち旗公署の許可をもらうのである。旗公署では，きょうだいの数によって許可する。きょうだいがすくなければ，ゆるされない。
66-60　ラマになる　(143)9-3
兵隊までの小さい子どもで，ラマになる者はちかごろ減った。
66-61　ラマになる　(82)5-47
９歳のときラマになった。父母が一緒にきて，偉いラマに，どうかラマにしてくれとたのんだ。それで，ダーラマのチャンガルブという人のシャビになった。
66-62　ラマになる　(81)5-43
若いときは俗人であった。俗人でムージャン［大工］であった。50歳くらいのときにラマになった。（しかし，この寺のラマのドルジのいうところによれば，彼はラマではなくて，俗人だという。）

在家のラマ

66-64　在家のラマ　(360)18-72
在家のラマは，むかしは少なかったが，いまはたくさんになった。それは，きょうだいやなんかが兵隊に出て，家に人手がなくなれば，ラマが家に帰らざるをえなくなったのだ。しかし，その起源はそんなあたらしいことではなさそうである。
66-65　在家のラマ　(268)15-79
ジャンギのナクチ・ラマ［ナクチは父方親族の意味］。ジャンギの父の弟である。耳がわるいので，家に住んでいる。
66-66　在家のラマ　(7)5-60
アイナン・ラマ［流浪僧］，家にいる。妻がある。三男ラマ，寺にいる。

ラマの妻

66-68　ラマの妻　(138)8-59
名義上の妹がいる。実際は妻である。娘がある。
66-69　ラマの妻　(99)7-37
弟はボロン・スムのラマである。所帯が別になっている。ラマであるが，妻がある。
66-70　ラマの妻　(7)5-60
スーフルドプチルの弟，次男坊。ラマである。しかし，家にいる。妻もある。三男のラマは寺にいる。

ラマの旅行

66-72　ラマの旅行　(279)15-77

インジェというラマ。これはすでに張家口へ行っている。5日まえに行った。

66-73　ラマの旅行　(279)15-77

チュトゥム。シリン・チャガン・ゲゲンのシャビ。5月にここへきた。まもなく張家口のゲゲンのところへゆく。

66-74　ラマと旅行　(S)4-52

用事がなければ，ラマは旅行しない。ただ，廟会のために寄付をつのるために旅行する。Sの話。

66-75　寺と檀家　(S)4-52

どこの家はどこの寺ということは決まってはいない。檀家がないのである。檀家総代もない。Sの話。

66-76　ラマと得意　(64)4-52

廟会のほかにも，このラマをおがみにくる人が少しはある。

66-77　ラマのまわる範囲　(57)4-27

お経をあげにまわる範囲は，近所だけである。東スニトのなか。2年まえまでは，チャハルへも行った。チャハルの左翼旗までは行った。

66-78　ラマの人生観　(43)3-5

自分はラマで一生をくらすつもりである。若い連中はそれについて，(還俗問題)，どうかんがえるか，それは知らない。

ラマの倉庫

66-80　ラマの倉庫　(109)8-28

アイルのジェールのほかに，ラマの倉庫がある。ラマの個人所有の建物。自分（チェードク）も1つもっている。

ラマ，家に帰る

66-82　ラマ，家に帰る　(316)17-57

ラシチルンの兄ラマ。旗寺のラマである。いま病気で家に寝ている。

66-83　ラマ，家へ帰る　8-85

ロブクはグフ・トロガイのラマ。家へ帰った。

66-84　ラマ，家へ帰る　8-85

ヨンダエはグフ・トロガイのラマ。家へ帰った。病気である。

66-85　ラマ，家へ帰る　8-85

ダムブルはグフ・トロガイのラマ。家へ帰った。

66-86　ラマ，家へ帰る　8-85
キムピルはグフ・トロガイのラマ。家へ帰っている。100歳くらいの母がいる。
66-87　ラマと帰り　(106)39-43
ラマは家がいそがしいときにも，家には帰らない。（チャハルでは，許可証をもらって帰ってくる。Sの話）
66-88　ラマの仕送り　(99)7-37
ダリマー（養女）の弟がボロン・スムのラマである。弟には実家がある。この家からは食べものなどを仕送りしない。
66-89　ラマと実家　(190)9-63
最近，兄が寺へゆくときにヒツジを1頭ころしてもっていった。その頭がまだ家においてある。
66-90　兄ラマとの連絡　(77)7-6
兄がボルハン・ラミン・スムのラマである。ときどき，あいにゆく。

ラマの仕送り

66-92　ラマの仕送り　(265)41-83
夏には姉のうち（そこへ自分の家畜をあずけてある）から，乳やホロートをとどける。

ラマの内職

66-94　ラマの内職　(138)8-56
オラン・ホトク・スムのラマ。グフ・トロガイのホリシャ［購買販売組合］のダールグ（つかいはしりのもの）をしている。グフ・トロガイとオラン・ホトクのあいだを往復している。家にはあんまりいない。
66-95　ラマと内職　(64)4-52
去年は，ウシの皮で革製品の内職をした。現金をもうけた。ほかのラマも，こんな仕事をするものもあり，しないのもある。
66-96　ラマの仕事　(44)3-12
寺では何も決まったことはしない。少しお経をよむ。
66-97　ラマの仕事　(43)3-2
寺のなかに住んでいる。寺のなかでは，別にこれという仕事がない。よそのアイルに働きにゆく。
66-98　ラマと内職　(58)4-31
いまは，還俗して柳条製品をつくって売っている。ラマであったときは，いそがしくて，こんな仕事はできなかった。

ラマと家畜あずけ

66-100　ラマと家畜あずけ　(64)4-51

自分の私有の家畜は，*アイル*にあずけてある。あちこちの*アイル*にある。ラクダはオチルに，30支里［15km］西。ウマはナムスライに，10支里（5km）西。ウシはチブク（女）に，寺の横100m。

66-101　ラマのウシあずけ　(43)3-5

ラマ。ウシをもっている。去勢ウシ。つねは，そのウシは寺の近所の人にあずけて管理をたのんである。

66-102　ラマと乳ウシ　(43)3-6

去勢ウシ以外もっていない。乳ウシがほしくないか？　乳ウシは，もしあっても，世話をする人がないから，ほしくない。

ラマと家畜

66-104　ラマと家畜　(265)41-82

家畜はウマ2～3頭，ヒツジ10頭ほど。それは，*アイル*にあずけてある。*アイル*というのは，姉のうちである。

66-105　ラマと家畜　(64)4-50

このチベット人のラマは私有の家畜をもっている。ラクダ（メス）1頭，メスウマ1頭，子ウマ1頭，メスウシ3頭，当歳子ウシ3頭，2歳子ウシ2頭。

66-106　ラマの財産　(43)3-3

ラマは，普通は，自分の生まれた家の家畜以外には，個人所有の家畜をもっていないのがふつうである。しかし，このヨンドンは，よそからきた人間で，ここに家がないので，自分の家畜をもっている。

66-107　ラマの家　(57)4-24

いま，エンゲル・スムのなかに住んでいる。自分の家はない。人の家に住んでいる。（トルグートの生まれ）

66-108　ラマの家　(44)3-13

寺のなかにまるいかたちの柳条であんでつくった家がある。自分でつくった。そこに住んでいる。寺のなかでは，たいていのラマはみんな自分の家に住んでいる。

寺の給与

66-110　寺の給与　(275)15-47

兄ラマの食料は，家からもってゆくのと，寺からもらうのとある。寺からくれる分は一定していない。なくなったら，寺にいえば，あればくれるし，なければ家からもってゆく。家からもってゆく分より，寺からもらう分のほうが多い。寺からは，食料のほかは

何もくれない。
66-111　寺の給与　(265)41-83
われわれについてきているラマ。靴カバーとヤギの外套をきている。どちらも寺のものを借りてきている。
66-112　寺の給与　(265)41-82
寺からはお金をもらわない。食べるものは，寺からもらう。寺では役はない。
66-113　ラマの給与　(263)41-79
ダーラマやオムジトは，自分で生活している。寺からお金はもらわない。
66-114　寺の給与　(263)41-76
麺類は毎日出す。
66-115　寺の給与　(263)41-77
サン［寺の財産庫］で食事を出すのは，ニルブ［寺の会計係］２人。来客があったら，サンで食事を出す。
66-116　寺の給与（143)8-87
毎朝のお経をよむときに，寺から牛乳をふるまう。その乳は，寺のメスウシからしぼったもの。男，ラマがしぼるのである。
66-117　寺の給与　(137)8-55
寺でお経をよむときには，寺から食料を給与する。肉，ボダー［穀類］，チャガン・ゴリル［小麦粉］。肉はジェス［寺所有の畜群］のヒツジである。
66-118　ラマの食料　(109)7-82
ラマはヤルネイのあいだには，ジェスからの食料の交付をうける。それもお経をよんでいるときだけである。休んでいるときには，自分の食料を食べる。
66-119　寺の給与　(109)7-82
ヤルネイのあいだは，寺（ジェス）から食料を出す。麺類があれば，麺類を出す。麺類でお菓子などをつくって出す。なければ，粟，肉などを出す。
66-121　寺の給与　(109)7-77
ラマたちがお経をよむときには，寺から食料を支給する。そのときに，つかう大鍋がある。鍋のなかの肉をひっかきまわすための棒がある。
66-122　ラマと寺　(82)5-50
食べものも，着ものも，みんな自分の個人のものである。寺からは何もくれない。
66-123　ラマの給与　(64)4-51
バイン・エルテ・スムは，旗寺のラマが交代でつとめる。交代でくる者には，１年間にウシを１頭くれる。しかし，常住のデンクルはもらっていない。
66-124　ラマの給与　(64)4-49
ラマの月給なし。寺から食料は支給されない。

66-125　ラマと寺　(43)3-3
草刈りの代金以外には，寺からお金をもらわない。寺からの配給は何もない。
66-126　ラマと寺　(S)3-5
チャハルでは寺には香火地があって，おのおののラマに寺から1年分の食料の配給がある。しかし，チャハルでは，寺に住んでいるラマはあまり多くない。Sの話。
66-127　ラマと寺　(44)3-13
寺からは，食物をくれない。寺へゆくときには，自分の家から食べものをもってゆく。ただし，廟会のときには，食料は寺で準備してくれる。
66-128　ラマと寺　(57)4-25
働いて，寺からものをもらう。

ラマのパラサイト

66-130　ラマのパラサイト　(279)15-77
ゲンドゥン，チュトゥム，いずれもラマ。ゲゲンのおともでここへきた。2人とも，ジャンギの家のアルガリはこびやら，お茶いれやら，そんな雑事を少し手つだっている。きょうもチュトゥムは，ジャンギのラクダの世話に出て行った。

ラマの家

66-132　ラマの家　(275)15-48
兄のラマ，寺のなかに自分の固定家屋をもっている。包をもっていない。
66-133　ラマの家　(279)15-76
ゲンドゥン，タングートのラマ。ノイン・ゲゲンのシャビ。いまいるのは，Dジャンギの包である。自分の包は，もっていない。グーシン・スムにいるときも，自分の包がない。寺の固定家屋に住んでいる。
66-134　ラマの家　(297)17-21
ヨンドンジャムスは医者である。寺に住んだり，家にかえったりしている。寺には，固定家屋をもっている。
66-135　ラマと包　(265)41-82
寺では包をもっていない。ほかのラマの包に入っている。
66-136　ラマの包　(263)41-78
寺にはラマの個人のゲルがある。
66-137　ラマの家　(80)5-41
ダンジン（14歳）は，家がないので，シナン・デムチの家に同居している。しかし，シナンとダンジンとは「xamaa uguei［関係ない］」。
66-138　ラマと固定家屋　(82)5-50

固定家屋も自分で建てた。２年まえに建てた。サンジとドルジが共同出資して建てた。いま２人が一緒に住んでいる。

66-139　ラマと包　(82)5-50

ラマになったはじめは，バクシの家に一緒に住んでいた。13歳のときに，自分のゲルをもってきた。

66-140　ラマの家　(82)5-50

固定家屋も包も自分のものである。

66-141　ラマが家をたてること

［無記入。カード66-140の裏面］

66-142　ラマの家，相続　(82)5-47

ドルジのバクシのチャンガルブは，いまドルジが住んでいる包にいた。いまは，相弟子のサンゼイともう１人のラマと一緒にそのゲルに住んでいる。

66-143　ラマと包　(64)4-54

ラマ寺のなかに，包が１つある。これは，ラマの冬営地とも称すべきものである。冬になると，庫裏屋が寒くなるので，この包に入る。ダンクルも，交代のラマも，どちらも入る。

66-144　ラマとアイル　(43)3-4

乳製品，麺類，粟を人からもらう。仕事をして，その代金としてももらうし，また，何もしないでももらう。知っている人がもってきてくれることもあるし，自分で行ってたのむこともある。近所の人が毎日，牛乳をくれる。そんな人が４～５人ある。その順番はない。１日に２人もってくることもある。１人もこないときもある。そのときは，こちらからもらいにゆく。

ラマの食料

66-146　ラマの食料　(275)15-47

兄のラマの食料は，この家からももってゆくし，また寺からももらう。寺からもらう分は，一定していない。なくなったら，寺に言えば，あればくれるし，なければ，家からもってゆく。家からもってゆく分より，寺からくれる分のほうが多い。寺からくれるのは，食料だけ，ほかに何もくれない。

66-147　ラマの食料　(279)15-78

ゲンドゥン，いま，ゲゲンのお伴をしてここにきて，ジャンギの居候になっているが，食べものは自分の食べものをつかっている。グーシン・スムにおいては，サンからもらっている。ここで食べものとしてつかっているのは，ノイン・ゲゲンのものである。

66-148　ラマの食料　(57)4-26

毎日，粟とユウ麺は食べる。乳製品は，少しは食べる。ヒツジは，自分でころして食べ

ることはない。人からもらう。
66-149　ラマの食料　(43)3-4
乳製品は人からもらったときに食べる。なければ，食べない。麺類，粟はもらったり，買ったりして食べる。

ラマと乳製品

66-151　ラマと乳製品　(265)41-83
夏には姉の家（そこへ自分の家畜をあずけてある）から，乳や乳製品をとどけてくる。
66-152　ラマと乳　(143)8-87
寺には，ウシが71頭，そのうちメスウシが30頭くらい。毎日，ラマが乳をしぼる。しぼった乳は，寺のラマが飲む。分配や配給をするのではない。毎朝のお経をよむときに，ふるまうのである。
66-153　ラマと乳製品　(58)4-32
乳製品は，アイルへ行ってたのむ。
66-154　ラマと乳製品　(57)4-26
エンゲル・スムにおいては，乳は，毎日は飲まない。自分の家畜がないから。一緒に住んでいるラマの家から送ってきたときに，そのラマと一緒に食べる。乳製品は，少しは食べる。
66-155　ラマと乳製品　(43)3-7
家のあるラマは，自分の家からもってくる。壺のなかに入れて。近所の人からもくれる。知っている人が，会合のときなどにジョッヘ，スー，ホロートなどをくれる。家のないラマは，近所の家にたのむ。結局，乳はどのラマも飲んでいる。毎日，乳茶を飲む。
66-156　ラマと乳製品　(64)4-49
夏は，乳製品はアイルからもらってくる。冬は，売っているところがあれば，１斤，２斤と買ってくる。

ラマの暮らし

66-158　ラマの暮らし　(77)7-6
ラマの兄がいる。あちこちお経をよんでまわったりして，なにかお金をもうけて，なんとか１人で食っていっている。
66-159　ラマと生活　(82)5-50
どのラマも，ドルジとおなじように，自分の食べもの，自分の包，自分の着もので生活している。
66-160　ラマの生活　(43)3-2
牛車を売った代金として，ヒツジを１頭，ウシの代金として２歳子ウシと麺と粟を受け

取った。ヒツジは，その年の10月ごろ，ウシは去年の冬に，みな食ってしまった。ほかのラマにはわけてやらない。自分でみな食ってしまう。
66-161　ラマの生活　(43)3-3
寺のなかに家がある。柳条でつくった固定家屋である。そのなかに，弟と２人で住んでいる。食事は自炊である。

ラマ教団の組織

寺の役

67-2　寺の役　(61)21-54
ホショー・スム［旗の寺］の物品係をしている。収入はない。

寺の使役

67-4　寺の使役　(263)41-77
イフ・サンだけで２人の使役をつかっている。使役にでる人間は，寺のなかに住んでいる。

ラマの数

67-6　ラマの数　(360)18-70
この旗は人口が減っている。ラマの数も減った。ラマになる人が減ったのだ。むかしは，子どもが２～３人あれば，１人はラマになった。いまは，子どもの数そのものが減ったのだ。
67-7　ラマの数　(263)41-75
ディヤンチ・ラミン・スムには，全体で60人くらいのラマがいる。現在は，40人くらい。
67-8　ラマの数　41-26
おそらく300人近いラマが，ハルハの寺にいる。
67-9　ラマの数　(221)40-56
このあたりは男が多いから，ラマの数が多い。この寺も，さかんなときには，80人ものラマがおった。

ラマの年齢

67-11　ラマの年齢　(221)40-56
この寺（マンダルト）では，なぜこんなに年寄りのラマが少ないのか？　みな死んだのだ。

寺のパラサイト

67-13　寺の parasite［居候］（263)41-78

寺のそばへきて生活しているようなものはない。

67-14　寺のパラサイト　(143)9-4

寺のまわりにいる，きたない婆さんたち。ラマの着ものの縫いものなどをたのむ。簡単な修繕など。しかし，よい着ものは，ラマの実家でぬう。実家のないラマは，自分でぬうのもあり，アイルにたのむのもある。

67-15　寺のパラサイト　(143)9-4

グフ・トロガイ・スムの東に5軒。南に4軒。あわせて9軒。みんな婆さんばかり。

67-16　寺のパラサイト　(127)39-46

きたない包，2軒。3人住んでいる。家畜をもっていない。3人とも，おばあさんである。食べものは寺からやらない。アイルでもらう。死んだら，寺で世話をする。死ぬときに，お経をよんでもらえるから，寺のそばにきているのである。

67-17　寺のパラサイト　(127)39-46

オラン・ホトク・スムのまわりに，乞食が住んでいるかと思うほど，きたない包がたくさんある。しかし，寺のダーラマのいうところでは，乞食はいない，という。

寺へあずけ

67-19　寺へあずけ　(263)41-79

アイルから食べものを寺にあずけているのはない。

67-20　寺にあずける　(99)7-33

ことし買った粟がまだ少しのこっている。これはボロン・スムにあずけてある。家においておくと，ネズミが食う。

67-21　寺にあずける　(99)7-33

この近所の家はみな，食べもの（粟など）をボロン・スムにあずけている。ネルンパラムの家もみな。

67-22　寺へあずけ　(136)8-11

食べものは寺にあずけていない。家においてある。

寺の家畜あずけ

67-24　寺の家畜あずけ　(143)8-87

寺の家畜をあずけるのは，貧乏な家，あるいは女ばかりの家にあずけるのである。家畜をあずかったアイルから，この寺のラマはきていない。

寺の買い出し

67-26　買い出し（寺の）　(264)41-80

旗のサンがすでにトゥムルタイへ買い出しに行って帰ってきた。買い出しにゆくのは，このサンだけ。

67-27　寺の買い出し　(263)41-76

トゥムルタイで。現金で払ってきた。寺のサンゾクがついて行って，お金を払ってきた。

67-28　寺の買い出し　(263)41-76

ユウ麺，白麺あわせて1,000斤。粟（茶の）35斗。粟（粥の）12斗。トゥムルタイにて。イフ・サンだけでこれだけつかう。

67-29　寺の買い出し　(263)41-76

ラクダ12頭，ラマ２人，トゥムルタイへ行って買ってきた。

67-30　寺の買い出し　(263)41-76

買い出しは年に１回。トゥムルタイへ行って買ってきた。

67-31　買い出し（寺の）　(263)41-74

夜９時ごろになってから，サンが騒々しくなったので聞いてみると，トゥムルタイへ買い出しに行った連中が帰ってきたのである。

67-32　寺の買い出し　(130)39-52

麺類はグフ・トロガイのホリシャおよびトゥムルタイへ買い出しにゆく。近所のアイルとは別々に買いにゆく。

サン

67-34　サン　(263)41-74

ここでは，もうジェスとはいわないで，サン［蔵］という。

67-35　ジェス　7-77

ジェスの名まえは，たとえば，ガンジョール，モンレイ，イフ・イン，ラム・インなど，みなお経の名まえである。

67-36　ジェス　(109)7-83

ジェスは，それぞれの建物をもっているが，そのなかには，ジェスに所属している２～３の坊主（ニルブとジャマー）などが住んでいるにすぎない。一般のラマは，別にジェスに分属しているわけではない。

67-37　ジェス　(109)7-82

ヤルネイのあいだには，ジェスが食料をうけもつ。各々のジェスが１日交代で食料を出す。

67-38　ジェスのつとめ　7-77

ジェスは，それぞれお経の名まえがついている。各々のジェスが交代でお経をよむ。

67-39　ラマとジェス　(109)7-83
各々のラマは，各々のジェスに分属しているというわけではない。

ラマと家畜の番

67-41　ラマと家畜の番　10-17
グフ・トロガイ・スム，寺つきの家畜。ウシ。ラマが交代で番をする。番人のゲルが1つあって，ウシはそこへ帰って寝る。寺から1～2ガザル［500～1000m］はなれたところにいる。
67-42　寺の家畜管理　(143)8-86
106頭のウシのうち，71頭はあずけずに，寺にのこしてある。メスウシも30頭くらいいる。ラマがウシ飼いに出て，番をしている。交代で番にゆくのである。
67-43　寺の家畜管理　(143)8-87
寺には，ラクダ，ウマがあずけずにのこしてある。馬群，ラクダの群れには，人はついていない。1～2日おきに見にゆく。各ジェスのニルブが交代で見にゆく。
67-44　寺の家畜の番　8-85
グフ・トロガイのラマ。サンジジャムス，チョエ，ゲンドゥブの3人は，寺のウシの番に出ている。
67-45　寺の家畜の番　8-85
グフ・トロガイのラマ。1人は寺の馬群の監視に出ている。

寺の家畜

67-47　寺の家畜　(263)41-76
サンに家畜はあるけれども，ニルブ［寺の会計係］はどれだけあるか知らない。
67-48　寺の家畜　(263)41-78
寺の家畜はラマがみずから飼うことをせずに，アイルにあずけて飼わす。
67-49　寺の家畜　10-17
グフ・トロガイ・スムの家畜。寺つきの家畜がだいぶいる。ウシ。家畜の番には，ラマが交代であたる。
67-50　寺の家畜　7-82
お経をよむときには，寺からラマの食料を出す。そのときには，アイルにあずけてある家畜をとりかえしてくる。これには，ニルブがゆく。
67-51　ジェスと家畜　(82)5-49
供養のため家畜を寺にあげるときには，それはジェスにあげるのである。ジェスがだいぶんたくさん家畜をもっている。ニルブの責任において管理する。
67-53　寺の家畜　(64)4-49

メスウマ，ウシ，ヒツジなどがある。*アイル*にあずけてある。
67-54　寺の没落　(64)4-49
７～８年まえ，デンクルがこの寺にきた当時は，ラマが10人くらいいた。いまは，みんな旗寺に行ってしまって，いま常住のラマは２人にすぎない。

寺の建築
67-56　寺の建築　41-26
ハルハの寺。チャガン・チョローより１時間くらいのところ。この本堂はモンゴル人だけで建てたという。組み立て式，中国式にどろをつかったりしないで，柱と板とでつくってあるが，それはウランバートルの寺の建築にならったものだという。

寺の引っ越し
67-58　寺の引っ越し　(272)15-8
むかしは，ヘンケルワ・スムは南のほう，ゴトというところの近所にあった。いまは，旗公署の北のほうへ移動してしまっている。
67-59　寺の引っ越し　(275)15-48
オロイ・ボラグ・スム，もとはクンホイ（公会）にあった。736年に，いまの位置にうつってきた。

寺の維持費
67-61　寺の維持費　(143)9-2
寺の維持費（寺の修理費）は，寺の家畜を売ったお金と，旗内をまわってつのった寄付金による。
67-62　寺の修繕　(143)39-91
本堂の修繕だけでも，13,000円の約束であった。ことしやる予定であったが，苦力［労働者］があつまらなくてできなかった。

ヤルネイ
67-64　*ヤルネイ*　(109)7-82
*ヤルネイ*のあいだには，ラマは１日に３回お経をよむ。
67-65　*ヤルネイ*　(109)7-82
６月15日から８月２日まで，この期間中は，ラマはどこへもゆかず，お経をよむ。この期間の食料は，寺で準備する。
67-66　*ホロル*［法会］(109)7-83
正月１週間。春と秋に*モンレイ*を読む。春に*ヌーネイ*を読む。

67-67　お経をよむとき　(137)8-55
寺でお経をよむのは，７月に１週間。６月にヤルネイ。

ラマの役の交代
67-69　ラマの役の交代　(137)8-55
10日まえにニルブになった。（ノロ・ハシャートのハエルイ・ジェス）まえのニルブは，休暇をとった。いまは，オラン・ホトク・スムのグスキである。
67-70　役の交代　(82)5-49
ニルブは任期なし。交代してからも，前任者のこともニルブと呼びならわしている。

寺の炊事夫
67-72　寺の炊事夫　(262)14-15
ザトムはパラサイト。あちこち働いて暮らしている。いまはディヤンチ・ラミン・スムの「トゴーナイ・フン［炊事人］である。イフ・サン。寺からは着ものをもらう。ことしは寺から皮を５～６枚（ヒツジ）もらった。

寺と包
67-74　寺と包　(279)15-77
チャハルの寺には，だいたい包がほとんどない。
67-75　サンの包　(263)41-79
われわれのとまったのは，サンの包。ニルブはサンの包に住む。

ニルブ
67-77　ニルブ　(264)41-80
ホログ・スムの旗サン。ニルブは３人。ジャマーは２人。
67-78　寺の責任者　(264)41-80
ホログ・スムの旗サン。ニルブに話をきく。少しの質問にこたえて，それ以上は責任者がおらないからと言って，あきらかに回避的な態度にでた。
67-79　ニルブ　(263)41-79
ニルブは，サンの包に住んでいる。
67-80　ニルブ　(263)41-78
ニルブが，寺からもらう給料は，年に１回。去年は50円もらった。
67-81　ニルブ　(263)41-78
ニルブは，お経を読みにゆかない。
67-82　ニルブ　(263)41-76

サンに家畜があるけれども，ニルブはどれだけあるか知らない。
67-83　ニルブ　(263)41-77
ニルブ2人はサンで食事をする。
67-84　ニルブ　(263)41-76
ニルブ2人が，サンの食べものをつくる。
67-85　サンゾク (263)41-76
サンゾクは寺に1人いる。オムジトの下。
67-86　ニルブの仕事　(143)8-87
寺の馬群とラクダの群れには，人がついていない。1～2日おきに見にゆく。各ジェスのニルブが交代で見にゆく。
67-87　ラマの役　(106)39-21
ガムバはいろいろな仕事をする。
67-88　ラマの役　(106)39-21
グスキはお経をよむ。オムジトはお経をよむ。
67-89　デムチ　7-77
デムチは，すべてのジェスを監督する役目である。
67-90　ニルブ　(137)8-55
自分はラマだけれど，ニルブだからお経をよめない。お経をよく知らない。
67-91　ニルブ　(137)8-55
チョエンジルの弟のガルサン。オラン・ホトク・スムのニルブである。寺でお経をよむときに，食料と茶をつくる役である。
67-92　ニルブ　(109)7-81
この寺のニルブはみんなで4人いる。みんな俗人である。ニルブは経理官で，これだけはラマでなくてもよい。
67-93　ニルブ　(82)5-49
1つのジェスに1人のニルブ。交代してからも，前任者のこともニルブという。

ラマの兼任

67-95　ラマの兼任　(263)41-77
ホログ・スムのほうがディヤンチ・ラミン・スムより大きいのだが，ホログ・スムにはシャブルンがないので，こちらのシャブルンが行っている。廟会をやっているため。
67-96　ラマの兼任　40-74
ゴーリン・ハシャートのシャブルンが，オルン・ホトク・スムのダーラマである。(しかし，名簿にはのっていない。)
67-97　ラマの兼任　(189)10-2

ナムチャは，シリン・チャガン・オボとフルム・スムとの兼任のラマである。
67-98　ラマの任命　(137)8-55
10日まえに，ニルブになった。グフ・トロガイ・スムのダーラマが任命する。
67-99　ラマの任命　(130)8-38
ノロ・ハシャートは，グフ・トロガイ・スムの管轄のもとにある。ラマの役の任命，読経のときの人事の交流などは，グフ・トロガイからの指令による。
67-100　兼任のラマ　(130)39-51
ノロ・ハシャート・スムのオムジトは，オラン・ホトク・スムのダーラマである。
67-101　ラマの転任　(97)6-85
ドルジはボロン・スムのラマであったが，この7月にジャラー・スムにうつった。
67-102　ラマの転勤　(89)7-9
イシジャムソはもともと，グーニー・スムのラマで，そこに住んでいた。ところが，彼はシリン・チャガン・オボの寺に転勤になって，そっちへ行った。

ラマの転生

67-104　ラマの転生　(181)9-15
ワンジルの妹の子ども。9歳。ハンボ・ラマである。

王とラマ

67-106　王とラマ　(80)5-41
ベール王が，「おまえ，デムチになれ」と言った。ここの寺のラマは，みんなベール王が任命するのだ。

寺とマイマイ

67-108　寺とマイマイ　(178)40-4
寺とも取り引きがあった。

寺とソム

67-110　寺とソム　(221)40-54
マンダルトに属する寺は，オルン・ホトク，ゴーリン・ハシャート，チャガン・トロガイの3つであるが，これらがマンダルトに属することになったのは，これらがみな，おなじソムに属しているからである（ネルンソノム）。
67-111　寺とソム　40-48
マンダルト・スムは，ネルンソノムのソムに属している。ここだけで独立している。
67-112　寺とソム　(143)9-1

シリン・チャガン・オボ，ゴホース，ハジョーイン・ホロル，オラン・ホトク，チャガン・オボは，バトドルジの管轄。西ジャランと東ジャランはヨーライの管轄。

67-113　寺とソム　(143)9-1

ゴーリン・ハシャート，オルン・ホトク，マンダルト，チャガン・トロガイはネルンソノムの管轄。

67-114　寺とソム　(143)39-90

ダシのソムに属している（グフ・トロガイ・スム）。ソムの勤務は，ソムを通じて言ってくる。たとえば，アルガリはこびの使役など。

67-115　寺とソム　(143)39-90

グフ・トロガイ・スムは，ダシのソムに入っているが，寺の縁起はダシのソムのものが建てたわけではない。

67-116　寺とソム　(143)9-1

ダライ，ボットル，ハロール・チャガン，ノロ，グフ・トロガイは，ダシのソム。

67-117　寺とソム　(S)39-88

寺は全部ソムに属している。いくつものソムに属しているものもある。これは，その縁起において，いくつものソムが共同で出資して寺を建てたからである。Sの話。

67-118　寺と旗　39-88

旗に属している寺もある。ホショー・スム［旗の寺］がそれである。それは旗が建てている。

67-119　勅願寺　39-88

貝子廟やシャラ・ムルンはどうか？　多倫の寺などはどうか？　これはおそらく勅願寺だろう。

寺の管轄

67-121　寺の管轄　(221)40-54

マンダルトに属する寺はつぎのとおり。オルン・ホトク・スム。ゴーリン・ハシャート。チャガン・トロガイ。これらはみな，おなじソムに属する寺であるから，１つに統一された。

67-122　寺の統合　(143)39-91

グフ・トロガイ・スムには，いくつかの寺が統合されて，その管轄のもとに入っているが，それらの寺には，経済的な助成はおこなわない。

67-123　寺の管轄　(130)8-38

ノロ・ハシャートはグフ・トロガイ・スムの管轄のもとにある。ラマの役の任命，読経のときの人事交流などはグフ・トロガイからの指令による。食料，会計などは，ぜんぜん別である。

ベーリン・スムの起こり

67-125　ベーリン・スムの起こり　(83)5-54

第３代のベール王がベーリン・スムを建てた。そのころは，もっと西のほうにあった。いまの寺が，この位置にきたのは，約100年まえのことである。

ゲゲン

67-127　*ゲゲン*　(279)15-75

ノイン・ゲゲン。西スニトの徳王のところのノイン・ゲゲン・スムにいる。いま，シャブルンのＤ佐領のところにとまって，いま張家口に行っている。

67-128　*ノイン・ゲゲン*　(279)15-76

*ゲンドゥン*は，*ノイン・ゲゲン*のシャビ。*ゲゲン*と一緒に，グーシン・スムに２年間住んでいる。*ノイン・ゲゲン*と一緒に６月にここへきた。来年３月には，またグーシン・スムに帰る。*ノイン・ゲゲン*はいま張家口に行っているが，帰ってきたら，またこの部屋に入る。夏なら寺に帰る。

各寺の人員

67-130　*ディヤンチ・ラミン・スム*　(263)41-77

*シャブルン*は，ホログ・スムと一緒。*ダーラマ*もホログ・スムと一緒，１人。*デムチ*は１人。*オムジト*は２人。*ゲフコイ*は１人。*サンゾク*は１人。

67-131　*ノロ・ハシャート*　(130)39-51

*グフ・トロガイ*の管轄。*シャブルン*は，常はチャガン・オボ・スムにいる。*ダーラマ*は１人。*デムチ*は１人。*グスキ*は１人。*オムジト*は１人（オラン・ホトク・スムのダーラマ）。*ニルブ*は１人。平のラマは13人。*ジェス*は２つ。

67-132　オラン・ホトク・スム　(127)39-46

シリン・チャガン・オボの管轄に属する。*ダーラマ*１人。*デムチ*１人。*グスキ*１人。*オムジト*１人。*ニルブ*２人。*ゴニル*１人。

67-133　ゴーリン・ハシャート・スム　(106)39-21

*シャブルン*１人。*ダーラマ*１人。*デムチ*２人。*グスキ*１人。*オムジト*１人。*ガムバ*１人。*ニロ*４人。*ジェス*の数は７つ。

67-134　アングルト・スム　(43)3-3

ラマ40人くらい。*シャブルン*１人。*ダーラマ*１人。*デムチ*１人。*グスキ*２人は，お経をよむときの監督。あとは平のラマ。

67-135　バイン・エルテ・スム　(64)4-48

*ローブン*１人。*デムチ*１人。*グスキ*１人。*オムジト*１人。平ラマ５人。みな旗寺と兼任である。交代で１カ月ずつ，ここへくる。平ラマのうち，常住者は２人。

67-136　*ホロル*［法会］（64)4-49
廟会は毎年１回おこないつつある。しかし，*チャム*［仮面舞踊］はおこなわない。旗寺からラマが10～20人くらいくる。だれがくるかは一定していない。俗人は30人くらいあつまる。

僧と寺の所属
90-6　僧と寺の所属　(387)24-18
このゴト［南ワーヨ］のラマは，みんなマラガイ・スムのラマである。

旗の寺
90-8　*コショー・スム*　(387)24-18
マラガイ・スムは*コショー・スム*［旗の寺］である。この左翼旗のなかのほかの２つの寺は，ごく小さい。

いろいろ
90-2　学生の名まえ　0-41～45
粛親王府の牧業学校の学生。［フィールドノートに37人の名まえのリスト］
90-3　*アクタ・モリ*の歌　0-62
［去勢馬群という歌の歌詞］
90-4　何をなすべきか？　0-21
仕事の予定。方法。

統計
90-16　統計　(387)24-33
左公署月報の家畜の数は，各*アルバン・ダルガ*（十戸長）からジャンギに報告してきた数にもとづいてつくる。十戸長のなかには，文字のわからないものもあり，口で報告してくる。陽暦のわからないものもあり，陰暦で報告してくる。

暦
90-18　暦　(387)24-33
旗公署は陽暦をつかっているが，十戸長のなかには陽暦のわからないものもあり，陰暦で報告してくる。

罪と罰
90-20　罪と罰　18-7

明安の旗公署のなかの牢屋につながれている罪人。人殺しの漢人。これは足かせだけである。
90-21　罪と罰　18-7
明安の旗公署のなかの牢屋につながれている漢人。ウシ７頭をぬすんだのだという。首かせをつけている。※
90-22　罪と罰　18-7
ウマ泥棒などの犯人がみつかった場合，どうなるか？ それはとても命を生かしてはおかないのだという。
89-206　罪と罰　(285)18-8
10月15日の吹雪で，風にふかれてきたウシ。廂黄旗の人間が，そのウシを捕まえて殺して食おうとした者がある。西スニトから兵隊が鉄砲をもってウシを探しにきた。そして，ちょうど西スニトのウシを料理している現場にゆきあたった。兵隊は何も言わずにその男を射殺して立ち去った，という。（アトーチン，民政科長の話）

正月と酒
90-24　正月と酒　18-4
12月31日。あすは正月。家の者はみんな酔っぱらって寝てしまった。

正月のあいさつ
90-26　正月のあいさつ　18-4
738年12月31日。Sの家。あすは正月だというので，みんなあちこちあいさつまわりにゆくために，自分の所有のウマでいちばんよいウマに手いれをして，*ホロー*［円形の家畜囲い］に入れてあった。

家畜の番
90-28　家畜の番　(373)20-32
ウシの番はウシ２頭で１日という約束。10頭の持ち主なら，５日間になるわけである。20頭なら10日間，番をする決まりであった。いまは人手がたりないので，たいていは漢人をやとっている。

砂丘地帯
90-34　砂丘地帯　(360)18-70
砂丘地帯に人が入ったのはあたらしいことではない。むかしからいまとおなじように，たくさんの人が住んでいた。正白，正藍，明安どこもみなおなじ。オンゴン集落が入ったところも，むかしから人がいた。いまでも住んでいる。ソムが別になっているだけで，

雑居しているのである。
90-35　砂丘地帯　(360)18-70
砂丘地帯も草原も，家畜のためにはおなじことである。

人口問題

90-37　人口問題　(360)18-70
この旗の人口，むかしから増えていない。人口が減った。ラマの人口も減っている。ラマになる人が減ったのだ。むかしは２～３人子どもがあれば，１人はラマになった。いまは子どもの数そのものが減ったのだ。
90-38　人口問題　(360)19-17
ブエンは，淋病はたしかに人口が増えないことと関係があるという。

性病

90-40　性病　(360)19-17
ブエンは，淋病はたしかに人口が増えないことと関係があるという。
90-41　性病　(360)19-17
淋病は食器その他の接触からでもうつるようにかんがえている。
90-42　性病　(360)19-17
淋病の伝染経路について。淋病の人が小便をしたあとで小便をすればうつる，とかんがえているモンゴル人がいる，ということである。
90-43　性病　(360)19-18
淋病は，けっしてむかしからモンゴルにあった病気ではない。これは漢人との接触によってもたらされたものである。
90-44　性病　(360)19-18
張北，厚和などへ兵隊にゆくものが多くなって，そのうち，上の軍人は月給も多いから上等のあそびをするが，下の兵士は月給も少なく，自然に下等なところであそぶので，淋病になる。それが郷里へ帰って，蔓延のもとをつくったのだとかんがえる。
90-45　性病　(360)19-19
いまの老人たちが若いころには，モンゴルには淋病がなかった。それで，年寄りたちは，淋病のことを「新時代の病気」と言っている。

戦争

90-47　戦争　(373)20-17
31歳のとき，中国軍とのあいだに戦争があった。32年まえ。丑年。ものすごい中国の大軍がきた。モンゴル側は外モンゴルからも兵隊がきた。

90-48　戦争　(373)20-17
32年まえの戦争で，モンゴル軍の司令官は，つかまって中国軍に軟禁されていた。農民に変装して，張家口から脱走した。元宝山でモンゴル軍が待っていた。ウマを連れて待っていた。そののち，西スニトの兵隊につかまって殺された。第１夫人の嫉妬が原因で殺された。

薬
89-255　薬　8-84
ロブスンドルジ。グフ・トロガイのラマ。病気である。ダライへ薬をもらいに行った。

ラマと子どもの数
88-23　ラマと子どもの数　(278)15-65
子どもは男，28歳だけ。ラマになった子どもはない。

小便の場所
88-25　小便の場所　15-72
きょう，ラシーデリゲルのアイルのうしろで小便をしたら，バトーがあとで，アイルのうしろで小便をすることはいけないと言った。理由はタブーなんかとちがって，アイルのうしろにはホローがあって，メスウシがそこで寝るため，小便のうえにメスウシの乳房がふれるからだという。衛生観念！

旅行
88-29　旅行　(270)15-1
４～５年まえに日本人４人，モンゴル人15人，ラクダ200頭くらいで，エチン・ゴルまで行った。行き帰りに４カ月くらいかかった。10年くらいまえのことであったかもしれない。忘れてしまった。

髪飾り
88-33　髪飾り　41-15
ハルハ，女は銀細工の髪飾りをつけていない。

伝染病
88-35　伝染病　(262)14-17
ハル・オボのもう１つのゴトのほうへ行ってみたが，アイルから男が出て来て，伝染病があると言ったので，入れなくて帰ってきた。

生活様式

88-39　生活様式　(101)7-44

キシクトン旗の生活様式は，チャハルとおなじ。

鉄

88-42　鉄　(81)5-42

大工は，牛車の修繕をするが，それにいる鉄はすべて漢人の鍛冶屋から買う。鉄の細工はできない。一切，漢人の鍛冶屋がしたのを買ってくる。

88-43　鉄細工　(81)5-42

むかしは鉄細工ができた。鍵をつくった。鉄をやすりでけずって鍵をつくった。

タムチン・タラ

88-45　タムチン・タラ　(178)9-6

マイマイの隊商がタムチン・タラを横断するとき，１日ではおわらなかった。夜行軍をつづけて横断した。

88-46　タムチン・タラ　(98)7-27

むかしは，大雪の降ったときにタムチン・タラのなかまで移動してゆく家があった。そんな家は大畜群の所有者であった。

88-47　タムチン・タラ　(98)7-28

タムチン・タラのまんなかは大雪のときでも，風が雪をふきとばしてしまうので，草が出ている。

88-48　タムチン・タラ　(86)6-7

タムチン・タラは草が多い。冬はタムチン・タラに放牧にゆく。ウシがそっちのほうへゆくのである。いまは，ウシは東のほうへゆく。いまも，タムチン・タラの近所へゆくこともある。

88-49　タムチン・タラ　(86)6-11

タムチン・タラのなかにも井戸があるそうだ。しかし，遠いということである。たとえ，近いところに井戸があってもゆかない。なぜ？　*アイル*がないから。

88-50　タムチン・タラ　(86)6-11

冬。タムチン・タラは，冬は雪がたくさんふる。冬にウシがそっちのほうへゆくというのは，雪のないときに，ウシがゆくのである。

88-51　タムチン・タラ　(98)7-16

むかしは，タムチン・タラは，*ゲリス*を取りによく行った。

88-52　タムチン・タラ　(84)5-83

ここから，フルム・スムにゆくまでに，タムチン・タラは草がよいかわるいか知らない。

自分は行ったことがない。

龍の骨

88-31　龍の骨　(98)7-17

タムチン・タラのまんかなに，龍の骨があるということを聞いている。しかし，だれも見たことがない。膝蓋骨が直径２メートルくらいあるという。むかしの老人が小さい骨を見たことがある。